

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

## 研究進捗状況報告書の概要

### 1 研究プロジェクト

学校法人名	近畿大学	大学名	近畿大学
研究プロジェクト名	増殖シグナルを標的とした革新的がん治療法開発をめざした統合的ゲノム研究に関する医薬連携基盤形成		
研究観点	研究拠点を形成する研究		

### 2 研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要

**【背景】** “がん細胞のアキレス腱”と呼ばれる増殖シグナルはがん治療の重要な標的である。本学では増殖シグナルの制御に関するゲノム科学研究、がん化の鍵を握る細胞内シグナル経路を標的とした創薬研究、生命薬学研究、臨床医学研究が精力的に行われ、次世代のがん治療につながる傑出した成果と魅力的な創薬シーズが集積している。さらに近畿大学は、薬学部、医学部、大学病院を有する日本屈指の総合大学であり、“医薬連携研究”を展開する上で極めて恵まれた環境にある。

**【目的】** 本研究の目的は、増殖シグナルの制御機構を明らかにし、革新的ながん治療法開発に向けた統合的ゲノム研究を推進し、生命科学・創薬研究の成果を臨床応用へとつなぐ橋渡し研究(トランスレーショナルリサーチ)を展開することにより、医薬連携研究基盤を形成することである。

**【計画の概要】** がん治療の重要な課題として、「がん細胞選択的に作用する薬剤の開発」「抗がん剤抵抗性の克服」「抗がん剤治療に伴う副作用の軽減」があげられる。加えて、ゲノム科学技術の飛躍的進歩に基づき、「がん細胞特異的な増殖シグナル制御機構の解明」、「臨床検体から得られたがんゲノム情報」に基づいた革新的ながん治療戦略を立脚することが重要となる。そこで、本研究課題では、近畿大学薬学部・医学部・薬学総合研究所の研究者が結集し、(A) 増殖シグナルを標的とした創薬探索・生命科学研究を展開し、(B) 癌や増殖シグナルの制御機構の解明、および代謝との関わりについて統合的な基盤研究を展開するとともに、(C) 基礎研究の成果を創薬・医療シーズへと育成するための橋渡し研究(トランスレーショナル・リサーチ)を行うことにより、医薬連携研究拠点基盤形成を行う。研究環境の変更等の諸事情により、申請段階で記載されていた二名の研究者に替わり、幹細胞、RNA、代謝等の分野を担当する二名の研究者が参画した(参考資料 1)。

**【意義】** 日本有数の総合大学である近畿大学が、ゲノム研究を中核とした医薬連携をとおして「橋渡し研究の基盤」を形成し、増殖制御機構の解明と、革新的ながん治療法の開発に貢献する。また、若手研究者の育成、特に創薬研究、生命科学・臨床医学研究に携わる臨床検査技師、臨床薬剤師など、学際的な領域で活躍できる人材の輩出にも貢献する。

### 3 研究プロジェクトの進捗及び成果の概要

**研究拠点形成:** 基盤整備として、平成 26 年に薬学部、医学部の連携により、近畿大学ライフサイエンスセンター内に「ゲノムセンター」を立ち上げ、次世代シーケンサーを始めとする最新の検査機器が導入された。これにより、臨床検体を用いたがん関連遺伝子のゲノム解析、創薬シーズの評価、がん分子標的の POC 解析、コンパニオン病理診断等に関する最先端

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

のゲノム研究が迅速に推進できる研究のインフラ基盤が構築、整備された。

同時に平成26年度より、本研究プロジェクトの構想に沿って、薬学部、医学部に基本研究機器が設置された結果、本研究プロジェクトを推進する研究環境・設備が整った。

**研究体制：**薬学部・薬学総合研究所の15研究室と医学部・附属病院の4研究室が以下に示す3つの課題A,B,Cに取り組んだ。(一研究室が複数のテーマに関わることもある。例：探索&制御解析、探索&臨床 etc.)。本研究構想を達成する過程で、各研究者が緊密に連携し、互いの成果をフィードバックすることで、学部内、および薬学部—医学部間の共同研究を積極的に推進するとともに、**創薬、医療シーズの開発**にむけて、国内外研究機関、さらには製薬企業との産学共同研究も活発に行われた。その結果、**317報の論文発表、740件の学会発表、15件の創薬・医療シーズの特許申請という研究成果につながった。**

以下に研究課題ごとの「特筆すべき研究成果」を示す。

**研究課題 (A) 増殖シグナルを標的とした創薬研究・シーズの開発(リーダー杉浦)：**

副作用が少なく、がん細胞に選択的に作用する医薬品の開発が希求されている。さらに、増殖・生存シグナルである ERK/AKT シグナル経路の制御に関わる因子は抗がん剤開発の魅力的な標的である。特筆すべき成果として、がん細胞選択的効果を示す抗体医薬品、天然物由来の低分子化合物シーズを複数発見、創製することに成功した。

・**がん細胞選択的に細胞死を誘導する低分子化合物の発見と創製：**杉浦らは、独自のケミカルゲノミクススクリーニングの結果、抗腫瘍活性を有する化合物 SK (Sugiura Kagobutsu) を多数同定し、悪性黒色腫(メラノーマ細胞)に対して選択的に細胞死(アポトーシス)を誘導し、細胞増殖阻害を示す低分子化合物として Acetoxychavicol Acetate(ACA)誘導體 ACA-28、ならびにオリゴステルベノイドを発見、創製した。いずれの化合物も ERK シグナル活性を調節する作用を見出した。特に ACA-28 は、従来の分子標的治療薬が、ERK シグナルを阻害することにより細胞死を誘導するのに対して、ERK シグナルをさらに活性化することにより細胞死を誘導する作用機序を有する。ACA-28 の示す細胞死誘導作用は今までの分子標的治療薬のコンセプトを超える新たな発想の抗癌治療シーズとして、ERK シグナルが恒常的に活性化している多くの癌に対する有効性が期待されるとして、数多くのメディアや新聞に掲載された(NHK ニュース、朝日新聞、読売新聞、日経新聞等、共同通信、四国新聞等)。一方、多発性骨髄腫選択的に細胞死を誘導する化合物として、Mangiferin を同定し、がん増殖を司る NFκB 制御因子である NIK 阻害化合物として特許を申請した(西田ら)。

・**増殖シグナルを制御する細胞表面膜たんぱく質を標的とした抗体医薬品シーズ：**益子らは、がん細胞で高発現するアミノ酸輸送体 CD98/LAT、CD98/xCT、あるいは HER ファミリー—HER3/4 に対するモノクローナル抗体(mAb)医薬品の創製と開発に成功し、抗がん活性を報告するとともに、シスチントランスポーターxCT 阻害剤(抗腫瘍剤)、および抗 LAT1 抗体医薬品に関する国際特許等を取得した。特に LAT1 に関しては、カニクイザル前臨床試験を計画するなどめざましい進展があった。

・**天然資源、食品からの抗がんシーズ探索：**閉経後乳癌治療薬(アロマターゼ阻害剤)シーズ、サポニンの示す口腔がん細胞増殖阻害効果、がん免疫に関わるケモカイン受容体選択的阻害活性を有する Neolignan、セスキテルペン、メープルシロップ由来の大腸癌増殖抑制物質などを発見した(森川、中山、多賀ら)。一方、同定された化合物の構造活性相関研究や物性検証に取り組み、より活性の高いリード化合物の創製や創薬支援基盤技術の確立にも成功した(杉浦、仲西、鈴木、前川、川崎、木下ら)。(雑誌論文 100 件、図書 3 件、学会発表 313 件、TV 報道 1 件、新聞報道 11 件、知的財産 7 件)(課題 A: 目標達成率 95%)

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

### 研究課題 (B) 癌・増殖シグナル制御メカニズム解析(リーダー西田):

・癌の増殖・転移に関わるシグナル制御機構、抗がん剤抵抗性・副作用に関わる分子機構に焦点をあてた研究を行い、創薬・医療シーズを開発した。杉浦らは、増殖/生存シグナルを司る ERK/AKT の上流で機能する Protein Kinase N3(PKN3)のノックアウトマウスを世界で初めて作成、報告し、**PKN3 ノックアウトマウスでは悪性黒色腫の肺転移と血管新生が劇的に低下することを報告**した(新聞報道5件)。一方、医薬連携研究の成果として**腫瘍免疫チェックポイント**の重要な制御因子である **CCR4 ノックアウトマウス**を用いた解析も行い、CCR4 が腫瘍免疫活性化の重要な標的分子であることを示した(中山)。また、癌化・ERKシグナルの制御因子・標的因子である SH3 アダプタータンパク質、プレニル転移酵素を同定し、ERK 制御因子である MAPKKK, Rho, RNA 結合タンパク質の空間的制御機構と増殖シグナル制御機構を発見した(杉浦)。

・**抗がん剤抵抗性に関わる分子機構**に関しては、**薬学部・医学部の連携研究の成果**として、慢性骨髄性白血病(CML)治療薬であるイマチニブ耐性に関わる MET の遺伝子増幅を発見し、“CML 治療薬”として特許出願を行った(西田、西尾)。また、H<sub>2</sub>S 産生酵素であるシスタチオニン γ リアーゼ(CSE)と Cav3.2T 型カルシウムチャンネル阻害剤が「前立腺がんのホルモン療法抵抗性」克服に有効であることを見出した(川畑)。さらに、がん化学療法に伴う「末梢神経障害」「出血性膀胱炎」を克服する医療シーズとして、Cav3.2T 型カルシウムチャンネル阻害薬 RQ-00311651、壊死細胞から放出される HMGB1 中和抗体、RAGE 拮抗の有効性を見出した(川畑)。ケミカルゲノミクス手法を用いて、免疫抑制薬/抗がん作用を有する Rapamycin 副作用原因遺伝子に関するゲノムワイドな解析を行い、感受性遺伝子群に関するゲノムインフォマティクス解析を行った(杉浦)。

・**メタボロミクスを用いたがん独自の代謝制御、薬物メタボロミクス研究**も推進し、癌抑制遺伝子である“ヒストン脱メチル化酵素 KDM6A”欠損幹細胞を用いた KDM6A の癌細胞脂肪代謝における役割の解明(岡田)、癌浸潤のプロテオミクス新規手法の開発と乳がんリンパ節転移に関わる新規分子の発見と特許出願(伊藤)、大腸癌診断マーカーの発見と特許出願(多賀)、がん幹細胞独自の代謝に関わる因子 Oct4の機能(森山)、PKN ノックアウトマウスの脂肪代謝メタボロミクス解析(杉浦、岩城)等の成果をあげた。(雑誌論文 108 件、図書 7 件、学会発表 261 件、新聞 5 件、知的財産 4 件)(課題 B: 目標達成率 90%)

### 研究課題(C) 臨床腫瘍検体を用いた創薬シーズの POC 研究と個別化医療(リーダー西田):

**創薬標的分子の POC:** 杉浦は **PKN3 を創薬標的とした遺伝子ノックアウトマウス**の作製を通して、PKN3 が生体レベルでがん転移、血管新生に重要な役割を果たすことを証明した。岡田らは、DNA 損傷修復に関わる**ヒストンシャペロン APLF 遺伝子ノックアウトマウス**を作成し、治療関連白血病の発症が有意に抑制されることを証明した。即ち、PKN3, APLF ががん転移/白血病の治療標的として有望であることを個体レベルで証明した。

**個別化医療をめざしたバイオバンキングとクリニカルシーケンス:** 西尾、伊藤らは、膨大な臨床検体のバンキングを開始し、医薬連携研究として「近大クリニカルシーケンス」と呼ばれるアプローチにより、次世代シーケンサーを用いた各種がん原因遺伝子の同定と臨床病理学データの集積、メガデータのデータベース化を進めた。

**基盤整備に基づく臨床研究と産学連携:** これらのゲノム医療と個別化医療に関するゲノム解析研究を軸として、Eli Lilly、Boeringer、アステラス等の製薬企業との産学連携研究と橋渡し研究への基盤形成が達成されつつある。これらの成果として「がんの早期診断、薬効評価、

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

薬剤耐性マーカー」に関する多数の論文と特許取得につながった。(雑誌論文 109 件、図書 35 件、学会発表 166 件、特許 4 件)(課題 C: 目標達成率 95%)

**若手研究者、人材育成:**これらの医薬連携研究推進の過程で、薬学部/医学部の若手研究者、薬学部創薬科学科の学部学生/大学院生が極めて積極的な役割を果たした。特に、研究成果発表を兼ねた国際学会(2016 ICPP12)における学部学生、大学院生による Young Investigator session、ポスター発表に対しては、若手の高い研究能力や研究成果のクオリティが国内外から絶賛された(参考資料 2)。さらに、本プロジェクトに参画した若手教員の受賞 5 件、学部学生・大学院生の各賞受賞が 36 件にのぼるなど、本プロジェクトの目標の一つである「若手研究者の育成」が十分に達成されていることを示すものである。

**研究成果の公表・情報発信:** これらを総合して、本プロジェクトより得られた研究成果は、原著論文 317 報、学会発表 740 件、知財発表 15 件など、極めて高いアクティビティを発揮することができた。その他、3 回の公開シンポジウム(うち 1 回は国際シンポジウム)と外部講師を招聘し、本プロジェクト主催/共済セミナー/講演会を 3 回/年程度開催した。

**研究成果のアウトリーチ活動:** アウトリーチ活動として、生涯教育研修会を開催し、臨床薬剤師、学部学生等に研究成果を公開、周知するとともに、「未来創薬医療セミナー」という名称で、近畿大学薬学部、薬学研究科、他学部大学院生を対象として最先端の創薬と医療への応用に関するセミナー・講演会を行った(参考資料 3)。また、国際学会においては、“高校生を対象とした特設ブース”を併設するとともに、高校生を聴衆として国際学会の講演、ポスターに招待した。

**若手研究者育成:** RA を行った学生は 1 名が学位を取得し、神戸薬科大学の助教としてアカデミアのポジションを取得するとともに、参画した大学院生の多くが各種製薬企業に就職し、臨床検査技師の資格を取得するなど、若手研究者、臨床研究者、創薬研究者の育成に貢献している。



法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

			すがん化のメカニズムの解明
鈴木 茂生	薬学部・教授	抗がん剤リード化合物の高感度生物学的親和性解析法の開発	様々なリード化合物に対して精度が高く高感度でハイスループットな解析結果を提供する
仲西 功	薬学部・教授	理論化学に基づく Protein kinase CK2 阻害剤のドラッグデザイン研究	抗腫瘍活性を有し構造的多様性のあるキナーゼ阻害剤を探索する理論的基盤の構築および最適化研究
川崎 直人	薬学部・教授	リード化合物の物理化学的性質の解明と最適化に関する研究	リード化合物の保存期間による安定性と熱安定性の評価、含有微量金属種と活性との関連性の解明
中山 隆志	薬学部・教授	ケモカイン系を標的とした新規がん免疫療法の開発	新規がん免疫療法開発のための基礎情報の提供
益子 高	薬学部・教授	癌メタボリズム、癌幹細胞、薬剤耐性癌を標的とした抗体作製	新規抗体医薬品の開発と標的分子の免疫学的解析
森川 敏生	薬学総合研究所・教授	天然資源からの抗がんシーズ探索およびリード化合物の創製	天然由来シーズの探索、ケミカルライブラリー構築およびリード化合物創製のための構造活性相関研究
森山 博由	薬学総合研究所・准教授	ヒト生体由来の多能性幹細胞を用いたがん細胞発生機序と代謝経路の解明	幹細胞操作技術によるがんプライミング誘導法開発とがん細胞発生と維持に必須な代謝メカニズム解明
多賀 淳	薬学部・准教授	癌メタボローム解析による革新的がん治療標的と診断マーカー探索	癌メタボローム解析の技術基盤確立と臨床への還元
前川 智弘	薬学部・准教授	ケミカルライブラリー構築を支援する新規複素環化合物合成法の開発および新規反応の開発	リード化合物最適化および誘導体合成の迅速化
木下 充弘	薬学部・准教授	癌グライコプロテオミクス手法を用いたがん診断・治療法の開発	がん特異的複合糖質分子の探索、化合物活性評価および疾患モデルのメタボローム解析
伊藤 彰彦	医学部・教	臨床検体を用いた創薬シー	バイオバンクのための

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

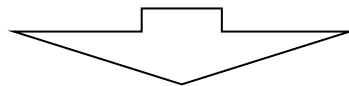
	授	ズの POC 研究と個別化医療の推進	腫瘍組織検体のバンキング、POC のための病理学的解析
岡田 斉	医学部・教授	エピジェネティクスとがん化機構	エピジェネティクス制御機構と幹細胞代謝機構の関わり
高橋 英夫	医学部・教授	臨床検体を用いた創薬シーズの POC 研究と個別化医療の推進	腫瘍組織検体におけるマクロファージ、がん幹細胞の分化・増殖機序の解明によるシーズ探索
西尾 和人	医学部・教授	臨床検体を用いた創薬シーズの POC 研究と個別化医療の推進	バイオバンクのための臨床検体の遺伝子解析とシーズの POC とバイオマーカー探索
(共同研究機関等)			

<研究者の変更状況(研究代表者を含む)>

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
漢方医学に学ぶ抗がん剤素材探索研究	薬学部・教授	松田秀秋	抗がん剤のシード化合物創製をめざした天然物由来エイジング素材の探索
抗がん効果を有する有用生物の選抜と育成	薬学部・教授	角谷晃司	有用生物の選抜、育成および培養技術の開発

(変更の時期:平成 28 年 7 月 1 日)



新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
名古屋市立大学・薬学部・教授	近畿大学・薬学部・教授	藤原俊伸	増殖シグナルと翻訳調節機構の関わり、翻訳調節の破綻が引き起こすがん化のメカニズムの解明
トロント大学医学部生物物理学講座 Associate Professor	近畿大学・医学部・教授	岡田斉	エピジェネティクス制御機構と幹細胞代謝機構の関わり

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

## 11 研究進捗状況(※ 5枚以内で作成)

### (1) 研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要

**【目的】** ERK MAPK や AKT に代表される増殖シグナルは、癌細胞に特徴的なシグナル経路であり、がん治療の魅力的な標的である。さらに、ゲノム解析を駆使した「癌細胞選択的抗がん剤の開発」に加え、「抗がん剤治療に伴う副作用や耐性獲得をいかにして克服するか」は、がん治療の重要な課題である。本プロジェクトは、増殖シグナルの制御機構を明らかにし、革新的ながん治療法開発に向けた統合的ゲノム研究を推進し、生命科学・創薬研究の成果を臨床応用へと発展させるための橋渡し研究を展開することにより、医薬連携研究の基盤形成を行うことを目的とする。

**【意義】** 本学では、増殖シグナルに関する傑出したゲノム科学研究が行われ、増殖シグナルを標的とした創薬研究により、魅力的な創薬・医療シーズが蓄積している。本プロジェクトは、日本屈指の総合大学であり、がん治療拠点でもある近畿大学が、革新的ながん治療法開発を目的とした医薬連携研究により、「橋渡し研究」の基盤作りを行うと同時に、創薬研究、臨床研究、産学連携研究の推進と若手研究者の育成に貢献する意義がある。

**【計画の概要】** 本研究課題では、近畿大学薬学部・医学部・薬学総合研究所の研究者が結集し、**(A) 増殖シグナルを標的とした創薬シーズの探索・生命科学研究を推進し、臨床応用をめざしたシーズの開発基盤を確立する。**また、**(B) 癌や増殖シグナルの制御機構の解明、癌と代謝の関わりについてゲノミクス、プロテオミクス、メタボロミクスを統合した基盤研究を展開するとともに、抗がん剤治療に伴う副作用や耐性の分子機構の解明をめざす。****(C) 医学部・附属病院との連携により、臨床腫瘍検体を用いた癌ゲノム解析や創薬・医療シーズの POC (proof of concept) 研究、がん幹細胞の制御機構に関する解析を行うことにより、基礎研究の成果を創薬・医療シーズへと育成するための橋渡し研究を展開する。**(A~C)の課題を遂行することにより、**医薬連携研究拠点基盤形成ならびに若手研究者の育成、特に創薬・生命科学・臨床医学研究に携わる人材輩出にも貢献する。**

### (2) 研究組織

**1. 研究拠点:** 本事業は、研究拠点である「ゲノムセンター」が医薬連携ゲノム科学研究のインフラ基盤として設立されるとともに、本プロジェクトで整備された機器、設備により臨床検体を用いたがん関連遺伝子のゲノム解析、創薬シーズの評価、がん分子標的の POC 解析研究が稼働した。

**2. 各研究者の役割分担、責任体制、研究チーム内、チーム間の連携状況:** 本研究全体の推進と統括は、プロジェクトリーダーである薬学部教授・杉浦麗子が務めている。杉浦は、以下に述べる組織の研究推進を統括するとともに、医薬連携、産学連携研究の活性化、若手研究者/学生の育成のため、本事業主催/共催の学会、シンポジウム、セミナー、講演会、アウトリーチ活動を組織した(研究成果公開状況参照)。参画した研究者(項目 10)としては、薬学部・薬学総合研究所の 15 研究室の代表者と医学部・附属病院の 4 研究室の代表者が連携し、以下の A)B)C)の課題に取り組んだ。目標達成のために、各研究課題にチームリーダーを選び、各研究テーマの取りまとめ、研究進捗の把握とチーム間の連携推進役を務めた。A) 革新的ながん治療法探索・開発(リーダー杉浦)、B) 増殖シグナル制御機構解明(リーダー西田)、C) 臨床検体を用いた個別化医療(リーダー西尾)(各研究室は、複数の研究課題に関わることもある。例:探索&制御機構、探索&臨床)。各研究チームは互いに密接な連携を保ちつつ、大きな研究目標である「増殖シグナルの制御機構の解明と、革新的ながん治療法開発」に向けて共同研究を推進した。緊密な情報交換のために研究チーム内で随時研究成果報告会を行うとともに、チーム間の共同研究を推進することにより、参画者が全体状況を把握できるようにした。(共同研究による論文数は 317 報中 30 報)。

**3. 研究プロジェクトに参加する研究者・大学院生・RA/PD・研究支援体制:** 各研究代表者に加え、若手研究者(講師、助教、助手、大学院生等)の研究推進における参画を促すとともに、大学院生、学部学生に対する国際学会、国内成果発表会での積極的な発表の機会を設け、各種優秀賞を授与し、顕彰した。(研究に参画した大学院生/学部学生はのべ 80 名を超え、特に大学院生博士課程/博士後期課程の学生は RA(のべ 8 名)として本プロジェクトにおける重要な推進力を担った)。PD/研究



法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

支援者の参画: 創薬探索(H26/27)、創薬シーズ各種類縁体有機化学合成(H26/27)、臨床検体ゲノム・病理解析(H27/28)、創薬シーズの機能解析(H27/28)など、プロジェクトの進展に伴い重要な重点整備研究領域に**研究支援者やPD**を配備した。**若手研究者**(講師、助教、大学院生、学部生)の**育成と医薬連携/産学連携研究推進**を目的として、本事業主催、共催の成果発表会、シンポジウム、講演会、「未来創薬・医療セミナー」、外部研究者を招いた成果評価会兼国際学会を開催し、学部生、大学院生、若手教員の成果発表・討論と国際交流の場を提供した。

**4. 共同研究機関との連携状況:** 化合物の知財出願、実用化や探索研究における膨大な化合物ライブラリーの供与、臨床シーズの治験遂行において、学外研究機関、製薬企業(第一三共、アステラス、Eli Lilly)等との活発な産学連携研究が推進された結果、**多数の論文、特許出願**に結実した。

### (3) 研究施設・設備等

<1. 研究施設の面積、使用者数>

1. 本部キャンパス薬学部・薬学総合研究所: 面積 4233.08 平方メートル、研究室数 15、プロジェクトに係る使用者数 473 人。医学部: 面積 942 平方メートル、研究室数等 20、プロジェクトに係る使用者数 21 人。
2. 主な研究設備の名称、および使用時間> 本プロジェクトにおいて、主に使用された装置、設備のうち、私学助成を受けたもので共同利用機器として多くの研究者が使用した装置と利用時間(平成 26~28 年度)は以下の通りである。
  1. 生体分子精製・相互作用解析システム: 平成 26 年度に導入、500 時間。
  2. タンパク質多項目同時測定システム: 平成 26 年度に導入、375 時間
  3. 多項目自動血球数装置(XT-1800i): 平成 26 年度に導入、144.5 時間
  4. 薬物動態・解析システム(TSQ Endura システム): 平成 26 年度に導入、5500 時間

### (4) 進捗状況・研究成果等 ※下記、13及び14に対応する成果には下線及び\*を付すこと。

<現在までの進捗状況及び達成度> 以下に課題(A,B,C)の進捗状況と達成度を示す。

**研究課題 (A) 「増殖シグナルを標的とした革新的がん治療法探索・開発」(リーダー杉浦):**

増殖・生存を司る ERK/AKT シグナル経路の活性化制御因子、標的転写因子等を標的とした創薬(低分子化合物、天然物、抗体医薬品)探索に挑戦し、シーズ育成・最適化支援基盤を確立した。

- (1) **ケミカルゲノミクスと癌遺伝子中毒(Oncogene addiction)を利用した増殖シグナル制御化合物(SK: Sugiura Kagobutsu)の探索:** 化合物ライブラリーより増殖シグナル阻害化合物を探索し、多数の hit 化合物中有望な抗腫瘍活性を示す SK 化合物を 4 種同定した(\* 学会 19,21,23,25,26 \* 論文 1)。癌標的 Casein キナーゼ阻害化合物も 4 種同定した(\* 論文 50)。
- (2) **がん細胞選択的に細胞死を誘導する低分子化合物の発見と創製:** 1)で同定した化合物中、悪性黒色腫(メラノーマ)細胞に対して選択的に細胞死(アポトーシス)を誘導し、細胞増殖阻害を示す**低分子化合物 SK1**として Acetoxychavicol Acetate(ACA)誘導體 ACA-28、ならびにオリゴスチルベノイドを発見し、ERK シグナル調節活性を報告した(\* 論文 1, 28, \* 学会 26,276)。特に ACA-28 は、従来の分子標的治療薬の概念を超え、ERK が過剰に活性化したがんに対して極めて効果的に細胞死を誘導し、しかもがん化シグナルをさらに活性化することにより、がん細胞の死を誘導するが、正常細胞には影響が少ないという極めて画期的な抗がん剤シーズであるとして、TV、新聞において強い注目を集めた(\* 報道等 1-10)。多発性骨髄腫選択的に細胞死を誘導する化合物 Mangiferin を同定し、がん増殖を司る NFκB 制御因子である NIK 阻害化合物として特許を申請した(\* 論文 40, \* 特許 8)。
- (3) **増殖シグナルを制御する細胞表面膜たんぱく質を標的とした抗体医薬品シーズ:** がん細胞で高発現するアミノ酸輸送体 CD98/LAT、CD98/xCT、および HER ファミリー HER3/4 に対するモノクローナル抗体(mAb)医薬品の創製と開発に挑戦し、抗がん活性を報告するとともに、シスチントランスポーター xCT 阻害剤(抗腫瘍剤)、および抗 LAT1 抗体医薬品に関する国際特許等を取得した(\* 論文 23-25,65,90,91, \* 特許 1,2, \* 学会 50-57)。
- (4) **天然資源および食品からの抗がんシーズ探索:** 閉経後乳癌治療シーズ(アロマターゼ阻害剤)、Saponin による口腔がん細胞増殖阻害効果、がん免疫に関わるケモカイン受容体選択的阻害活性シーズ Neolignan、血管新生阻害成分、メープルシロップ由来の大腸癌増殖抑制物

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

質等を発見した(\*論文 26,27,29,33,35,45,67-72,78,100,\*特許 4-7,11,\*学会 80,82,85)。  
**(5) シーズ化合物の育成(構造活性相関・物性検証)/抗がん剤シーズ探索最適化基盤技術構築:**  
 より効果に優れ、安全性の高い抗がん剤を開発する目的で、1)2)で同定した化合物の構造活性相関研究、活性の高いリード化合物の創製と特許取得、阻害化合物と標的分子の結晶化等にも成功した(\*論文 2,14,46,79,3,19-22,51,81,45,\*特許 12)。また、シーズ化合物の溶解性の検証・向上、シーズ類縁体合成/ケミカルライブラリー合成技術基盤、抗がん剤リード化合物の高感度生物学的親和性解析法、シーズ標的分子の翻訳後修飾分析手法、創薬バーチャルスクリーニング法など、**抗がん剤シーズ探索・最適化を支援する技術基盤も多数構築した。**(\*論文 5-7,12,43,56-60,73,75-77,80,82,83,97,98,\*学会 1,2,97-121,154-159)

**研究課題 (B) 癌・増殖シグナル制御メカニズム解析(リーダー西田):**

がんの**増殖、転移に関わるシグナル制御機構**や**腫瘍免疫、抗がん剤抵抗性、抗がん剤の副作用に関わる分子機構**に焦点をあてた解析を行い、**創薬、医療シーズ**を開発するとともに、**癌と代謝に関するプロテオミクス、メタボロミクス研究の基盤技術を確立した。**

**(1) 増殖制御に関わる Protein Kinase N3(PKN3)ノックアウトマウスの作製:** PKN3 ノックアウトマウスは正常マウスに比べて**悪性黒色腫の肺転移と血管新生が劇的に低下することを報告した**(\*論文 120,新聞報道 12-16,学会 136)。また、**腫瘍免疫に関わる CCR4 ノックアウトマウス**を用いて悪性黒色腫に対する腫瘍免疫における CCR4 の役割を明らかにした(\*論文 143)。

**(2) 癌化に関わる ERK シグナル制御因子/化合物の同定と癌増殖制御機構解明:** SH3 アダプタータンパク質、プレニル転移酵素を同定し、ERK 活性化因子である MAPKKK, Rho, ERK シグナル制御因子である RBP などの空間的制御と増殖シグナル制御機構を発見した(\*論文 103,119,153,180,181)。スタチン系薬物や FTY720 の ERK, p38 MAPK シグナル増殖制御機構、細胞接着/浸潤の分子機構を報告した(\*論文 108,132,157,182,189,177,178,206)。

**(3) 抗がん剤抵抗性・副作用に関わる分子機構解析と医療シーズ創製:** **医学部との連携研究**を通して慢性骨髄性白血病(CML)治療薬であるイマチニブ耐性遺伝子として MET の遺伝子増幅を発見し、**CML 治療薬**として特許出願を行った(\*論文 105,\*特許 9)。H<sub>2</sub>S 産生酵素であるシスタチオニン γ リアーゼ(CSE)と Cav3.2T 型カルシウムチャンネル阻害剤の「前立腺がんのホルモン療法抵抗性」克服に対する有効性の発見(\*論文 113,134,162,163)。化学療法に伴う「末梢神経障害」「出血性膀胱炎」等を克服する医療シーズとして、Cav3.2T 型 Ca<sup>2+</sup>チャンネル阻害薬 RQ-00311651、壊死細胞から放出される HMGB1 中和抗体、RAGE 拮抗、PKC/MEK 阻害薬の有効性を見出した(\*論文 110,137,138,141,165,192,193,140,159)。

**(4) Rapamycin/新規抗がん剤シーズの副作用原因遺伝子の同定とケミカルゲノミクス研究:** 抗がん剤感受性・副作用関連遺伝子の同定とゲノム解析を行った(\*論文 152,\*学会 21,25,29)。

**(5) 治療戦略としての癌独自のメタボリズム/薬物メタボリズム解析技術基盤作り:** 癌抑制遺伝子である“ヒストン脱メチル化酵素 KDM6A”欠損幹細胞を用いた KDM6A の癌細胞脂肪代謝における役割の解明(\*論文 107)、癌浸潤突起のプロテオミクス新規手法の開発と乳がんリンパ節転移に関わる新規分子 αParvin の発見と特許出願(\*特許 3,\*論文 179,207)、大腸癌診断マーカーの発見と特許出願(\*論文 78,\*特許 10)、がん幹細胞独自の代謝に関わる因子 Oct4の機能(\*論文 200)、PKN ノックアウトマウスの薬物代謝、脂肪代謝メタボロミクス解析、がん細胞の糖鎖を指標としたがん増殖診断バイオマーカー探索と糖鎖オミクス基盤技術の開発(\*論文 142,194,195\*学会 22,355)、メタロミクス解析基盤(\*学会 102)等の成果をあげた。(論文 108 件、図書 7 件、学会発表 261 件、報道 5 件)(目標達成率 90%)

**研究課題 (C) 臨床腫瘍検体を用いた創薬シーズの POC 研究と個別化医療(リーダー西尾):**

**(1) 創薬標的分子の POC:** PKN3 を創薬標的とした遺伝子ノックアウトマウスの作製を通して、PKN3 が生体レベルでがん転移、血管新生に重要な役割を果たすことを証明した(\*論文 120、新聞 6 件)。DNA 損傷修復に関わるヒストンシャペロン APLF 遺伝子ノックアウトマウスを作成し、治療関連白血病の発症が有意に抑制されることを証明した(\*論文 106)。即ち、PKN3, APLF ががん転移/白血病の治療標的として有望であることを個体レベルで証明した。

**(2) 個別化医療をめざしたバイオバンキングとクリニカルシーケンス:** 膨大な臨床検体のバンキングを開始し、医薬連携研究として「**近大クリニカルシーケンス**」と呼ばれるアプローチにより、次世代シーケンサーを用いた各種がん原因遺伝子の同定と臨床病理学データの集積、メガデータのデータベース化を進めた(\*論文 218-225,227-243,245,263)。

**(3) 基盤整備に基づく臨床研究と産学連携:** これらのゲノム医療と個別化医療に関するゲノム解析

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

研究を軸として、Eli Lilly、Boeringer、大塚製薬、アステラス等の製薬企業との産学連携研究と臨床治験などの橋渡し研究への基盤形成が達成されつつある(\*論文 226,237,244,256,258,261,278,291)。具体的な成果として「がんの早期診断/薬効評価/薬剤耐性マーカー」に関する多数の論文/特許につながった(\*特許 12-14)。

**若手研究者、人材育成** 薬学部/医学部の若手研究者、薬学部創薬科学科の学部学生/大学院生が極めて積極的な役割を果たした。特に、国際学会(2016 ICPP12)における Young Investigator session、ポスター発表に対しては、若手研究者、学生の高い研究能力、研究成果の質も含めて、国内外から絶賛された。さらに、「近大クリニカル・シーケンス」などゲノム医療に従事する**若手人材育成・雇用創出**にも貢献する成果を生み出している。**アウトリーチ活動**として、高校生を対象とした成果発表会、薬剤師を対象とした生涯教育研修会なども行い、高い評価を得た(参考資料 3)。

#### <特に優れた研究成果>

##### (A) <がん細胞特異的抗腫瘍剤シーズ開発>

杉浦らの同定・創製した ACA-28、西田らの同定した Mangiferin は各々悪性黒色腫、多発性骨髄腫細胞特異的に細胞死を誘導するとともに、ERK シグナル制御、NIK 制御という作用機序を有する。また、メプルシロップ由来の大腸癌増殖阻害と AKT シグナル阻害活性を同定した成果は「大腸癌の治療用組成物」として特許申請につながった(\*特許 8,11)。これらのシーズは、「副作用の少ない効果的な抗がんシーズ化合物」の**開発**として重要な意義を有する。特に杉浦の開発した ACA-28 は、がん細胞特異的なシグナルをさらに活性化させることによりがん細胞を自滅させる革新的な作用機序を有するものであり、今後のさらなる展開が強く期待される(\*TV,新聞報道)。益子らの開発、創製した**モノクローナル抗体医薬品**は、シスチントランスポーターや LAT などがん細胞で高発現するアミノ酸輸送体を標的とするユニークなものであり、国際特許を取得するとともに、**特に LAT1 抗体は、「カニクイザル前臨床試験の計画」などめざましい進展**があった(\*特許 1,2)。

##### (B) <癌増殖シグナル制御機構の解析と抗がん剤標的分子の POC>

###### ・Protein Kinase C ファミリー PKN のがん転移における役割の発見と創薬標的としての提唱:

ERK シグナルの上流活性化因子である PKN3 は現在まで癌化との関わりが示唆されていたものの、生体レベルにおけるがん化との関わりは不明であった。杉浦らは **PKN3 ノックアウトマウスの作製に世界で初めて成功し、しかも、PKN3 KO マウスにおいて、悪性黒色腫のがん転移が正常の 6 分の 1 に劇的に低下するとともに、血管新生も阻害されているという画期的な成果を得た**。これらは、PKN3 を標的とした癌治療に道を拓く成果であり、メディアに広く報道され、大きな反響を呼んだ(\*論文 120,読売新聞、日経産業新聞、日刊工業新聞、共同通信、時事通信他多数)。

###### <がん剤抵抗性、副作用に関わる新たな遺伝子、シグナル経路の発見と医療シーズへの発展>

特に分子標的抗がん剤治療抵抗性における MET, Oct4 の関与、腫瘍免疫に関する CCR4 の役割の解明に関しては、「医薬連携研究」の成果としてもその意義は大きい。また、Cav3.2、PKC をはじめとするカルシウムシグナルを標的とした抗がん剤治療に伴う疼痛治療の分子機構と医療シーズの創製も、がん患者 QOL を向上させる革新的治療法につながるインパクトを有する。

・**癌代謝オミクス研究から生まれた癌診断シーズ候補分子**:「大腸癌マーカー aldolase A」や「乳癌リンパ節転移予測因子 αParvin」など、臨床腫瘍検体の解析から**癌診断シーズ**が発見されたことは、本プロジェクトの目標が実用シーズにむけて具体化されている証しである。

(C) **臨床腫瘍検体を用いた創薬シーズの POC 研究と個別化医療**: リン酸化酵素 PKN3、ヒストンシャペロン APLF、ケモカイン受容体 CCR4 に関しては、ノックアウトマウスを用いて個体レベルで創薬/治療標的としての POC に成功した。臨床腫瘍検体を用いた個別化ゲノム医療に関しては、「基盤整備に基づく産学連携研究の推進」がめざましい成果をあげ、橋渡し研究の基盤が形成された。1)**転移性乳癌患者に対する微小管作用薬と S1 の新規併用療法の発見と臨床第一相試験実施**、2)**近大クリニカルシーケンスの成果としての肺癌患者のゲノム解析と分子標的治療薬有効性に関する臨床試験**、3)**非小細胞肺癌のゲノム解析による、マルチキナーゼ阻害薬の新規標的の同定**など、臨床的にも極めて重要な成果を得た(\*特許 12-14)。

##### (D) **医薬連携研究の成果「プロジェクト間の共同連携研究、成果の共有とフィードバック」**

317 の論文中、チーム間共同研究の成果は 30 報であり、非常に活発な共同・連携研究が推進された。特に医薬連携、産学連携研究の成果が「白血病治療薬」「抗体医薬品:抗腫瘍剤」としての知的財産、「腫瘍免疫分子ケモカインの役割」等重要な成果に結びついている。よって、本研究のめざす「医薬連携基盤研究」拠点形成がほぼ目標どおりに達成されていることを示唆している。

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

### <問題点とその克服方法/今後の研究方針>

**研究課題(A)** : 多くの魅力的なシーズが同定され、成果発表、知財につながっているが、それらを一ド化合物へと最適化するための構造活性相関研究、標的分子の同定が課題である。現在、仲西らが表面プラズモン共鳴、BIACORE を駆使して候補化合物と標的分子(CK2)の結合親和性を検証しており、標的分子の発現検討、阻害剤の溶解性改善等を通して、H29 年内にブレイクスルーをめざす。また、杉浦、西田、森川らが同定した化合物群の抗腫瘍活性を *in vivo* で向上させる目的で、川崎研との共同研究による溶解性の向上、前川らの協力による類縁体合成/標識化合物合成による標的分子の同定、岩城研究室との共同研究による体内動態の改善などを計画している。

**研究課題(B)** : 多くのシーズやインパクトある研究成果、知財も創出されており、増殖制御機構の解析は順調である。一方、癌に特徴的な代謝機構を解析する手段としてのメタボロミクス研究は、がん幹細胞を用いた研究、PKN3 ノックアウトマウスを用いた薬物代謝/メタボロミクス研究、エピジェネティクス制御と代謝、天然物/食品シーズを用いたメタボロミクス等興味深い結果が散見するものの、多くの解析が探索段階、あるいは基盤技術の確立段階であり、今後分子基盤となるべきシグナル経路や分子標的を包括的、統合的に理解する必要がある。残された期間で、得られたデータのパスウェイ解析や創薬インフォマティクス解析、さらに確立された基盤技術を臨床検体に応用したメタボロミクス研究等を計画しており、目標を達成できるよう努力する。

**研究課題(C)** : 臨床研究、連携研究、基盤整備も順調であり、今後本プロジェクトで見出された多くのシーズの実用化にむけて、臨床検体を用いたゲノム解析と POC に関する一層の医薬連携研究を推進する。研究課題「がん幹細胞の分化・増殖機序の解明とシーズ探索」については探索作業が行われている段階であり、今後得られた分化調節因子を用い、急進に解析を進める必要がある。

**<研究成果の副次的効果(実用化や特許の申請など研究成果の活用の見通しを含む)>** : 既に多くのシーズが特許を取得しており、臨床段階にまで進んでいるものもある。現在探索段階のもので、「革新的な分子標的、作用機序」を有するシーズ、有効性に優れ副作用の少ない(正常細胞に対する毒性のない)シーズの探索、育成に注力するとともに、「世界初の原発不明がんに対する治療法」「メタボロミクスを標的とした診断/治療マーカー」など、画期的な治療法開発創出をめざす。

**<現在までの総括と今後の方針>** 多くの課題が順調に進んでいる。現在進行中の課題で興味深い成果が得られているものは、intensive に研究支援等を投入するとともに、成果の論文化、実用化、臨床応用にむけて3グループがより密接に連携し、医薬・産学共同研究を推進する。**<今後期待される研究成果>** : 独創的手法で同定された SK 化合物や Mangiferin は癌細胞特異的な細胞死を誘導する、極めて魅力的ながん治療シーズであり、体内動態の検証や標的分子の同定、メタボロミクスを解析することで、新たながん治療の概念を提唱できる可能性がある。また、いくつかの創薬、医療シーズや既存薬との併用療法などは臨床段階に進んでいる。特に「原発不明がんに対する分子標的治療薬」として世界初の治療法の創出につながる可能性があり、大いに期待できる。

### **<プロジェクトの評価体制(自己評価・外部評価(第三者)の実施結果及び対応状況>**

・自己評価: 各研究ユニット(創薬探索・制御機構解析・臨床)内で、研究進捗報告会を頻繁に開催し、問題点や克服すべき課題をシェアするとともに、プロジェクトリーダー(杉浦)は全てのユニットごとの進捗報告会に在席する形で連携研究を推進した。また構成員全体が参加する研究成果報告会、各研究室代表者が参加するプロジェクト運営会議を年に一度開催し、進捗状況、運営状況、予算管理、計画方針等に関する審議報告・質疑応答を行った。本プロジェクトで導入した各種機器設備、PicoNMR, Luminex200, 倒立顕微鏡、クリオスタット等は同定された化合物の類縁体合成、最適化、がん関連遺伝子、耐性遺伝子、副作用遺伝子の発見と機能解析に著しく貢献していること、**研究支援者**雇用により、抗がん剤探索、類縁体合成、臨床クリニカルシーケンスなど、膨大な検体やサンプルの処理/解析等プロジェクト推進に多大な貢献があることから、研究資金の配分、運営方針においても適切であるとの評価を得た。自己点検外部評価委員会に進捗状況報告書を提出し、順調な進捗状況と運営状況であることの評価を得た。**外部評価者(以下の2教授)より、中間評価段階として十分な成果を上げているとの評価を得た**(参考資料4; 東北大学がん研究所・島礼教授、奈良女子大学・渡邊利雄教授)。また、Cell のチーフ Editor, Emilie Marcus のサイト visit において本プロジェクトの成果を発表し、exciting な成果とのコメントを得た(2017/05/24)。

今後、指摘事項である3グループの機能的連携の強化と創薬シーズの POC に向けて一層の努力を行う予定である。

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

12 キーワード(当該研究内容をよく表していると思われるものを8項目以内で記載してください。)

- (1) 増殖シグナル制御機構 (2) 癌化制御機構 (3) がん治療法開発  
 (4) 抗がん剤副作用回避 (5) 創薬シーズ探索・開発 (6) がん転移  
 (7) がん免疫療法 (8) メタボロミクス

13 研究発表の状況(研究論文等公表状況。印刷中も含む。)

上記、11(4)に記載した研究成果に対応するものには\*を付すこと。

<雑誌論文>

**テーマA: 「増殖シグナルを標的とした革新的がん治療法探索・開発」 (計 100報)**

- 1) \* Satoh R., Hagihara K., Matsuura K., Manse Y., Kita A., Kunoh T., Masuko T., Moriyama M., Moriyama H., Tanabe G., Muraoka O., Sugiura R. : Identification of ACA-28, a 1'-Acetoxychavicol Acetate analog compound, as a novel modulator of ERK MAPK signaling, which preferentially kills human melanoma cells. *Genes Cells*, in press (2017) 査読有り
- 2) \* Kobayashi A., Kanaba T., Satoh R., Ito Y., Sugiura R., Mishima M. : Chemical shift assignments of the first and second RRM of Nrd1, a fission yeast MAPK-target RNA binding protein. *Biomol NMR Assign.* (2017) 査読有り
- 3) \* Chantarasrivong C., Ueki A., Ohyama R., Unga J., Nakamura S., Nakanishi I., Higuchi Y., Kawakami S., Ando H., Imamura A., Ishida H., Yamashita F., Kiso M., Hashida M. : Synthesis and functional characterization of novel sialyl LewisX mimic-decorated liposomes for E-selectin-mediated targeting to inflamed endothelial cells. *Mol. Pharmaceutics*, 24, in press. (2017) 査読有り
- 4) Nagai N., Ogata F., Deguchi S., Ueno A., Kawasaki N., Ito Y. : Combination ointment containing solid tranilast nanoparticles and dissolved sericin is efficacious for treating skin wound-healing deficits and redness in diabetic rats, *Biol. Pharm. Bull.* in press. (2017) 査読有り
- 5) \* Yamada H., Matsumura C., Yamada K., Teshima K., Hiroshima K., Kinoshita M., Suzuki S., Kakehi K. : Combination of SDS-PAGE and intact mass analysis for rapid determination of heterogeneities in monoclonal antibody therapeutics. *Electrophoresis*, in press 査読有り
- 6) \* Yamagami M., Matsui Y., Hayakawa T., Yamamoto S., Kinoshita M., Suzuki S. : Plug-plug kinetic capillary electrophoresis for in-capillary exoglycosidase digestion as a profiling tool for the analysis of glycoprotein glycans. *J. Chromatogr. A*, in press. 査読有り
- 7) \* Maegawa T., Nogata M., Honda T., Nakamura A., Miki Y. : 2-Arylquinoline synthesis from Cbz-protected 2-aminochalcone mediated by BF<sub>3</sub>·Et<sub>2</sub>O. *Heterocycles*, in press. (2017)
- 8) Ogata F., Nagai N., Kawasaki N. : Adsorption capability of cationic dyes (methylene blue and crystal violet) onto poly-γ-glutamic acid, *Chem. Pharm. Bull.* 65(3), 268-275 (2017) 査読有り
- 9) Ogata F., Toda M., Otani M., Kawasaki N. : Granulation of cobalt-containing nickel hydroxide with polyethylene terephthalate and its phosphate ion adsorption capability, *J. Water. Environ. Technol.* 15(1), 22-34 (2017) 査読有り
- 10) Ogata F., Ueta E., Toda M., Otani M., Kawasaki N. : Adsorption of phosphate ions from an aqueous solution by calcined nickel-cobalt binary hydroxide, *Water Sci. Technol.* 75(1), 94-105 (2017) 査読有り
- 11) \* Ninomiya K., Chaipech S., Kunikata Y., Yagi R., Pongpiriyadacha Y., Muraoka O., Morikawa T. :

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- Quantitative determination of stilbenoids and dihydroisocoumarins in *Shorea roxburghii* and evaluation of their hepatoprotective activity. *Int. J. Mol. Sci.*, 18, 451 (2017) 査読有り
- 12) \* Nagatomo Y., Hashimoto S., Kishimoto Y., Hayakawa T., Yamamoto S., Kinoshita M., Suzuki S.: Online cleanup liquid chromatography for the analysis of glycoprotein-derived oligosaccharides labeled with 7-amino-4-methylcoumarin. *Chromatography*, 38, 23-30 (2017) 査読有り
- 13) Okada M., Yamamoto A., Aizawa SI., Taga A., Terashima H., Kodama S.: HPLC Separation of Sulforaphane Enantiomers in Broccoli and Its Sprouts by Transformation into Diastereoisomers Using Derivatization with (S)-Leucine. *J Agric Food Chem.* 65, 244-250 (2017) 査読有り
- 14) \* Tsutsui N., Tanabe G., Ikeda N., Okamura S., Ogawa M., Miyazaki K., Kita A., Sugiura R., Muraoka O.: Structure-activity relationship studies on acremomannolipin A, the potent calcium signal modulator with a novel glycolipid structure 4: Role of acyl side chains on d-mannose. *Eur J Med Chem*, 121: 250-271(2016) 査読有り
- 15) 杉浦麗子: RNA とエピジェネティクス研究の最前線と疾患治療・創薬の可能性 序文. *日本薬理学雑誌*, 147(6): 339 (2016) 査読なし
- 16) 佐藤亮介, 萩原加奈子, 喜多綾子, 杉浦麗子: シグナル伝達拠点としての RNA 顆粒の役割～RNA 顆粒によるシグナル伝達分子の空間的制御～. *日本薬理学雑誌*. 147(6): 340-345 (2016) 査読なし
- 17) 佐藤亮介: シグナル伝達が制御する翻訳開始機構. *日本薬理学雑誌*. 147(6): 368-369 (2016) 査読なし
- 18) 萩原加奈子: RNA たちの井戸端会議は何をもたらすのか. *日本薬理学雑誌*. 147(6): 370 (2016) 査読なし
- 19) \* Ohno H., Minamiguchi D., Nakamura S., Shu K., Okazaki S., Honda M., Misu R., Moriwaki H., Nakanishi S., Oishi S., Kinoshita T., Nakanishi I., Fujii N.: Structure-activity relationship study of 4-(thiazol-5-yl)benzoic acid derivatives as potent protein kinase CK2 inhibitors. *Bioorg. Med. Chem.* 24, 1136-1141.(2016) 査読有り
- 20) \* Tanabe G., Xie W., Balakishan G., F. A. Amer M., Tsutsui N., Takemura H., Nakamura S., Akaki J., Ninomiya K., Morikawa T., Nakanishi I., Muraoka O.: Hydrophobic substituents increase the potency of salacinol, a potent  $\alpha$ -glucosidase inhibitor from Ayurvedic traditional medicine ‘Salacia’. *Bioorg. Med. Chem.* 24, 3705-3715.(2016) 査読有り
- 21) \* Kaneko H., Nakamura S., Kawashita N.: Practical use of compound-target interaction in chemistry and drug discovery ~A chemoinformatics approach~. *Yakugaku Zasshi*. 136, 95-96.(2016) 査読有り
- 22) \* 中村真也: 相同性の高いタンパク質に結合する同一化合物の結合様式差の要因検討、*日本化学会情報化学部会誌*, 34, 17-20.(2016) 査読有り
- 23) \* Thanee M., Loilome W., Techasen A., Sugihara E., Okazaki S., Abe S., Ueda S., Masuko T., Namwat N., Khuntikeo N., Titapum A., Pairojkul C., Saya H., Yongvanit P.: CD44variant-dependent redox status regulation in liver fluke-associated cholangiocarcinoma: a target for CCA treatment. *Cancer Science* 107, 991-1000 (2016)
- 24) \* Tsuchihashi K., Okazaki S., Ohmura M., Sampetrea O., Onishi N., Wakimoto H., Yoshikawa M., Seishima R., Iwasaki Y., Morikawa T., Abe S., Takao A., Shimizu M., Masuko T., Nagane M., Furnari F., Akiyama T., Suematsu M., Baba E., Akashi K., Saya H., Nagano O.: The EGF receptors promotes the malignant potential of glioma by regulating amino acid transporter system xc (-). *Cancer Res.* 76, 2954-63.(2016)
- 25) \* Okazaki S., Nakatani F., Masuko K., Tsuchihashi K., Ueda S., Masuko T., Saya H., Nagano O.: Development of an ErbB4 monoclonal antibody that blocks neuregulin-1-induced ErbB4 activation in cancer cells. *Biochem Biophys Res Commun.* 470(1), 239-44. (2016)
- 26) \* Kitagawa N., Morikawa T., Motai C., Ninomiya K., Okugawa S., Nishida A., Yoshikawa M., Muraoka O.:

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- The antiproliferative effect of chakasaponins I and II, floratheasaponin A, and epigallocatechin 3-O-gallate isolated from *Camellia sinensis* on human digestive tract carcinoma cell lines. *Int. J. Mol. Sci.*, 17, 1979 (2016) 査読有り
- 27) \* Manse Y., Ninomiya K., Nishi R., Kamei I., Katsuyama Y., Imagawa T., Chipech S., Muraoka O., Morikawa T.: Melanogenesis inhibitory activity of a 7-O-9'-linked neolignan from *Alpinia galanga* fruit. *Bioorg. Med. Chem.* 24, 6215-6224 (2016) 査読有り
- 28) \* Moriyama H., Moriyama M., Ninomiya K., Morikawa T., Hayakawa T.: Inhibitory effects of oligostilbenoids from the bark of *Shorea roxburghii* on malignant melanoma cell growth: implications for novel topical anticancer candidates. *Biol. Pharm. Bull.* 39, 1675-1682 (2016) 査読有り
- 29) \* Morikawa T., Hachiman I., Matsuo K., Nishida E., Ninomiya K., Hayakawa T., Yoshie O., Muraoka O., Nakayama T.: Neolignans from the arils of *Myristica fragrans* as potent antagonists of CC chemokine receptor 3. *J. Nat. Prod.* 79, 2005-2013 (2016) 査読有り
- 30) \* Kitagawa N., Ninomiya K., Okugawa S., Motai C., Nakanishi Y., Yoshikawa M., Muraoka O., Morikawa T.: Quantitative determination of principal alkaloid and flavonoid constituents in wintersweet, the flower buds of *Chimonanthus praecox*. *Nat. Prod. Commun.* 11, 953-956 (2016) 査読有り
- 31) \* Morikawa T., Kitagawa N., Tanabe G., Ninomiya K., Okugawa S., Motai C., Kamei I., Yoshikawa M., Lee I-J., Muraoka O.: Quantitative determination of alkaloids in lotus flower (flower buds of *Nelumbo nucifera*) and their melanogenesis inhibitory activity. *Molecules* 21, 930 (2016) 査読有り
- 32) \* Matsuda H., Nakamura S., Morikawa T., Muraoka O., Yoshikawa M.: New biofunctional effects of the flower buds of *Camellia sinensis* and its bioactive acylated oleanane-type triterpene oligoglycosides. *J. Nat. Med.* 70, 689-701 (2016) Review
- 33) \* Ninomiya K., Motai C., Nishida E., Kitagawa N., Yoshihara K., Hayakawa T., Muraoka O., Li X., Nakamura S., Yoshikawa M., Matsuda H., Morikawa T.: Acylated oleanane-type triterpene saponins from the flowers of *Bellis perennis* show anti-proliferative activities against human digestive tract carcinoma cell lines. *J. Nat. Med.* 70, 435-451 (2016) 査読有り
- 34) \* Ninomiya K., Shibatani K., Sueyoshi M., Chaipech S., Pongpiriyadacha Y., Hayakawa T., Muraoka O., Morikawa T.: Aromatase inhibitory activity of geranylated coumarins, mameasins C and D, isolated from the flowers of *Mammea siamensis*. *Chem. Pharm. Bull.* 64, 880-885 (2016) 査読有り
- 35) \* Matsuo K., Koizumi K., Fujita M., Morikawa T., Jo M., Shibahara N., Saiki I., Yoshie O., Nakayama T.: Efficient use of a crude drug/herb library reveals Ephedra Herb as a specific antagonist for T<sub>H</sub>2-specific chemokine receptors CCR3, CCR4, and CCR8. *Front. Cell Dev. Biol.* 4, 54 (2016) 査読有り
- 36) \* Ninomiya K., Miyazawa S., Ozeki K., Matsuo N., Muraoka O., Kikuchi T., Yamada T., Tanaka R., Morikawa T.: Hepatoprotective limonoids from andiroba (*Carapa guianensis*). *Int. J. Mol. Sci.* 17, 591 (2016) 査読有り
- 37) 小林正和、赤木淳二、山口康代、山崎寛生、森川敏生、二宮清文、吉川雅之、村岡 修: サラシアエキス末配合食品の長期摂取時および過剰摂取時の安全生の検討 -プラセボ対照二重盲検比較試験-. *Jpn. Pharmacol. Ther.* 44, 399-408 (2016) 査読有り
- 38) \* Ninomiya K., Matsumoto T., Chaipech S., Miyake S., Katsuyama Y., Tsuboyama A., Pongpiriyadacha Y., Hayakawa T., Muraoka O., Morikawa T.: Simultaneous quantitative analysis of 12 methoxyflavones with melanogenesis inhibitory activity from the rhizomes of *Kaempferia parviflora*. *J. Nat. Med.* 70, 179-189 (2016) 査読有り
- 39) \* Morikawa T., Ninomiya K., Kuramoto H., Kamei I., Yoshikawa M., Muraoka O.: Phenylethanoid and

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- phenylpropanoid glycosides with melanogenesis inhibitory activity from the flowers of *Narcissus tazetta* var. *chinensis*. *J. Nat. Med.* 70, 89-101 (2016) 査読有り
- 40) \* Takeda T., Tsubaki M., Sakamoto K., Ichimura E., Enomoto A., Suzuki Y., Itoh T., Imano M., Tanabe G., Muraoka O., Matsuda H., Satou T., Nishida S.: Mangiferin, a novel nuclear factor kappa B-inducing kinase inhibitor, suppresses metastasis and tumor growth in a mouse metastatic melanoma model. *Toxicol Appl Pharmacol.* 306, 105-112 (2016) 査読有り
- 41) \* Takeda T., Tsubaki M., Kino T., Kawamura A., Isoyama S., Itoh T., Imano M., Tanabe G., Muraoka O., Matsuda H., Satou T., Nishida S.: Mangiferin enhances the sensitivity of human multiple myeloma cells to anticancer drugs through suppression of the nuclear factor  $\kappa$ B pathway. *Int J Oncol.* 48, 2704-2712 (2016) 査読有り
- 42) \* Takeda T., Tsubaki M., Kino T., Yamagishi M., Iida M., Itoh T., Imano M., Tanabe G., Muraoka O., Satou T., Nishida S.: Mangiferin induces apoptosis in multiple myeloma cell lines by suppressing the activation of nuclear factor kappa B-inducing kinase. *Chem Biol Interact.* 251, 26-33 (2016) 査読有り
- 43) \* Takeda Y., Hayashi Y., Utamura N., Takamoto C., Kinoshita M., Yamamoto S., Hayakawa T., Suzuki S.: Capillary electrochromatography using monoamine- and triamine-bonded silica nanoparticles as pseudostationary phases. *J. Chromatogr. A*, 1427, 170-176 (2016) 査読有り
- 44) \* T Tong KI., Ota K., Komuro A., Ueda T., Ito A., Koch AC., Okada H.: Attenuated DNA damage repair delays therapy-related myeloid neoplasms in a mouse model. *Cell Death and Disease.* 7(10):e240 (2016) 査読有り
- 45) \* Fujita Y., Kimura M., Sato H., Takata T., Ono N., Nishio K.: Characterization of the cytotoxic activity of [2]rotaxane (TRO-A0001), a novel supramolecular compound, in cancer cells. *Arch Pharm Res*, 39(6), 825-32 (2016) 査読有り
- 46) \* Tsutsui N., Tanabe G., Morita N., Okayama Y., Kita A., Sugiura R., Muraoka O.: Structure-activity relationship studies on acremomannolipin A, the potent calcium signal modulator with a novel glycolipid structure 3: Role of the length of alditol side chain. *Bioorg Med Chem*, 23(13): 3761-3773 (2015) 査読有り
- 47) Kita A., Higa M., Doi A., Satoh R., Sugiura R.: Imp2, the PSTPIP homolog in fission yeast, affects sensitivity to the immunosuppressant FK506 and membrane trafficking in fission yeast. *Biochem Biophys Res Commun*, 457(3): 273-279 (2015) 査読有り
- 48) Higa M., Kita A., Hagihara K., Kitai Y., Doi A., Nagasoko R., Satoh R., Sugiura R.: Spatial control of calcineurin in response to heat shock in fission yeast. *Genes Cells*, 20(2): 95-107 (2015) 査読有り
- 49) 佐藤亮介、萩原加奈子、喜多綾子、杉浦麗子: カルシニューリンの新たな制御機構と医療・創薬への応用 - RNA 顆粒によるカルシニューリンの空間的制御 -. *生化学* 87(5): 517-524 (2015) 査読なし
- 50) \* Nakanishi I., Murata K., Nagata N., Kurono M., Kinoshita T., Yasue M., Miyazaki T., Takei Y., Nakamura S., Sakurai A., Iwamoto N., Nishiwaki K., Nakaniwa T., Sekiguchi Y., Hirasawa A., Tsujimoto G., Kitaura K.: Identification of Protein Kinase CK2 Inhibitors using Solvent Dipole Ordering Virtual Screening. *Eur. J. Med. Chem.* 96, 396-404.(2015) 査読有り
- 51) \* Kawashita N., Yamasaki H., Miyao T., Kawai K., Sakae Y., Ishikawa T., Mori K., Nakamura S., Kaneko H.: A Mini-review on Chemoinformatics Approaches for Drug Discovery. *J. Comput. Aided Chem.* 16, 15-29.(2015) 査読有り
- 52) Ogata F., Ueta E., Kawasaki N.: Adsorption capability of ionic dyes onto pristine and calcined activated clay. *e-J. Surf. Sci. Nanotech.* 14, 209-215 (2016) 査読有り
- 53) Ogata F., Kawasaki N.: Regeneration of waste edible oil by the use of virgin and calcined magnesium



法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- hydroxide as adsorbents, *J. Oleo Sci.* 65(11), 941-948 (2016) 査読有り
- 54) Ogata F., Kawasaki N.: Adsorption capability of calcined gibbsite for V, Sr, and Mo from a complex solution system, *J. Water Environ. Technol.* 14(5), 362-371 (2016) 査読有り
- 55) Ogata F., Ueda A., Tanei S., Imai D., Kawasaki N.: Simultaneous removal of phosphate and nitrite ions from aqueous solutions using modified soybean waste, *J. Ind. Eng. Chem.* 35, 287-294 (2016) 査読有り
- 56) \* Nagai N., Ogata F., Kawasaki N., Ito Y.: Increased expression of interleukin 18 in lenses of ovariectomized rat, *Biol. Pharm. Bull.* 39(1), 138-142 (2016) 査読有り
- 57) \* Ogata F., Imai D., Toda M., Otani M., Kawasaki N.: Properties of a novel adsorbent produced by calcination of nickel hydroxide and its capability for phosphate ion adsorption, *J. Ind. Eng. Chem.* 34, 172-179 (2016) 査読有り
- 58) \* Ogata F., Kawasaki N.: Adsorption of As(III) from aqueous solutions by novel Fe-Mg type hydrotalcite, *Chem. Pharm. Bull.* 63(12), 1040-1046 (2015) 査読有り
- 59) \* Ogata F., Iwata Y., Kawasaki N.: Kinetic and equilibrium investigation of cobalt(II), nickel(II), and tungsten(VI) adsorption on fly ash processed by hydrothermal treatment in an alkaline solution, *J. Water Environ. Technol.* 13(5), 359-370 (2015) 査読有り
- 60) \* Nagai N., Ogata F., Kawasaki N., Ito Y., Funakami Y., Okamoto N., Shimomura Y.: Hypercalcemia leads to delayed wound healing in ovariectomized rats, *Biol. Pharm. Bull.* 38(7), 1063-1069 (2015) 査読有り
- 61) Ogata F., Imai D., Toda M., Otani M., Kawasaki N.: Adsorption of phosphate ion in aqueous solutions by calcined cobalt hydroxide at different temperatures, *J. Environ. Chem. Eng.* 3, 1570-1577 (2015) 査読有り
- 62) Ogata F., Imai D., Kawasaki N.: Cationic dye removal from aqueous solution by waste biomass produced from calcination treatment of rice bran, *J. Environ. Chem. Eng.* 3, 1476-1485 (2015) 査読有り
- 63) Ogata F., Iwata Y., Kawasaki N.: Properties of novel adsorbent produced by hydrothermal treatment of waste fly ash in alkaline solution and its capability for adsorption of tungsten from aqueous solution, *J. Environ. Chem. Eng.* 3, 333-338 (2015) 査読有り
- 64) Ogata F., Imai D., Kawasaki N.: Adsorption of nitrate and nitrite ions onto carbonaceous material produced from soybean in a binary solution system, *J. Environ. Chem. Eng.* 3, 155-161(2015) 査読有り
- 65) \* Yuan Q., Furukawa T., Okita K., Jin ZH., Aung W., Sugyo A., Nagatsu K., Endo H., Tsuji AB., Zhang MR., Masuko T., Inoue M., Fujibayashi Y., Saga T.: Immuno-PET imaging of HER3 in a model in which HER3 signaling plays a critical role. *PLoS ONE* 10(11), e0143076. (2015)
- 66) Takechi M., Wada T., Yagi H., Masuko T., Kawabata A.: Oubain exert cytoprotection by diminishing the intracellular K (+) concentration increase caused by distinct stimuli in human leukemic cells. *J Pharm Pharmacol* 67(1), 126-32. (2015)
- 67) \* Morikawa T., Ninomiya K., Akaki J., Kakiyama N., Kuramoto H., Matsumoto Y., Hayakawa T., Muraoka O., Wang L.-B., Wu L.-J., Nakamura S., Yoshikawa M., Matsuda H.: Dipeptidyl peptidase-IV inhibitory activity of dimeric dihydrochalcone glycosides from flowers of *Helichrysum arenarium*. *J. Nat. Med.* 69, 494-506 (2015) 査読有り 平成 28 年度 日本生薬学会論文賞 受賞、“Change the World, One Article at a Time: Must-Read Articles from 2015 (Springer 社)” に選出
- 68) \* Tanabe G., Sugano Y., Shirato M., Sonoda N., Tsutsui N., Morikawa T., Ninomiya K., Yoshikawa M., Muraoka O.: Total Synthesis of 4,5-Didehydroguadiscine: A Potent Melanogenesis Inhibitor from the Brazilian Medicinal Herb, *Hornschurchia oblique*. *J. Nat. Prod.* 78, 1536-1542 (2015) 査読有り
- 69) \* Morikawa T., Ninomiya K., Takamori Y., Nishida E., Yasue M., Hayakawa T., Muraoka O., Li X., Nakamura S., Yoshikawa M., Matsuda H.: Oleanane-type triterpene saponins with collagen

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- synthesis-promoting activity from the flowers of *Bellis perennis*. *Phytochemistry*, 116, 203-212 (2015) 査読有り
- 70) \* Inoue T., Matsui Y., Kikuchi T., Yamada T., In Y., Muraoka O., Sakai C., Ninomiya K., Morikawa T., Tanaka R.: Carapanolides M-S from seeds of andiroba (*Carapa guianensis*, Meliaceae) and triglyceride metabolism-promoting activity in high glucose-pretreated HepG2 cells. *Tetrahedron*, 71, 2753-2760 (2015) 査読有り
- 71) \* Morikawa T., Akaki J., Ninomiya K., Kinouchi E., Tanabe G., Pongpiriyadacha Y., Yoshikawa M., Muraoka O.: Salacinol and Related Analogs: New Leads for Type 2 Diabetes Therapeutic Candidates from the Thai Traditional Natural Medicine *Salacia chinensis*. *Nutrients*, 7, 1480-1493 (2015) 査読有り
- 72) \* Sakamoto A., Tanaka Y., Yamada T., Kikuchi T., Muraoka O., Ninomiya K., Morikawa T., Tanaka R.: Andirolides W-Y from the flower oil of andiroba (*Carapa guianensis*, Meliaceae). *Fitoterapia* 100, 81-87 (2015) 査読有り
- 73) \* Hamamoto H., Umemoto H., Umemoto M., Ohta C., Fujita E., Nakamura A., Maegawa T., Miki Y.: Decarboxylative Halogenation of Indolecarboxylic Acids Using Hypervalent Iodine(III) Reagent and Its Application to the Synthesis of Polybromoindoles. *Heterocycle*. 91, 561-572 (2015)
- 74) Tsubaki M., Takeda T., Kino T., Itoh T., Imano M., Tanabe G., Muraoka O., Satou T., Nishida S.: Mangiferin suppresses CIA by suppressing the expression of TNF- $\alpha$ , IL-6, IL-1 $\beta$ , and RANKL through inhibiting the activation of NF- $\kappa$ B and ERK1/2. *Am J Transl Res.*, 7, 1371-1381 (2015) 査読有り
- 75) \* Yamamoto S., Iwata T., Nishiwaki K., Kinoshita M., Suzuki S.: Synthesis of quaternary ammonium derivatives of cellulose as the coating reagents for capillary electrophoresis. *Chromatography*, 2015, 36, 93-98(2015) 査読有り
- 76) \* Yamamoto S., Tamata Y., Sejima K., Kinoshita M., Suzuki S.: Chiral separation of D/L-aldoses by micellar electrokinetic chromatography using a chiral derivatization reagent and a phenylboronic acid complex. *Anal. Bioanal. Chem.* 407, 6201-6206 (2015) 査読有り
- 77) \* Yamamoto S., Nagai E., Asada Y., Kinoshita M., Suzuki S.: A rapid and highly sensitive microchip electrophoresis of mono- and mucin-type oligosaccharides labeled with 7-amino-4-methylcoumarin. *Anal. Bioanal. Chem.*, 407, 1409-1503 (2015) 査読有り
- 78) \* Yamamoto T., Uemura K., Moriyama K., Mitamura K., Taga A.: Inhibitory effect of maple syrup on cell growth and invasion of human colorectal cancer cells. *Oncol Rep.* 33,1579-1584 (2015) 査読有り
- 79) \* Tsutsui N., Tanabe G., Gotoh G., Morita N., Nomura N., Kita A., Sugiura R., Muraoka O.: Structure-activity relationship studies on acremomannolipin A, the potent calcium signal modulator with a novel glycolipid structure 2: Role of the alditol side chain stereochemistry. *Bioorg Med Chem*, 22(3): 945-959 (2014) 査読有り
- 80) \* Takeuchi T., Oishi S., Kaneda M., Ohno H., Nakamura S., Nakanishi I., Yamane M., Sawada J., Asai A., Fujii N.: Kinesin spindle protein inhibitors with diaryl amine scaffolds: Crystal packing analysis for improved aqueous solubility. *ACS Med. Chem. Lett.* 5, 566-571.(2014) 査読有り
- 81) \* Miyamoto K., Ishikawa F., Nakamura S., Hayashi Y., Nakanishi I., Kakeya H.: A 7-dimethylallyl tryptophan synthase from a fungal *Neosartorya* sp.: Biochemical characterization and structural insight into the regioselective prenylation. *Bioorg. Med. Chem.* 22, 2517-2528.(2014) 査読有り
- 82) \* Takeuchi T., Oishi S., Kaneda M., Misu R., Ohno H., Sawada J., Asai A., Nakamura S., Nakanishi I., Fujii N.: Optimization of diaryl amine derivatives as kinesin spindle protein inhibitors. *Bioorg. Med. Chem.* 22, 3171-3179.(2014) 査読有り

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 83) \* Dmitri G. Fedorov, Asada N., Nakanishi I., Kitaura K.. The use of many-body expansions and geometry optimizations in fragment-based methods. *Acc. Chem. Res.* 47, 2846-2856.(2014) 査読有り
- 84) Ogata F., Imai D., Toda M., Otani M., Kawasaki N.: Adsorption of phosphate ions from aqueous solution of nickel hydroxides calcined at different temperatures, *e-J. Surf. Sci. Nanotech.* 12, 404-409 (2014) 査読有り
- 85) Ogata F., Iwata Y., Kawasaki N.: Adsorption of tungsten onto zeolite fly ash produced by hydrothermally treating fly ash in alkaline solution, *Chem. Pharm. Bull.* 62(9), 892-897 (2014) 査読有り
- 86) Ogata F., Ueda A., Kawasaki N.: Removal of phosphate ions by PGAF ( Poly-  $\gamma$  -glutamic acid and flocculants), *J. Water Environ. Technol.* 12(5), 447-458 (2014) 査読有り
- 87) Ogata F., Ueda A., Kawasaki N.: Adsorption of orthophosphoric, pyrophosphoric, and tripolyphosphoric acids from aqueous solutions by calcined gibbsite, *Chem. Pharm. Bull.* 62(8), 799-805 (2014) 査読有り
- 88) Ogata F., Iwata Y., Kawasaki N.: Zeolite X produced by hydrothermal treatment of fly ash in an alkaline solution, *e-J. Surf. Sci. Nanotech.* 12, 23-25 (2014) 査読有り
- 89) Ogata F., Kawasaki N.: Adsorption of Au(III) from aqueous solution by calcined gibbsite, *J. Chem. Eng. Data* 59, 412-418 (2014) 査読有り
- 90) \* Saito M., Kondo M., Oshima M., Degichi K., Hayashi H., Inoue K., Masuko T., Itoh K.: Identification of anti-CD98 antibody mimotopes for inducing antibodies with antitumor activity by mimotope immunization. *Cancer Sci.* 105(4), 396-401.(2014)
- 91) \* Niwa S., Hayasi H., Yagi H., Masuko T. : Development of anti-CD44v antibodies towards analytical and practical study of cancer stem cell. *Medical Science Digest* 4, 417-421. (2014)
- 92) \* Akaki J., Morikawa T., Miyake S., Ninomiya K., Okada M., Tanabe G., Pongpiriyadacha Y., Yoshikawa M., Muraoka O.: Evaluation of *Salacia* species as anti-diabetic natural resources based on quantitative analysis of eight sulphonium constituents: a new class of  $\alpha$ -glucosidase inhibitors. *Phytochem. Anal.* 25, 544-550 (2014) 査読有り
- 93) \* Nakamura S., Xu F., Ninomiya K., Nakashima S., Oda Y., Morikawa T., Muraoka O., Yoshikawa M., Matsuda H.: Chemical structures and hepatoprotective effects of constituents from *Cassia auriculata* leaves. *Chem. Pharm. Bull.* 62, 1026-1031 (2014) 査読有り
- 94) \* Morikawa T., Ninomiya K., Imamura M., Akaki J., Fujikura S., Pan Y., Yuan D., Yoshikawa M., Jia X., Li Z., Muraoka O.: Acylated phenylethanoid glycosides, echinacoside and acteoside from *Cistanche tubulosa*, improve glucose tolerance in mice. *J. Nat. Med.* 68, 561-566 (2014) 査読有り
- 95) \* Morikawa T., Nakanishi Y., Ninomiya K., Matsuda H., Nakashima S., Miki H., Miyashita Y., Yoshikawa M., Hayakawa T., Muraoka O.: Dimeric pyrrolidinoindoline-type alkaloids with melanogenesis inhibitory activity in flower buds of *Chimonanthus praecox*. *J. Nat. Med.* 68, 539-549 (2014) 査読有り
- 96) \* Morikawa T., Ninomiya K., Imura K., Yamaguchi T., Akagi Y., Yoshikawa M., Hayakawa T., Muraoka O. : Hepatoprotective triterpenes from traditional Tibetan medicine *Potentilla anserina*. *Phytochemistry* 102, 169-181 (2014) 査読有り
- 97) \* Yagi Y., Kakehi K., Hayakawa T., Suzuki S.: Application of microchip electrophoresis; sodium dodecyl sulfate for the evaluation of change of degradation species of therapeutic antibodies in stability testing. *Anal. Sci.*, 30, 483-488 (2014) 査読有り
- 98) \* Suzuki S.: Highly sensitive methods using liquid chromatography and capillary electrophoresis for quantitative analysis of glycoprotein glycans. *Chromatography*, 35, 1-22 (2014) 査読有り
- 99) Michiyama T., Moriyama H., Moriyama M., Hayakawa T., Ninomiya K., Muraoka O., Chaipech S., Morikawa T.: Inhibitory effects of oligostilbenoids from bark of *Shorea roxburghii* on malignant melanoma

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

cell growth: implications for a candidate of novel topical anticancer agents. The 27th International Conference on Polyphenols (ICP2014), *Polyphenol Communications*, 533-534 (2014) 査読なし

- 100) \* Nagasawa I., Kaneko A., Suzuki T., Nishio K., Kinoshita K., Shiro M., Koyama K.: Potential anti-angiogenesis effects of p-terphenyl compounds from *Polyozellus multiplex*. *J Nat Prod*, 77(4), 963-8 (2014) 査読有り

**テーマB: 「癌・増殖シグナル制御メカニズム解析」 (計108報)**

- 101) Fukao A. and Fujiwara T.: The coupled- and uncoupled mechanisms by which trans-acting factors regulate mRNA stability and translation. *The Journal of Biochemistry*. (in press) 査読有り
- 102) Ogata F., Satoh R., Kita A., Sugiura R., Kawasaki N.: Evaluation of a novel method for measurement of intracellular calcium ion concentration in fission yeast. *J Toxicol Sci*, 42:159-166(2017) 査読有り
- 103) \* Satoh R., Matsumura Y., Tanaka A., Takada M., Ito Y., Hagihara K., Inari M., Kita A., Fukao A., Fujiwara T., Hirai S., Tani T., Sugiura R.: Spatial regulation of the KH domain RNA-binding protein Rnc1 mediated by a Crm1-independent nuclear export system in *Schizosaccharomyces pombe*. *Mol Microbiol*, in press (2017) 査読有り
- 104) \* Kawase A., Hashimoto R., Shibata M., Shimada H., Iwaki M.: Involvement of reactive metabolites of diclofenac in diclofenac-induced cytotoxicity in sandwich-cultured rat hepatocytes. *Drug Metab Dispos*, 45, 316-324 in press. 査読有り
- 105) \* Tsubaki M., Takeda T., Kino T., Sakai K., Itoh T., Imano M., Nakayama T., Nishio K., Satoh T., Nishida S.: Contributions of MET activation to BCR-ABL1 tyrosine kinase inhibitor resistance in chronic myeloid leukemia cells. *Oncotarget*. in press (2017). 査読有り
- 106) \* Ota K., T Tong KI., Goto K., Tomida S., Komuro A., Wang Z., Nishio K., Okada H.: The H3K27 demethylase, Utx, regulates adipogenesis in a differentiateon stage-dependent manner. *PLOS ONE* (in press) 査読有り
- 107) \* Nishida S., Tsubaki M.: Exploration of Molecular Targets in the Development of New Therapeutics Aimed at Overcoming Multidrug Resistance. *Yakugaku Zasshi*., 137, 145-149 (2017). 査読有り
- 108) \* Tsubaki M., Fujiwara D., Takeda T., Kino T., Tomonari Y., Itoh T., Imano M., Satou T., Sakaguchi K., Nishida S.: The sensitivity of head and neck carcinoma cells to statins is related to the expression of their Ras expression status, and statin-induced apoptosis is mediated via suppression of the Ras/ERK and Ras/mTOR pathways. *Clin Exp Pharmacol Physiol*., 44, 222-234 (2017). 査読有り
- 109) Fujiwara D., Mashimo K., Kimura K., Noda A., Taki K., Yoshiabayashi H., Takeda T., Tsubaki M., Nishida S., Sakaguchi K.: Influence of Next-Day Administration of Pegfilgrastim after FEC100 Chemotherapy in Japanese with Breast Cancer on Neutrophil Count. *Gan To Kagaku Ryoho*., 44, 149-152 (2017) 査読有り
- 110) \* Tsubota M., Miyamoto T., Hiruma S., Saeki H., Miyazaki T., Sekiguchi F., Funakami Y., Kawabata A.: Repeated cold stress reduces cyclophosphamide-induced cystitis/bladder pain and macrophage activity in mice. *Pharmacology*, 99, 286-290 (2017) 査読有り
- 111) 坪田真帆、川畑篤史: トロンボモジュリンアルファの内臓痛治療への応用. *潰瘍*, in press (2017). 査読無
- 112) \* Ikuta H., Kawase A., Iwaki M.: Stereoselective pharmacokinetics and chiral inversion of ibuprofen in adjuvant-induced arthritic rats. *Drug Metab Dispos*, 45, 316-324 (2017) 査読有
- 113) \* Fukami K., Asano E., Ueda M., Sekiguchi F., Yoshida S., Kawabata A.: High glucose induces N-linked glycosylation-mediated functional upregulation and overexpression of Cav3.2 T-type calcium channels in neuroendocrine-like differentiated human prostate cancer cells. *J. Pharmacol. Sci.*, 133, 57-60 (2017). 査読

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

有り

- 114) Miyamoto T., Funakami Y., Kawashita E., Tomita S., Nomura A., Sugimoto N., Saeki H., Tsubota M., Ichida S., Kawabata A.: Enhanced hyperthermic responses to lipopolysaccharide in mice exposed to repeated cold stress. *Pharmacology*, 99, 172-178 (2017). 査読有り
- 115) Miyamoto T., Funakami Y., Kawashita E., Nomura A., Sugimoto N., Saeki H., Tsubota M., Ichida S., Kawabata A.: Repeated cold stress enhances the acute restraint stress-induced hyperthermia in mice. *Biol. Pharm. Bull.*, 40, 1-6 (2017). 査読有り
- 116) Terada Y., Tsubota M., Sugo H., Wakitani K., Sekiguchi F., Wada K., Takada M., Oita A., Kawabata A.: Tacrolimus triggers TRPV1-dependent relapse of pancreatitis-related pain in mice. *Pharmacology*, 99, 281-285 (2017). 査読有り
- 117) Terada Y., Wada K., Matsuda S., Kuwahara T., Kawabata A., Takada M., Watanabe T., Nakajima S., Sato T., Seguchi O., Yanase M., Fukushima N., Nakatani T.: Circadian pharmacokinetics and limited sampling strategy of everolimus in heat transplant patients. *Int. J. Clin. Pharmacol. Ther.*, 55, 1-8 (2017). 査読有り
- 118) Aoyama T, Fukao A, Fujiwara T. : Translational regulation is mediated by the cross-talk between the miRNA pathway and RNA binding proteins. *Nihon Yakurigaku Zasshi*. Vol 147 No. 6, pp.346-350, Jun, 2016 査読有り
- 119) \* Kanda Y., Satoh R., Matsumoto S., Ikeda C., Inutsuka N., Hagihara K., Matzno S., Tsujimoto S., Kita A., Sugiura R. : Skb5, an SH3 adaptor protein, regulates Pmk1 MAPK signaling by controlling the intracellular localization of the MAPKKK Mkh1. *J Cell Sci*, 129(16): 3189-3202 (2016) 査読有り
- 120) \* Mukai H., Muramatsu A, Mashud R., Kubouchi K., Tsujimoto S., Hongu T., Kanaho Y., Tsubaki M., Nishida S., Shioi G., Danno S., Mehruba M., Satoh R., Sugiura R. : PKN3 is the major regulator of angiogenesis and tumor metastasis in mice. *Sci Rep*, 6:18979 (2016) 査読有り
- 121) \* Kawase A., Yamamoto T., Egashira S., Iwaki M. : Stereoselective inhibition of methotrexate excretion by glucuronides of nonsteroidal anti-inflammatory drugs via multidrug resistance protein 2 and 4. *J Pharmacol Exp Ther*, 356, 366-374 (2016) 査読有り
- 122) \* Kawase A., Tanaka H., Otori T., Matsuyama K., Iwaki M. : Effects of duration of phenytoin administration on mRNA expression of cytochrome P450 and P-glycoprotein in the liver and small intestine of rats. *Asian J Pharm Sci*, 11, 662-667 (2016) 査読有り
- 123) \* Kawase A., Handa A., Iwaki M. : Effects of high-cholesterol diet on pravastatin disposition in the perfused rat liver. *Eur J Drug Metab Pharmacokine*, (2016). 査読有り
- 124) Otori T, Matzno S, Kawase A, Iwaki M., Kimachi T, Nishiwaki K, Figoni W, Tominaga R, Asahide M, Nishikata M, Ishii Y, Matsuyama K.: Development of hemiacetal esterified levofloxacin to prevent chelation with metal containing drugs. *J Pharm Pharmacol*, 68, 1527-1534 (2016). 査読有り
- 125) \* Iwaki M., Niwa T, Bandoh S, Itoh M, Hirose H, Kawase A, Komura H.: Application of substrate depletion assay to evaluation of CYP isoforms responsible for stereoselective metabolism of carvedilol. *Drug Metab Pharmacokinet*, 31, 425-432 (2016). 査読有り
- 126) \* Kawase A, Handa A, Iwaki M. : Effects of fasting on pravastatin disposition in perfused rat liver. *Int J Pharm Pharm Sci*, 8, 130-134 (2016). 査読有り
- 127) \* Kawase A, Araki Y, Ueda Y, Nakazaki S, Iwaki M. : Impact of high-cholesterol diet on expression levels of niemann-pick C1-like 1 and other intestinal transporters in rats and mice. *Eur J Drug Metabol Pharmacokinet*, 41, 457-463 (2016). 査読有り
- 128) \* Uraki M, Kawase A, Matsushima Y, Iwaki M. : Effects of dose, flow rate and bile acid on diclofenac disposition in the perfused rat liver. *Eur J Drug Metabol Pharmacokinet*, 41, 301-307 (2016). 査読有り

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 129) \* Uraki M, Kawase A, Iwaki M.: Stereoselective hepatic disposition of ibuprofen in the perfused liver of rat with adjuvant-induced arthritis. *Xenobiotica*, In press (2016). 査読有り
- 130) Matsumura S, Murata K, Zaima N, Yoshioka Y, Morimoto M, Matsuda H, Iwaki M.: Inhibitory activities of sesame seed extract and its constituents against  $\beta$ -secretase. *Nat Prod Commun*, 11, 1671-1674 (2016). 査読有り
- 131) \* Uraki M, Kawase A, Sayama H, Matsushima Y, Iwaki M.: Effects of adjuvant-induced inflammation on disposition of diclofenac and its metabolites in perfused rat liver. *J Pharm Sci*, In press (2016). 査読有り
- 132) \* Tsubaki M., Mashimo K., Takeda T., Kino T., Fujita A., Itoh T., Imano M., Sakaguchi K., Satou T., Nishida S.: Statins inhibited the MIP-1 $\alpha$  expression via inhibition of Ras/ERK and Ras/Akt pathways in myeloma cells. *Biomed Pharmacother.*, 78, 23-29 (2016) 査読有り
- 133) Tsubaki M., Takeda T., Yoshizumi M., Ueda E., Itoh T., Imano M., Satou T., Nishida S.: RANK-RANKL interactions are involved in cell adhesion-mediated drug resistance in multiple myeloma cell lines. *Tumour Biol.*, 37, 9099-9110 (2016) 査読有り
- 134) \* Fukami K., Sekiguchi F., Kawabata A.: Hydrogen sulfide and T-type Ca $^{2+}$  channels in pain processing, neuronal differentiation and neuroendocrine secretion. *Pharmacology*, 99, 107-114 (2016). 査読有り
- 135) 坪田真帆、川畑篤史: 膝臓の疼痛における侵害受容体の関与と治療への展望。(特集:膝疾患の疼痛治療の up-to-date —疼痛の発生メカニズムから疾患別治療まで)。胆と膝, 37, 1535-1539 (2016). 査読無し
- 136) Nishida T., Tsubota M., Kawaishi Y., Yamanishi H., Kamitani N., Sekiguchi F., Ishikura H., Liu K., Nishibori M., Kawabata A.: Involvement of high mobility group box 1 in the development and maintenance of chemotherapy-induced peripheral neuropathy in rats. *Toxicology*, 365, 48-58 (2016). 査読有り
- 137) \* Sekiguchi F., Kawara Y., Tsubota M., Kawakami E., Ozaki T., Kawaishi Y., Tomita S., Kanaoka D., Yoshida S., Ohkubo T., Kawabata A.: Therapeutic potential of RQ-00311651, a novel T-type Ca $^{2+}$  channel blocker, in distinct rodent models for neuropathic and visceral pain. *Pain*, 157, 1655-1665 (2016). 査読有り
- 138) \* Mitani K., Sekiguchi F., Maeda T., Tanaka Y., Kawabata A.: The prostaglandin E2/EP4 receptor/cyclic AMP/T-type Ca $^{2+}$  channel pathway mediates neuritogenesis in sensory neuron-like ND7/23 cells. *J. Pharmacol. Sci.*, 130, 177-180 (2016). 査読有り
- 139) \* Sekiguchi F., Sekimoto T., Ogura A., Kawabata A.: Endogenous hydrogen sulfide enhances cell proliferation of human gastric cancer AGS cells. *Biol. Pharm. Bull.*, 39, 887-890 (2016). 査読有り
- 140) \* Yamasoba D., Tsubota M., Domoto R., Sekiguchi F., Nishikawa H., Liu K., Nishibori M., Ishikura H., Yamamoto T., Taga A., Kawabata A.: Peripheral HMGB1-induced hyperalgesia in mice: redox state-dependent distinct roles of RAGE and TLR4. *J. Pharmacol. Sci.*, 130, 139-142 (2016). 査読有り
- 141) \* Aoki Y., Tsubota M., Nishimoto Y., Maeda Y., Sekiguchi F., Kawabata A.: Selective sensitization of C-fiber nociceptors by hydrogen sulfide. *J. Pharmacol. Sci.*, 130, 38-41 (2016). 査読有り
- 142) \* Yamamoto S., Kinoshita M., Suzuki S.: Current landscape of protein glycosylation analysis and recent progress toward a novel paradigm of glycoscience research. *J. Pharm. Biomed. Anal.*, 130, 273-300 (2016) 査読有り
- 143) \* Matsuo K., Itoh T., Koyama A., Imamura R., Kawai S., Nishiwaki K., Oiso N., Kawada A., Yoshie O., Nakayama T.: CCR4 is critically involved in effective antitumor immunity in mice bearing intradermal B16 melanoma. *Cancer Lett.* 378, 16-22 (2016) 査読有り
- 144) Matsuo K., Hirobe S., Okada N., Nakagawa S.: Analysis of skin permeability and toxicological properties of silica particles. *Biol. Pharm. Bull.* 39, 1201-1205 (2016) 査読有り
- 145) Matsuo K., Nishiuma S., Hasegawa S., Kawabata F., Kitahata K., Nakayama T.: Vaccination with antigen

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- combined with ab-ATP as a vaccine adjuvant enhances antigen-specific antibody production via dendritic cell activation. *Biol. Pharm. Bull.* 39, 1073-1076 (2016) 査読有り
- 146) Moriguchi K., Miyamoto K., Tanaka N., Ueno R., Nakayama T., Yoshie O., Kusunoki S.: C-C chemokine receptor type 4 antagonist Compound 22 ameliorates experimental autoimmune encephalomyelitis. *J. Neuroimmunol.* 291, 54-58 (2016) 査読有り
- 147) Kobayashi I., Takahashi F., Nurwidya F., Murakami A., Hashimoto M., Nara T., Tajima K., Shimada N., Yoshioka Y., Sasaki S., Moriyama M., Moriyama H., Takahashi K.: Oct4 plays a crucial role in the persistence of gefitinib-resistant lung cancer stem cells. *Biochem Biophys Res Commun.* 473(1), 125-32(2016) 査読有り
- 148) \* Yamamoto T., Kudo M., Peng WX., Takata H., Takakura H., Teduka K., Fujii T., Mitamura K., Taga A., Uchida E., Naito Z.: Identification of aldolase A as a potential diagnostic biomarker for colorectal cancer based on proteomic analysis using formalin-fixed paraffin-embedded tissue. *Tumor Biol.* 37, 13595-13606 (2016) 査読有り
- 149) Satoh R., Ogata H., Saito T., Zhou B., Omura K., Kurabuchi S., Mitamura K., Ikegawa S., Hagey LR., Hofmann AF., Iida T. : Two Major Bile Acids in the Hornbills, (24R,25S)-3 $\alpha$ ,7 $\alpha$ ,24-Trihydroxy-5 $\beta$ -cholestan-27-oyl Taurine and Its 12 $\alpha$ -Hydroxy Derivative. *Lipids.* 51, 757-68 (2016) 査読有り
- 150) Sato Née Okihara R., Saito T., Ogata H., Nakane N., Namegawa K., Sekiguchi S., Omura K., Kurabuchi S., Mitamura K., Ikegawa S., Raines J., Hagey LR., Hofmann AF., Iida T. : Novel, major 2 $\alpha$ - and 2 $\beta$ -hydroxy bile alcohols and bile acids in the bile of *Arapaima gigas*, a large South American river fish. *Steroids.* 107, 112-120 (2016) 査読有り
- 151) \* Kanzaki A., Kudo M., Ansai SI., Peng WX., Ishino K., Yamamoto T., Wada R., Fujii T., Teduka K., Kawahara K., Kawamoto Y., Kitamura T., Kawana S., Saeki H., Naito Z. : Insulin-like growth factor 2 mRNA-binding protein-3 as a marker for distinguishing between cutaneous squamous cell carcinoma and keratoacanthoma. *Int J Oncol.* 48, 1007-1015 (2016) 査読有り
- 152) Doi A., Fujimoto A., Sato S., Uno T., Kanda Y., Asami K., Tanaka Y., Kita A., Satoh R., Sugiura R. : A chemical genomics approach to identify genes associated with sensitivity to rapamycin in the fission yeast *Scizosaccharomyces pombe*. *Genes Cells,* 20(4): 292-309 (2015) 査読有り
- 153) \* Doi A., Kita A., Kanda Y., Uno T., Asami K., Satoh R., Nakano K., Sugiura R. : The geranylgeranyltransferase Cwg2-Rho4/Rho5 module is implicated in the Pmk1 MAPK Kinase-mediated cell wall integrity pathway in fission yeast. *Genes Cells,* 20(4): 310-323 (2015) 査読有り
- 154) Yamamoto T., Uemura K., Sawashi Y., Mitamura K., Taga A. : Optimization of method to extract collagen from “Emperor” tissue of soft-shelled turtles. *J Oleo Sci.* 65, 169-175 (2016) 査読有り
- 155) \* Kawase A, Hata S, Takagi M, Iwaki M.: Pravastatin modulate niemann-pick C1-like 1 and ATP-binding cassette G5 and G8 to influence intestinal cholesterol absorption. *J Pharm Pharm Sci,* 18, 765-772 (2015). 査読有り
- 156) \* Kawase A, Ito A, Yamada A, Iwaki M.: Age-related changes in mRNA levels of hepatic transporters, cytochrome P450 and UDP-glucuronosyltransferase in female rats. *Eur J Drug Metabol Pharmacokinet,* 40, 239-244 (2015). 査読有り
- 157) \* Tsubaki M., Takeda T., Kino T., Obata N., Itoh T., Imano M., Mashimo K., Fujiwara D., Sakaguchi K., Satou T., Nishida S.: Statins improve survival by inhibiting spontaneous metastasis and tumor growth in a mouse melanoma model. *Am J Cancer Res.,* 5, 3186-3197 (2015) 査読有り

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 158) Peng YF., Imano M., Itoh T., Satoh T., Chiba Y., Imamoto H., Tsubaki M., Nishida S., Yasuda T., Furukawa H.: A phase II trial of perioperative chemotherapy involving a single intraperitoneal administration of paclitaxel followed by sequential S-1 plus intravenous paclitaxel for serosa-positive gastric cancer. *J Surg Oncol.*, 111, 1041-1046 (2015) 査読有り
- 159) \* Tsubaki M., Takeda T., Tani T., Shimaoka H., Suzuyama N., Sakamoto K., Fujita A., Ogawa N., Itoh T., Imano M., Funakami Y., Ichida S., Satou T., Nishida S.: PKC/MEK inhibitors suppress oxaliplatin-induced neuropathy and potentiate the antitumor effects. *Int J Cancer.*, 137, 243-250 (2015) 査読有り
- 160) Tsubaki M., Takeda T., Ogawa N., Sakamoto K., Shimaoka H., Fujita A., Itoh T., Imano M., Ishizaka T., Satou T., Nishida S.: Overexpression of survivin via activation of ERK1/2, Akt, and NF- $\kappa$ B plays a central role in vincristine resistance in multiple myeloma cells. *Leuk Res.*, 39, 445-452 (2015) 査読有り
- 161) Nagai N., Yoshioka C., Ito Y., Funakami Y., Nishikawa F., Kawabata A.: Intravenous administration of cilostazol nanoparticles ameliorates acute ischemic stroke in a cerebral ischemia/reperfusion-induced injury model. *Int. J. Mol. Sci.*, 16, 29329-29344 (2015). 査読有り
- 162) \* Fukami K., Sekiguchi E., Yasukawa M., Asano E., Kasamatsu R., Ueda M., Yoshida S., Kawabata A.: Functional upregulation of the H2S/Cav3.2 channel pathway accelerates secretory function in neuroendocrine-differentiated human prostate cancer cells. *Biochem. Pharmacol.* 97, 300-309 (2015). 査読有り
- 163) \* Fukami K., Kawabata A.: Hydrogen sulfide and neuronal differentiation: focus on Ca<sup>2+</sup> channels. *Nitric Oxide*, 46, 50-54 (2015). 査読有り
- 164) Murakami-Nakayama M., Tsubota M., Hiruma S., Sekiguchi F., Matsuyama K., Kimura T., Moriyama M., Kawabata A.: Polaprezinc attenuates cyclophosphamide-induced cystitis and related bladder pain in mice. *J. Pharmacol. Sci.*, 127, 223-28 (2015). 査読有り
- 165) \* Terada Y., Kawabata A.: H2S and pain: a novel aspect for processing of somatic, visceral and neuropathic pain signals. In *Chemistry, Biochemistry and Pharmacology of Hydrogen Sulfide*, edited by Moore P.K., Whiteman M., Springer, Handb. Exp. Pharmacol. 230: 217-230 (2015). 査読有り
- 166) Terada Y., Fujimura M., Nishimura S., Tsubota M., Sekiguchi E., Kawabata A.: Roles of Cav3.2 and TRPA1 channels targeted by hydrogen sulfide in pancreatic nociceptive processing in mice with or without acute pancreatitis. *J. Neurosci. Res.*, 93, 361-369 (2015). 査読有り
- 167) Maeda Y., Sekiguchi F., Yamanaka R., Sugimoto R., Yamasoba D., Tomita S., Nishikawa H., Kawabata A.: Mechanisms for proteinase-activated receptor 1-triggered prostaglandin E2 generation in mouse osteoblastic MC3T3-E1 cells. *Biol. Chem.*, 396, 153-162 (2015). 査読有り
- 168) Hirobe S., Azukizawa H., Hanafusa T., Matsuo K., Quan YS., Kamiyama F., Katayama I., Okada N., Nakagawa S.: Clinical study and stability assessment of a novel transcutaneous influenza vaccination using a dissolving microneedle patch. *Biomaterials*, 57, 50-58 (2015) 査読有り
- 169) Wada A., Ito A., Iitsuka H., Tsuneyama K., Miyazono T., Murakami J., Shibahara N., Sakurai H., Saiki I., Nakayama T., Yoshie O., Koizumi K., Sugiyama T.: Role of chemokine CX3CL1 in progression of multiple myeloma via CX3CR1 in bone microenvironments. *Oncol. Rep.* 33, 2935-2939 (2015) 査読有り
- 170) Fox JC., Nakayama T., Tyler RC., Sander TL., Yoshie O., Volkman BF.: Structural and agonist properties of XCL2, the other member of the C-chemokine subfamily. *Cytokine*, 71, 302-11 (2015) 査読有り
- 171) Murata Y., Hori H., Taga A., Tada H.: Surface charge-transfer complex formation of catechol on titanium(IV) oxide and the application to bio-sensing. *J Colloid Interface Sci.* 458, 305-309 (2015) 査読有り
- 172) Arai K., Terashima H., Aizawa S., Taga A., Yamamoto A., Tsutsumiuchi K., Kodama S.: Simultaneous



法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- Determination of Trigonelline, Caffeine and Chlorogenic Acid in Instant Coffee by HPLC Using an Acidic Mobile Phase Containing Octanesulfonate. *Anal. Sci.* 31, 831-835 (2015) 査読有り
- 173) Mabuchi M., Shimizu T., Ueda M., Mitamura K., Ikegawa S., Tanaka A.: Improvement of solid material for affinity resins by application of long PEG spacers to capture the whole target complex of FK506. *Bioorg Med Chem Lett.* 25, 2788-2792 (2015) 査読有り
- 174) Shou M., Terashima H., Aizawa S., Taga A., Yamamoto A., Kodama S.: Simultaneous Enantioseparation of Aldohexoses and Aldopentoses Derivatized with L-Tryptophanamide by Reversed Phase HPLC Using Butylboronic Acid as a Complexation Reagent of Monosaccharides. *Chirality.* 27, 417-21 (2015) 査読有り
- 175) Takaya A., Peng WX., Ishino K., Kudo M., Yamamoto T., Wada R., Takeshita T., Naito Z.: Cystatin B as a potential diagnostic biomarker in ovarian clear cell carcinoma. *Int J Oncol.* 46, 1573-1581 (2015) 査読有り
- 176) Nagai N., Yamamoto T., Tanabe W., Ito Y., Kurabuchi S., Mitamura K., Taga A.: Changes in plasma glucose in otuka long-evans tokushima fatty rats after oral administration of maple syrup. *J Oleo Sci.* 64, 331-335 (2015) 査読有り
- 177) \* Yoneshige A., Hagiyama M., Inoue T., Mimae T., Kato T., Okada M., Enoki E., Ito A.: Increased ectodomain shedding of cell adhesion molecule 1 as a cause of type II alveolar epithelial cell apoptosis in patients with idiopathic interstitial pneumonia. *Respir Res.* 16, 19 (2015). 査読有り
- 178) \* Hagiyama M., Yoneshige A., Inoue T., Sato Y., Mimae T., Okada M., Ito A.: The intracellular domain of cell adhesion molecule 1 is present in emphysematous lungs and induces lung epithelial cell apoptosis. *J Biomed Sci.* 22, 67. (2015). 査読有り
- 179) \* Mimae T., Ito A.: New challenges in pseudopodial proteomics by a laser-assisted cell etching technique. *Biochim Biophys Acta-Proteins Proteomics.* 1854, 538-546 (2015). 査読有り
- 180) \* Cisneros-Barroso E., Yance-Chavez T., Kito A., Sugiura R., Gomez-Hierro A., Gimenez-Zaragoza D., Aligue R.: Negative feedback regulation of calcineurin-dependent Prz1 transcription factor by the CaMKK-CaMK1 axis in fission yeast. *Nucleic Acids Res.* 42(15): 9573-9587 (2014) 査読有り
- 181) \* Maesaki R., Satoh R., Taoka M., Kanaba T., Asano T., Fujita C., Fujiwara T., Ito Y., Isobe T., Hakoshima T., Maenaka K., Mishima M.: Efficient and cost effective production of active-form human PKB using silkworm larvae. *Sci Rep.* 4:6016 (2014) 査読有り
- 182) \* Hagihara K., Mizukura A., Kitai Y., Yao M., Ishida K., Kunoh T., Kita A., Masuko T., Matzno S., Chiba K., Sugiura R.: FTY720 stimulated ROS generation and the Sty1/Atf1 signaling pathway in the fission yeast *Schizosaccharomyces pombe*. *Genes Cells.* 19(4): 325-337 (2014) 査読有り
- 183) \* Kawase A, Sakata M, Yada N, Nakasaka M, Shimizu T, Kato Y, Iwaki M.: Decreased radixin function for ATP-binding cassette transporters in liver in adjuvant-induced arthritis rats. *J Pharm Sci.* 103, 4058-4065 (2014). 査読有り
- 184) \* Kawase A, Norikane S, Okada A, Adachi M, Kato Y, Iwaki M.: Distinct alterations in ATP-binding cassette transporter expression in liver, kidney, small intestine, and brain in adjuvant-induced arthritic rats. *J Pharm Sci.* 103, 2556-2564 (2014). 査読有り
- 185) Sayama H, Takubo H, Komura H, Kogayu M, Iwaki M.: Application of a physiologically based pharmacokinetic model informed by a top-down approach for the prediction of pharmacokinetics in chronic kidney disease patients. *AAPS J.* 16, 1018-1028 (2014). 査読有り
- 186) Kawase A, Yamada A, Gamou Y, Tahara C, Takeshita F, Murata K, Matsuda H, Samukawa K, Iwaki M.: Effects of ginsenosides on the expression of cytochrome P450s and transporters involved in cholesterol metabolism. *J Nat Med.* 68, 395-401 (2014). 査読有り

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 187) Kawase A.: Alterations in expression and function of ABC transporters and ERM proteins in inflammation. *Yakugaku Zasshi*, 134, 925-929 (2014). 査読有り
- 188) Kidera Y., Kawakami H., Sakiyama T., Okamoto K., Tanaka K., Takeda M., Kaneda H., Nishina S., Tsurutani J., Fujiwara K., Nomura M., Yamazoe Y., Chiba Y., Nishida S., Tamura T., Nakagawa K.: Risk factors for cisplatin-induced nephrotoxicity and potential of magnesium supplementation for renal protection. *PLoS One.*, 9, e101902 (2014) 査読有り
- 189) \* Tsubaki M., Takeda T., Sakamoto K., Shimaoka H., Fujita A., Itoh T., Imano M., Mashimo K., Fujiwara D., Sakaguchi K., Satou T., Nishida S.: Bisphosphonates and statins inhibit expression and secretion of MIP-1 $\alpha$  via suppression of Ras/MEK/ERK/AML-1A and Ras/PI3K/Akt/AML-1A pathways. *Am J Cancer Res.*, 5, 168-179 (2014) 査読有り
- 190) Tsubaki M., Ogawa N., Takeda T., Sakamoto K., Shimaoka H., Fujita A., Itoh T., Imano M., Satou T., Nishida S.: Dimethyl fumarate induces apoptosis of hematopoietic tumor cells via inhibition of NF- $\kappa$ B nuclear translocation and down-regulation of Bcl-xL and XIAP. *Biomed Pharmacother.*, 68, 999-1005 (2014) 査読有り
- 191) 坪田真帆、川畑篤史: 結腸の疼痛および炎症におけるガス状情報伝達物質硫化水素の役割. *Yakugaku Zasshi*, 134, 1245-1252 (2014). 査読有り
- 192) \* Sekiguchi F., Miyamoto Y., Kanaoka D., Ide H., Yoshida S., Ohkubo T., Kawabata A.: Endogenous and exogenous hydrogen sulfide facilitates T-type calcium channel currents in Cav3.2-expressing HEK293 cells. *Biochem. Biophys. Res. Commun.*, 445, 225-229 (2014). 査読有り
- 193) \* Tanaka J., Yamaguchi K., Ishikura H., Tsubota M., Sekiguchi F., Seki Y., Tsujiuchi T., Murai A., Umemura T., Kawabata A.: Bladder pain relief by HMGB1 neutralization and soluble thrombomodulin in mice with cyclophosphamide-induced cystitis. *Neuropharmacology*, 79, 112-118 (2014). 査読有り
- 194) \* Higashi K., Asano K., Yagi M., Yamada K., Arakawa T., Ehashi T., Mori T., Sumida K., Kushida M., Ando S., Kinoshita M., Kakehi K., Tachibana T., Saito K.: Expression of the clustered NeuAca2-3Gal $\beta$  O-glycan determines the cell differentiation state of the cells. *J Biol Chem.* 289, 25833-25843 (2014) 査読有り
- 195) \* Yamada K., Kinoshita M., Jo Y., Inoue T., Aoshima M., Hasegawa K., Sei K., Kita S., Kakehi K.: Structural analysis of carboxymethyl cellulose used as an antiadhesive material for surgical wound healing. *Yakugaku Zasshi.* 2014, 134, 1209-1217 (2014) 査読有り
- 196) Kee JY., Ito A., Hojo S., Hashimoto I., Igarashi Y., Tsuneyama K., Tsukada K., Irimura T., Shibahara N., Takasaki I., Inujima A., Nakayama T., Yoshie O., Sakurai H., Saiki I., Koizumi K.: CXCL16 suppresses liver metastasis of colorectal cancer by promoting TNF- $\alpha$ -induced apoptosis by tumor-associated macrophages. *BMC Cancer*, 14, 949 (2014)
- 197) Matsumoto M., Nakayama T., Inoue D., Takamatsu K., Itotani R., Ishitoko M., Suzuki S., Sakuramoto M., Yuba Y., Yoshie O., Takemura M., Fukui M.: A pleomorphic carcinoma of the lung producing multiple cytokines and forming a rapidly progressive mass-like opacity. *BMC Cancer*, 14, 588 (2014) 査読有り
- 198) Kato M., Oiso N., Itoh T., Sato M., Matsuo K., Nakayama T., Satou T., Kawada A.: Necrobiosis lipoidica with infiltration of Th17 cells into vascular lesions. *J. Dermatol.* 41, 459-461 (2014) 査読有り
- 199) Matsuo K., Okamoto H., Kawai Y., Quan YS., Kamiyama F., Hirobe S., Okada N., Nakagawa S.: Vaccine efficacy of transcutaneous immunization with amyloid  $\beta$  using a dissolving microneedle array in a mouse model of Alzheimer's disease. *J. Neuroimmunol.* 266, 1-11 (2014) 査読有り
- 200) \* Moriyama H., Moriyama M., Isshi H., Ishihara S., Okura H., Ichinose A., Ozawa T., Matsuyama A., Hayakawa T.: Role of notch signaling in the maintenance of human mesenchymal stem cells under hypoxic

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

conditions. *Stem Cells Dev.* 23(18), 2211-24. (2014) 査読有り

- 201) Murakami A., Takahashi F., Nurwidya F., Kobayashi I., Minakata K., Hashimoto M., Nara T., Kato M., Tajima K., Shimada N., Iwakami S., Moriyama M., Moriyama H., Koizumi F., Takahashi K.: Hypoxia increases gefitinib-resistant lung cancer stem cells through the activation of insulin-like growth factor 1 receptor. *PLoS One.* 9(1), e86459.(2014) 査読有り
- 202) Higashi T., Goto A., Morohashi M., Ogawa S., Komatsu K., Sugiura T., Fukuoka T., Mitamura K.: Development and validation of a method for determination of plasma 25-hydroxyvitamin D3 3-sulfate using liquid chromatography/tandem mass spectrometry. *J Chromatogr B Analyt Technol Biomed Life Sci.* 969, 230-234 (2014) 査読有り
- 203) Mitamura K., Satoh Okihara R., Kamibayashi M., Sato K, Iida T., Ikegawa S.: Simultaneous determination of 18 tetrahydrocorticosteroid sulfates in human urine by liquid chromatography/electrospray ionization-tandem mass spectrometry. *Steroids.* 85, 18-29 (2014) 査読有り
- 204) Takayama R., Ansai S., Ishiwata T., Yamamoto T., Matsuda Y., Naito Z., Kawana S.: Expression of lumican in hidroacanthoma simplex and clonal type seborrheic keratosis as a potent differential diagnostic marker. *Am J Dermatopathol.* 36, 655-660 (2014) 査読有り
- 205) Akabane M., Yamamoto A., Aizawa S., Taga A., Kodama S.: Simultaneous enantioseparation of monosaccharides derivatized with L-tryptophan by reversed phase HPLC. *Analytical Sci.* 30, 739-743 (2014) 査読有り
- 206) \* Mimae T., Hagiya M., Inoue T., Yoneshige A., Kato T., Okada M., Murakami Y., Ito A.: Increased ectodomain shedding of lung-epithelial cell adhesion molecule 1 as a cause of increased alveolar cell apoptosis in emphysema. *Thorax.* 69, 223-231. (2014). 査読有り
- 207) \* Ito M., Hagiya M., Mimae T., Inoue T., Kato T., Yoneshige A., Nakanishi J., Kondo T., Okada M., Ito A.:  $\alpha$ -Parvin, a pseudopodial constituent, promotes cell motility and is associated with lymph node metastasis of lobular breast carcinoma. *Breast Cancer Res Treat.* 144, 59-69. (2014). 査読有り
- 208) Mimae T., Ito A., Hagiya M., Nakanishi J., Ito M., Hosokawa Y., Okada M., Murakami Y., Kondo T.: A novel approach to pseudopodia proteomics: excimer laser etching, two-dimensional difference gel electrophoresis, and confocal imaging. *Protocol Exchange.* doi:10.1038/protex.2014.007. (2014) 査読無

**テーマC: 「臨床評価・臨床腫瘍検体を用いた創薬シーズのPOC研究と個別化医療」(計109報)**

- 209) Mizukami T., Togashi Y., Naruki S., Banno E., Terashima M., de Velasco MA., Sakai K., Yoneshige A., Hayashi H., Fujita Y., Tomida S., Nakajima TE., Fujino T., Boku N., Ito A., Nakagawa K., Nishio K.: Significance of FGF9 gene in resistance to anti-EGFR therapies targeting colorectal cancer: A subset of colorectal cancer patients with FGF9 upregulation may be resistant to anti-EGFR therapies. *Mol Carcinog.* in press. 査読有り
- 210) Nakagawa K., Asamura H., Tsuta K., Nagai K., Yamada E., Ishi G., Mitsudomi T., Ito A., Higashiyama M., Tomita Y., Inoue M., Morii E., Matsuura N., Okumura M.: Novel method (OSNA) for the diagnosis of lymph node metastasis in patients with non-small cell lung cancer (NSCLC): Results of a multicenter prospective study. *Lung Cancer.* in press. 査読有り
- 211) Okada H., Tong K., Ota K., Komuro A., Ueda T., Ito A., Koch CA.: Attenuated DNA damage repair delays therapy-related myeloid neoplasms in a mouse model. *Cell Death Dis.* in press. 査読有り
- 212) Iino T., Hagiya M., Furuno T., Ito A., Hosokawa Y.: Time-course statistical evaluation of intercellular adhesion maturation by femtosecond laser impulse. *Biophys J.* in press. 査読有り

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 213) Yoneshige A., Hagiwara M., Inoue T., Tanaka T., Ri A., Ito A.: Modest static pressure can cause enteric nerve degeneration through ectodomain shedding of cell adhesion molecule 1. *Mol Neurobiol.* in press. 査読有り
- 214) Tanizaki J., Hayashi H., Kimura M., Tanaka K., Takeda M., Shimizu S., Ito A., Nakagawa K.: Report of two cases of pseudoprogression in patients with non-small cell lung cancer treated with nivolumab – including histological analysis of one case after tumor regression. *Lung Cancer.* in press. 査読有り
- 215) Ohta M., Hosokawa Y., Hatano N., Sugano A., Ito A., Takaoka Y.: Efficacy of femtosecond lasers for application of acupuncture therapy. *Lasers in Med Sci.* in press. 査読有り
- 216) Kato T., Mizuguchi N., Ito A.: Candesartan suppresses proteinuria and decrease of nephrin expression but hydralazine does not in hypertensive nephropathy. *J Biomed.* in press. 査読有り
- 217) \* Matsuoka H., Yoshiuchi K., Koyama A., Makimura C., Fujita Y., Tsurutani J., Sakai K., Sakamoto R., Nishio K., Nakagawa K.: Expectation of a Decrease in Pain Affects the Prognosis of Pain in Cancer Patients: a Prospective Cohort Study of Response to Morphine. *Int J Behav Med*, E-pub ahead of print, (2017) 査読有り
- 218) \* Oiso N., Sakai K., Nishio K., Kawada A.: Phylloid hypomelanosis associated with a mosaic trisomy 13 in the 13q31.3-qter region: atypical phylloid distribution and typical hypomelanosis. *Pigment Cell Melanoma Res*, E-pub ahead of print, (2016) 査読有り
- 219) \* Kobayashi Y., Azuma K., Nagai H., Kim YH., Togashi Y., Sesumi Y., Chiba M., Shimoji M., Sato K., Tomizawa K., Takemoto T., Nishio K., Mitsudomi T.: Characterization of EGFR T790M, L792F, and C797S mutations as mechanisms of acquired resistance to afatinib in lung cancer. *Mol Cancer Ther*, 16(2), 357-64 (2017) 査読有り
- 220) \* Iwama E., Sakai K., Azuma K., Harada T., Harada D., Nosaki K., Hotta K., Ohyanagi F., Kurata T., Fukuhara T., Akamatsu H., Goto K., Shimose T., Kishimoto J., Nakanishi Y., Nishio K., Okamoto I.: Monitoring of somatic mutations in circulating cell-free DNA by digital PCR and next-generation sequencing during afatinib treatment in patients with lung adenocarcinoma positive for EGFR activating mutations. *Ann Oncol*, 28(1), 136-41 (2017) 査読有り
- 221) \* Tanizaki J., Banno E., Togashi Y., Hayashi H., Sakai K., Takeda M., Kaneda H., Nishio K., Nakagawa K.: Case report: Durable response to afatinib in a patient with lung cancer harboring two uncommon mutations of EGFR and a KRAS mutation. *Lung Cancer*, E-pub ahead of print, (2016) 査読有り
- 222) \* Mizukami T., Sakai K., Naruki S., Taniyama T., Horie Y., Izawa N., Tsuda T., Fujino T., Boku N., Yasuda H., Fukunaga T., Nakajima TE., Nishio K.: Identification of a FGFR3-TACC3 fusion in esophageal cancer. *Ann Oncol*, E-pub ahead of print, (2016) 査読有り
- 223) \* Matsuo N., Azuma K., Sakai K., Hattori S., Kawahara A., Ishii H., Tokito T., Kinoshita T., Yamada K., Nishio K., Hoshino T.: Association of EGFR Exon 19 Deletion and EGFR-TKI Treatment Duration with Frequency of T790M Mutation in EGFR-Mutant Lung Cancer Patients. *lung cancer patients. Sci Rep*, E-pub ahead of print, (2016) 査読有り
- 224) \* Hibi M., Kaneda H., Tanizaki J., Sakai K., Togashi Y., Terashima M., De Velasco MA., Fujita Y., Banno E., Nakamura Y., Takeda M., Ito A., Mitsudomi T., Nakagawa K., Okamoto I., Nishio K.: FGFR gene alterations in lung squamous cell carcinoma are potential targets for the multikinase inhibitor nintedanib. *Cancer Sci*, 107(11), 1667-76 (2016) 査読有り
- 225) \* Chiba M., Togashi Y., Tomida S., Mizuuchi H., Nakamura Y., Banno E., Hayashi H., Terashima M., De Velasco MA., Sakai K., Fujita Y., Mitsudomi T., Nishio K.: MEK inhibitors against MET-amplified non-small cell lung cancer. *Int J Oncol*, 49(6), 2236-44 (2016) 査読有り

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 226) \* Shitara K., Yonesaka K., Denda T., Yamazaki K., Moriwaki T., Tsuda M., Takano T., Okuda H., Nishina T., Sakai K., Nishio K., Tokunaga S., Yamanaka T., Boku N., Hyodo I., Muro K.: A Randomized Study of FOLFIRI plus either Panitumumab or Bevacizumab for Wild-Type KRAS Colorectal Cancer-WJOG 6210G. *Cancer Sci*, 107(12), 1843-50 (2016) 査読有り
- 227) \* De Velasco MA., Kura Y., Yoshikawa K., Nishio K., Davies BR., Uemura H.: Efficacy of targeted AKT inhibition in genetically engineered mouse models of PTEN-deficient prostate cancer. *Oncotarget*, 7(13), 15959-76 (2016) 査読有り
- 228) \* Nagai H., Oiso N., Tomida S., Sakai K., Fujiwara S., Nakamachi Y., Kawano S., Kawada A., Nishio K., Nishigori C.: Epidermolysis bullosa simplex with mottled pigmentation with noncicatricial alopecia: identification of a recurrent p.P25L mutation in KRT5 in four affected family members. *Br J Dermatol*, 174(3), 633-5 (2016) 査読有り
- 229) \* Kaibori M., Sakai K., Ishizaki M., Matsushima H., De Velasco MA., Matsui K., Iida H., Kitade H., Kwon AH., Nagano H., Wada H., Haji S., Tsukamoto T., Kanazawa A., Takeda Y., Takemura S., Kubo S., Nishio K.: Increased FGF19 copy number is frequently detected in hepatocellular carcinoma with a complete response after sorafenib treatment. *Oncotarget*, 7(31), 49091-8 (2016) 査読有り
- 230) \* Watanabe S., Takeda M., Takahama T., Iwasa T., Tsurutani J., Tanizaki J., Shimizu T., Sakai K., Wada Y., Isogai N., Nishio K., Nakagawa K.: Successful human epidermal growth receptor 2-targeted therapy beyond disease progression for extramammary Paget's disease. *Invest New Drugs*, 34(3), 394-6 (2016) 査読有り
- 231) \* Terashima M., Togashi Y., Sato K., Mizuuchi H., Sakai K., Suda K., Nakamura Y., Banno E., Hayashi H., De Velasco MA., Fujita Y., Tomida S., Mitsudomi T., Nishio K.: Functional Analyses of Mutations in Receptor Tyrosine Kinase Genes in Non-Small Cell Lung Cancer: Double-Edged Sword of DDR2. *Clin Cancer Res*, 22(14), 3663-71 (2016) 査読有り
- 232) \* Takegawa N., Yonesaka K., Sakai K., Ueda H., Watanabe S., Nonagase Y., Okuno T., Takeda M., Maenishi O., Tsurutani J., Satoh T., Okamoto I., Nishio K., Tamura T., Nakagawa K.: HER2 genomic amplification in circulating tumor DNA from patients with cetuximab-resistant colorectal cancer. *Oncotarget*, 7(3), 3453-60 (2016) 査読有り
- 233) \* Murao T., Shiotani A., Fujita Y., Yamanaka Y., Kamada T., Manabe N., Hata J., Nishio K., Haruma K.: Overexpression of CD55 from Barrett's esophagus is associated with esophageal adenocarcinoma risk. *J Gastroenterol Hepatol*, 31(1), 99-106 (2016) 査読有り
- 234) \* Suda K., Murakami I., Sakai K., Tomizawa K., Mizuuchi H., Sato K., Nishio K., Mitsudomi T.: Heterogeneity in resistance mechanisms causes shorter duration of epidermal growth factor receptor kinase inhibitor treatment in lung cancer. *Lung Cancer*, 91, 36-40 (2016) 査読有り
- 235) \* Yonesaka K., Hirofumi K., Kawakami H., Takeda M., Kaneda H., Sakai K., Okamoto I., Nishio K., Janne PA., Nakagawa K.: Anti-HER3 monoclonal antibody patritumab sensitizes refractory non-small cell lung cancer to the epidermal growth factor receptor inhibitor erlotinib. *Oncogene*, 35(7), 878-86 (2016) 査読有り
- 236) \* Ohira T., Sakai K., Matsubayashi J., Kajiwaru N., Kakihana M., Hagiwara M., Hibi M., Yoshida K., Maeda J., Ohtani K., Nagao T., Nishio K., Ikeda N.: Tumor volume determines the feasibility of cell-free DNA sequencing for mutation detection in non-small cell lung cancer. *Cancer Sci*, 107(11), 1660-6 (2016) 査読有り
- 237) \* Takahama T., Sakai K., Takeda M., Azuma K., Hida T., Hirabayashi M., Oguri T., Tanaka H., Ebi N., Sawa T., Bessho A., Tachihara M., Akamatsu H., Bandoh S., Himeji D., Ohira T., Shimokawa M., Nakanishi Y., Nakagawa K., Nishio K.: Detection of the T790M mutation of EGFR in plasma of advanced non-small cell

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- lung cancer patients with acquired resistance to tyrosine kinase inhibitors (West Japan oncology group 8014LTR study). *Oncotarget*, 7(36), 58492-9 (2016) 査読有り
- 238) \* Nakamura Y., Togashi Y., Nakahara H., Tomida S., Banno E., Terashima M., Hayashi H., de Velasco MA., Sakai K., Fujita Y., Okegawa T., Nutahara K., Hamada S., Nishio K. : Afatinib against Esophageal or Head-and-Neck Squamous Cell Carcinoma: Significance of Activating Oncogenic HER4 Mutations in HNSCC. *Mol Cancer Ther*, 15(8), 1988-97 (2016) 査読有り
- 239) \* Banno E., Togashi Y., Nakamura Y., Chiba M., Kobayashi Y., Hayashi H., Terashima M., de Velasco MA., Sakai K., Fujita Y., Mitsudomi T., Nishio K. : Sensitivities to various epidermal growth factor receptor-tyrosine kinase inhibitors of uncommon epidermal growth factor receptor mutations L861Q and S768I: What is the optimal epidermal growth factor receptor-tyrosine kinase inhibitor? *Cancer Sci*, 107(8), 1134-40 (2016) 査読有り
- 240) \* Mizuuchi H., Suda K., Murakami I., Sakai K., Sato K., Kobayashi Y., Shimoji M., Chiba M., Sesumi Y., Tomizawa K., Takemoto T., Sekido Y., Nishio K., Mitsudomi T. : Oncogene swap as a novel mechanism of acquired resistance to epidermal growth factor receptor-tyrosine kinase inhibitor in lung cancer. *Cancer Sci*, 107(4), 461-8 (2016) 査読有り
- 241) \* Takeda M., Sakai K., Okamoto K., Hayashi H., Tanaka K., Shimizu T., Nishio K., Nakagawa K. : Genome sequencing for nonsmall-cell lung cancer identifies a basis for nintedanib sensitivity. *Ann Oncol*, 27(4), 748-50 (2016) 査読有り
- 242) \* Nagai T., Arao T., Nishio K., Matsumoto K., Hagiwara S., Sakurai T., Minami Y., Ida H., Ueshima K., Nishida N., Sakai K., Saijo N., Kudo K., Kaneda H., Tamura D., Aomatsu K., Kimura H., Fujita Y., Haji S., Kudo M. : Impact of Tight Junction Protein ZO-1 and TWIST Expression on Postoperative Survival of Patients with Hepatocellular Carcinoma. *Dig Dis*, 34(6), 702-07 (2016) 査読有り
- 243) \* Sato K., Suda K., Shimizu S., Sakai K., Mizuuchi H., Tomizawa K., Takemoto T., Nishio K., Mitsudomi T. : Clinical, Pathological, and Molecular Features of Lung Adenocarcinomas with AXL Expression. *PLoS One*, 11(4), e0154186 (2016) 査読有り
- 244) \* Azuma K., Hirashima T., Yamamoto N., Okamoto I., Takahashi T., Nishio M., Hirata T., Kubota K., Kasahara K., Hida T., Yoshioka H., Nakanishi K., Akinaga S., Nishio K., Mitsudomi T., Nakagawa K. : Phase II study of erlotinib plus tivantinib (ARQ 197) in patients with locally advanced or metastatic EGFR mutation-positive non-small-cell lung cancer just after progression on EGFR-TKI, gefitinib or erlotinib. *ESMO Open*, 1(4), e000063 (2016) 査読有り
- 245) \* Kato T., Oka K., Nakamura T., Ito A. : Decreased expression of Met during differentiation in rat lung. *Eur J Histochem*. 60, 2575 (2016) 査読有り
- 246) YF Fujiwara K., Fujita Y., Kasai A, Onaka Y., Hashimoto H., Okada H., Yamashita T. Deletion of JMJD2B in neurons leads to defective spine maturation, hyperactive behavior and memory deficits in mouse. *Transl Psychiatry*. 6 (e766) (2016) 査読有
- 247) Martini E., Wittkopf N., Günther C., Leppkes M., Okada H., Watson AJ., Podstawa E., Backert I., Kerstin Amann K., Markus F Neurath NF., Christoph Becker C. : Loss of surviving in intestinal epithelial progenitor cells leads to mitotic catastrophe and breakdown of gut immune homeostasis. *Cell reports*. 14 (5), 1062-1073(2016) 査読有
- 248) Sugihara M., Sadamori H., Nishibori M., Sato Y., Tazawa H., Shinoura S., Umeda Y., Yoshida R., Nobuoka D., Utsumi M., Ohno K., Nagasaka T., Yoshino T., Takahashi HK., Yagi T., Fujiwara T. : Anti-high mobility group box 1 monoclonal antibody improves ischemia/reperfusion injury and mode of liver regeneration after

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- partial hepatectomy. *Am J Surg.* 211, 179-188 (2016) 査読有り
- 249) Izushi Y., Teshigawara K., Liu K., Wang D., Wake H., Takata K., Yoshino T., Takahashi HK., Mori S., Nishibori M.: Soluble form of the receptor for advanced glycation end-products attenuates inflammatory pathogenesis in a rat model of lipopolysaccharide-induced lung injury. *J Pharmacol Sci.* 130(4), 226-34 (2016) 査読有り
- 250) Wake H., Mori S., Liu K., Morioka Y., Teshigawara K., Sakaguchi M., Kuroda K., Gao Y., Takahashi H., Ohtsuka A., Yoshino T., Morimatsu H., Nishibori M.: Histidine-Rich Glycoprotein Prevents Septic Lethality through Regulation of Immunothrombosis and Inflammation. *EBioMedicine.* 9, 180-94 (2016) 査読有り
- 251) Haruma J., Teshigawara K., Hishikawa T., Wang D., Liu K., Wake H., Mori S., Takahashi HK., Sugiu K., Date I., Nishibori M.: Anti-high mobility group box-1 (HMGB1) antibody attenuates delayed cerebral vasospasm and brain injury after subarachnoid hemorrhage in rats. *Sci Rep.* 6, 37755 (2016) 査読有
- 252) HO3)YT Fujiwara K., Fujita Y., Kasai A., Onaka Y., Hashimoto H., Okada H., Yamashita T.: Deletion of JMJD2B in neurons leads to defective spine maturation, hyperactive behavior and memory deficits in mouse. *Transl Psychiatry.* 6, e766 (2016) 査読有
- 253) \* Niwa A., Nishibori M., Hamasaki S., Kobori T., Liu K., Wake H., Mori S., Yoshino T., Takahashi H.: Voluntary exercise induces neurogenesis in the hypothalamus and ependymal lining of the third ventricle. *Brain Struct Funct.* 221(3), 1653-66 (2016) 査読有り
- 254) \* Yonesaka K., Kudo K., Nishida S., Takahama T., Iwasa T., Yoshida T., Tanaka K., Takeda M., Kaneda H., Okamoto I., Nishio K., Nakagawa K.: The pan-HER family tyrosine kinase inhibitor afatinib overcomes HER3 ligand heregulin-mediated resistance to EGFR inhibitors in non-small cell lung cancer. *Oncotarget,* 6(32), 33602-11 (2015) 査読有り
- 255) \* Ishii H., Azuma K., Sakai K., Kawahara A., Yamada K., Tokito T., Okamoto I., Nishio K., Hoshino T.: Digital PCR analysis of plasma cell-free DNA for non-invasive detection of drug resistance mechanisms in EGFR mutant NSCLC: Correlation with paired tumor samples. *Oncotarget,* 6(31), 30850-8 (2015) 査読有り
- 256) \* Satoh T., Lee KH., Rha SY., Sasaki Y., Park SH., Komatsu Y., Yasui H., Kim TY., Yamaguchi K., Fuse N., Yamada Y., Ura T., Kim SY., Munakata M., Saitoh S., Nishio K., Morita S., Yamamoto E., Zhang Q., Kim JM., Kim YH., Sakata Y.: Randomized phase II trial of nimotuzumab plus irinotecan versus irinotecan alone as second-line therapy for patients with advanced gastric cancer. *Gastric Cancer,* 18(4), 824-32 (2015) 査読有り
- 257) \* Kimura M., Makio K., Hara K., Hiruma W., Fujita Y., Takata T., Nishio K., Ono N.: A Supramolecular Substance, [2] Rotaxane, Induces Apoptosis in Human Molt-3 Acute Lymphoblastic Leukemia Cells. *Drug Res (Stuttg),* 65(11), 614-6 (2015) 査読有り
- 258) \* Sakiyama T., Tsurutani J., Iwasa T., Kawakami H., Nonagase Y., Yoshida T., Tanaka K., Fujisaka Y., Kurata T., Komoike Y., Nishio K., Nakagawa K.: A phase I dose-escalation study of eribulin and S-1 for metastatic breast cancer. *Br J Cancer,* 112(5), 819-24 (2015) 査読有り
- 259) \* Kogita A., Togashi Y., Hayashi H., Banno E., Terashima M., De Velasco MA., Sakai K., Fujita Y., Tomida S., Takeyama Y., Okuno K., Nakagawa K., Nishio K.: Activated MET acts as a salvage signal after treatment with alectinib, a selective ALK inhibitor, in ALK-positive non-small cell lung cancer. *Int J Oncol,* 46(3), 1025-30 (2015) 査読有り
- 260) \* Yonesaka K., Satoh T., Ueda S., Yoshida T., Takeda M., Shimizu T., Okamoto I., Nishio K., Tamura T., Nakagawa K.: Circulating hepatocyte growth factor is correlated with resistance to cetuximab in metastatic colorectal cancer. *Anticancer Res,* 35(3), 1683-9 (2015) 査読有り

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 261) \* Yamaue H., Tsunoda T., Tani M., Miyazawa M., Yamao K., Mizuno N., Okusaka T., Ueno H., Boku N., Fukutomi A., Ishii H., Ohkawa S., Furukawa M., Maguchi H., Ikeda M., Togashi Y., Nishio K., Ohashi Y.: Randomized phase II/III clinical trial of elpamotide for patients with advanced pancreatic cancer: PEGASUS-PC Study. *Cancer Sci*, 106(7), 883-90 (2015) 査読有り
- 262) \* Togashi Y., Kogita A., Sakamoto H., Hayashi H., Terashima M., De Velasco MA., Sakai K., Fujita Y., Tomida S., Kitano M., Okuno K., Kudo M., Nishio K.: Activin signal promotes cancer progression and is involved in cachexia in a subset of pancreatic cancer. *Cancer Lett*, 356(2 Pt B), 819-27 (2015) 査読有り
- 263) \* Hayashi H., Arao T., Togashi Y., Kato H., Fujita Y., De Velasco MA., Kimura H., Matsumoto K., Tanaka K., Okamoto I., Ito A., Yamada Y., Nakagawa K., Nishio K.: The OCT4 pseudogene POU5F1B is amplified and promotes an aggressive phenotype in gastric cancer. *Oncogene*, 34(2), 199-208 (2015) 査読有り
- 264) \* Sakai K., Takeda M., Okamoto I., Nakagawa K., Nishio K.: Multiple regulatory mechanisms of hepatocyte growth factor expression in malignant cells with a short poly(dA) sequence in the HGF gene promoter. *Oncol Lett*, 9(1), 405-10 (2015) 査読有り
- 265) \* Togashi Y., Hayashi H., Terashima M., De Velasco MA., Sakai K., Fujita Y., Tomida S., Nakagawa K., Nishio K.: Inhibition of beta-Catenin enhances the anticancer effect of irreversible EGFR-TKI in EGFR-mutated non-small-cell lung cancer with a T790M mutation. *J Thorac Oncol*, 10(1), 93-101 (2015) 査読有り
- 266) \* Kogita A., Yoshioka Y., Sakai K., Togashi Y., Sogabe S., Nakai T., Okuno K., Nishio K.: Inter-and intra-tumor profiling of multi-regional colon cancer and metastasis. *Biochem Biophys Res Commun*, 458(1), 52-6 (2015) 査読有り
- 267) \* Yoshioka Y., Togashi Y., Chikugo T., Kogita A., Taguri M., Terashima M., Mizukami T., Hayashi H., Sakai K., De Velasco MA., Tomida S., Fujita Y., Tokoro T., Ito A., Okuno K., Nishio K.: Clinicopathological and genetic differences between low-grade and high-grade colorectal mucinous adenocarcinomas. *Cancer*, 121(24), 4359-68 (2015) 査読有り
- 268) \* Kobayashi Y., Togashi Y., Yatabe Y., Mizuuchi H., Jangchul P., Kondo C., Shimoji M., Sato K., Suda K., Tomizawa K., Takemoto T., Hida T., Nishio K., Mitsudomi T.: EGFR Exon 18 Mutations in Lung Cancer: Molecular Predictors of Augmented Sensitivity to Afatinib or Neratinib as Compared with First- or Third-Generation TKIs. *Clin Cancer Res*, 21(23), 5305-13 (2015) 査読有り
- 269) \* Iwamoto Y., Mitsudomi T., Sakai K., Yamanaka T., Yoshioka H., Takahama M., Yoshimura M., Yoshino I., Takeda M., Sugawara S., Kawaguchi T., Takahashi T., Ohta M., Ichinose Y., Atagi S., Okada M., Saka H., Nakagawa K., Nakanishi Y., Nishio K.: Randomized Phase II Study of Adjuvant Chemotherapy with Long-term S-1 versus Cisplatin+S-1 in Completely Resected Stage II-III A Non-Small Cell Lung Cancer. *Clin Cancer Res*, 21(23), 5245-52 (2015) 査読有り
- 270) \* Togashi Y., Mizuuchi H., Tomida S., Terashima M., Hayashi H., Nishio K., Mitsudomi T.: MET gene exon 14 deletion created using the CRISPR/Cas9 system enhances cellular growth and sensitivity to a MET inhibitor. *Lung Cancer*, 90(3), 590-7 (2015) 査読有り
- 271) \* Sakai K., Takeda H., Nishijima N., Orito E., Joko K., Uchida Y., Izumi N., Nishio K., Osaki Y.: Targeted DNA and RNA sequencing of fine-needle biopsy FFPE specimens in patients with unresectable hepatocellular carcinoma treated with sorafenib. *Oncotarget*, 6(25), 21636-44 (2015) 査読有り
- 272) \* Togashi Y., Mizuuchi H., Kobayashi Y., Hayashi H., Terashima M., Sakai K., Banno E., Mizukami T., Nakamura Y., De Velasco MA., Fujita Y., Tomida S., Mitsudomi T., Nishio K.: An activating ALK gene mutation in ALK IHC-positive/FISH-negative non-small-cell lung cancer. *Ann Oncol*, 26(8), 1800-1 (2015)



法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

## 査読有り

- 273) \* Mizukami T., Togashi Y., Sogabe S., Banno E., Terashima M., De Velasco MA., Sakai K., Fujita Y., Tomida S., Nakajima TE., Boku N., Nishio K. : EGFR and HER2 signals play a salvage role in MEK1-mutated gastric cancer after MEK inhibition. *Int J Oncol*, 47(2), 499-505 (2015) 査読有り
- 274) \* Suzuki T., Ishibashi K., Yumoto A., Nishio K., Ogasawara Y. : Utilization of arsenic trioxide as a treatment of cisplatin-resistant non-small cell lung cancer PC-9/CDDP and PC-14/CDDP cells. *Oncol Lett*, 10(2), 805-09 (2015) 査読有り
- 275) \* Banno E., Togashi Y., Kobayashi Y., Hayashi H., Mitsudomi T., Nishio K. : Afatinib is especially effective against non-small cell lung cancer carrying an EGFR exon 19 deletion. *Anticancer Res*, 35(4), 2005-8 (2015) 査読有り
- 276) \* Yamaguchi T., Kurita T., Nishio K., Tsukada J., Hachisuga T., Morimoto Y., Iwai Y., Izumi H. : Expression of BAF57 in ovarian cancer cells and drug sensitivity. *Cancer Sci*, 106(4), 359-66 (2015) 査読有り
- 277) \* Togashi Y., Hayashi H., Okamoto K., Fumita S., Terashima M., De Velasco MA., Sakai K., Fujita Y., Tomida S., Nakagawa K., Nishio K. : Chronic nicotine exposure mediates resistance to EGFR-TKI in EGFR-mutated lung cancer via an EGFR signal. *Lung Cancer*, 88(1), 16-23 (2015) 査読有り
- 278) \* Sakai K., Yoneshige A., Ito A., Ueda Y., Kondo S., Nobumasa H., Fujita Y., Togashi Y., Terashima M., De Velasco MA., Tomida S., Nishio K. : Performance of a novel KRAS mutation assay for formalin-fixed paraffin embedded tissues of colorectal cancer. *Springerplus*, 4, 7 (2015) 査読有り
- 279) \* Koike H., Nozawa M., De Velasco MA., Kura Y., Ando N., Fukushima E., Yamamoto Y., Hatanaka Y., Yoshikawa K., Nishio K., Uemura H. : Conditional PTEN-deficient mice as a prostate cancer chemoprevention model. *Asian Pac J Cancer Prev*, 16(5), 1827-31 (2015) 査読有り
- 280) \* Nishio K., Mitsudomi T. : Collateral chemoresistance to anti-microtubule agents in a lung cancer cell line with acquired resistance to erlotinib. *PLoS One*, 10(4), e0123901 (2015) 査読有り
- 281) \* Yamamoto Y., De Velasco MA., Kura Y., Nozawa M., Hatanaka Y., Oki T., Ozeki T., Shimizu N., Minami T., Yoshimura K., Yoshikawa K., Nishio K., Uemura H. : Evaluation of in vivo responses of sorafenib therapy in a preclinical mouse model of PTEN-deficient of prostate cancer. *J Transl Med*, 13, 150 (2015) 査読有り
- 282) \* Sakai K., Tsurutani J., Yamanaka T., Yoneshige A., Ito A., Togashi Y., De Velasco MA., Terashima M., Fujita Y., Tomida S., Tamura T., Nakagawa K., Nishio K. : Extended RAS and BRAF Mutation Analysis Using Next-Generation Sequencing. *PLoS One*, 10(5), e0121891 (2015) 査読有り
- 283) \* Suda K., Murakami I., Sakai K., Mizuuchi H., Shimizu S., Sato K., Tomizawa K., Tomida S., Yatabe Y., Nishio K., Mitsudomi T. : Small cell lung cancer transformation and T790M mutation: complimentary roles in acquired resistance to kinase inhibitors in lung cancer. *Sci Rep*, 5, 14447 (2015) 査読有り
- 284) \* Yonesaka K., Takegawa N., Satoh T., Ueda H., Yoshida T., Takeda M., Shimizu T., Chiba Y., Okamoto I., Nishio K., Tamura T., Nakagawa K. : Combined Analysis of Plasma Amphiregulin and Heregulin Predicts Response to Cetuximab in Metastatic Colorectal Cancer. *PLoS One*, 10(11), e0143132 (2015) 査読有り
- 285) \* Tanaka Y., Aoyagi K., Minashi K., Komatsuzaki R., Komatsu M., Chiwaki F., Tamaoki M., Nishimura T., Takahashi N., Oda I., Tachimori Y., Arai T., Nishio K., Kitano S., Narumi K., Aoki K., Fujii S., Ochiai A., Yoshida T., Muto M., Yamada Y., Sasaki H. : Discovery of a Good Responder Subtype of Esophageal Squamous Cell Carcinoma with Cytotoxic T-Lymphocyte Signatures Activated by Chemoradiotherapy. *PLoS One*, 10(12), e0143804 (2015) 査読有り
- 286) Kano H., Okada K., Morimoto K., Bao W., Fukase K., Ito A., Okita Y. : Prediction of reversibility of intestinal mucosal damage after ischemia-reperfusion injury by plasma intestinal fatty acid-binding protein levels in

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- pigs. *Perfusion*. 30, 617-625 (2015) 査読有り
- 287) Kato T., Mizuguchi N., Ito A.: Blood pressure, renal biochemical parameters and histopathology in an original rat model of essential hypertension (SHRSP/Kpo strain). *Biomed Res.* 36, 169-177 (2015) 査読有り
- 288) Kato T., Mizuguchi N., Ito A.: Characteristics of podocyte injury in malignant hypertensive nephropathy of rats (SHRSP/Kpo strain). *Biomed Res.* 36, 313-321 (2015) 査読有り
- 289) Kato T., Oka K., Nakamura T., Ito A.: Bronchioalveolar morphogenesis of human bronchial epithelial cells depending upon hepatocyte growth factor. *J Cell Mol Med.* 19, 2818-2826. (2015) 査読有り
- 290) Fujita M., Matsui T., Ito A.: Biomedical insights into cell adhesion and migration from a viewpoint of central nervous system tumor immunology. *Front Cell Dev Biol.* 10.3389/fcell.2015.00055. (2015) 査読有り
- 291) \* Takeda M., Sakai K., Terashima M., Kaneda H., Hayashi H., Tanaka K., Takahama T., Yoshida T., Iwasa T., Shimizu T., Nonagase Y., Kudo K., Tomida S., Mitsudomi T., Saigo K., Ito A., Nakagawa K., Nishio K.: Clinical application of amplicon-based next-generation sequencing to therapeutic decision-making in lung cancer. *Ann Oncol.* 26, 2477-2482. (2015) 査読有り
- 292) Yoneshige A., Hagiwara M., Fujita M., Ito A.: Pathogenic actions of cell adhesion molecule 1 in pulmonary emphysema and atopic dermatitis. *Front Cell Dev Biol.* 10.3389/fcell.2015.00075. (2015) 査読有り
- 293) \* De Velasco MA., Tanaka M., Yamamoto Y., Hatanaka Y., Koike H., Nishio K., Yoshikawa K., Uemura H.: Androgen deprivation induces phenotypic plasticity and promotes resistance to molecular targeted therapy in a PTEN-deficient mouse model of prostate cancer. *Carcinogenesis*, 35(9), 2142-53 (2014) 査読有り
- 294) \* Sakai K., Kazama S., Nagai Y., Muroto K., Tanaka T., Ishihara S., Sunami E., Tomida S., Nishio K., Watanabe T.: Chemoradiation provides a physiological selective pressure that increases the expansion of aberrant TP53 tumor variants in residual rectal cancerous regions. *Oncotarget*, 5(20), 9641-9 (2014) 査読有り
- 295) \* Kogita A., Togashi Y., Hayashi H., Sogabe S., Terashima M., De Velasco MA., Sakai K., Fujita Y., Tomida S., Takeyama Y., Okuno K., Nakagawa K., Nishio K.: Hypoxia induces resistance to ALK inhibitors in the H3122 non-small cell lung cancer cell line with an ALK rearrangement via epithelial-mesenchymal transition. *Int J Oncol*, 45(4), 1430-6 (2014) 査読有り
- 296) \* Tanioka M., Sakai K., Sudo T., Sakuma T., Kajimoto K., Hirokaga K., Takao S., Negoro S., Minami H., Nakagawa K., Nishio K.: Transcriptional CCND1 expression as a predictor of poor response to neoadjuvant chemotherapy with trastuzumab in HER2-positive/ER-positive breast cancer. *Breast Cancer Res Treat*, 147(3), 513-25 (2014) 査読有り
- 297) \* Togashi Y., Arai T., Kato H., Matsumoto K., Terashima M., Hayashi H., De Velasco MA., Fujita Y., Kimura H., Yasuda T., Shiozaki H., Nishio K.: Frequent amplification of ORAOV1 gene in esophageal squamous cell cancer promotes an aggressive phenotype via proline metabolism and ROS production. *Oncotarget*, 5(10), 2962-73 (2014) 査読有り
- 298) \* Kimura H., Ohira T., Uchida O., Matsubayashi J., Shimizu S, Nagao T., Ikeda N., Nishio K.: Analytical performance of the cobas EGFR mutation assay for Japanese non-small-cell lung cancer. *Lung Cancer*, 83(3), 329-33 (2014) 査読有り
- 299) Yamaguchi Y., Yamaue H., Okusaka T., Okuno K., Suzuki H., Fujioka T., Otsu A., Ohashi Y., Shimazawa R., Nishio K., Furuse J., Minami H., Tsunoda T., Hayashi Y., Nakamura Y.: Guidance for peptide vaccines for the treatment of cancer. *Cancer Sci*, 105(7), 924-31 (2014) 査読有り
- 300) \* Kawakami H., Okamoto I., Yonesaka K., Okamoto K., Shibata K., Shinkai Y., Sakamoto H., Kitano M.,

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- Tamura T., Nishio K., Nakagawa K.: The anti-HER3 antibody patritumab abrogates cetuximab resistance mediated by heregulin in colorectal cancer cells. *Oncotarget*, 5(23), 11847-56 (2014) 査読有り
- 301) \* Sogabe S., Togashi Y., Kato H., Kogita A., Mizukami T., Sakamoto Y., Banno E., Terashima M., Hayashi H., De Velasco MA., Sakai K., Fujita Y., Tomida S., Yasuda T., Takeyama Y., Okuno K., Nishio K.: MEK inhibitor for gastric cancer with MEK1 gene mutations. *Mol Cancer Ther*, 13(12), 3098-106 (2014) 査読有り
- 302) \* Shiotani A., Murao T., Fujita Y., Fujimura Y., Sakakibara T., Nishio K., Haruma K. Single nucleotide polymorphism markers for low-dose aspirin-associated peptic ulcer and ulcer bleeding. *J Gastroenterol Hepatol*, 29 Suppl 4, 47-52 (2014) 査読有り
- 303) \* Terashima M., Fujita Y., Togashi Y., Sakai K., De Velasco MA., Tomida S., Nishio K.: KIAA1199 interacts with glycogen phosphorylase kinase beta-subunit (PHKB) to promote glycogen breakdown and cancer cell survival. *Oncotarget*, 5(16), 7040-50 (2014) 査読有り
- 304) \* Okamoto I., Sakai K., Morita S., Yoshioka H., Kaneda H., Takeda K., Hirashima T., Kogure Y., Kimura T., Takahashi T., Atagi S., Seto T., Sawa T., Yamamoto M., Satouchi M., Okuno M., Nagase S., Takayama K., Tomii K., Maeda T., Oizumi S., Fujii S., Akashi Y., Nishino K., Ebi N., Nakagawa K., Nakanishi Y., Nishio K.: Multiplex genomic profiling of non-small cell lung cancers from the LETS phase III trial of first-line S-1/carboplatin versus paclitaxel/carboplatin: results of a West Japan Oncology Group study. *Oncotarget*, 5(8), 2293-304 (2014) 査読有り
- 305) \* Fujita Y., Koinuma S., De Velasco MA., Bolz J., Togashi Y., Terashima M., Hayashi H., Matsuo T., Nishio K.: Melanoma transition is frequently accompanied by a loss of cytoglobin expression in melanocytes: a novel expression site of cytoglobin. *PLoS One*, 9(4), e94772 (2014) 査読有り
- 306) \* Togashi Y., Sakamoto H., Hayashi H., Terashima M., De Velasco MA., Fujita Y., Kodera Y., Sakai K., Tomida S., Kitano M., Ito A., Kudo M., Nishio K.: Homozygous deletion of the activin A receptor, type IB gene is associated with an aggressive cancer phenotype in pancreatic cancer. *Mol Cancer*, 13, 126 (2014) 査読有り
- 307) \* Ando K., Takahashi F., Kato M., Kaneko N., Doi T., Ohe Y., Koizumi F., Nishio K., Takahashi K.: Tocilizumab, a proposed therapy for the cachexia of Interleukin6-expressing lung cancer. *PLoS One*, 9(7), e102436 (2014) 査読有り
- 308) \* Koyama N., Saito K., Nishioka Y., Yusa W., Yamamoto N., Yamada Y., Nokihara H., Koizumi F., Nishio K., Tamura T.: Pharmacodynamic change in plasma angiogenic proteins: a dose-escalation phase 1 study of the multi-kinase inhibitor lenvatinib. *BMC Cancer*, 14, 530 (2014) 査読有り
- 309) \* Togashi Y., Hayashi H., Nakagawa K., Nishio K.: Clinical utility of erlotinib for the treatment of non-small-cell lung cancer in Japanese patients: current evidence. *Drug Des Devel Ther*, 8, 1037-46 (2014) 査読有り
- 310) \* Kawakami H., Okamoto I., Okamoto W., Tanizaki J., Nakagawa K., Nishio K.: Targeting MET Amplification as a New Oncogenic Driver. *Cancers (Basel)*, 6(3), 1540-52 (2014) 査読有り
- 311) \* Kim H., Terazono H., Nakamura Y., Sakai K., Hattori A., Odaka M., Girault M., Arai T., Nishio K., Miyagi Y., Yasuda K.: Development of on-chip multi-imaging flow cytometry for identification of imaging biomarkers of clustered circulating tumor cells. *PLoS One*, 9(8), e104372 (2014) 査読有り
- 312) \* Terashima M., Sakai K., Togashi Y., Hayashi H., De Velasco MA., Tsurutani J., Nishio K.: Synergistic antitumor effects of S-1 with eribulin in vitro and in vivo for triple-negative breast cancer cell lines. *Springerplus*, 3, 417 (2014) 査読有り

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 313) Sakurai MA., Ozaki Y., Okuzaki D., Naito Y., Sasakura T., Okamoto A., Tabara H., Inoue T., Hagiyama M., Ito A., Yabuta N., Nojima H.: Gefitinib and luteolin cause growth arrest of human prostate cancer PC-3 cells via inhibition of cyclin G-associated kinase and induction of miR-630. *Plos One.* 9, e100124. (2014) 査読有り
- 314) Inoue T., Hagiyama M., Yoneshige A., Kato T., Enoki E., Maenishi O., Chikugo T., Kimura M., Satou T., Ito A.: Increased ectodomain shedding of cell adhesion molecule 1 from pancreatic islets in type 2 diabetic pancreata: correlation with hemoglobin A1c levels. *Plos One.* 9, e100988. (2014) 査読有り
- 315) Kato T., Mizuno S., Ito A.: A decrease in glomerular endothelial cells and endothelial-mesenchymal transition during glomerulosclerosis in the Tensin2-deficient mice (ICGN strain). *Acta Histochem Cytochem.* 47, 265-271. (2014) 査読有り
- 316) Okuma Y., Liu K., Wake H., Liu R., Nishimura Y., Hui Z., Teshigawara K., Haruma J., Yamamoto Y., Yamamoto H., Date I., Takahashi H.K., Mori S., Nishibori M.: Glycyrrhizin inhibits traumatic brain injury by reducing HMGB1-RAGE interaction. *Neuropharmacology*, 85, 18-25 (2014) 査読有り
- 317) Kobori T., Fujiwara S., Miyagi K., Harada S., Nakamoto K., Nakagawa T., Takahashi H., Narita M., Tokuyama S.: Involvement of Moesin in the Development of Morphine Analgesic Tolerance through P-glycoprotein at the Blood-Brain Barrier. *Drug Metab Pharmacokinet.* 29, 482-489 (2014) 査読有り

## <図書>

### テーマA: 「増殖シグナルを標的とした創薬研究・シーズの開発」(計 3 件)

- 1) 森川敏生: エバーラスティングフラワーの血糖上昇抑制作用. 波多野力, 下田博司 監修, ポリフェノール: 機能性成分研究開発の最新動向, 株式会社シーエムシー出版(東京), 2016, pp. 174—183.
- 2) 森川敏生: コンプリヘンシブ基礎化学 有機・物化・分析・薬剤を学ぶために. 大内秀一 編著, 第2, 11, 12 章分筆, 京都廣川書店(東京), 2016, pp. 5—20, 167—208.
- 3) 森川敏生, 二宮清文: 茶花の生体機能フラボノイドおよびサポニン成分を指標とした品質評価. 川原信夫 監修, 薬用植物・生薬の最前線～国内栽培技術から品質評価, 製品開発まで～. 株式会社シーエムシー出版(東京), 2014, pp. 87—101.

### テーマB: 「癌・増殖シグナル制御メカニズム解析」(計 7 件)

- 4) 岩城正宏: コンパス生物薬剤学(改訂第2版), 伊藤智夫編, 南江堂, 264 ページ, 2016.
- 5) 岩城正宏, 金尾義治ら: New パワーブック生物薬剤学(第3版), 廣川書店, 533 ページ, 2016
- 6) 岩城正宏ら: 医療薬学 VI 薬の生体内運命, 日本薬学会編, 東京化学同人, 195 ページ, 2015
- 7) 岩城正宏, 荻原琢男ら: わかりやすい生物薬剤学(第5版), 廣川書店, 330 ページ, 2014.
- 8) 藤原俊伸: 生化学「みにれびゅう」, 翻訳開始過程を標的とした蛋白質合成のファインチューニング, 公益社団法人日本生化学会, 88(1), pp. 135-138, 2016
- 9) 深尾亜喜良, 藤原俊伸: 臨床免疫・アレルギー科, ヒトにおける microRNA が蛋白質合成を制御する機序の解明, 科学評論社, 64(3), pp. 307-312, 2015
- 10) 深尾亜喜良, 藤原俊伸: 細胞工学「パラダイムシフトする翻訳制御研究」, microRNA 機構と RNA 結合タンパク質による翻訳制御, 学研メディカル秀潤社, 34(8), pp. 767-771, 2015

### テーマC: 臨床評価・臨床腫瘍検体を用いた創薬シーズのPOC研究と個別化医療 (計 35 件)

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 11) 高橋英夫, 西堀正洋 HMGB1 とその受容体型研究の現状と展望 日本臨床 2016 74(4):703-711
- 12) 富樫庸介, 西尾和人 世代別(第 1、2、3)EGFR-TKI の耐性化機構 がん分子標的治療 14(2): 237-43, 2016.
- 13) 坂井和子, 西尾和人 【いま、がんのクリニカルシーケンスがおもしろい!】 cfDNA による遺伝子変異検出の臨床応用へ向けたデジタル PCR 技術 実験医学 34(18): 3074-3080, 2016.
- 14) 西尾和人 【肺癌診断・治療の最前線】 肺癌におけるクリニカルシーケンシング 呼吸器内科 29(3): 185-90, 2016.
- 15) 西尾和人 マルチ診断薬による肺癌最適化医療に向けての取り組み 肺癌 56(1): 48-54, 2016.
- 16) 西尾和人 【婦人科がん治療の新機軸】 次世代シーケンサーを用いたコンパニオン診断、クリニカルシーケンシング 産科と婦人科 83(1): 55-61, 2016.
- 17) 西尾和人, 坂井和子 Liquid biopsy による分子標的薬の治療感受性の予測 血液内科 72(1): 155-60, 2016.
- 18) 西尾和人 リキッド・バイオプシー 腫瘍内科 16(6): 608-12, 2015.
- 19) 水上拓郎, 西尾和人 FGFR 阻害薬のバイオマーカー がん分子標的治療 13(3): 371-76, 2015.
- 20) 西尾和人, 坂井和子, 富樫庸介 【固形がんの分子標的薬-基礎研究から創薬・開発・臨床まで-】 がん分子標的治療の臨床 PI3K/mTOR シグナル系と分子標的治療 日本臨床 73(8): 1315-22, 2015.
- 21) 富樫庸介, 西尾和人 【固形がんの分子標的薬-基礎研究から創薬・開発・臨床まで-】 がん分子標的治療の臨床 キナーゼ阻害剤とその耐性化機構 日本臨床 73(8): 1323-29, 2015.
- 22) 西尾和人 【消化器癌の分子標的治療】 消化器がんのバイオマーカー 細胞 47(9): 442-45, 2015.
- 23) 富田秀太, 坂井和子, 西尾和人 バイオマーカー探索における bioinformatics の役割 がん分子標的治療 13(1): 113-18, 2015.
- 24) 西尾和人 用語解説 circulating DNA Cancer Board of the Breast 1(1): 67, 2015.
- 25) 富田秀太, 坂井和子, 西尾和人 ゲノム解析に基づく新しい分子標的治療】 次世代型コンパニオン診断薬の創出を目指したゲノム解析 がん分子標的治療 12(4): 382-87, 2015.
- 26) 富樫庸介, 西尾和人 診断の進歩 シーケンス技術の発展と肺癌の driver oncogene Annual Review 呼吸器 2015: 133-40, 2015.
- 27) 高橋 英夫, Annual Review 呼吸器 2014, 66-71, 中外医学社
- 28) 西尾和人 【個別化医療の新たな展開】 肺がんにおけるマルチプレックス診断薬開発 細胞 46(14): 683-86, 2014.
- 29) 富樫庸介, 西尾和人 【新技術の呼吸器への応用を考える】 ゲノム解析技術と呼吸器 THE LUNG-perspectives 22(4): 401-07, 2014.
- 30) 西尾和人 【肺癌の分子標的治療 個別化薬物治療の新たな展開】 個別化薬物治療のための遺伝子診断を徹底理解! マルチプレックス遺伝子診断による肺癌薬物治療の新展開 薬局 65(12): 2895-99, 2014.
- 31) 西尾和人, 坂井和子, 富樫庸介 【コンパニオン診断の進展 2014-2015-個別化医療を進めるために-】 個別化医療の実現に向けて 分子標的治療の実用化とコンパニオン診断 臨床病理レビュー(153): 23-27, 2014.
- 32) 西尾和人, 坂井和子 【次世代シーケンス(NGS)を含むゲノム解析技術の導入による新しい個別化治療の展開】 肺がんにおけるマルチプレックス診断薬開発 腫瘍内科 14(4): 343-47, 2014.
- 33) 西尾和人, 坂井和子 【個別化医療を拓く がんゲノム研究-解き明かされるがんの本質と分子診断・治療応用への展開】 (第 2 章)がん分子標的・個別化治療の最前線 個別化医療の実現に向けた臨床研究基盤 がんの個性に応じた診断を可能にするクリニカルシーケンシング 実験医学 32(12): 1993-96, 2014.
- 34) 富樫庸介, 西尾和人 次世代シーケンサーによるがんゲノム解析 呼吸器内科 26(2): 141-46, 2014.
- 35) 西尾和人 検査 UPDATE リキッド・バイオプシー 血中遊離 DNA を中心に SRL 宝函 35(2): 4-11, 2014.
- 36) 朴成和, 清水俊雄, 西尾和人, 設楽紘平 胃がんに対する分子標的薬開発の成否からの教訓 がん分子標的治療 12(2): 166-74, 2014.
- 37) 洪泰浩, 西尾和人, 中川和彦 新規モータープロテイン阻害剤のドセタキセル耐性非小細胞肺癌細胞株における増殖抑制効果の検討 近畿大学医学雑誌 39(1-2): 27-37, 2014.
- 38) 富樫庸介, 西尾和人 免疫チェックポイント阻害療法のバイオマーカー がん分子標的治療 12(1): 76-79, 2014.
- 39) 小寺康夫, 西尾和人 【肝胆膵腫瘍のバイオインフォマティクス】 診断・治療におけるバイオマーカーと治療標的分子 難治性腫瘍の早期診断マーカー 肝腫瘍の分子標的治療とバイオマーカー 肝・胆・膵 68(3): 415-19, 2014.
- 40) 塩谷昭子, 村尾高久, 藤田穰, 藤村宜憲, 榊原敬, 藤田至彦, 西尾和人, 春間賢 【消化器疾患の病態生理】 低用量アスピリン内服患者における小腸出血と遺伝子多型の検討 Progress in Medicine 34(3): 416-19, 2014.

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 41) 富田秀太, 西尾和人, Huiying L【常在細菌叢が操るヒトの健康と疾患】(第2章)健康を制御する常在細菌叢の新たなバイオロジー 皮膚細菌叢のバイオロジー 実験医学 32(5): 739-43, 2014.
- 42) 谷岡真樹, 坂井和子, 須藤保, 佐久間淑子, 根来俊一, 広利浩一, 高尾信太郎, 南博信, 中川和彦, 西尾和人 エストロゲン受容体関連遺伝子発現に基づいて HER2 陽性乳癌に対して化学療法個別化治療を目指す基盤構築 大和証券ヘルス財団研究業績集(37): 119-26, 2014.
- 43) 富樫庸介, 西尾和人【最新がん薬物療法学-がん薬物療法の最新知見-】個別化治療のためのバイオマーカー 日本臨床 72(増刊2 最新がん薬物療法学): 697-700, 2014.
- 44) 坂井和子, 西尾和人 診断の進歩 次世代シーケンスと肺癌治療 Annual Review呼吸器 2014: 134-37, 2014.
- 45) 坂井和子, 西尾和人 診断の進歩 次世代シーケンスと肺癌治療 Annual Review呼吸器 2014: 134-37, 2014.

### <学会発表>

#### テーマA: 「増殖シグナルを標的とした革新的がん治療法探索・開発」(313件)

- 1) \*難波佑輔、中村真也、木下誉富、仲西功: バーチャルスクリーニング法により得られた化合物の結合様式の妥当性の評価. 日本薬学会第 137 年会(仙台)2017.3.
- 2) \*西脇敬二、出口貴浩、大東可苗、畑悠佑、中村真也、村田和也、松田秀秋、仲西功: Hydroxychavicol をシードとした XO 阻害化合物の探索研究. 日本薬学会第 137 年会(仙台)2017.3.
- 3) \*二宮清文、宮澤聖也、尾関快天、松尾菜都子、村岡 修、菊池 崇、山田剛司、田中麗子、森川敏生: ブラジル生薬 *Carapa guianensis* 含有リモノイド成分の肝保護作用. 日本薬学会第 137 年会(仙台)2017.3.
- 4) \*二宮清文、甕 千明、西田文香、奥川修平、北川仁一郎、吉川雅之、村岡 修、森川敏生: Chakasaponin 類のヒト消化管由来がん細胞に対する細胞増殖抑制活性の構造活性相関. 日本薬学会第 137 年会(仙台)2017.3.
- 5) \*長友暁史、西田典永、田中(東)幸雅、吉川雅之、村岡 修、二宮清文、森川敏生: ローズヒップエキス含有成分の肝細胞内中性脂肪代謝促進作用. 日本薬学会第 137 年会(仙台)2017.3.
- 6) \*田邊元三、森川敏生、福田梨沙、福田友紀、萬瀬貴昭、二宮清文、松本朋子、眞野みのり、松田久司、村岡 修: タイ天然薬物 *Melodorum fruticosum* 由来 NO 産生抑制活性 Butenolide 類の合成およびその活性評価. 日本薬学会第 137 年会(仙台)2017.3.
- 7) \*平 徳久、勝山雄志、吉岡正人、村岡 修、森川敏生: アルキルグリセリルアスコルビン酸誘導体の分子構造とメラニン産生抑制作用. 日本薬学会第 137 年会(仙台)2017.3.
- 8) \*二宮清文、加藤和寛、萬瀬貴昭、今川貴仁、松本 拓、岡崎 茜、岡田枝里子、要 欣志、中村 翔、森川敏生: 延命草 (*Isodon trichocarpus*, 地上部) 含有ジテルペノイド成分のメラニン産生抑制活性. 日本農芸化学会 2017 年度大会(京都)2017.3.
- 9) \*萬瀬貴昭、安藤恵里、田邊元三、福田梨沙、福田友紀、筒井 望、三宅史織、中屋友紀子、山添晶子、松本朋子、松田久司、二宮清文、村岡 修、森川敏生: タイ天然薬物 *Melodorum fruticosum* 由来成分の NO 産生抑制活性および全合成. 日本農芸化学会 2017 年度大会(京都)2017.3.
- 10) \*奥川修平、北川仁一郎、甕 千明、田邊元三、亀井惟頼、二宮清文、吉川雅之、村岡 修、森川敏生: 蓮花 (*Nelumbo nucifera*, 花部) 含有メラニン産生抑制アルカロイド成分を指標とした品質評価. 日本農芸化学会 2017 年度大会(京都)2017.3.
- 11) \*二宮清文、柴谷華苗、田邊元三、筒井 望、Chaipech Saowanee, Pongpiriyadacha Yutana, 村岡 修、森川敏生: タイ天然薬物 *Mammea siamensis* 花部のアロマトマーゼ阻害活性. 日本農芸化学会 2017 年度大会(京都)2017.3.

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 12) 中村 光、柳綾沙美、森下かな、前川智弘:トリメチルシリルアジドを用いた転位による1,5-二置換テトラゾールの合成. 日本薬学会第137年会(仙台) 2017.3.
- 13) 中村 光、今宮彰良、坂井田楓、三木康義、前川智弘:超原子価ヨウ素試薬による転位を利用した3-アシルベンゾフランの合成. 日本薬学会第137年会(仙台) 2017.3.
- 14) 山本佐知雄、植田麻希、葛西優貴、木下充弘、鈴木茂生:酵素固定化アクリルアミドゲルチップを用いる糖タンパク質糖鎖調製法の開発. 日本薬学会第137年会(宮城)2017.3.
- 15) Satoh R., Kita A., Hagihara K., Sugiura R.: RNA granules: Signaling hubs and therapeutic targets for cancer therapy. 第 39 回日本分子生物学会年会(横浜)2016.11. (シンポジウム)
- 16) 佐藤亮介、別府梨沙、喜多綾子、石原慶一、杉浦麗子:ダウン症関連遺伝子 RCAN1 は酸化ストレス応答シグナル伝達経路を制御する. 第 39 回日本分子生物学会年会(横浜)2016.11. (シンポジウム)
- 17) 永井敢、小林彩保、佐藤亮介、杉浦麗子、伊藤隆、三島正規:溶液 NMR 法を用いた長距離情報の取得による RNA 結合性タンパク質 Nrd1 のドメイン間配向の決定. 第 39 回日本分子生物学会年会(横浜) 2016.11.
- 18) 萩原加奈子、石田紘基、木下佳那子、喜多綾子、佐藤亮介、近重裕次、益子高、松野純男、千葉健治、杉浦麗子:S1P 受容体調節剤 FTY720 を介する遺伝子発現プロファイリングの網羅的解析と鉄代謝機構の関わり. 第 39 回日本分子生物学会年会(横浜)2016.11.
- 19) \* Sugiura R.: Applying Kinase-Phosphatase Interplay in Ca<sup>2+</sup> Signaling for Cancer Therapeutics: A pas de deux. the 12th International Conference on Protein Phosphatase & International Symposium on Innovative Research for Genome-Based Drug Discovery and Cancer Therapeutics (Osaka)2016.10. (シンポジウム)
- 20) Kanda Y., Satoh R., Matsumoto S., Ikeda C., Inutsuka N., Hagihara K., Tsujimoto S., Kita A., Sugiura R.: Skb5, an SH3 adaptor protein, regulates PKC/MAPK signaling via spatial regulation of MAPKKK. the 12th International Conference on Protein Phosphatase & International Symposium on Innovative Research for Genome-Based Drug Discovery and Cancer Therapeutics (Osaka)2016.10.
- 21) \* Satoh R., Matsuura K., Hagihara K., Tsuchimoto N., Hyodo Y., Kita A., Muraoka O., Tanabe G., Sugiura R.: Anticancer-drug screening utilizing fission yeast genetics identified Acromannolipin A, a Calcium signalling modulator with anti-tumor activity. the 12th International Conference on Protein Phosphatase & International Symposium on Innovative Research for Genome-Based Drug Discovery and Cancer Therapeutics(Osaka)2016.10.
- 22) Kawase A., Nimura N., Yamashita M., Ono Y., Kubouchi K., Sawada N., Shimada H., Satoh R., Kita A., Mukai H., Iwaki M., Sugiura R.: Preoin kinase N (PKN) family-dependent regulation of hepatic cytochrome P450 2C and metabolic profile analysis in PKN mutant mice through targeted metabolomics by LC-MS/MS. the 12th International Conference on Protein Phosphatase & International Symposium on Innovative Research for Genome-Based Drug Discovery and Cancer Therapeutics(Osaka)2016.10.
- 23) \* Ikehata T., Satoh R., Kita A., Sugiura R.: Mutation and Inhibition of Hsp90 affects stress granule assembly and MAPK signaling. ~Implications of anti-cancer mechanisms of Geldanamycin~ the 12th International Conference on Protein Phosphatase & International Symposium on Innovative Research for Genome-Based Drug Discovery and Cancer Therapeutics(Osaka)2016.10.
- 24) Ikeda C., Kanda Y., Satoh R., Matsumoto S., Inutsuka N., Hagihara K., Tsujimoto S., Kita A., Sugiura R.: Skb5, an SH3 domain adaptor protein, plays a regulatory role in the PKC/MAPK signaling pathway by controlling the intracellular localization of the MAPKKK Mkh1. the 12th International Conference on Protein Phosphatase & International Symposium on Innovative Research for Genome-Based Drug Discovery and Cancer Therapeutics(Osaka)2016.10. 「革新がんゲノム」優秀ポスター発表賞受賞

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 25) \* Hagihara K., Ishida K., Kinoshita K., Satoh R., Kita A., Sugiura R.: Global gene expression profiling reveals unexpected spectrum of effects of a novel immune modulator FTY720. ~Possible involvement of iron homeostasis as an antitumor property of FTY720~ the 12th International Conference on Protein Phosphatase & International Symposium on Innovative Research for Genome-Based Drug Discovery and Cancer Therapeutics(Osaka)2016.10.
- 26) \* Matsuura K., Satoh R., Hagihara K., Tsuchimoto N., Hyodo Y., Kita A., Tanabe., Muraoka O., Sugiura R.: Anti-cancer drug discovery using fission yeast genetics identified a novel analog of 1'-Acetoxychavicol Acetate (ACA) with a potent anti-tumor activity against human melanoma cells. the 12th International Conference on Protein Phosphatase & International Symposium on Innovative Research for Genome-Based Drug Discovery and Cancer Therapeutics(Osaka)2016.10.
- 27) Inari M., Satoh R., Kimura Y., Hagihara K., Kitai Y., Ishida K., Hiroi H., Kita A., Wolf D., Sugiura R.: Functional Analysis of the Puf family RNA-binding protein Pumilio in stress responses and the inositol phospholipid signaling pathway. the 12th International Conference on Protein Phosphatase & International Symposium on Innovative Research for Genome-Based Drug Discovery and Cancer Therapeutics(Osaka)2016.10.「革新がんゲノム」優秀ポスター発表賞受賞
- 28) Ogata F., Satoh R., Kita A., Sugiura R., Kawasaki N.: Evaluation of the measurement method of intracellular calcium ion concentration in fission yeast. the 12th International Conference on Protein Phosphatase & International Symposium on Innovative Research for Genome-Based Drug Discovery and Cancer Therapeutics(Osaka)2016.10.
- 29) \* Kita A., Minamibayashi A., Yamazaki M., Hagihara K., Satoh R., Sugiura R.: A Genome-wide Sreen Reveals Genes Involved in Calcium Signaling and Glycosylation for Tolerance to SKB (Sugiura Kagoubutsu B), a Novel Glycolipid with Potent Anti-tumor Activity. the 12th International Conference on Protein Phosphatase & International Symposium on Innovative Research for Genome-Based Drug Discovery and Cancer Therapeutics(Osaka)2016.10.
- 30) 佐藤亮介, 萩原加奈子, 稲荷正大, 池畑拓実, 喜多綾子, 杉浦麗子: RNA 結合蛋白質 Rnc1 の局在解析から見えてきた MAPK シグナルの制御機構. 酵母遺伝学フォーラム第 49 回研究報告会(神戸)2016.9.
- 31) 萩原加奈子, 石田紘基, 木下佳那子, 喜多綾子, 佐藤亮介, 近重裕次, 益子高, 松野純男, 千葉健治, 杉浦麗子: S1P 受容体調節剤 FTY720 を介するシグナル伝達機構の解明. 酵母遺伝学フォーラム第 49 回研究報告会(神戸)2016.9.
- 32) 池畑拓実, 岡山杏奈, 佐藤亮介, 萩原加奈子, 喜多綾子, 杉浦麗子: 分裂酵母を用いた Calcineurin と Calcipressin の局在制御機構の解析. 酵母遺伝学フォーラム第 49 回研究報告会(神戸)2016.9.
- 33) 池田智里, 神田勇輝, 佐藤亮介, 松本紗希, 犬塚夏実, 萩原加奈子, 松野純男, 喜多綾子, 杉浦麗子: SH3 アダプター-Skb5 は MAPKKK の細胞内局在を制御することで Pmk1 MAPK シグナルを抑制する. 酵母遺伝学フォーラム第 49 回研究報告会(神戸)2016.9.
- 34) 稲荷正大, 佐藤亮介, 萩原加奈子, 廣井遥, 北井佑樹, 石田紘基, Dieter Wolf, 喜多綾子, 杉浦麗子: RNA 結合タンパク質 Pumilio と PI4,5P2 シグナルの遺伝学的関わり. 酵母遺伝学フォーラム第 49 回研究報告会(神戸)2016.9.
- 35) Satoh R., Kita A., Sugiura R.: Spatial Regulation of RNA-binding Proteins via Stress Granule Formation by Signaling Pathways. The RNA Society of Japan 18th Annual Meeting & the 21th Annual Meeting of the RNA Society (RNA 2016 Kyoto) (Kyoto)2016.6.
- 36) Sugiura R.: RNA granules: Signaling hubs and therapeutic targets for cancer therapy. The RNA Society of Japan 18th Annual Meeting & the 21th Annual Meeting of the RNA Society (RNA 2016 Kyoto)



法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- (Kyoto)2016.6.
- 37) 杉浦麗子、喜多綾子、萩原加奈子、池畑拓実、稲荷正大、佐藤亮介:シグナル伝達拠点としての RNA granule の機能解析と創薬への応用. 第1回 RNA 顆粒/RNA タンパク質複合体研究会(岡崎)2016.7.
  - 38) 池畑拓実、岡山杏奈、佐藤亮介、萩原加奈子、喜多綾子、杉浦麗子: Calcineurin 抑制因子 Calcipressin の stress granule 移行に関わる領域と Calcineurin シグナルに与える役割の解析. 第1回 RNA 顆粒/RNA タンパク質複合体研究会(岡崎)2016.7.
  - 39) 稲荷正大、佐藤亮介、萩原加奈子、廣井遥、北井佑樹、石田紘基、Dieter Wolf、喜多綾子、杉浦麗子: RNA 結合タンパク質 Pumilio とイノシトールリン脂質経路のストレス応答における役割の解析. 第1回 RNA 顆粒/RNA タンパク質複合体研究会(岡崎)2016.7.
  - 40) 喜多綾子、神田勇輝、松本紗希、犬塚夏実、池田智里、佐藤亮介、土井章、杉浦麗子: RNA granule の構成因子を介した PKC シグナル制御メカニズムの解析. 第1回 RNA 顆粒/RNA タンパク質複合体研究会(岡崎)2016.7.
  - 41) 佐藤亮介、萩原加奈子、池畑拓実、稲荷正大、喜多綾子、杉浦麗子: RNA 結合蛋白質のリン酸化は Stress granule の形成を調節する. 第1回 RNA 顆粒/RNA タンパク質複合体研究会(岡崎)2016.7.
  - 42) Nakamura S., Sakurai A., Kinoshita T., Nakanishi I.: Different binding modes of apigenin in homologous proteins, human CK2 $\alpha$  and maize CK2 $\alpha$ . 21st EuroQSAR (Verona, Italy)2016.9.
  - 43) Nakanishi I., Namba Y., Nakamura S., Kinoshita T.: Evaluation of predicted binding structures of virtual screening hit compounds. 21st EuroQSAR (Verona, Italy)2016.9.
  - 44) Tsuyuguchi M., Nakaniwa T., Nakanishi I., Kinoshita T.: Crystal structure of CK2 $\alpha$ 2 in the new crystal form. 8th International Conference on Protein Kinase CK2(Homburg, Germany)2016.9.
  - 45) 中村真也、木村翔拓、北吉 駿、仲西 功: Solvent Dipole Ordering の創薬への応用研究. 第10回分子科学討論会(神戸)2016.9.
  - 46) 露口正人、平澤 明、仲庭哲津子、櫻井淳史、仲西 功、木下誉富: His160 のコンホメーション変化と hematein による ATP 非拮抗型 CK2 $\alpha$ 1 阻害の関係. 第16回日本蛋白質科学会年会(福岡)2016.6.
  - 47) 露口正人、平澤 明、櫻井淳史、仲西 功、木下誉富: 高選択性阻害剤の創出を目指した CK2 $\alpha$ 1 および CK2 $\alpha$ 2 の構造解析. 第5回バイオメディカルフォーラム(大阪)2016.2.
  - 48) ○Kawasaki N., Ogata F.: Decreasing carbon dioxide emission by conversion of biomass to water treatments adsorbents, International Conference on Chemistry and Environmental Science Research 2016 (Penang, Malaysia) 2016. 11.
  - 49) ○Kawasaki N., Ogata F.: Idea build and figure of university student in Japan and Thailand. 6th Asia-Pacific Conference on Public Health/1st ASEAN Health Promotion Conference (Bangkok, Thailand) 2016. 8.
  - 50) \* Ueda S., Imai K., Imaida T., Ohta A., Masuko T.: GFP 融合 ADORA2A 発現細胞とエクソソームの解析と免疫. Analysis and immunization of cells and exosomes expressing GFP-fused ADORA2A. 第75回日本癌学会学術集会(横浜)2016.10.
  - 51) \* Imaida T., Ueda S., Okita K., Ogura D., Masuko T.: 癌多様性の克服に向けた癌関連細胞表面分子の網羅的解析. Comprehensive analysis of surface expression of cancer-associated molecules towards overcoming cancer heterogeneity. 第75回日本癌学会学術集会(横浜)2016.10.
  - 52) \* Imai K., Imaida T., Ueda S., Masuko T.: 癌細胞及び GFP 融合標的分子発現トランスフェクタント由来エクソソームのフローサイトメトリー解析. Flow cytometric analysis of exosomes secreted from cancers and transfectants expressing target molecules fused to GFP. 第75回日本癌学会学術集会(横浜)2016.10.
  - 53) \* Okita K., Higaki M., Matsukura K., Ueda S., Masuko T.: 抗 HER1 抗体医薬品による抗 HER3 抗体の結

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 合親和性と抗癌効果の増強. Enhanced binding affinity and anti-tumor activity of anti-HER3 mAb in combination with anti-HER1 therapeutic antibodies. 第 75 回日本癌学会学術集会(横浜)2016.10.
- 54) \* Higaki M., Okita K., Imaida T., Ueda S., Masuko T.: 抗 HER2 抗体医薬品による抗 HER3 抗体の結合親和性と抗癌効果の増強. Enhanced binding affinity and anti-tumor activity of anti-HER3 mAb in combination with anti-HER2 therapeutic antibodies. 第 75 回日本癌学会学術集会(横浜)2016.10.
- 55) \* Torii R., Shintani S., Ueda S., Ohno Y., Masuko T.: 抗 LYVE-1 抗体による原発腫瘍増殖の阻害. Inhibition of primary tumor growth by anti-LYVE-1 monoclonal antibody. 第 75 回日本癌学会学術集会(横浜)2016.10.
- 56) \* Terashima K., Imaida T., Ueda S., Yagita H., Masuko T.: 複数標的分子に対する抗体と免疫チェックポイント分子阻害による治療効果の増強. Augmented anti-cancer therapeutic effect using antibodies to multiple target molecules with immune checkpoint blockade. 第 75 回日本癌学会学術集会(横浜)2016.10.
- 57) \* Shintani S., Terashima K., Ueda S., Yagi H., Masuko T.: システントランスポーターxCT の阻害はヒト肺癌の骨転移を抑制する. Inhibition of xCT cystine transporter suppress bone metastasis of human lung cancer. 第 75 回日本癌学会学術集会(横浜)2016.10.
- 58) \*長友暁史、西田典永、田中(東)幸雅、吉川雅之、村岡 修、二宮清文、森川敏生: ローズヒップエキスおよびtrans-tilirosideの脂質代謝促進作用. 第1回抗加齢学術フォーラム 産学協創で目指すアンチエイジングライフ(京都)2016.12.
- 59) \*二宮清文、萬瀬貴昭、二宮 与、森 祐樹、酒井千恵、村岡 修、森川敏生: フェニルプロパノイドの肝臓中脂肪低減を介した耐糖能改善作用. 第 34 回メディシナルケミストリーシンポジウム(つくば)2016.11.
- 60) \*森川敏生、二宮清文、柴谷華苗、田邊元三、筒井 望、Chaipech Saowanee, Pongpiriyadacha Yutana, 村岡 修: タイ天然薬物 Mamea siamensis 由来クマリン成分のアロマトーゼ阻害活性. 第 60 回香料・テルペンおよび精油化学に関する討論会(北海道)2016.10.
- 61) \*森川敏生、二宮清文、二宮 与、丸本真輔、酒井千恵、村岡 修、菊池 崇、山田剛司、田中麗子: ブラジル生薬アンディローバ由来リモノイド成分の脂肪肝低減作用. 第 60 回香料・テルペンおよび精油化学に関する討論会(北海道)2016.10.
- 62) \*Manse Y., Ninomiya K., Okazaki A., Okada E., Imagawa T., Kaname K., Nakamura S., Morikawa T.: Diterpenoids from the Aerial Part of Isodon trichocapus with Melanogenesis Inhibitory Activity. The 12th International Conference on Protein Phosphatase (ICPP12)(Osaka, Japan) 2016.10.
- 63) \*Ninomiya K., Ninomiya K., Sakai C., Muraoka O., Kikuchi T., Yamada T., Tanaka R., Morikawa T.: Limonoids from Brazilian folk medicine, Andiroba, with fat metabolizing activity in hepatocytes. The 12th International Conference on Protein Phosphatase (ICPP12)(Osaka, Japan) 2016.10.
- 64) \*Konno T., Ninomiya K., Yoshikawa M., Matsuda H., Morikawa T.: Hepatoprotective triterpene saponin constituents from roots of Bupleurum falcatum. The 12th International Conference on Protein Phosphatase (ICPP12)(Osaka, Japan) 2016.10.
- 65) \*萬瀬貴昭、田邊元三、福田梨沙、福田友紀、筒井 望、三宅史織、中屋友紀子、山添晶子、松本朋子、松田久司、二宮清文、村岡 修、森川敏生: タイ天然薬物 Melodorum fruticosum 由来 butenolide 類の全合成および NO 産生抑制活性評価. 第 21 回天然薬物の開発と応用シンポジウム(千葉)2016.10.
- 66) \*二宮清文、河端千尋、今野拓哉、南野 享、菅原 碧、森川敏生: 釣藤鈎の機能性成分-神経突起伸長作用成分およびその作用機序-. 第 21 回天然薬物の開発と応用シンポジウム(千葉)2016.10.
- 67) \*二宮清文、長友暁史、西田典永、田中(東)幸雅、吉川雅之、村岡 修、森川敏生: ローズヒップエキスおよびtrans-Tilirosideの脂質代謝促進作用. 第 21 回天然薬物の開発と応用シンポジウム(千葉)2016.10.
- 68) \*二宮清文、甕 千明、西田文香、奥川修平、北川仁一朗、吉川雅之、村岡 修、森川敏生: 茶花由来サ

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- ポニンのヒト消化管由来がん細胞増殖抑制活性—chakasaponinの作用機序—. 日本生薬学会第 63 回年会(富山)2016.9.
- 69) \*二宮清文、甕 千明、西田文香、奥川修平、北川仁一郎、吉川雅之、村岡 修、森川敏生:茶花由来サポニンのヒト消化管由来がん細胞増殖抑制活性 —chakasaponin II およびその誘導体の構造活性相関—. 日本生薬学会第 63 回年会(富山)2016.9.
- 70) \*二宮清文、柴谷華苗、田邊元三、筒井 望、末吉真弓、佐伯竣介、杉田秀美、Chaipech Saowanee, Pongpiriyadacha Yutana, 早川堯夫、村岡 修、森川敏生:タイ天然薬物 *Mammea siamensis* 花部の機能性成分 (7)—含有クマリン成分のアロマトーゼ阻害活性—. 日本生薬学会第 63 回年会(富山)2016.9.
- 71) \*二宮清文、杉田秀美、村木謙一、佐伯竣介、末吉真弓、Chaipech Saowanee, Pongpiriyadacha Yutana, 早川堯夫、村岡 修、森川敏生:タイ天然薬物 *Mammea siamensis* 花部の機能性成分 (6)—含有成分のがん細胞増殖抑制活性—. 日本生薬学会第 63 回年会(富山)2016.9.
- 72) \*二宮清文、萬瀬貴昭、今川貴仁、松本 拓、岡崎 茜、岡田枝里子、要 欣志、中村 翔、森川敏生:延命草 (*Isodon trichocarpus*, 地上部) のメラニン産生抑制活性成分. 日本生薬学会第 63 回年会(富山)2016.9.
- 73) \*二宮清文、北沢可哉子、村岡 修、菊地 崇、山田剛司、田中麗子、森川敏生:アンデローバ含有成分のコラーゲン分泌促進作用. 日本生薬学会第 63 回年会(富山)2016.9.
- 74) \*二宮清文、今野拓哉、矢田佳凜、森川敏生:サイコ (*Bupleurum falcatum* L.) の肝細胞内中性脂肪代謝作用. 日本生薬学会第 63 回年会(富山)2016.9.
- 75) \*森川敏生、松尾一彦、奥川修平、北川仁一郎、二宮清文、中西勇介、村岡 修、中山隆志:ケモカイン受容体を標的とした天然由来シーズの探索研究 (2):ロウバイカ (*Chimonanthus praecox* 花蕾部) の CCR6 および CCR7 アンタゴニスト活性成分. 日本生薬学会第 63 回年会(富山)2016.9.
- 76) \*二宮清文、二宮 与、酒井千恵、塩谷美幸、森川敏生:センキュウの肝臓中脂肪低減を介した耐糖能改善作用. 第 37 回日本肥満学会(熊本)2016.10.
- 77) \*森川敏生、二宮清文、二宮 与、丸本真輔、酒井千恵、宮澤聖也、尾関快天、松尾菜都子、村岡 修、菊地 崇、山田剛司、田中麗子:アンディローバ(*Carapa guianensis*)含有リモノイド成分の脂肪性肝炎抑制作用. 第 58 回天然有機化合物討論会(仙台)2016.9.
- 78) \*田邊元三、藺田直樹、福田梨沙、福田友紀、萬瀬貴昭、筒井 望、二宮清文、森川敏生、村岡 修:タイ天然薬物 *Melodorum fruticosum* 由来NO産生抑制活性を有する Butenolide 類の全合成. 第 58 回天然有機化合物討論会(仙台)2016.9.
- 79) Kobayashi M., Akaki J., Morikawa T., Ninomiya K., Yamaguchi Y., Yamasaki H., Yoshikawa M., Muraoka O.:Suppressive effects of tablet containing *Salacia chinensis* extract on postprandial blood glucose and insulin levels in human volunteers. International Symposium on Natural Products for the Future 2016 (ISNPF2016) (Tokushima, Japan) 2016.9.
- 80) \* Motai C., Kitagawa N., Ninomiya K., Nishida A., Okugawa S., Yoshikawa M., Muraoka O., Morikawa T.: Anti-proliferative effects of chakasaponin II and related compounds from *Camellia sinensis* on human digestive tract carcinoma cell lines. International Symposium on Natural Products for the Future 2016 (ISNPF2016) (Tokushima, Japan) 2016.9.
- 81) \*Ninomiya K., Nagatomo A., Nishida N., Tanaka-Azuma Y., Suyama T., Yoshikawa M., Muraoka O., Morikawa T.: Lipid metabolizing effect of *trans*-tiliroside, a principal constituent in rosehip. International Symposium on Natural Products for the Future 2016 (ISNPF2016) (Tokushima, Japan) 2016.9.
- 82) \* Ninomiya K., Konno T., Yada K., Morikawa T.: Triterpene saponins from roots of *Bupleurum falcatum* with triglyceride metabolism-promoting activity in high glucose-pretreated HepG2 cells. International

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- Symposium on Natural Products for the Future 2016 (ISNPF2016) (Tokushima, Japan) 2016.9.
- 83) \* Ninomiya K., Imagawa T., Hachiman I., Motai C., Nishida E., Hayakawa T., Muraoka O., Morikawa T. : Inhibitory effects of constituents from aril of *Myristica fragrans* (Mace) on theophylline-stimulated melanogenesis in B16 4A5 cells. International Symposium on Natural Products for the Future 2016 (ISNPF2016) (Tokushima, Japan) 2016.9.
- 84) \* Ninomiya K., Muraki K., Sueyoshi M., Saeki S., Motai C., Chaiepech S., Pongpiriyadacha Y., Hayakawa T., Muraoka O., Morikawa T. : Growth inhibitory effects of coumarins from the flowers of *Mammea siamensis* on human digestive tract carcinoma cell lines. International Symposium on Natural Products for the Future 2016 (ISNPF2016) (Tokushima, Japan) 2016.9.
- 85) \* Ninomiya K., Shibatani K., Sueyoshi M., Saeki S., Chaiepech S., Pongpiriyadacha Y., Hayakawa T., Muraoka O., Morikawa T. : Coumarin constituents from the flowers of *Mammea siamensis* with aromatase inhibitory activity. International Symposium on Natural Products for the Future 2016 (ISNPF2016) (Tokushima, Japan) 2016.9.
- 86) \* Ninomiya K., Ninomiya K., Sakai C., Muraoka O., Kikuchi T., Yamada T., Tanaka R., Morikawa T. : Limonoids from flower and seed oil of *Carapa guianensis* with fat metabolizing activity in hepatocytes. International Symposium on Natural Products for the Future 2016 (ISNPF2016) (Tokushima, Japan) 2016.9.
- 87) \* Morikawa T., Okugawa S., Kitagawa N., Ninomiya K., Motai C., Kamei I., Yoshikawa M., Tanabe G., I-Jung Lee, Muraoka O. Quantitative determination of alkaloids in lotus flower (the flower buds of *Nelumbo nucifera*) and their melanogenesis inhibitory activity. International Symposium on Natural Products for the Future 2016 (ISNPF2016) (Tokushima, Japan) 2016.9.
- 88) \* Manse Y., Ninomiya K., Okazaki A., Okada E., Imagawa T., Kaname K., Nakamura S., Morikawa T. : Diterpenoids with melanogenesis inhibitory activity in the aerial part of *Isodon trichocapus*. International Symposium on Natural Products for the Future 2016 (ISNPF2016) (Tokushima, Japan) 2016.9.
- 89) \* 今野拓哉、二宮清文、矢田佳凜、森川敏生 : 柴胡含有サポニン成分の肝細胞内中性脂肪低減活性成分. 第 33 回和漢医薬学会大会(東京)2016.8.
- 90) \* 二宮 与、二宮清文、酒井千恵、塩谷美幸、森川敏生 : 川芎 (*Cnidium officinale*, 根茎) の耐糖能改善作用物質. 第 33 回和漢医薬学会大会(東京)2016.8.
- 91) \* 二宮清文、二宮 与、酒井千恵、萬瀬貴昭、村岡 修、早川堯夫、森川敏生 : コウズク (*Alpinia galanga*, 果実) の耐糖能改善作用成分. 第 33 回和漢医薬学会大会(東京)2016.8.
- 92) \* Konno T., Ninomiya K., Yoshikawa M., Matsuda H., Morikawa T. : Triterpene saponin constituents from roots of *Bupleurum falcatum*: Hepatoprotective effects on D-galactosamine-induced cell damage. 9th Joint Natural Products Conference 2016 (JNPC2016) (Copenhagen, Denmark) 2016.7.
- 93) \* Ninomiya K., Sakai C., Ninomiya K., Shiotani M., Morikawa T. : Phthalides from rhizomes of *Cnidium officinale* accelerate metabolism of triglyceride in hepatocytes. 9th Joint Natural Products Conference 2016 (JNPC2016) (Copenhagen, Denmark) 2016.7.
- 94) \* 二宮清文、二宮 与、酒井千恵、村岡 修、菊地 崇、山田剛司、田中麗子、森川敏生 : Andiroba (*Carapa guianensis*) 含有リモノイド成分の肝細胞内中性脂肪低下作用. 第 3 回肝臓と糖尿病・代謝研究会(金沢)2016.7.
- 95) \* 赤木淳二、小林正和、森川敏生、二宮清文、木内恵里、田邊元三、Yutana Pongpiriyadacha, 吉川雅之、村岡 修 : サラシア・キネンシスに含有される抗糖尿病作用成分. 日本食品化学学会第 22 回総会・学術大会(高知)2016.6.
- 96) \* 森川敏生、北川仁一郎、甕 千明、奥川修平、西田文香、吉川雅之、村岡 修、二宮清文 : 茶花由来ア

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

シル化サポニンのヒト口腔癌由来細胞株 HSC-2 に対する細胞増殖抑制活性. 第 70 回日本栄養・食糧学会大会(神戸)2016.5.

97) \*前川智弘、野方美沙、中村光、藤岡弘道: メチレンアセタールの新奇変換反応—プロモホルメート体への変換とエポキシ環合成への応用. 第42回反応と合成の進歩シンポジウム(静岡)2016.11.

98) \*中村光、今宮彰良、坂井田楓、三木康義、前川智弘: カルコンの転位反応を利用したベンゾフラン合成研究. 第66回日本薬学会近畿支部総会・大会(大阪)2016.10.

99) \*前川智弘、岡村杏子、服部翔、中村光、濱本博三、三木康義: PhI(OAc)<sub>2</sub>とSOCl<sub>2</sub>を用いたaminochalconeのクロロメキシ化反応および分子内環化によるindole環構築への応用. 第46回複素環化学討論会(金沢)2016.9.

100) \*前川智弘、中村光、三木康義: Synthesis of 2-acylindoles via chloromethoxylation of 2-amino chalcone. 252nd ACS National Meeting (Philadelphia) 2016.8.

101) \*三木康義、中村光、大石峻平、前川智弘: Conversion of Ketoximes to Ketones or Amides by Hypervalent Iodine Compounds. (ICHIC2016) 2016.7.

102) \*前川智弘、岡村杏子、服部翔、中村光、濱本博三、三木康義: 超原子価ヨウ素試薬を用いたカルコンのクロロメキシ化反応とそれを利用したインドール合成. 日本プロセス化学会2016サマーシンポジウム(名古屋)2016.7.

103) \*前川智弘、野方美沙、中村光、藤岡弘道: メチレンアセタールの温和な条件下での変換反応 —プロモホルメート体への変換—. 日本プロセス化学会2016サマーシンポジウム(名古屋)2016.7.

104) \*前川智弘、山本晃平、大竹和樹、中村光、藤岡弘道: リン原子を活用したイソクロマン及びベンゾオキサジン誘導体の合成. 日本プロセス化学会2016サマーシンポジウム(名古屋)2016.7.

105) \*岸本有加、岡田風花、木下充弘、山本佐知雄、鈴木茂生: HILICおよび逆相モードに共通した蛍光標識糖タンパク質糖鎖のオンライン精製HPLC法の開発. 第27回クロマトグラフィー科学会議(東京)2016.11.

106) \*山本佐知雄、松井理恵、木下充弘、池上亨、西原啓二、鈴木茂生: DCpak PTZ カラムを用いた8-aminopyrene-1,3,6-trisulfonic acid (APTS)標識化糖タンパク質由来糖鎖のHPLC分析. 第27回クロマトグラフィー科学会議(東京)2016.11.

107) \*山本佐知雄、姫野美幸、小林正弥、赤松美紀、木下充弘、鈴木茂生: 光硬化性アクリルアミドゲルを用いるリン酸化化合物のオンライン濃縮マイクロチップ電気泳動法の開発. 第36回キャピラリー電気泳動シンポジウム(徳島)2016.11

108) \*山上眞、松井友里恵、木下充弘、山本佐知雄、鈴木茂生: エキソグリコシダーゼ消化部分導入キャピラリー電気泳動による糖タンパク質糖鎖解析. 第36回キャピラリー電気泳動シンポジウム(徳島)2016.11.

109) \*山本佐知雄、田又洋子、瀬島佳保里、木下充弘、鈴木茂生: フェニルボロン酸添加MEKCによる(S)-(+)-4-(N,N-Dimethylaminosulfonyl)-7-(3-aminopyrrolidin-1-yl)-2,1,3-benzoxadiazol標識化D-,L-糖の光学分離. 第36回キャピラリー電気泳動シンポジウム(徳島)2016.11.

110) \*山本佐知雄、植田麻希、中村朋子、木下充弘、鈴木茂生: 酵素固定化アクリルアミドゲルチップを用いる糖タンパク質糖鎖調製法の開発. 第65回日本分析化学会年会(北海道)2016.9.

111) \*鈴木茂生、岸本有加、橋本真一、岡田風花: 糖タンパク質由来糖鎖の蛍光標識化とオンライン精製HPLC. 第65回日本分析化学会年会(北海道)2016.9.

112) \*木下充弘、山本佐知雄、鈴木茂生: バイオ医薬品開発における糖鎖解析技術. 第29回バイオメディカル分析科学シンポジウム(京都)2016.8.

113) \*姫野美幸、山本佐知雄、木下充弘、鈴木茂生: 光硬化性アクリルアミドゲルによるオンライン濃縮マイクロチップ電気泳動を用いるリン酸化ペプチドの簡易解析技術. 第29回バイオメディカル分析科学シンポジウム(京都)2016.8.

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 114) \*山本佐知雄、大西翔太、鈴木翔、木下充弘、鈴木茂生:光硬化性アクリルアミドゲルのピンポイント作製技術を用いる糖鎖の構造解析法の開発. 第76回分析化学討論会(岐阜)2016.5.
- 115) \*露口 正人、平澤 明、仲庭 哲津子、櫻井 淳史、仲西 功、木下 誉富:CK2 サブタイプ間で異なる hematein の相互作用様式の解明. 2015 年度量子ビームサイエンスフェスタ(つくば)2016.3.
- 116) \*中村光、田中智士、高子怜大、前川智弘、三木康義:2-アミノカルコンの転位反応を利用するone-potインドール合成法の開発. 日本薬学会第136年会(横浜)2016.3.
- 117) \*前川智弘、野方美沙、中村光、藤岡弘道:メチレンアセタールからプロモホルメートへの変換反応. 日本薬学会第136年会(横浜)2016.3.
- 118) \*前川智弘、山本晃平、大竹和樹、中村光、藤岡弘道:O,P-アセタールを利用した分子内環化とHWE反応によるイソクロマン誘導体の合成. 日本薬学会第136年会(横浜)2016.3.
- 119) \*山本佐知雄、植田麻希、葛西優貴、木下充弘、鈴木茂生:酵素固定化アクリルアミドゲルチップを用いる糖タンパク質糖鎖調製法の開発. 日本薬学会第136年会(横浜)2016.3.
- 120) \*竹田悠人、林優花、高本智世、山本佐知雄、木下充弘、鈴木茂生:化学修飾型シリカナノ粒子を用いたキャピラリー電気泳動法の開発. 日本薬学会第136年会(横浜)2016.3.
- 121) \*木下充弘、斎藤愛、山本佐知雄、早川堯夫、鈴木茂生:糖鎖迅速解析のためのFmoc-ヒドラジン誘導体化と分離分析. 日本薬学会第136年会(横浜)2016.3.
- 122) \*二宮清文、酒井千恵、村岡 修、菊地 崇、山田剛司、田中麗子、森川敏生:アンデローバ含有成分の脂肪肝低減作用成分. 日本薬学会第 136 年会(横浜)2016.3.
- 123) 矢作忠弘、渥美聡孝、三宅克典、石内勘一郎、森永 紀、伏見裕利、大山雅義、森川敏生、有田正規、田中 謙、牧野利明:歴代成書にある生薬の効能に関する記載のデータベース化. 日本薬学会第 136 年会(横浜)2016.3.
- 124) \*田邊元三、森川敏生、小川哲平、藺田直樹、至田智行、萬瀬貴昭、二宮清文、筒井 望、村岡 修:タイ天然薬物 *Melodorum fruticosum* 由来 NO 産生抑制活性を有する Butenolide 類の全合成. 日本薬学会第 136 年会(横浜)2016.3.
- 125) \*二宮清文、奥川周平、甕 千明、北川仁一郎、田邊元三、村岡 修、森川敏生:メラニン産生抑制活性を有する蓮華含有アルカロイド成分の安定性評価. 日本薬学会第 136 年会(横浜)2016.3.
- 126) \*二宮清文、萬瀬貴昭、岡田枝里子、松本 拓、岡崎 茜、要 欣志、中村 翔、森川敏生:延命草由来ジテルペノイド成分のメラニン産生抑制作用. 日本薬学会第 136 年会(横浜)2016.3.
- 127) \*二宮清文、河端千尋、柴谷華苗、南野 享、森川敏生:釣藤鈎の機能性成分(7)-含有成分の神経突起伸長作用-. 日本薬学会第 136 年会(横浜)2016.3. **学生優秀発表賞(ポスター発表の部)受賞**
- 128) \*二宮清文、塩谷美幸、尾関快天、松尾菜都子、森川敏生:センキュウ(*Cnidium officinale*)根茎の抗炎症作用成分. 日本薬学会第 136 年会(横浜)2016.3.
- 129) \*二宮清文、柴谷華苗、居村克弥、坂本幸栄、早川堯夫、村岡 修、森川敏生:漢薬 女貞子(*Ligustrum lucidum*, 果実)の機能性成分(4)-含有成分のアロマトーゼ阻害活性-. 日本薬学会第 136 年会(横浜)2016.3.
- 130) \*二宮清文、大山更紗、赤木淳二、松本 拓、松尾菜都子、尾関快天、岡田拓也、吉田郁代、森川敏生:ケーブアロエ葉末の抗炎症作用成分. 日本薬学会第 136 年会(横浜)2016.3.
- 131) \*二宮清文、甕 千明、西田文香、奥川周平、北川仁一郎、吉川雅之、村岡 修、森川敏生:Chakasaponin II および関連サポニン成分のヒト口腔癌由来細胞株 HSC-2 に対する細胞増殖抑制活性. 日本薬学会第 136 年会(横浜)2016.3.
- 132) 杉浦麗子:シグナル伝達拠点(ハブ)としての RNA 顆粒の役割. 第 38 回日本分子生物学会年会 第 88 回日本生化学会大会合同大会(神戸)2015.12. (ワークショップ)

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 133) 佐藤亮介、萩原加奈子、喜多綾子、杉浦麗子:カルシニューリンシグナルの空間的制御機構. 第 38 回日本分子生物学会年会 第 88 回日本生化学会大会合同大会(神戸)2015.12. (ワークショップ)
- 134) 小倉尚也、水野稜子、李翠芳、喜多綾子、佐藤亮介、西口英里、伊藤俊樹、杉浦麗子:イノシトールリン脂質代謝に関わる新規因子群の機能解析. 第 38 回日本分子生物学会年会 第 88 回日本生化学会大会合同大会(神戸)2015.12.
- 135) 北井佑樹、萩原加奈子、水庫彩、八百麻里子、石田紘基、喜多綾子、佐藤亮介、益子高、松野純男、千葉健治、杉浦麗子:免疫抑制薬 FTY720 の遺伝子発現プロファイリングの解析. 第 38 回日本分子生物学会年会 第 88 回日本生化学会大会合同大会(神戸)2015.12.
- 136) \*窪内康二、辻本翔、神田勇輝、小野祐輝、木戸友絵、澤田奈々、西田升三、椿正寛、Mashud Rana、向井秀幸、杉浦麗子:PKN3 ノックアウトマウスを用いた新たな血管新生とがん転移シグナルの制御機構. 第 38 回日本分子生物学会年会 第 88 回日本生化学会大会合同大会(神戸)2015.12.
- 137) 佐藤亮介、喜多綾子、杉浦麗子:カルシニューリンシグナルの空間的制御機構. 未来創薬医療イノベーションシンポジウム「RNA と癌研究が拓く生命科学の最前線」(東大阪)2015.11.
- 138) 窪内康二、辻本翔、神田勇輝、小野祐輝、木戸友絵、澤田奈々、西田升三、椿正寛、Rana Mashud、向井秀幸、杉浦麗子:PKN3 ノックアウトマウスを用いた新たな血管新生とがん転移シグナルの制御機構. 未来創薬医療イノベーションシンポジウム「RNA と癌研究が拓く生命科学の最前線」(東大阪)2015.11.
- 139) 小池史華、仁熊久美、高橋宏和、南林愛、窪内康二、佐藤亮介、喜多綾子、杉浦麗子:細胞増殖シグナル Pmk1 MAPK 経路とオードファジー関連因子の関係. 未来創薬医療イノベーションシンポジウム「RNA と癌研究が拓く生命科学の最前線」(東大阪)2015.11.
- 140) 木村悠介、佐藤亮介、喜多綾子、杉浦麗子:KH 型 RNA 結合タンパク質 Rnc1 は MAPK シグナルに依存してストレス顆粒に移行する. 未来創薬医療イノベーションシンポジウム「RNA と癌研究が拓く生命科学の最前線」(東大阪)2015.11.
- 141) 佐藤亮介、木村悠介、喜多綾子、杉浦麗子:Stress granule 形成を介した RNA 結合蛋白質の空間的制御におけるシグナル伝達経路の役割. 第 17 回日本 RNA 学会年会(札幌)2015.7.
- 142) 木村悠介、佐藤亮介、喜多綾子、杉浦麗子:KH 型 RNA 結合蛋白質 Rnc1 は MAPK シグナルに依存してストレス顆粒に移行する. 第 17 回日本 RNA 学会年会(札幌)2015.7.
- 143) Sugiura R.:RNA Granules as Signaling Hubs. 8TH INTERNATIONAL FISSION YEAST MEETING (Pombe 2015) (Kobe)2015.6.
- 144) Kanda Y., Tsujimoto S., Matsumoto S., Inutsuka N., Kita A., Satoh R., Sugiura R.:The SH3 domain protein Skb5 is a novel regulator of PKC/MAPK signaling in fission yeast. 8TH INTERNATIONAL FISSION YEAST MEETING (Pombe 2015) (Kobe)2015.6.
- 145) Kita A., Higa M., Doi A., Satoh R., Sugiura R.:Imp2, the PSTPIP homolog in fission yeast, regulates cytokinesis and membrane traffic. 8TH INTERNATIONAL FISSION YEAST MEETING (Pombe 2015) (Kobe)2015.6.
- 146) Kitai Y., Hagihara K., Mizukura A., Yao M., Ishida K., Kita A., Satoh R., Chikashige Y., Masuko T., Matzno S., Chiba K., Sugiura R.:Genome-Wide Analysis of Gene Expression Profiles upon FTY720 Treatment. 8TH INTERNATIONAL FISSION YEAST MEETING (Pombe 2015) (Kobe)2015.6.
- 147) Kubouchi K., Kita A., Satoh R., Nagasoko R., Iga Y., Sugiura R.:An endogenous calcineurin inhibitor DSCR1/RCAN1 regulates calcium and oxidative stress signaling. 8TH INTERNATIONAL FISSION YEAST MEETING (Pombe 2015) (Kobe)2015.6.
- 148) Ogura N., Mizuno R., Li C., Kita A., Satoh R., Nishiguchi E., Itoh T., Sugiura R.:Functional analysis of novel regulatory factors involved in PI4P5K/PI4,5P2 signaling. 8TH INTERNATIONAL FISSION YEAST

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

MEETING (Pombe 2015) (Kobe)2015.6.

149) Uno T., Doi A., Fujimoto A., Sato S., Kanda Y., Asami K., Tanaka Y., Kita A., Satoh R., Sugiura R. : Chemical genomics reveals genes associated with sensitivity to rapamycin in the fission yeast *Schizosaccharomyces pombe*. 8TH INTERNATIONAL FISSION YEAST MEETING (Pombe 2015) (Kobe)2015.6.

150) Sugiura R. : Combating Cancer with a Powerful Chemical Genomics and Model Systems ~ Cancer Therapeutics in Fission Yeast ~ 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 ~ 増殖シグナルを標的とした革新的がん治療法開発をめざした統合的ゲノム研究に関する医薬連携基盤形成 ~ 「キックオフシンポジウム」 (大阪)2015.3.

151) 杉浦麗子 : 細胞増殖シグナル制御拠点としての RNA 顆粒の役割. 第 88 回日本薬理学会年会 (名古屋) 2015.3.

152) 仁熊久美、片山雄大、小池史華、高橋宏和、南林愛、喜多綾子、佐藤亮介、杉浦麗子 : Pmk1 MAPK 経路とオートファジー関連因子の機能的関係. 第 88 回日本薬理学会年会 (名古屋)2015.3.

153) 萩原加奈子、水庫彩、八百麻里子、高塚三恵、北井佑樹、石田紘基、木下佳那子、喜多綾子、佐藤亮介、杉浦麗子 : SIP 受容体調節剤 FTY720 感受性遺伝子の網羅的探索. 第 88 回日本薬理学会年会 (名古屋)2015.3.

154) \*露口正人、仲庭哲津子、仲西 功、木下誉富 : CK2  $\alpha 2$  の高分解能 X 線結晶構造解析. 日本結晶学会平成 28 年度年会 (水戸)2015.11.

155) \*中村真也 : 相同性の高いタンパク質に対する同一化合物の結晶様式差の要因検討. 第三回ケモインフォマティクス若手の会 (東京)2015.10.

156) \*露口正人、平澤 明、仲庭哲津子、櫻井淳史、仲西 功、木下誉富 : CK2 サブタイプ間で異なる四環性化合物の阻害作用機序の解明. 日本結晶学会平成 27 年度年会 (大阪)2015.10.

157) \*露口正人、平澤 明、仲庭哲津子、櫻井淳史、仲西 功、木下誉富 : Structural basis for producing CK2  $\alpha 1$ -specific inhibitors: Crystal structures of hematein with CK2  $\alpha 1$  and CK2  $\alpha 2$ . 第 43 回構造活性相関シンポジウム (新潟)2015.9.

158) \*露口正人、平澤 明、仲庭哲津子、櫻井淳史、仲西 功、木下誉富 : CK2 サブタイプ間で異なる hematein の阻害作用メカニズムの解明. 第 15 回日本タンパク質科学学会年会 (徳島)2015.6.

159) \*本田真歩、宮垣 潤、吉光佑二、岩田 顕、大槻和裕、丸山 透、中村真也、仲西 功、大石真也、大野浩章、藤井信孝 : クロスメタセシス反応を利用したスフィンゴシンキナーゼ阻害剤の創製研究. 日本薬学会第 135 年会 (神戸)2015.3.

160) ○Kawasaki N.、Ogata F. : Relationship between athletic ability and mental health of university students in Japan. 3rd International Global Public Health 2015 (Colombo, Sri Lanka) 2015. 12.

161) ○Kawasaki N.、Ogata F. : Health check-up by measurement of mineral concentration in hair, Public Health Conference 2015 (Bangkok, Thailand) 2015. 7.

162) Tanaka M., Terashima K., Imaida T., Abe S., Ueda S., Yagi H., Yagita H., Masuko T. : Effect of regulation of immune checkpoint molecules on ADCC with NK cells. 第 74 回日本癌学会学術集会 (横浜)2015.10.

163) Abe S., Shimizu M., Terashima K., Imaida T., Ueda S., Yagi H., Masuko T. : Characterization of novel monoclonal antibodies recognizing xCT cystine transporter associated with CD98 and CD44. 第 74 回日本癌学会学術集会 (横浜)2015.10.

164) Terashima K., Imaida T., Abe S., Tanaka M., Ueda S., Okita K., Torii R., Yagi H., Masuko T. : Innovative cancer diagnosis and therapy systems using hybridoma transplantation. 第 74 回日本癌学会学術集会 (横浜)2015.10.



法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 165) \*森川敏生: サラシア属植物含有 $\alpha$ -グルコシダーゼ阻害活性成分の消化管における安定性および吸収性評価. 第 8 回サラシア属植物シンポジウム(東京)2015.11.
- 166) \*萬瀬貴昭、二宮清文、西 亮介、橋本佳典、酒井千恵、二宮 与、Chaipech Saowanee, 早川堯夫、村岡修、森川敏生: 紅豆蔻 (*Alpinia galanga*, 果実) 由来フェニルプロパノイド成分の肝細胞内中性脂肪代謝促進作用. 第 6 回食品薬学シンポジウム(岡山)2015.10.
- 167) \*二宮清文、甕 千明、北川仁一郎、吉原和弥、吉川雅之、村岡 修、森川敏生: 茶花 (*Camellia sinensis*, 花蕾部) 由来サポニン成分のヒト消化管由来細胞株に対する細胞増殖抑制活性. 第 6 回食品薬学シンポジウム(岡山)2015.10.
- 168) \*森川敏生、北川仁一郎、奥川修平、甕 千明、田邊元三、亀井惟頼、二宮清文、吉川雅之、村岡 修: 蓮華 (*Nelumbo nucifera*, 花部) のメラニン産生抑制活性成分を指標とした品質評価. 第 6 回食品薬学シンポジウム(岡山)2015.10.
- 169) \*今野拓哉、二宮清文、吉川雅之、松田久司、森川敏生: ミシマサイコ (*Bupleurum falcatum* L.) 根部の肝障害抑制活性成分. 第 65 回日本薬学会近畿支部総会・大会(大阪)2015.10.
- 170) \*二宮清文、河端千尋、柴谷華苗、南野 享、和田哲幸、森川敏生: 釣藤鈎の機能性成分(6)-含有成分の神経突起伸長誘導とその作用特性-. 第 65 回日本薬学会近畿支部総会・大会(大阪)2015.10.
- 171) \*至田智之、田邊元三、森川敏生、萬瀬貴昭、小川哲平、藺田直樹、二宮清文、筒井 望、村岡 修: タイ天然薬物 *Melodorum fruticosum* 由来 NO 産生抑制活性を有する Butenolide 類の全合成. 第 65 回日本薬学会近畿支部総会・大会(大阪)2015.10.
- 172) \*二宮清文、柴谷華苗、佐伯竣介、末吉真弓、Chaipech Saowanee, Pongpiriyadacha Yutana, 早川堯夫、村岡 修、森川敏生: タイ天然薬物 *Mammea siamensis* 花部の機能性成分(5)-新規プレニルクマリン mammeasin C および D のアロマトーゼ阻害活性-. 第 65 回日本薬学会近畿支部総会・大会(大阪)2015.10.
- 173) \*二宮清文、二宮 与、萬瀬貴昭、酒井千恵、Chaipech Saowanee, 早川堯夫、村岡 修、森川敏生: 紅豆蔻の機能性成分-新規ネオリグナン成分の肝細胞内中性脂肪代謝促進作用-. 第 65 回日本薬学会近畿支部総会・大会(大阪)2015.10.
- 174) \*大山更紗、赤木淳二、松本 拓、松尾菜都子、尾関快天、吉田郁代、二宮清文、森川敏生: ケープアロエの炎症性サイトカインTNF- $\alpha$  誘発細胞障害抑制作用成分. 第 65 回日本薬学会近畿支部総会・大会(大阪)2015.10.
- 175) \*二宮清文、酒井千恵、塩谷美幸、森川敏生: センキュウ (*Cnidium officinale*, 根茎) の肝脂肪低減作用成分の探索. 第 36 回日本肥満学会(名古屋)2015.10.
- 176) \*Ninomiya K., Sakai C., Shiotani M., Morikawa T.: Phthalides from rhizomes of *Cnidium officinale* as new leads for fatty liver therapeutic candidates. 7th Asian Association of Schools of Pharmacy (AASP) Conference (Taipei, Taiwan) 2015.10.
- 177) \*Konno T., Ninomiya K., Yoshikawa M., Matsuda H., Morikawa T.: Hepatoprotective triterpene saponins from roots of *Bupleurum falcatum*. 7th Asian Association of Schools of Pharmacy (AASP) Conference (Taipei, Taiwan) 2015.10.
- 178) \*二宮清文、八幡郁子、田邊元三、早川堯夫、村岡 修、森川敏生: メース(*Myristica fragrans*, 仮種皮)の機能性成分(6)-新規ネオリグナン成分の化学構造-. 日本生薬学会第 62 回年会(岐阜)2015.9.
- 179) \*二宮清文、甕 千明、北川仁一郎、吉川雅之、村岡 修、森川敏生: 茶花由来サポニン chakasaponin II および関連サポニンのヒト消化管由来細胞増殖抑制活性. 日本生薬学会第 62 回年会(岐阜)2015.9.
- 180) \*二宮清文、酒井千恵、村岡 修、菊地 崇、山田剛司、田中麗子、森川敏生: アンデローバ含有リモノイドの肝細胞内中性脂肪低減作用. 日本生薬学会第 62 回年会(岐阜)2015.9.

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 181) \*二宮清文、萬瀬貴昭、橋本佳典、酒井千恵、二宮 与、Chaipech Saowanee、早川堯夫、村岡 修、森川敏生:紅豆蔻の機能性成分(6)-フェニルプロパノイド成分の肝細胞内中性脂肪代謝促進作用および構造活性相関構造。日本生薬学会第 62 回年会(岐阜)2015.9.
- 182) \*八幡郁子、二宮清文、尾関快天、西田枝里子、早川堯夫、村岡 修、森川敏生:メース(*Myristica fragrans*, 仮種皮)の新規ネオリグナン成分。第 59 回香料・テルペンおよび精油化学に関する討論会(大阪)2015.9.
- 183) \*萬瀬貴昭、二宮清文、西 亮介、亀井惟頼、Chaipech Saowanee、早川堯夫、村岡 修、森川敏生:紅豆蔻 (*Alpinia galanga*, 果実) のメラニン産生抑制活性成分。第 59 回香料・テルペンおよび精油化学に関する討論会(大阪)2015.9.
- 184) \*田邊元三、森川敏生、小川哲平、藺田直樹、至田智行、萬瀬貴昭、二宮清文、筒井 望、村岡 修:タイ天然薬物 *Melodorum fruticosum* の由来 NO 産生抑制活性を有する Butenolide 類の全合成。第 59 回香料・テルペンおよび精油化学に関する討論会(大阪)2015.9.
- 185) \*森川敏生、二宮清文、佐伯竣介、宮澤聖也、Chaipech Saowanee、Pongpiriyadacha Yutana、早川堯夫、村岡 修:タイ天然薬物 *Mammea siamensis* 花部の抗炎症作用成分。第 59 回香料・テルペンおよび精油化学に関する討論会(大阪)2015.9.
- 186) \*二宮清文、奥村尚道、許 鳳鳴、松田久司、早川堯夫、村岡 修、吉川雅之、森川敏生:*Nigella sativa* 種子由来ジテルペン成分の肝脂肪低減作用。第 59 回香料・テルペンおよび精油化学に関する討論会(大阪)2015.9.
- 187) \* Okugawa S., Ninomiya K., Kitagawa N., Matsumoto T., Kamei I., Lee I., Yoshikawa M., Muraoka O., Morikawa T.:Quantitative determination of potent melanogenesis inhibitors in "lotus flower", the flower buds of *Nelumbo nucifera*. Inaugural Symposium of the Phytochemical Society of Asia 2015 (ISPSA2015) (Tokushima, Japan) 2015.8.
- 188) \* Motai C., Kitagawa N., Ninomiya K., Lee I., Yoshikawa M., Muraoka O., Morikawa T.:Growth inhibitory effects of acylated saponins from flower buds of *Camellia sinensis* on human digestive tract carcinoma cell lines. Inaugural Symposium of the Phytochemical Society of Asia 2015 (ISPSA2015) (Tokushima, Japan) 2015.8.
- 189) \* Kitagawa N., Ninomiya K., Okugawa S., Lee I., Yoshikawa M., Muraoka O., Morikawa T.:Flavonol glycosides from tea flower, the flower buds of *Camellia sinensis*, with lipid accumulation inhibitory activity. Inaugural Symposium of the Phytochemical Society of Asia 2015 (ISPSA2015) (Tokushima, Japan) 2015.8.
- 190) \* Morikawa T., Kinouchi E., Akaki J., Ninomiya K., Tanabe G., Yoshikawa M., Muraoka O.:Suppressive effects of salacinol and related analogs, a new class of potent alpha-glucosidase inhibitors from *Salacia* genus plants, on postprandial blood glucose levels in mice. Inaugural Symposium of the Phytochemical Society of Asia 2015 (ISPSA2015) (Tokushima, Japan) 2015.8.
- 191) \* Manse Y., Ninomiya K., Nishi R., Hashimoto Y., Kamei I., Chaipech S., Hayakawa T., Muraoka O., Morikawa T.:Structural requirements of phenylpropanoids for inhibition of theophylline-stimulated melanogenesis in B16 melanoma cells. Inaugural Symposium of the Phytochemical Society of Asia 2015 (ISPSA2015) (Tokushima, Japan) 2015.8.
- 192) \* Morikawa T., Hachiman I., Matsuo K., Ninomiya K., Muraoka O., Hayakawa T., Nakayama T.:Chemokine receptor CCR3 antagonist from arils of *Myristica fragrans*. Inaugural Symposium of the Phytochemical Society of Asia 2015 (ISPSA2015) (Tokushima, Japan) 2015.8.
- 193) \* Ninomiya K., Shiotani M., Sakai C., Morikawa T.:Phtalide constituents from rhizomes of *Cnidium officinale* with triglycelide metabolism-promoting activity in high glucose-pretreated HepG2 cells. Inaugural

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- Symposium of the Phytochemical Society of Asia 2015 (ISPSA2015) (Tokushima, Japan) 2015.8.
- 194) \* Ninomiya K., Kawabata C., Minamino T., Ozeki K., Matsuo N., Hayakawa T., Morikawa T.: Bioactive constituents from hooks of *Uncaria rhynchophylla* -effects on TNF-alpha-induced cell damage and neurite outgrowth-. Inaugural Symposium of the Phytochemical Society of Asia 2015 (ISPSA2015) (Tokushima, Japan) 2015.8.
- 195) \* 奥川修平、二宮清文、北川仁一郎、中西勇介、吉川雅之、村岡 修、森川敏生: ロウバイカ (*Chimonanthus praecox*, 花蕾部) のメラニン産生抑制成分の定量分析. 第 32 回和漢医薬学会大会(富山)2015.8.
- 196) \* 北川仁一郎、二宮清文、奥川修平、松尾菜都子、吉川雅之、村岡 修、森川敏生: ハス (*Nelumbo nificera*) 花部の抗炎症作用アルカロイド成分. 第 32 回和漢医薬学会大会(富山)2015.8.
- 197) \* 甕 千明、二宮清文、北川仁一郎、吉原和弥、吉川雅之、村岡 修、森川敏生: 茶花 (*Camellia sinensis*, 花蕾部) 含有サポニンのヒト消化管由来癌細胞に対する細胞増殖抑制活性. 第 32 回和漢医薬学会大会(富山)2015.8.
- 198) \* 八幡郁子、二宮清文、松田久司、畑 裕基、菅原かおる、吉川雅之、早川堯夫、村岡 修、森川敏生: 肉豆蔻衣 (*Myristica fragrans*, 仮種皮) の脱顆粒抑制作用成分. 第 32 回和漢医薬学会大会(富山) 2015.8.
- 199) \* 塩谷美幸、二宮清文、尾関快天、松尾菜都子、森川敏生: 川芎 (*Cnidium officinale*, 根茎) の機能性成分(3)-含有フタリド成分の一酸化窒素産生抑制活性-. 第 32 回和漢医薬学会大会(富山)2015.8.
- 200) \* 萬瀬貴昭、二宮清文、西 亮介、橋本佳典、萬瀬貴昭、亀井惟頼、Chaipech Saowanee, 早川堯夫、村岡修、森川敏生: 紅豆蔻 (*Alpinia galanga*, 果実) 由来フェニルプロパノイド成分のメラニン産生抑制作用. 第 32 回和漢医薬学会大会(富山)2015.8.
- 201) \* 二宮清文、倉本博行、尾関快天、松尾菜都子、吉川雅之、村岡 修、森川敏生: ニホンスイセン (*Narcissus tazetta* var. *chinensis*) 花部の抗炎症作用成分. 第 32 回和漢医薬学会大会(富山)2015.8.
- 202) \* 大山更紗、赤木淳二、松本 拓、松尾菜都子、尾関快天、吉田郁代、二宮清文、森川敏生: アロエ属植物による炎症性サイトカイン TNF-alpha の感受性低減作用. 第 32 回和漢医薬学会大会(富山)2015.8.
- 203) \* Okugawa S., Kitagawa N., Ninomiya K., Lee I., Yoshikawa M., Muraoka O., Morikawa T.: Flavonol glycosides from tea flower, the flower buds of *Camellia sinensis*, with lipid accumulation inhibitory activity. 12th Asian Congress of Nutrition (ACN2015) (Yokohama, Japan) 2015.5.
- 204) \* Motai C., Kitagawa N., Ninomiya K., Lee I., Yoshikawa M., Muraoka O., Morikawa T.: Acylated saponins from tea flower, the flower buds of *Camellia sinensis*, with anti-proliferative effects on human digestive tract carcinoma cells. 12th Asian Congress of Nutrition (ACN2015) (Yokohama, Japan) 2015.5.
- 205) \* Manse Y., Ninomiya K., Nishi R., Sakai C., Chaipech S., Hayakawa T., Muraoka O., Morikawa T.: Phenylpropanoids from *Alpinia galanga* with lipid metabolism-promoting activity in high glucose-pretreated HepG2 cells. 12th Asian Congress of Nutrition (ACN2015) (Yokohama, Japan) 2015.5.
- 206) \* Hachiman I., Matsuo K., Ninomiya K., Muraoka O., Hayakawa T., Nakayama T., Morikawa T.: Search for chemokine receptor CCR3 selective antagonist as anti-allergic principles from Mace, the arils of *Myristica fragrans*. 12th Asian Congress of Nutrition (ACN2015) (Yokohama, Japan) 2015.5.
- 207) \* Akaki J., Morikawa T., Ninomiya K., Kinouchi E., Tanabe G., Pongpiriyadacha Y., Yoshikawa M., Muraoka O.: Salacinol and related analogs, new leads for type 2 diabetes therapeutic candidates from the stems of *Salacia chinensis*. 12th Asian Congress of Nutrition (ACN2015) (Yokohama, Japan) 2015.5.
- 208) \* 田邊元三、白戸美希、菅野雄太、藺田直樹、森川敏生、二宮清文、筒井 望、村岡 修: バンレイシ科植物, *Hornschurchia obliqua*由来4,5-didehydroguadiscineの合成およびそのメラニン形成抑制活性評価. 年

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 会(神戸)2015.3.
- 209) 小林正和、赤木淳二、森川敏生、二宮清文、木内恵里、吉川雅之、村岡 修: 遺伝的肥満モデル $ob/ob$ マウスに対する $Salacia chinensis$ の抗糖尿病作用. 年会(神戸)2015.3.
- 210) \*赤木淳二、二宮清文、大山更紗、松本 拓、尾関快天、森川敏生: ケープアロエによる炎症性サイトカインTNF- $\alpha$ の細胞障害に対する保護作用. 年会(神戸)2015.3.
- 211) \*二宮清文、橋本佳典、萬瀬貴昭、西 亮介、酒井千恵、Chaipech Saowanee, 早川堯夫、村岡 修、森川敏生: 紅豆蔻の機能性成分(5)-含有フェニルプロパノイド成分の肝細胞内中性脂肪代謝促進作用-. 年会(神戸)2015.3.
- 212) \*二宮清文、萬瀬貴昭、西 亮介、橋本佳典、亀井惟頼、Chaipech Saowanee, 早川堯夫、村岡 修、森川敏生: 紅豆蔻の機能性成分(4)-新規ネオリグナン成分の化学構造およびメラニン産生抑制作用-. 年会(神戸)2015.3. **プレス向けハイライトに選出**
- 213) \*森川敏生、八幡郁子、二宮清文、早川堯夫、田邊元三、村岡 修: メース(Myristica fragrans, 仮種皮)の機能性成分(5)-新規ジアリルノナノイド-ネオリグナン付加体成分の化学構造-. 日本薬学会第135年会(神戸)2015.3.
- 214) \*二宮清文、甕 千明、北川仁一朗、吉原和弥、西田枝里子、李 雪征、松田久司、中村誠宏、吉川雅之、早川堯夫、村岡 修、森川敏生: デイジーフラワー(Bellis perennis, 花部)の機能性成分(7)-含有サポニン成分の胃がん細胞増殖抑制作用-. 日本薬学会第135年会(神戸)2015.3.
- 215) \*二宮清文、奥川修平、北川仁一朗、松尾菜都子、吉川雅之、村岡 修、森川敏生: ハス(Nelumbo nucifera, 花部)の機能性成分(3)-含有アルカロイド成分の抗炎症作用-. 日本薬学会第135年会(神戸)2015.3.
- 216) \*森川敏生、倉本博行、二宮清文、亀井惟頼、吉川雅之、村岡 修: ニホンスイセン(Narcissus tazetta var. chinensis)花部の機能性成分(2)-新規フェニルエタノイド配糖体成分の化学構造および含有成分のメラニン産生抑制活性-. 日本薬学会第135年会(神戸)2015.3.
- 217) \*森川敏生、佐伯竣介、松本 拓、末吉真弓、二宮清文、Chaipech Saowanee, 村岡 修: タイ天然薬物 Mamea siamensis花部の機能性成分(4)-新規プレニルクマリンの化学構造-. 日本薬学会第135年会(神戸)2015.3.
- 218) \*二宮清文、甕 千明、北川仁一朗、吉原和弥、吉川雅之、村岡 修、森川敏生: 茶花(Camellia sinensis, 花蕾部)由来アシル化サポニンのヒト消化管由来癌細胞株に対する細胞増殖抑制活性. 日本薬学会第135年会(神戸)2015.3.
- 219) 前川智弘、中村光、三木康義: Synthesis of Indoles from 2-Aminochalcone Using Hypervalent Iodine Reagent via Acetal Intermediate. Pacificchem 2015(Hawaii, USA)2015.12.
- 220) 前川智弘、岡村杏子、服部翔、中村光、三木康義: 2-アミノカルコンのクロロメキシ化反応と続く2-アシルインドールへの変換. 第65回日本薬学会近畿支部大会(大阪)2015.10.
- 221) 中村光、加納穂嵩、瀬木良俊、三木康義、前川智弘: 超原子価ヨウ素試薬を用いたアルドキシムのカルボン酸への変換反応. 第65回日本薬学会近畿支部大会(大阪)2015.10.
- 222) 中村光、前川智弘、三木康義、大中卓也、梅本英彰: 2-TMSCH<sub>2</sub>-tetrazoleを利用した2,5-二置換tetrazole誘導体の合成. 第41回反応と合成の進歩シンポジウム(大阪)2015.10.
- 223) \*前川智弘、本田貴也、太田千晶、藤本一真、中村光、三木康義、濱本博三: Formation of quinoline skeleton from chalcone: The effect of amino protective group to the reactivity of 2-aminochalcones. The 25th ISHC Congress, (Santa Barbara, USA)2015.8.
- 224) 前川智弘、太田千晶、藤本一真、加藤美菜、服部翔、中村光、三木康義、濱本博三: Indole Synthesis from 2-Aminochalcone via Rearrangement Reaction The 3rd International Symposium on Process Chemistry

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- [ISPC 2015](京都)2015.7.
- 225) 山本佐知雄、植田麻希、葛西優貴、木下充弘、鈴木茂生: 酵素固定化アクリルアミドゲルチップを用いる糖タンパク質糖鎖調製法の開発. 第26回クロマトグラフィー科学会議(福岡)2015.11.
- 226) 木下充弘、藤井稔生、竹田悠人、山本佐知雄、鈴木茂生: キャピラリー電気泳動を用いる糖ヌクレオチド及びその関連物質の分析. 第35回キャピラリー電気泳動シンポジウム(岡山)2015.11.
- 227) 竹田悠人、林優花、高本智世、山本佐知雄、木下充弘、鈴木茂生: 化学修飾型シリカナノ粒子を用いたキャピラリー電気泳動法の開発. 第65回日本薬学会近畿支部大会(大阪)2015.10.
- 228) 山本佐知雄、松井理恵、木下充弘、池上亨、西原啓二、鈴木茂生: DCpak PTZ カラムを用いた8-aminopyrene-1,3,6-trisulfonic acid (APTS)標識化糖タンパク質由来糖鎖のHPLC分析. 第64回日本分析化学会年会(広島)2015.9.
- 229) 鈴木茂生、橋本真一、岸本有加、木下充弘、山本佐知雄: オンライン抽出HPLCを用いる糖タンパク質糖鎖蛍光標識体の簡便分析. 第64回日本分析化学会年会(福岡)2015.9.
- 230) 山本佐知雄、植田麻希、葛西優貴、木下充弘、鈴木茂生: 酵素固定化アクリルアミドゲルチップを用いる糖タンパク質糖鎖調製法の開発. 第28回バイオメディカル分析科学シンポジウム(長崎)2015.8.
- 231) 木下充弘、村中佑季、山本佐知雄、鈴木茂生: アスパラギン結合型糖鎖の迅速解析のためのアルカリフロアクタ/陽イオン交換オンラインシステム. 第22回クロマトグラフィーシンポジウム(大阪)2015.5.
- 232) 山本佐知雄、松井理恵、木下充弘、池上亨、西原啓二、鈴木茂生: DCpak PTZ カラムを用いた8-aminopyrene-1,3,6-trisulfonic acid (APTS)標識化糖タンパク質由来糖鎖のHPLC分析. 第22回クロマトグラフィーシンポジウム(大阪)2015.5.
- 233) 山本佐知雄、田又洋子、瀬島佳保里、木下充弘、鈴木茂生: 光学活性を有する標識化試薬とフェニルピロン酸を用いる単糖のMEKCによるキラル分離. 日本薬学会第135年会(神戸)2015.3.
- 234) 竹田悠人、林優花、高本智世、山本佐知雄、木下充弘、鈴木茂生: 化学修飾化シリカナノ粒子を用いるキャピラリー電気泳動法の開発. 日本薬学会第135年会(神戸)2015.3.
- 235) 窪内康二、辻本翔、神田勇輝、木戸友絵、小野祐輝、喜多綾子、佐藤亮介、西田升三、椿正寛、向井秀幸、杉浦麗子: プロテインキナーゼPKN3ノックアウトマウスにおけるがん転移抑制メカニズムの解析. 第37回日本分子生物学会年会(横浜)2014.11.
- 236) 北井佑樹、萩原加奈子、水庫彩、喜多綾子、佐藤亮介、益子高、松野純男、千葉健治、杉浦麗子: FTY720 を介するカルシニューリンシグナル伝達経路とストレス応答 MAP キナーゼ経路のクロストーク機構. 第37回日本分子生物学会年会(横浜)2014.11.
- 237) 小倉尚也、李翠芳、喜多綾子、加藤彩香、水野稜子、佐藤亮介、奥公秀、阪井康能、伊藤俊樹、杉浦麗子: イノシトールリン脂質代謝に関わる新規因子群の機能解析. 第37回日本分子生物学会年会(横浜)2014.11.
- 238) 萩原加奈子、水庫彩、八百麻里子、北井佑樹、石田紘基、喜多綾子、佐藤亮介、近重裕次、益子高、松野純男、千葉健治、杉浦麗子: SIP 受容体調節剤 FTY720 を介する遺伝子発現プロファイリングの網羅的解析. 第37回日本分子生物学会年会(横浜)2014.11.
- 239) Kubouchi K., Kita A., Higa M., Satoh R., Sugiura R.: Novel functional roles for calcineurin inhibitor DSCR1/RCAN1 in the regulation of calcium and oxidative stress signaling. 11th International Conference on Protein Phosphatase (ICPP11) (Sendai)2014.11.
- 240) 比嘉真理、喜多綾子、萩原加奈子、土井章、長底利恵、伊賀弓佳、佐藤亮介、杉浦麗子: 熱刺激に応答したカルシニューリンの局在制御機構の解析. 第126回日本薬理学会近畿部会(和歌山)2014.10.
- 241) 辻本翔、窪内康二、神田勇輝、小野祐輝、木戸友絵、西田升三、椿正寛、向井秀幸、杉浦麗子: PKN3 遺伝子ノックアウトマウスを用いたがん転移抑制メカニズムの探索. 第126回日本薬理学会近畿部会(和歌

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 山)2014.10.
- 242) 水野稜子、李翠芳、小倉尚也、加藤彩香、喜多綾子、佐藤亮介、奥公秀、阪井康能、伊藤俊樹、杉浦麗子: イノシトールリン脂質代謝を制御する PH domain タンパク質の同定と機能解析. 第 126 回日本薬理学会近畿部会(和歌山)2014.10.
- 243) 神田勇輝、土井章、辻本翔、喜多綾子、成瀬一、佐藤亮介、杉浦麗子: SH3 ドメインタンパク質 Skb5 による PKC/MAPK シグナル制御メカニズムの解明. 第 126 回日本薬理学会近畿部会(和歌山)2014.10.
- 244) 杉浦麗子: 低分子量 G タンパク質 Rab ファミリーを介するメンブレントラフィックとイノシトールリン脂質シグナル伝達経路の空間的制御. 第 87 回日本生化学会大会(京都)2014.10.
- 245) 佐藤亮介、伊藤祐奈、喜多綾子、萩原加奈子、谷時雄、杉浦麗子: MAP キナーゼシグナル依存的な RNA 結合タンパク質 Nrd1 による細胞運命制御機構. 第 87 回日本生化学会大会(京都)2014.10.
- 246) 大浦惇義、土井章、宇野貴哉、佐藤駿、神田勇輝、喜多綾子、萩原加奈子、比嘉真理、佐藤亮介、杉浦麗子: ヒト PDK1 分裂酵母ホモログ Ksg1 の細胞形態制御と Ca<sup>2+</sup>シグナル伝達経路における役割. 第 87 回日本生化学会大会(京都)2014.10.
- 247) 小野太貴、松浦一貴、野口大輝、山中真之、竹内健太、佐藤亮介、喜多綾子、益子高、杉浦麗子: 酵母モデル生物を用いた ERK MAPK シグナル伝達経路阻害薬の探索. 第 64 回日本薬学会近畿支部総会・大会(京都)2014.10.
- 248) 片山雄大、于陽、新谷真未、窪内康二、喜多綾子、杉浦麗子: AP-1 アクセサリータンパク質 Sip1 のゴルジ/エンドゾームにおける細胞内膜輸送の役割. 第 64 回日本薬学会近畿支部総会・大会(京都)2014.10.
- 249) 杉浦麗子: 酵母モデル生物を用いた MAPK シグナル伝達阻害薬による抗がん作用の開発. 第 32 回バイオ技術シーズ公開会(大阪)2014.9.
- 250) Satoh R., Ito Y., Kita A., Hagihara K., Doi A., Sugiura R.: Role of RNA-binding protein in MAPK signaling and cell fate regulation. The FEBS EMBO 2014 Conference (Paris)2014.8.
- 251) Kanda Y., Doi A., Kita A., Naruse H., Sugiura R.: The SH3 domain protein is a novel regulator of PKC/MAPK signaling in fission yeast. The FEBS EMBO 2014 Conference (Paris)2014.8.
- 252) 佐藤亮介、伊藤祐奈、喜多綾子、萩原加奈子、谷時雄、杉浦麗子: MAP キナーゼシグナル依存的な RNA 結合タンパク質 Nrd1 によるストレス顆粒形成機構. 第 16 回日本 RNA 学会年会(名古屋)2014.7.
- 253) 石田紘基、萩原加奈子、水庫彩、八百麻里子、岡田千聖、高塚三恵、北井佑樹、喜多綾子、益子高、松野純男、千葉健治、杉浦麗子: S1P 受容体調節剤 FTY720 を介する新たなシグナル伝達機構の解明. 日本ケミカルバイオロジー学会 第 9 回年会(大阪)2014.6.
- 254) Satoh R., Sugiura R.: Role of RNA-binding pritein in MAPK signaling and cell fate regulation. Anti-Aging International Mini-Symposium 2014: Cell Signaling and Therapeutic Targets for Geriatric and Inflammatory Diseases (Osaka)2014.6.
- 255) 仲西 功: アカデミアシーズからの in silico ドラッグデザイン研究. 第 356 回 CBI 学会研究講演会(大阪)2014.12. (invited)
- 256) 森川敏生、赤木淳二、二宮清文、木内恵理、田邊元三、仲西 功、中村真也、吉川雅之、村岡 修: サラシア属植物含有  $\alpha$ -グルコシダーゼ阻害活性成分 salacinol およびその類縁体の食後過血糖改善作用. 第 20 回 天然薬物の開発と応用シンポジウム(東京)2014.11.
- 257) 田邊元三、松田侑也、筒井 望、森川敏生、赤木淳二、二宮清文、仲西 功、中村真也、吉川雅之、村岡 修: アーユルベータ天然薬物“サラシア”由来 salacinol をシードとする  $\alpha$ -グルコシダーゼ阻害剤の in silico 設計, 合成及び in vitro 評価. 第 20 回 天然薬物の開発と応用シンポジウム(東京)2014.11.
- 258) 本田真歩、宮垣 潤、吉光佑二、岩田 顕、大槻和裕、丸山 透、中村真也、仲西 功、大石真也、大野浩章、藤井信孝: スフィンゴシンキナーゼ阻害活性を有する Jaspine B 誘導体の構造活性相関研究. 第 32

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 回メディシナルケミストリーシンポジウム(神戸)2014.11.
- 259) 大東可苗、西脇敬二、中村真也、出口貴浩、村田和也、松田秀秋、仲西 功:構造活性相関解析に基づく XO 阻害剤 Hydroxychavicol の結合様式推定. 第 32 回メディシナルケミストリーシンポジウム(神戸)2014.11.
- 260) 中西伸介、岡田裕規、森脇寛智、西脇敬二、中村真也、木下誉富、大石真也、大野浩章、藤井信孝、仲西 功:結合自由エネルギーを指標とした Protein kinase CK2 阻害剤のデザインと構造活性相関. 第 37 回情報化学討論会(豊橋)2014.11.
- 261) 中村真也:天然物サラシアを起源とする  $\alpha$  グルコシダーゼ阻害薬創出への計算化学的アプローチ. 第 23 回創薬情報研究会(京都)2014.10.(invited)
- 262) Sakurai A., Nakamura S., Taniguchi S., Nagata N., Kurono M., Murata K., Kitaura K., Hirasawa A., Tsujimoto G., Nakanishi I.:Binding mode analysis of protein kinase CK2 inhibitors with a purine scaffold. CBI Annual Meeting 2014 (Tokyo)2014.10.
- 263) Nakamura S., Tanabe G., Muraoka O., Nakanishi I.:Computer-aided design of novel alpha-glucosidase inhibitors based on salacinol derived from Salacia reticulate of Ayurvedic traditional medicine. International Symposium on Medicinal Chemistry 2014(Lisbon, Portugal)2014.9.
- 264) Nakanishi I., Murata K., Nagata N., Kurono M., Kinoshita T., Yasue M., Miyazaki T., Takei Y., Hirasawa A., Tsujimoto G. :Identification of protein kinase CK2 inhibitors by the solvent ordering virtual screening method. International Symposium on Medicinal Chemistry 2014(Lisbon, Portugal)2014.9.
- 265) Nishiwaki K., Ohigashi K., Nakamura S., Murata K., Matsuda H., Nakanishi I.:Binding pose prediction of Xantine oxidase inhibitor hydroxychavicol and drug design of its analogues. International Symposium on Medicinal Chemistry 2014(Lisbon, Portugal)2014.9.
- 266) Kinoshita T., Sekiguchi Y., Nakaniwa T., Sogabe Y., Tanaka M., Sakurai A., Nakamura S., Nakanishi I.: Species-dependent variation in the structure of CK2 -apigenin complex. 23rd Congress and General Assembly of the International Union of Crystallography(Montreal, Canada)2014.8.
- 267) Okawasaki N., Ogata F.:Development of drinking water treatment using vegetable biomass. The 11th International Symposium on Southeast Asian Water Environment (Bangkok, Thailand) 2014. 12.
- 268) Onagai N., Ogata F., Kawasaki N., Ito Y., Okamoto N., Shimomura Y.:Effect of supplementary water contains minerals on corneal wound healing rate in ovariectomized rats. 13th Congress of the International Society of Ocular Toxicology (Kanazawa, Japan) 2014. 10.
- 269) Onogata E., Kawasaki N.: Adsorption of Pt(IV) and Pd(II) by calcined dried aluminum hydroxide gel from aqueous solution, IWA World Water Congress & Exhibition2014 (Lisbon, Portugal) 2014. 9.
- 270) Okawasaki N., Ogata F. :Removal mechanism of arsenic ion in drinking water by calcined aluminum oxide. IWA World Water Congress & Exhibition2014 (Lisbon, Portugal) 2014. 9.
- 271) \*石濱里穂、道山忠史、森山麻里子、村岡 修、二宮清文、早川堯夫、森川敏生、森山博由:タイ天然薬物 Shorea roxburghii 樹皮由来オリゴスチルペノイドは悪性黒色腫に対して抗がん作用を示す. 第 37 回日本分子生物学会年会(横浜)2014.11.
- 272) \*森川敏生、赤木淳二、二宮清文、田邊元三、吉川雅之、村岡 修:サラシア属植物の $\alpha$ -グルコシダーゼ阻害活性成分を指標とした品質評価. 第 43 回生薬分析シンポジウム(大阪)2014.11.
- 273) \*Morikawa T., Ninomiya K., Imamura M., Akaki J., Pan Y., Yuan D., Yoshikawa M., Jia X., Li Z., Muraoka O.:Acylated phenylethanoid glycosides, echinacoside and acteoside from Cistanche tubulosa, improve glucose tolerance in mice. International Conference on Food for Health in Niigata 2014 (ICFHN2014) (Niigata, Japan) 2014.10.

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 274) \*森川敏生、赤木淳二、二宮清文、吉川雅之、村岡 修：サラシア属植物含有 $\alpha$ -グルコシダーゼ阻害活性成分の消化管における安定性および吸収性評価。日本ハーブ療法研究会第 2 回学術大会(京都) 2014.10.
- 275) \*森川敏生、松尾一彦、八幡郁子、二宮清文、村岡 修、中山隆志：メース (*Myristica fragrans*, 仮種皮) のケモカイン受容体 CCR3 選択的アンタゴニスト作用を指標とした抗アレルギー作用成分の探索。第 56 回天然有機化合物討論会(高知)2014.10.
- 276) \*道山忠史、森山麻里子、森川敏生、早川堯夫、森山博由：悪性黒色腫細胞に対する *Shorea roxburghii* 由来オリゴスチルベノイドの影響。第 64 回日本薬学会近畿支部総会・大会(京都)2014.10.
- 277) \*二宮清文、塩谷美幸、酒井千恵、森川敏生：漢薬川芎 (*Cnidium officinale*, 根茎) の肝細胞内中性脂肪低減作用。第 64 回日本薬学会近畿支部総会・大会(京都)2014.10.
- 278) \*二宮清文、尾関快天、南野 享、森川敏生：釣藤鈎の機能性成分(5)－含有成分の神経突起伸長およびTNF- $\alpha$ 作用成分－。第 64 回日本薬学会近畿支部総会・大会(京都)2014.10.
- 279) \*森川敏生、木内恵里、赤木淳二、二宮清文、田邊元三、仲西 功、中村真也、吉川雅之、村岡 修： $\alpha$ -グルコシダーゼ阻害活性物質 salacinol およびその誘導体の血糖値上昇抑制活性。日本生薬学会第 61 回年会(福岡)2014.9.
- 280) \*森川敏生、佐伯竣介、松本 拓、末吉真弓、二宮清文、Saowanee Chaipech、村岡 修：タイ天然薬物 *Mammea siamensis* 花部の機能性成分(3)：新規プレニルクマリンの化学構造一。日本生薬学会第 61 回年会(福岡)2014.9.
- 281) \*森川敏生、八幡郁子、松尾一彦、二宮清文、村岡 修、中山隆志：メースの機能性成分(4)：ケモカイン受容体アンタゴニスト作用成分の探索。日本生薬学会第 61 回年会(福岡)2014.9.
- 282) \*森川敏生、二宮清文、倉本博行、松本友里恵、中村誠宏、松田久司、王 立波、呉 立軍、早川堯夫、吉川雅之、村岡 修：エバーラスティングフラワーの機能性成分(7)－新規カルコン2量体成分の化学構造二。日本生薬学会第 61 回年会(福岡)2014.9.
- 283) \*二宮清文、甕 千明、北川仁一朗、吉原和弥、中村誠宏、松田久司、吉川雅之、村岡 修、森川敏生：茶花由来サポニンの胃癌細胞 MKN-45 増殖抑制活性。日本生薬学会第 61 回年会(福岡)2014.9.
- 284) \*二宮清文、萬瀬貴昭、西 亮介、亀井惟頼、Chaipech Saowanee、早川堯夫、村岡 修、森川敏生：紅豆蔻の機能性成分(3)－新規フェニルプロパノイドおよびジテルペン成分の構造とメラニン産生抑制活性一。日本生薬学会第 61 回年会(福岡)2014.9.
- 285) \*Ninomiya K.、Minamino T.、Ozeki K.、Matsuo N.、Kawabata C.、Hayakawa T.、Morikawa T.：Effects of constituents from hooks of *Uncaria rhynchophylla* on neurite outgrowth and TNF- $\alpha$ -induced cell damage. The 8th JSP-CCTCM-KSP Joint Symposium on Pharmacognosy, (Fukuoka, Japan) 2014.9.**Awarded for Best Poster Award**
- 286) \* Morikawa T.、Kitagawa N.、Okugawa S.、Matsumoto T.、Ninomiya K.、Kamei I.、Lee I.、Nakamura S.、Matsuda H.、Yoshikawa M.、Muraoka O.：Simultaneous quantitative analysis of alkaloids with melanogenesis inhibitory activity in "lotus flower", the flower buds of *Nalumbo nucifera*. The 8th JSP-CCTCM-KSP Joint Symposium on Pharmacognosy, (Fukuoka, Japan) 2014.9.
- 287) \* Michiyama T.、Moriyama H.、Moriyama M.、Hayakawa T.、Ninomiya K.、Muraoka O.、Chaipech S.、Morikawa T.：Inhibitory effects of oligostilbenoids from bark of *Shorea roxburghii* on malignant melanoma cell growth: implications for a candidate of novel topical anticancer agents. The 27th International Conference on Polyphenols (ICP2014) (Nagoya, Japan) 2014.9.
- 288) \* Morikawa T.、Hachiman I.、Ninomiya K.、Matsuda H.、Hata Y.、Sugawara K.、Sakata Y.、Yoshikawa M.、Hayakawa T.、Muraoka O.：Antiallergic principles from *Myristica fragrans*: inhibitors of degranulation and



法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- TNF- $\alpha$  release in RBL-2H3 cells. The 27th International Conference on Polyphenols (ICP2014) (Nagoya, Japan) 2014.9.
- 289) \* Ninomiya K., Morikawa T., Matsumoto T., Sueyoshi M., Miyazawa S., Saeki S., Chaiepech S., Hayakawa T., Muraoka O.: Anti-inflammatory effects and mode of action of prenylcoumarins from Thai natural medicine *Mammea siamensis*. The 27th International Conference on Polyphenols (ICP2014) (Nagoya, Japan) 2014.9.
- 290) \* Morikawa T., Ninomiya K., Imamura M., Akaki J., Fujikura S., Pan Y., Yuan D., Yoshiukawa M., Jia X., Li Z., Muraoka O.: Acylated phenylethanoid glycosides, echinacoside and acteoside from *Cistanche tubulosa*, improve glucose tolerance in mice. The 27th International Conference on Polyphenols (ICP2014) (Nagoya, Japan) 2014.9.
- 291) \* 北川仁一郎、森川敏生、奥川修平、二宮清文、三宅荘八郎、三木芳信、吉川雅之、李 宣融、村岡 修：茶花 (*Camellia sinensis*, 花蕾部) のサポニンおよびフラボノイド成分の定量分析. 第 31 回和漢医薬学会大会(横浜)2014.8.
- 292) \* 奥川修平、森川敏生、北川仁一郎、二宮清文、松本 拓、吉川雅之、中村誠宏、松田久司、李 宣融、村岡 修：ハス (*Nelumbo nucifera*) のメラニン産生抑制作用成分の定量分析. 第 31 回和漢医薬学会大会(横浜)2014.8.
- 293) \* 二宮清文、河端千尋、松本 拓、南野 享、森川敏生：釣藤鈎の機能性成分(4)—含有成分の神経突起伸長作用成分—. 第 31 回和漢医薬学会大会(横浜)2014.8.
- 294) \* 尾関快天、二宮清文、岡田枝里子、松本 拓、南野 享、松尾菜都子、森川敏生：釣藤鈎の機能性成分(3)—含有成分の抗炎症作用—. 第 31 回和漢医薬学会大会(横浜)2014.8. **優秀発表賞受賞**
- 295) \* 萬瀬貴昭、二宮清文、岡田枝里子、松本 拓、忍海邊綾子、岡崎 茜、亀井惟頼、要 欣志、森川敏生：延命草の機能性成分—含有ジテルペン成分のメラニン産生抑制作用—. 第 31 回和漢医薬学会大会(横浜)2014.8.
- 296) \* 今野拓哉、二宮清文、松田久司、吉川雅之、森川敏生：柴胡の機能性成分—含有サポニン成分の肝障害抑制作用—. 第 31 回和漢医薬学会大会(横浜)2014.8.
- 297) \* 倉本博行、森川敏生、二宮清文、亀井惟頼、村岡 修、吉川雅之：ニホンスイセン (*Narcissis tazetta* var. *chinensis*) 花部含有アルカロイド成分のメラニン産生抑制作用. 第 31 回和漢医薬学会大会(横浜)2014.8.
- 298) \* 赤木淳二、森川敏生、二宮清文、三宅荘八郎、田邊元三、吉川雅之、村岡 修：サラシア属植物由来スルホニウム塩型および既存 $\alpha$ -グルコシダーゼ阻害剤の同時分析. 第 68 回日本栄養・食糧学会大会(北海道)2014.5.
- 299) \* 木内恵里、赤木淳二、森川敏生、二宮清文、田邊元三、吉川雅之、村岡 修：ヒト $\alpha$ -グルコシダーゼに関するサラシノールおよびその類縁体の阻害活性プロフィール. 第 68 回日本栄養・食糧学会大会(北海道)2014.5.
- 300) \* 酒井千恵、二宮清文、北原潤美、堀 佑一郎、村岡 修、早川堯夫、森川敏生：ローズヒップ (*Rosa canina*, 果実) の肝臓内脂肪低減作用成分. 第 68 回日本栄養・食糧学会大会(北海道)2014.5. **プレス向けハイライトに選出**
- 301) \* 八幡郁子、二宮清文、尾関快天、西田枝里子、村岡 修、早川堯夫、森川敏生：メース (*Myristica fragrans*, 仮種皮) のマクロファージ活性化抑制作用成分. 第 68 回日本栄養・食糧学会大会(北海道)2014.5.
- 302) \* Morikawa T., Akaki J., Ninomiya K., Kinouchi E., Tanabe G., Yoshikawa M., Muraoka O.: Salacinol and related analogs, new leads for type 2 diabetes therapeutic candidates from Thai traditional natural medicina

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- Salacia chinensis. 5th International Conference on Natural Products for Health and Beauty (NATPRO5) (Phuket, Thailand) 2014.5. **Selected for publication as a Conference Report in *Nutrients***
- 303) 木下充弘、三ツ井洋介、山本佐知雄、鈴木茂生: ヒト黒色細胞腫のグライコフォーム-フォーカストプロテオミクス. 第25回クロマトグラフィー科学会議(京都)2014.12.
- 304) 山本佐知雄、植田麻希、木下充弘、鈴木茂生: 酵素固定化アクリルアミドゲルチップを用いる糖タンパク質糖鎖調製法の開発. 第25回クロマトグラフィー科学会議(京都)2014.12.
- 305) 八木有紀、鈴木茂生: マイクロチップ電気泳動法を用いた抗体医薬品の分解物評価. 第34回キャピラリー電気泳動シンポジウム(京都)2014.12.
- 306) 山本佐知雄、植田麻希、木下充弘、鈴木茂生: 酵素固定化アクリルアミドゲルチップを用いる糖タンパク質糖鎖調製法の開発. 第34回キャピラリー電気泳動シンポジウム(京都)2014.12.
- 307) 山本佐知雄、小林正弥、赤松美紀、木下充弘、鈴木茂生: 光硬化性アクリルアミドゲルを用いるリン酸化化合物のオンライン濃縮マイクロチップ電気泳動法の開発. *Cheminas* 30(北海道)2014.10.
- 308) 植田麻希、山本佐知雄、木下充弘、鈴木茂生: 酵素固定化アクリルアミドゲルチップを用いる糖タンパク質糖鎖調製法の開発. 第64回日本薬学会近畿支部大会(京都)2014.10.
- 309) 橋本真一、山本佐知雄、木下充弘、鈴木茂生: カラムスイッチングによるオリゴ糖誘導体のオンライン精製HPLC法の開発. 第64回日本薬学会近畿支部大会(京都)2014.10.
- 310) 竹田悠人、林 優花、高本智世、山本佐知雄、木下充弘、鈴木茂生: 化学修飾型シリカナノ粒子を用いるキャピラリー電気泳動法の開発. 第64回日本薬学会近畿支部大会(京都)2014.10.
- 311) 鈴木茂生、八木有紀、西田憲晃、山本佐知雄: 糖タンパク質糖鎖の定量的網羅的解析法の開発. 第63回日本分析化学会年会(広島)2014.9.
- 312) 木下充弘、鈴木茂生、掛樋一晃: バイオ医薬品における分離分析技術の役割. 第41回BMSコンファレンス(石川)2014.7
- 313) 山本 佐知雄、木下充弘、鈴木茂生: 光重合性アクリルアミドを利用したマイクロチップ電気泳動における新規オンライン濃縮電気泳動法の開発. *Cheminas* 29(東京)2014.5.

**テーマB: 「癌増殖シグナル制御機構の解析と抗がん剤標的分子のPOC」 (261件)**

- 314) \*椿正寛、武田朋也、友成佳加、眞下恵次、藤原大一郎、阪口勝彦、西田升三: RANK/RANKL を介した多発性骨髄腫での抗がん剤耐性獲得機序. 日本薬学会第 137 回年会(仙台)2017.3.
- 315) \*友成佳加、椿正寛、武田朋也、眞下恵次、藤原大一郎、阪口勝彦、西田升三: 多発性骨髄腫でのメルフアラン耐性には HIF-1 $\alpha$  の過剰発現が寄与する. 日本薬学会第 137 回年会(仙台)2017.3.
- 316) \*西田升三、河本雄一、椿正寛、武田朋也、友成佳加、藤本伸一郎、山添譲: 多発性骨髄腫での NF- $\kappa$ B 阻害薬 mangiferin と抗がん剤併用による細胞死誘導増強効果. 日本薬学会第 137 回年会(仙台)2017.3.
- 317) \*武田朋也、椿正寛、友成佳加、藤本伸一郎、山添譲、西田升三: 新規 NIK 阻害剤 mangiferin 投与による腫瘍増殖・転移抑制効果. 日本薬学会第 137 回年会(仙台)2017.3.
- 318) \*坪田真帆、福田亮太郎、関口富美子、宮崎貴也、堂本莉紗、安井洋樹、西田武司、石倉宏恭、西堀正洋、川畑篤史: Oxaliplatin 誘起神経障害性疼痛における HMGB1 とその標的分子の役割: マクロファージ非依存的機序の関与について. 第 90 回日本薬理学会年会(長崎)2017.3.
- 319) \*富田詩織、出口智代、関口富美子、坪田真帆、川畑篤史: 抗がん薬ボルテゾミブにより誘起される神経障害性疼痛には Cav3.2 T 型カルシウムチャネルの発現増加が関与する. 第 90 回日本薬理学会年会(長崎)2017.3.
- 320) \*川端柚希、坪田真帆、辻田隆一、西堀正洋、川畑篤史: HMGB1 は術後痛に関与する: 第 90 回日本薬

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 理学会年会(長崎)2017.3.
- 321) \*林佑亮、坪田真帆、辻田隆一、本田剛一、川畑篤史:トロンボモジュリンアルファの HMGB1 誘起痛覚過敏に対する抑制効果はトロンピンに依存する. 第 90 回日本薬理学会年会(長崎)2017.3.
- 322) \*松井和樹、中野真希、石井優子、寺田侑加、坪田真帆、川畑篤史:結腸痛発症メカニズムの解析:侵害受容ニューロン発現分子 TRPV1、PAR2 および Cav3.2 の役割. 第 90 回日本薬理学会年会(長崎)2017.3.
- 323) \*宮本朋佳、坪田真帆、屋馬佐紀、川畑篤史:マウスにおけるシクロホスファミド誘起膀胱炎・膀胱痛は反復寒冷ストレスにより軽減される:ストレスによるマクロファージ機能低下の関与について. 第 90 回日本薬理学会年会(長崎)2017.3.
- 324) \*堂本莉紗、山岨大智、山西広樹、関口富美子、坪田真帆、西堀正洋、川畑篤史:パクリタキセルによるマクロファージからの HMGB1 遊離の分子メカニズム:化学療法誘起末梢神経障害の発症における役割. 第 90 回日本薬理学会年会(長崎)2017.3.
- 325) \*関口富美子、野田紗友理、大野 董、村田和也、松田秀秋、Nguyen, H.D.、豊岡尚樹、川畑篤史:新規 T 型  $Ca^{2+}$ チャネル阻害薬 6-prenylnaringenin はカンナビノイド CB1 受容体を介して神経前駆様 NG108-15 細胞の神経突起伸張を促進する. 第 90 回日本薬理学会年会(長崎)2017.3.
- 326) \*坪田真帆、福田亮太郎、関口富美子、宮崎貴也、堂本莉紗、安井洋樹、山下莉加、西田武司、石倉宏恭、西堀正洋、川畑篤史:抗がん薬オキサリプラチン誘起神経障害性疼痛への Cav3.2 T 型  $Ca^{2+}$ チャネルと HMGB1 の関与について. 痛み研究会 2016「痛みの理解を目指した先端的アプローチ」(岡崎)2017.1.
- 327) \*堂本莉紗、山岨大智、山西広樹、関口富美子、坪田真帆、西堀正洋、川畑篤史:Paclitaxel 誘起痛覚過敏へのマクロファージ由来 high mobility group box 1 の関与. 痛み研究会 2016「痛みの理解を目指した先端的アプローチ」(岡崎)2017.1.
- 328) \*神原弘和、松尾一彦、山本真也、長久保大輔、義江 修、中山隆志:モカインCCL28の欠損はDSS腸炎モデルマウスにおける病態を増悪させる. 日本薬学会第137年会(仙台)2017.3.
- 329) \*高橋周平、松尾一彦、小山 篤、西脇敬二、義江 修、中山隆志:モカイン受容体CCR4の欠損はメラノーマ担癌モデルマウスの病態を増悪させる. 日本薬学会第137年会(仙台)2017.3.
- 330) \*木村勇太、松尾一彦、小森悠平、畑中翔太、西脇敬二、義江 修、中山隆志:モカイン受容体CCR4の欠損はアトピー様皮膚炎の病態を改善させる. 日本薬学会第137年会(仙台)2017.3.
- 331) \*伊藤菜奈、松尾一彦、長沼孝典、西脇敬二、義江 修、中山隆志:CR4欠損マウスおよびCCR6欠損マウスを用いたイミキモド誘発性乾癬の解析. 日本薬学会第137年会(仙台)2017.3.
- 332) \*東山慎太郎、松尾一彦、松永奈緒子、山田祐毅、西脇敬二、義江 修、中山隆志:CR4阻害剤はTregの筋肉組織への遊走を阻害することでワクチン効果を向上させる. 日本薬学会第137年会(仙台)2017.3.
- 333) \*石橋美保、松尾一彦、川端史花、北畑孝祐、中山隆志:高活性型lymphotactin/XCL1を用いたがんワクチンアジュバントの開発. 日本薬学会第137年会(仙台)2017.3.
- 334) \*森山博由、森山麻里子、早川堯夫:低酸素状態下のヒト間葉系幹細胞維持機構における Notch シグナルの役割. 第 16 回日本再生医療学会総会(宮城)2017.3.
- 335) \*Kawase A., Nimura N., Yamashita M., Ono Y., Kubouchi K., Sawada N., Shimada H., Satoh R., Kita A., Mukai H., Iwaki M., Sugiura R.:Protein kinase N family-dependent regulation of hepatic cytochrome P450 2C in mice. 日本薬物動態学会 第 31 回年会(長野)2016.10.
- 336) Shimada H., Urabe Y., Okamoto Y., Komura M., Yamashita Y., Kawase A., Morikawa T., Muraoka O., Iwaki M.:Stability of echinacoside and acteoside, components of Cistance Tubulosa, in gastrointestinal tract and liver. 日本薬物動態学会 第 31 回年会(長野)2016.10.
- 337) \*Inoue Y., Kawase A., Nakazaki S., Koizumi E., Shimada H., Iwaki M.:Effect of ERM protein function depression on ABC transporter activities. 日本薬物動態学会 第 31 回年会(長野)2016.10.

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 338) Hashimoto R., Kawase A., Shibata M., Shimada H., Iwaki M.: Involvement of reactive metabolites of diclofenac in cytotoxicity in sandwich cultured rat hepatocytes. 日本薬物動態学会 第31回年会(長野) 2016.10.
- 339) Inagaki M., Nishimura T., Nakanishi T., Shimada H., Akanuma S., Tachikawa M., Hosoya K., Tamai I., Nakashima E., Tomi M.: Role of prostaglandin transporter for PGE2 degradation in the murine placental spongiotrophoblasts. 日本薬物動態学会 第31回年会(長野)2016.10.
- 340) \* Inoue Y., Kawase A., Nakazaki S., Koizumi E., Shimada H., Iwaki M.: Influence of radixin knockdown on drug efflux transporters of cancer cells., 第12回プロテインホスファターゼ国際カンファレンス(大阪) 2016.10.
- 341) Iwaki M., Irino Y., Take M., Egashira S.: Inhibition of methotrexate uptake by glucuronides of nonsteroidal anti-inflammatory drugs via organic anion transporters OAT1 and OAT3, ISSX2016 (Busan) 2016.6..
- 342) Shimada H., Nakanishi T., Nakamura Y., Iwaki M., Tamai I.: Potential of prostaglandin transporter OATP2A1/SLCO2A1 as a target of novel anti-inflammatory drug. ISSX2016 (Busan)2016.6.
- 343) \* Tsubaki M., Takeda T., Kino T., Tomonari Y., Fujimoto S., Nishida S.: Overexpression of HIF-1alpha is involved with melphalanresistance in multiple myeloma cells. The 12th International Conference on Protein Phosphatase(大阪)2016.10.
- 344) \* Tomonari Y., Tsubaki M., Takeda T., Kino T., Fujiwara D., Sakaguchi K., Nishida S.: Inhibition of NF-kappaB by mangiferin increased the sensitivity of human multiple myeloma cells to anticancer drugs. The 12th International Conference on Protein Phosphatase(大阪)2016.10.
- 345) \* Kino T., Tsubaki M., Takeda T., Tomonari Y., Mashimo K., Sakaguchi K., Nishida S.: Mangiferin induced the apoptosis via suppression of NIK/NF-kB pathway in human multiple myeloma cells. The 12th International Conference on Protein Phosphatase(大阪)2016.10.
- 346) \* Takeda T., Tsubaki M., Kino T., Tomonari Y., Fujimoto S., Nishida S.: Mangiferin, a novel nuclear factor kappa B-inducing kinase inhibitor, suppresses metastasis in a mouse metastatic melanoma model. The 12th International Conference on Protein Phosphatase(大阪)2016.10.
- 347) \* 椿正寛, 武田朋也, 木野稔己, 友成佳加, 西田升三: 慢性骨髄性白血病におけるイマチニブ耐性に MET 経路活性化が寄与する. 第66回日本薬学会近畿支部総会・大会(大阪)2016.10.
- 348) \* 武田朋也, 椿正寛, 木野稔己, 友成佳加, 西田升三: 新規 NIK 阻害剤 mangiferin による腫瘍増殖・転移抑制効果. 第66回日本薬学会近畿支部総会・大会(大阪)2016.10.
- 349) \* 前川紗穂, 椿正寛, 武田朋也, 木野稔己, 友成佳加, 西田升三: 多発性骨髄腫におけるメルファラン耐性に HIF-1α 過剰発現が寄与する. 第66回日本薬学会近畿支部総会・大会(大阪)2016.10.
- 350) \* 松本幹広, 椿正寛, 武田朋也, 木野稔己, 友成佳加, 西田升三: オキサリプラチン誘発末梢神経障害は PKC/MEK 阻害剤で抑制できる. 第66回日本薬学会近畿支部総会・大会(大阪)2016.10.
- 351) \* 友成佳加, 椿正寛, 武田朋也, 木野稔己, 西田升三: 新規 NIK 阻害剤 Mangiferin は多発性骨髄腫における抗がん剤殺細胞作用を増強する. 第66回日本薬学会近畿支部総会・大会(大阪)2016.10.
- 352) \* 木野稔己, 椿正寛, 武田朋也, 友成佳加, 西田升三: RANK/RANKL は多発性骨髄腫における CAM-DR に寄与する. 第66回日本薬学会近畿支部総会・大会(大阪)2016.10.
- 353) \* 倉橋真弓, 椿正寛, 武田朋也, 木野稔己, 友成佳加, 西田升三: Mangiferin による NIK/IKK/NF-kB 経路阻害を介した細胞死誘導効果. 第66回日本薬学会近畿支部総会・大会(大阪)2016.10.
- 354) \* 永田真穂, 椿正寛, 武田朋也, 木野稔己, 友成佳加, 西田升三: MIP-1α オートクライン阻害を介した抗がん剤感受性増強効果. 第66回日本薬学会近畿支部総会・大会(大阪)2016.10.
- 355) \* 生駒航, 椿正寛, 武田朋也, 木野稔己, 友成佳加, 西田升三: Ras 過剰発現頭頸部腫瘍に対する statins

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- の細胞死誘導効果. 第 66 回日本薬学会近畿支部総会・大会(大阪)2016.10.
- 356) \*友成佳加、椿正寛、武田朋也、木野稔己、藤原大一郎、阪口勝彦、西田升三:Mangiferin は多発性骨髄腫において抗がん剤感受性を増強させる. 第 75 回日本癌学会学術総会(横浜)2016.10.
- 357) \*木野稔己、椿正寛、武田朋也、友成佳加、眞下恵次、藤原大一郎、阪口勝彦、西田升三:RANK/RANKL による細胞接着を介した抗がん剤耐性機構の解析. 第 75 回日本癌学会学術総会(横浜)2016.10.
- 358) \*西田升三、椿正寛、武田朋也、木野稔己、友成佳加、藤本伸一郎:HIF-1alpha の過剰発現は多発性骨髄腫でのメルファラン耐性に寄与する. 第 75 回日本癌学会学術総会(横浜)2016.10.
- 359) \*椿正寛、武田朋也、木野稔己、友成佳加、藤本伸一郎、西田升三:慢性骨髄性白血病における MET 活性化はイマチニブ耐性に寄与する. 第 75 回日本癌学会学術総会(横浜)2016.10.
- 360) \*武田朋也、椿正寛、木野稔己、友成佳加、眞下恵次、阪口勝彦、西田升三:新規 NIK 阻害薬による NF-kappaB 経路抑制を介したアポトーシス誘導機序. 第 75 回日本癌学会学術総会(横浜)2016.10.
- 361) \*武田朋也、椿正寛、木野稔己、友成佳加、眞下恵次、藤原大一郎、阪口勝彦、西田升三:多発性骨髄腫における新規 NIK 阻害剤 mangiferin による細胞死誘導機構の解析. 第 20 回日本がん分子標的治療学会(大分)2016.6.
- 362) \*友成佳加、椿正寛、武田朋也、木野稔己、眞下恵次、藤原大一郎、阪口勝彦、西田升三:多発性骨髄腫における NF-kappaB 阻害薬 mangiferin と抗がん剤併用による細胞死誘導効果及びその作用機序の解明. 第 20 回日本がん分子標的治療学会(大分)2016.6.
- 363) \*西田升三、椿正寛、武田朋也、木野稔己、友成佳加、眞下恵次、藤原大一郎、藤本伸一郎、阪口勝彦、山添譲:Statins での Ras ゲラニルゲラニル化阻害を介した MIP-1alpha 分泌阻害効果. 第 20 回日本がん分子標的治療学会(大分)2016.6.
- 364) \*椿正寛、武田朋也、木野稔己、友成佳加、眞下恵次、藤原大一郎、藤本伸一郎、阪口勝彦、山添譲、西田升三:慢性骨髄性白血病におけるイマチニブ耐性に MET 活性化が関与する. 第 20 回日本がん分子標的治療学会(大分)2016.6.
- 365) \*木野稔己、椿正寛、武田朋也、友成佳加、藤本伸一郎、山添譲、西田升三:RANK/RANKL システムは多発性骨髄腫での抗がん剤耐性獲得に関与する. 第 20 回日本がん分子標的治療学会(大分)2016.6.
- 366) \*宮崎貴也、坪田真帆、富田詩織、出口智代、関口富美子、山岨大智、西堀正洋、川畑篤史:Bortezomib 誘起神経障害性疼痛への核内タンパク high mobility group box1 の関与. 第 130 回日本薬理学会近畿部会(京都)2016.11.
- 367) \*上田舞、深海和樹、浅野絵莉茄、関口富美子、吉田繁、川畑篤史:ヒト前立腺癌細胞における interleukin-6 誘起神経内分泌様分化に伴う Cav3.2 T 型カルシウムチャネルの発現増加に関与する細胞シグナルの解析. 第 130 回日本薬理学会近畿部会(京都)2016.11.
- 368) \*平本志於里、山口薫、坪田真帆、田中潤一、関口富美子、石倉宏恭、西堀正洋、川畑篤史:シクロホスファミド誘起膀胱痛の発現メカニズムの解析:マクロファージ由来 HMGB1 による RAGE 活性化を介する H<sub>2</sub>S 産生酵素の発現誘導の関与. 第 130 回日本薬理学会近畿部会(京都)2016.11.
- 369) \*林佑亮、坪田真帆、辻田隆一、本田剛一、川畑篤史:トロンボモジュリンアルファの HMGB1 誘起痛覚過敏に対する抑制作用の分子メカニズムとトロンビン依存性の解析. 第 130 回日本薬理学会近畿部会(京都)2016.11.
- 370) \* Tsubota M., Fukuda R., Miyazaki T., Domoto R., Kamitani N., Nishida T., Sekiguchi F., Ishikura H., Nishibori M., Kawabata A. : Targeting HMGB1 and its downstream molecules for treatment of oxaliplatin-induced peripheral neuropathy. The 12th International Conference on Protein Phosphatase (Higashi-Osaka, Japan) 2016.10.

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 371) \* Tomita S., Sekiguchi F., Tsubota M., Kawabata A. :Molecular mechanisms for the upregulation of Cav3.2 T-type calcium channels in the neuropathic pain. The 12th International Conference on Protein Phosphatase (Higashi-Osaka, Japan) 2016.10.
- 372) \* Miyazaki T., Fukuda R., Tsubota M., Kawabata A. :Cav3.2 T-type calcium channels as therapeutic targets for the oxaliplatin-induced peripheral neuropathy. The 12th International Conference on Protein Phosphatase (Higashi-Osaka, Japan) 2016.10.
- 373) \* Fukami K., Ueda M., Asano E., Sekiguchi F., Yoshida S., Kawabata A. :Interleukin-6-induced neuroendocrine-like differentiation of human prostate cancer cells: cell signaling and upregulation of Cav3.2 T-type calcium channels. The 12th International Conference on Protein Phosphatase (Higashi-Osaka, Japan) 2016.10.
- 374) \* Domoto R., Yamasoba D., Yamanishi H., Sekiguchi F., Tsubota M., Nishibori M., Kawabata A. :A role of macrophage-derived HMGB1 in paclitaxel-induced peripheral neuropathy in mice. The 12th International Conference on Protein Phosphatase (Higashi-Osaka, Japan) 2016.10.
- 375) \*山岡桜、洞口大和、Nguyen, H.D.、北村 駿、岡田卓哉、大野 董、関口富美子、西川裕之、吉田 繁、村田和也、松田秀秋、大久保つや子、豊岡尚樹、川畑篤史:6-Prenylnarigenin をリード化合物とした新規 T 型 Ca<sup>2+</sup>チャネル阻害薬の探索:電気生理学的検討. 第 66 回 日本薬学会近畿支部総会・大会(高槻) 2016.10.
- 376) \*式見仕勇、富田詩織、関口富美子、坪田真帆、岸岡史郎、川畑篤史:マウスの坐骨神経部分結紮誘起神経障害性疼痛には知覚神経における Cav3.2 T 型カルシウムチャネルの発現増加が関与する:転写因子 Egr-1 および脱ユビキチン化酵素 USP5 の役割. 第 66 回 日本薬学会近畿支部総会・大会(高槻) 2016.10.
- 377) \*中野真希、松井和樹、石井優子、坪田真帆、川畑篤史:Butyrate 誘起過敏性腸症候群モデルマウスにおける結腸痛覚過敏への Cav3.2 T 型 Ca<sup>2+</sup>チャネルの関与. 第 66 回 日本薬学会近畿支部総会・大会(高槻)2016.10.
- 378) \*洞口大和、山岡 桜、大野 董、関口富美子、Nguyen, H.D.、藤田友代、村田和也、松田秀秋、吉田 繁、大久保つや子、豊岡尚樹、川畑篤史:新規 T 型カルシウムチャネル阻害薬 6-prenylnarigenin のイオンチャネル選択性に関する検討:2S 体とラセミ体の比較. 第 66 回 日本薬学会近畿支部総会・大会(高槻)2016.10.
- 379) \*野田紗友理、大野董、関口富美子、村田和也、松田秀秋、Nguyen, H.D.、豊岡尚樹、川畑篤史:神経前駆様 NG108-15 細胞において新規 T 型 Ca<sup>2+</sup>チャネル阻害薬 6-prenylnarigenin はカンナビノイド CB1 受容体を介して神経突起伸長を促進する. 第 66 回 日本薬学会近畿支部総会・大会(高槻) 2016.10.
- 380) \* Kawabata A. :Impact of zinc or ascorbic acid deficiency on Cav3.2-dependent pain. 2016 International Calcium channel Meeting. (Hoi An, Vietnam) 2016.10. (Invited).
- 381) \* Kawabata A., Tsubota M. :Involvement of Cav3.2 T-type Ca<sup>2+</sup>channels in the oxaliplatin-induced neuropathic pain. 2016 International Calcium channel Meeting. (Hoi An, Vietnam) 2016.10.
- 382) \* Kawabata A., Tomita S. :Mechanisms of Cav3.2 upregulation in neuropathic pain models. 2016 International Calcium channel Meeting. (Hoi An, Vietnam) 2016.10.
- 383) \* Kawabata A. :Roles of TLR4 and RAGE targeted by high mobility group box 1 in inflammatory and chemotherapy-induced peripheral neuropathy. 16th World Congress on Pain(Yokohama, Japan) 2016.9. (Invited speaker)
- 384) \*Terada Y., Tsubota M., Sekiguchi F., Wada K., Kuwahara T., Takada M., Kawabata A. :Tacrolimus causes relapse of pancreatic pain through TRPV1 activation during the recovery from cerulein-induced pancreatitis

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- in mice. 16th World Congress on Pain(Yokohama, Japan) 2016.9.
- 385) \* Miyazaki T., Fukuda R., Tsubota M., Kawabata A.: Cav3.2 T-type calcium channels contribute to oxaliplatin-induced neuropathic pain in mice. 16th World Congress on Pain(Yokohama, Japan) 2016.9.
- 386) \* Domoto R., Yamasoba D., Yamanishi H., Sekiguchi F., Tsubota M., Nishibori M., Kawabata A.: Macrophage-derived HMGB1 participates in lipopolysaccharide-induced inflammatory hyperalgesia and paclitaxel-induced neuropathic pain in mice. 16th World Congress on Pain(Yokohama, Japan) 2016.9.
- 387) \*川畑篤史: HMGB1 研究の新展開 ～免疫系と神経系のクロストークにおける役割～. 第31回日本救命医療学会総会・学術集会 イブニングセミナー(福岡)2016.9.(招待講演)
- 388) \*川畑篤史: トロンボモジュリンアルファの内臓痛治療への応用. 第44回日本潰瘍学会 シンポジウム「医薬品の消化器病への適用拡大における理論構築 ～これぞ消化器薬理の力」(旭川)2016.9.(シンポジウムスピーカー)
- 389) \*平本志於里、山口薫、坪田真帆、田中潤一、関口富美子、石倉宏恭、西堀正洋、川畑篤史: シクロホスファミド誘起間質性膀胱炎様マウスにおける膀胱痛に関与する HMGB1/RAGE 系と H<sub>2</sub>S/Cav3.2 系の相互関係. 生体機能と創薬シンポジウム 2016(仙台)2016.8.
- 390) \*平本志於里、山口薫、坪田真帆、田中潤一、関口富美子、石倉宏恭、西堀正洋、川畑篤史: シクロホスファミド誘起膀胱痛にはマクロファージ由来 HMGB1 による RAGE を介する H<sub>2</sub>S 産生酵素の発現誘導が関与する. 生体機能と創薬シンポジウム 2016(仙台)2016.8.
- 391) \*坪田真帆、福田亮太郎、宮崎貴也、川畑篤史: Oxaliplatin 誘起神経障害性疼痛への Cav3.2 T 型カルシウムチャネルの関与. 生体機能と創薬シンポジウム 2016(仙台)2016.8.
- 392) \*坪田真帆、福田亮太郎、宮崎貴也、堂本莉紗、上谷夏生、西田武司、関口富美子、石倉宏恭、西堀正洋、川畑篤史: Oxaliplatin 誘起神経障害性疼痛の発現メカニズムの解析: HMGB1 とその標的分子の関与について. 次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム 2016(仙台)2016.8.
- 393) \*坪田真帆、福田亮太郎、宮崎貴也、川畑篤史: Oxaliplatin 誘起神経障害性疼痛への HMGB1 の関与: その由来と標的分子について. 次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム 2016(仙台)2016.8.
- 394) \* Kawabata A., Irie Y., Tsubota M., Sekiguchi F., Ishikura H., Nishibori M.: High mobility group box 1 mediates pancreatic pain in mice. Physiology 2016 (Dublin, Ireland) 2016.7.
- 395) \* Sekiguchi F., Sugimoto R., Imanishi M., Ueda N., Kawabata A.: Macrophage-derived high mobility group box 1 enhances neuritogenesis via NMDA receptors in neuron-like NG108-15 cells. Physiology 2016 (Dublin, Ireland) 2016.7.
- 396) \*Domoto R., Yamasoba D., Yamanishi H., Sekiguchi F., Tsubota M., Nishibori M., Kawabata A.: Involvement of macrophage-derived high mobility group box 1 in paclitaxel-induced neuropathic pain in mice. Physiology 2016 (Dublin, Ireland) 2016.7.
- 397) \* Hiramoto S., Tsubota M., Yamguchi K., Tanaka J., Sekiguchi F., Ishikura H., Nishibori M., Kawabata A.: Macrophage-derived high mobility group box 1 mediates H<sub>2</sub>S-dependent bladder pain in mice with cyclophosphamide-induced cystitis. Physiology 2016 (Dublin, Ireland) 2016.7.
- 398) \* Maeda M., Irie Y., Tsubota M., Kubo L., Sekiguchi F., Ishikura H., Nishibori M., Kawabata A.: High mobility group box 1 mediates substance P-induced bladder pain in mice, a model for bladder pain syndrome. Physiology 2016 (Dublin, Ireland) 2016.7.
- 399) \*富田詩織、式見志勇、関口富美子、坪田真帆、川畑篤史: ラットあるいはマウスの神経障害性疼痛に関与する一次知覚神経における Cav3.2 T 型 Ca<sup>2+</sup>チャネルの発現誘導メカニズム. 第38回日本疼痛学会(札幌)2016.6.
- 400) \*堂本莉紗、山嵜大智、山西広樹、関口富美子、坪田真帆、西堀正洋、川畑篤史: マクロファージ由来

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- HMGB1 は lipopolysaccharide 誘起炎症性疼痛と paclitaxel 誘起神経障害性疼痛に関与する. 第 38 回日本疼痛学会(札幌)2016.6.
- 401) \*坪田真帆、福田亮太郎、宮崎貴也、西田武司、石倉宏恭、西堀正洋、川畑篤史: Oxaliplatin 誘起神経障害性疼痛にはマクロファージ以外の細胞に由来する HMGB1 が関与する. 第 129 回日本薬理学会近畿部会(広島)2016.6.
- 402) \*天羽一騎、大野堇、関口富美子、川畑篤史: マウス後根神経節細胞において硫化水素ドナーおよび膜透過性 cyclic AMP アナログは T 型 Ca<sup>2+</sup>チャネルを介して神経突起伸長を誘起する:細胞サイズによる効果の違いについて. 第 129 回日本薬理学会近畿部会(広島)2016.6.
- 403) \*松井和樹、中野真希、石井優子、寺田侑加、坪田真帆、川畑篤史: 結腸痛の発症における侵害受容ニューロン発現分子 TRPV1、PAR2 および Cav3.2 の役割について. 第 129 回日本薬理学会近畿部会(広島)2016.6.
- 404) \* Koyama A., Matsuo K., Yoshie O., Nakayama T.: CCR4 is involved in Th17 expansion and induction of Th17-mediated CD8+ effector T cells in mice bearing intradermal B16 melanoma. 第45回日本免疫学会学術集会(那覇)2016.12.
- 405) \* Yamamoto S., Matsuo K., Yoshie O., Nakayama T.: A CC3 variant of lymphotactin/XCL1 (XCL1-CC3) functions as a potent adjuvant to accumulate CD103+XCR1+ cross-presenting dendritic cells and induce antigen-specific CD8+ T cell responses. 第45回日本免疫学会学術集会(那覇)2016.12.
- 406) \* Komori Y., Matsuo K., Yoshie O., Nakayama T.: Development of a novel mouse model for atopic dermatitis and roles of CCR4 in pathogenesis of atopic dermatitis. 第45回日本免疫学会学術集会(那覇)2016.12.
- 407) \*小山 篤、松尾一彦、義江 修、中山隆志: メラノーマに対する抗腫瘍免疫応答におけるケモカイン受容体CCR4の役割—CCR4はTh17細胞を介した腫瘍免疫の活性化に寄与する—. 第66回日本薬学会近畿支部総会・大会(高槻)2016.10.
- 408) \*小森悠平、松尾一彦、権 英淑、神山文男、義江 修、中山隆志: 新規マウスモデルを用いたアトピー性皮膚炎発症におけるケモカイン受容体CCR4の寄与. 第66回日本薬学会近畿支部総会・大会(高槻)2016.10.
- 409) \*畑中翔太、松尾一彦、小森悠平、木村勇太、権 英淑、神山文男、中山隆志: 親水性ゲルパッチを用いた新規迅速アトピー性皮膚炎モデルマウスの作製. 第66回日本薬学会近畿支部総会・大会(高槻)2016.10.
- 410) \*山田祐毅、松尾一彦、小山 篤、義江 修、中山隆志: CCR4阻害剤によるTreg抑制は筋肉内投与ワクチンの効果を向上させる. 第66回日本薬学会近畿支部総会・大会(高槻)2016.10.
- 411) \*長沼孝典、松尾一彦、義江 修、中山隆志: ケモカイン受容体CCR4およびCCR6遺伝子欠損による乾癬発症への影響. 第66回日本薬学会近畿支部総会・大会(高槻)2016.10.
- 412) \*北畑孝祐、松尾一彦、義江 修、中山隆志: 高活性型lymphotactin/XCL1を用いたがんワクチンアジュバントの開発. 第66回日本薬学会近畿支部総会・大会(高槻)2016.10.
- 413) \* Moriyama H., Moriyama M., Hayakawa T.: Role of Notch signaling in glycolysis regulation under hypoxic conditions. 14<sup>th</sup> International Society for Stem Cell Research 2016(San Francisco, CA USA) 2016.6.
- 414) \*森山博由、森山麻里子、早川堯夫: ヒト脂肪由来間葉系幹細胞の糖代謝制御機構. 同志社大学リトリート(滋賀)2016.8.
- 415) \*野沢一樹、森山博由、森山麻里子、早川堯夫: 低酸素状態下でのヒト脂肪由来間葉系幹細胞における Notch シグナルの役割 第66回日本薬学会近畿支部会。(大阪)2016.10.
- 416) \* Morita T., Inoue S., Marutani Y., Moriyama H., Moriyama M., Ninomiya K., Morikawa T., Hayakawa T.:



法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

Inhibitory Effects of Oligostilbenoids from Bark of *Shorea roxburghii* on Malignant Melanoma Cell Growth: Implications for a Candidate of Novel Topical Anticancer Agents. 12t ICCP. (Osaka, Japan) 2016.10.

417) \*Yamamoto T., Shiburo R., Mitamura K., Taga A.: Identificaiton of antitumor component in maple syrup to develop novel anti-cancer drugs for colorectal cancer. 第75回日本癌学会学術総会(横浜)2016.10.

418) \* Kubota C., Yamamoto T., Mitamura K., Taga A.: The role of maple syrup on cell proliferation of colorectal cancer cells. 第75回日本癌学会学術総会(横浜)2016.10.

419) \* Yamamoto T., Shiburo R., Mitamura K., Taga A.: Protein component in maple syrup has a potential to develop novel anti-cancer drugs for colorectal cancer. 米国消化器病週間(DDW2016) (San Diego, USA) 2016.5.

420) \* Takakura H., Yamamoto T., Mitamura K., Kudo M., Naito Z., Taga A.: The role of cyclophilin A as a novel therapeutic target of colorectal cancer based on proteome analysis using formalin-fixed and paraffin embedded colorectal cancer tissue. 米国消化器病週間(DDW2016) (San Diego, USA) 2016.5.

421) \*小森悠平、樋口智紀、松尾一彦、義江 修、中山隆志: 新規発がん遺伝子SOX4による成人ヒトT細胞白血病/リンパ腫(ATLL)の新たな発がん機構の解明. 日本薬学会第136年会(横浜)2016.3.

422) \*小山 篤、松尾一彦、西脇敬二、義江 修、中山隆志: 抗原特異的免疫応答の誘導におけるケモカイン受容体CCR4の役割ならびにCCR4阻害剤のアジュバント活性評価. 日本薬学会第136年会(横浜)2016.3.

423) \*藤里 駿、松尾一彦、小森悠平、権 英淑、神山文男、中山隆志: 新規迅速アトピー性皮膚炎モデルマウスの作製ならびにケモカイン受容体CCR4の寄与. 日本薬学会第136年会(横浜)2016.3.

424) \*伊藤茉奈、松尾一彦、小森悠平、中山隆志: イミキモド誘発性乾癬の発症におけるケモカイン受容体CCR4の寄与ならびにCCR4阻害剤の治療効果. 日本薬学会第136年会(横浜)2016.3.

425) \*川端史花、松尾一彦、長谷川裕太、西馬 伶、中山隆志: ケモカインLymphotoctin/XCL1を用いたCTL誘導アジュバントの開発. 日本薬学会第136年会(横浜)2016.3.

426) \*山本真也、松尾一彦、藤田 貢、義江 修、中山隆志: 腸管免疫におけるケモカインMEC/CCL28の役割. 日本薬学会第136年会(横浜)2016.3.

427) \*森山博由、早川堯夫: ヒト幹細胞の造腫瘍性における病態解明とその克服に関する研究. AMED 再生医療交換シンポジウム(東京)2016.1.

428) \*山本哲志、三田村邦子、多賀 淳: メープルシロップ投与による大腸癌細胞増殖抑制機構の検討. 日本薬学会第136年会(横浜)2016.3.

429) 三田村邦子、森 莉子、上田麻美子、亀井美希、山本哲志、多賀 淳: LC/ESI-MS による乾燥ろ紙尿中糖質コルチコイド代謝物スクリーニング法の開発. 日本薬学会第136年会(横浜)2016.3.

430) \*高倉英樹、山本哲志、三田村邦子、工藤光洋、内藤善哉、多賀 淳: ショットガンプロテオミクス解析に基づく、大腸癌における新規治療標的 CyclophilinA の役割. 日本薬学会第136年会(横浜)2016.3.

431) 久保田千晶、山本哲志、上村健太郎、澤岬有喜、三田村邦子、多賀 淳: スッポンからのコラーゲン抽出法の最適化. 日本薬学会第136年会(横浜)2016.3.

432) \* Kawabata A.: T-type calcium channels and neuropathic/visceral pain. Symposium entitled “Ion channels and pain: current research trends” organized by Kawabata, Tanabe and Zamponi. 日本薬学会第136年会(横浜)2016.3.(シンポジウムスピーカー)

433) \*尾崎友香、坪田真帆、川畑篤史: Cyclophosphamide 誘起膀胱炎・膀胱痛マウスにおける硫化水素/T型Ca<sup>2+</sup>チャネル系の役割-下部尿路機能障害に対する新たな治療標的分子としての可能性. 院生シンポジウム「次世代若手研究者の挑戦!～難治性疾患に対する新たな創薬ストレテジー～」(オーガナイザー: 福重・尾崎)日本薬学会第136年会(横浜)2016.3.(シンポジウムスピーカー)

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 434) \*入江悠平、坪田真帆、関口富美子、石倉宏恭、西堀正洋、川畑篤史:急性膵炎に伴う膵臓痛へのマクロファージ由来 HMGB1 の関与: RAGE および CXCR4 の標的分子としての役割. 第 89 回日本薬理学会年会(横浜)2016.3.
- 435) \*富田詩織、式見仕勇、関口富美子、坪田真帆、白井亮洋、西堀正洋、川畑篤史: 亜鉛欠乏により誘起されるマウス痛覚過敏: Cav3.2 T 型  $Ca^{2+}$ チャネルと high mobility group box 1 の関与. 第 89 回日本薬理学会年会(横浜)2016.3.
- 436) \*大野 堇、山岡 桜、関口富美子、市井真貴、藤田友代、出口貴浩、坪田真帆、西川裕之、吉田 繁、村田和也、松田秀秋、豊岡尚樹、大久保つや子、川畑篤史: 新規 T 型  $Ca^{2+}$ チャネル阻害薬 sophoraflavanone G と 6-prenylnarigenin の薬理作用解析: 電気生理学的性質の違いとマウスにおける痛覚過敏抑制作用. 第 89 回日本薬理学会年会(横浜)2016.3.
- 437) \*前田真理子、入江悠平、坪田真帆、久保里紗、関口富美子、石倉宏恭、西堀正洋、川畑篤史: Substance P 誘起間質性膀胱炎/膀胱痛症候群モデルマウスにおけるマクロファージ由来 HMGB1 の役割. 第 89 回日本薬理学会年会(横浜)2016.3.
- 438) \*関口富美子、杉本 陵、今西未己、川畑篤史: 神経およびマクロファージ由来 HMGB1 は NMDA 受容体を介して神経前駆様 NG108-15 細胞の神経突起伸張を促進する. 第 89 回日本薬理学会年会(横浜)2016.3.
- 439) \*坪田真帆、山岨大智、堂本莉紗、関口富美子、西堀正洋、川畑篤史: 末梢組織中においてレドックス状態の異なる HMGB1 により誘起される痛覚過敏メカニズムの相違. 第 89 回日本薬理学会年会(横浜)2016.3.
- 440) \*松岡順紀、尾崎友香、坪田真帆、川畑篤史: 亜鉛キレーターは T 型  $Ca^{2+}$ チャネルの機能増強により cyclophosphamide 誘起膀胱炎に伴う膀胱痛を増強する. 第 89 回日本薬理学会年会(横浜)2016.3.
- 441) \*木野稔己、椿正寛、武田朋也、眞下恵次、山添譲、阪口勝彦、西田升三: Survivin は多発性骨髄腫の vincristine 耐性獲得に寄与する. 日本薬学会第 136 回年会(横浜)2016.3.
- 442) \*武田朋也、椿正寛、木野稔己、眞下恵次、山添譲、阪口勝彦、西田升三: NIK 阻害剤による多発性骨髄腫の細胞死誘導効果及びその作用機序の解明. 日本薬学会第 136 回年会(横浜)2016.3.
- 443) \*椿正寛、武田朋也、木野稔己、藤原大一郎、山添譲、阪口勝彦、西田升三: PKC 及び MEK 阻害剤によるオキサリプラチン誘発末梢神経障害の抑制及び抗腫瘍効果の増強. 日本薬学会第 136 回年会(横浜)2016.3.
- 444) \*西田升三: 抗がん剤耐性克服を目指した分子標的の探索と治療法の開発. 日本薬学会第 136 回年会(横浜)2016.3.
- 445) Iwaki M., Bandoh S., Kawase A., Komura H., Niwa T.: Contribution of human hepatic cytochrome P450 isoforms to the stereoselective oxidation of carvedilol. 日本薬物動態学会 第 30 回年会(東京)2015.11.
- 446) Kawase A., Hata S., Takagi M., Iwaki M.: Inhibitory effects of pravastatin on the expression of intestinal Niemann-pick C1 like 1. 日本薬物動態学会 第 30 回年会(東京)2015.11.
- 447) \*小野祐輝、窪内康二、木戸友絵、澤田奈々、二村信之、山下真理奈、川瀬篤史、岩城正宏、向井秀幸、喜多綾子、佐藤亮介、杉浦麗子: Protein Kinase N ファミリー遺伝子改変マウスを用いた薬物代謝酵素の解析. 第 65 回 日本薬学会近畿支部総会・大会(大阪)2015.10.
- 448) \*武田朋也、椿正寛、木野稔己、西田升三: Bisphosphonates 及び statins による多発性骨髄腫での MIP-1 $\alpha$  分泌抑制効果. 第 65 回日本薬学会近畿支部総会・大会(大阪)2015.10.
- 449) \*椿正寛、武田朋也、木野稔己、西田升三: RANK/RANKL によるシグナル伝達因子活性化を介した抗がん剤耐性獲得機序. 第 65 回日本薬学会近畿支部総会・大会(大阪)2015.10.
- 450) \*磯山翔太、椿正寛、武田朋也、西田升三: 新規 NIK 阻害剤による細胞死誘導効果とその機序の解明.

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 第 65 回日本薬学会近畿支部総会・大会(大阪)2015.10.
- 451) \*野口正樹、椿正寛、武田朋也、西田升三:大腸癌における MEK 阻害剤抵抗性因子の解析. 第 65 回日本薬学会近畿支部総会・大会(大阪)2015.10.
- 452) \*安原翔大、椿正寛、武田朋也、西田升三:PKC 阻害剤はオキサリプラチン誘発末梢神経障害を抑制し抗腫瘍効果を増強させる. 第 65 回日本薬学会近畿支部総会・大会(大阪)2015.10.
- 453) \*木野稔己、椿正寛、武田朋也、西田升三:Vincristine 耐性多発性骨髄腫での Survivin 発現増加が耐性獲得に中心的役割を果たす. 第 65 回日本薬学会近畿支部総会・大会(大阪)2015.10.
- 454) \*木野稔己、椿正寛、武田朋也、小川直希、石坂敏彦、西田升三:Dimethyl fumarate による NF-kappaB 阻害を介したアポトーシス誘導効果. 第 74 回日本癌学会学術総会(名古屋)2015.10.
- 455) \*西田升三、椿正寛、武田朋也、眞下恵次、藤原大一郎、阪口勝彦:Survivin の発現増加が多発性骨髄腫における vincristine 耐性に中心的な役割を果たす. 第 74 回日本癌学会学術総会(名古屋)2015.10.
- 456) \*武田朋也、椿正寛、木野稔己、眞下恵次、藤原大一郎、阪口勝彦、西田升三:Bisphosphonates 及び statins による骨髄腫での Ras 経路阻害を介した MIP-1alpha 発現抑制効果. 第 74 回日本癌学会学術総会(名古屋)2015.10.
- 457) \*椿正寛、武田朋也、中橋拓也、小川直希、石坂敏彦、西田升三:PKC 阻害剤はオキサリプラチン誘導末梢神経障害を抑制するとともに抗腫瘍効果を増強させる. 第 74 回日本癌学会学術総会(名古屋)2015.10.
- 458) \*木野稔己、椿正寛、武田朋也、藤田亜梨沙、中橋拓也、小川直希、山添譲、石坂敏彦、西田升三:Dimethyl fumarate による NF-kappaB 阻害を介したアポトーシス誘導効果. 第 19 回日本がん分子標的治療学会(松山)2015.6.
- 459) \*中橋拓也、椿正寛、武田朋也、藤田亜梨沙、木野稔己、眞下恵次、藤原大一郎、山添譲、阪口勝彦、西田升三:Vincristine 耐性多発性骨髄腫においてシグナル伝達経路を介した Survivin 発現増加が耐性獲得の中心的役割を果たす. 第 19 回日本がん分子標的治療学会(松山)2015.6.
- 460) \*椿正寛、武田朋也、藤田亜梨沙、木野稔己、中橋拓也、小川直希、山添譲、石坂敏彦、西田升三:PKC/MEK 阻害剤により oxaliplatin 誘導末梢神経障害を抑制できる. 第 19 回日本がん分子標的治療学会(松山)2015.6.
- 461) \*武田朋也、椿正寛、藤田亜梨沙、木野稔己、中橋拓也、眞下恵次、藤原大一郎、山添譲、阪口勝彦、西田升三:Bisphosphonates 及び statins による骨髄腫での MIP-1α 分泌抑制効果-ドラッグリポジショニングによる骨破壊因子抑制剤の開発-. 第 19 回日本がん分子標的治療学会(松山)2015.6.
- 462) \*富田詩織、式見志勇、関口富美子、坪田真帆、川畑篤史:神経障害性疼痛モデル動物の後根神経節における Cav3.2 T 型カルシウムチャネルの発現誘導メカニズムの解析. 痛み研究会 2015(岡崎)2015.12.
- 463) \*入江悠平、坪田真帆、関口富美子、石倉宏恭、西堀正洋、川畑篤史:マクロファージ由来 high mobility group box 1 はセルレイン誘起急性膀胱炎およびサブスタンス P 誘起間質性膀胱炎/膀胱痛症候群モデルにおける内臓痛に関与する. 痛み研究会 2015(岡崎)2015.12.
- 464) \*堂本莉紗、山嵜大智、山西広樹、関口富美子、坪田真帆、西堀正洋、川畑篤史. マクロファージ由来 high mobility group box 1 はマウスにおける lipopolysaccharide 誘起炎症性痛覚過敏及び抗癌剤 paclitaxel 誘起神経障害性疼痛に関与する. 第 128 回日本薬理学会近畿部会(豊中)2015.11.
- 465) \*入江悠平、前田真理子、久保理沙、坪田真帆、関口富美子、石倉宏恭、西堀正洋、川畑篤史:High mobility group box 1 は substance P 誘起膀胱痛症候群モデルマウスにおける関連痛覚過敏の発現・維持に関与する. 第 128 回日本薬理学会近畿部会(豊中)2015.11.
- 466) \*尾崎友香、松岡順紀、坪田真帆、富田詩織、関口富美子、南武志、川畑篤史:Cyclophosphamide 誘起膀胱炎マウスにおける膀胱痛は亜鉛欠乏により増強される:T 型 Ca<sup>2+</sup>チャネルの関与について. 第 128 回

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 日本薬理学会近畿部会(豊中)2015.11.
- 467) \*大野董、山岡桜、関口富美子、市井真貴、藤田友代、出口貴浩、坪田真帆、西川浩之、吉田繁、村田和也、松田秀秋、豊岡尚樹、大久保つや子、川畑篤史: Sophoraflavanone G とその類縁体 6-prenylnaringenin の T 型 Ca<sup>2+</sup>チャネル阻害作用の電気生理学的特徴と各種疼痛モデルでの有効性. 第 128 回日本薬理学会近畿部会(豊中)2015.11.
- 468) \* Kawabata A., Tsubota M., Yamaguchi K., Hiramoto S., Sekiguchi F., Tanaka J., Ishikura H., Nishibori M. : Bladder pain accompanying cyclophosphamide-induced mouse cystitis involves HMGB1 release upstream of the cystathionine-gamma-lyase/H<sub>2</sub>S/Cav3.2 pathway in the bladder tissue. Neuroscience 2015 (Chicago, USA) 2015.10.
- 469) \* Sekiguchi F., Amo I., Ono S., Kawabata A. : Hydrogen sulfide and intracellular cyclic AMP enhance T-type calcium channel-dependent neurite outgrowth in distinct subpopulations of isolated and dissociated mouse dorsal root ganglion neurons. Neuroscience 2015 (Chicago, USA) 2015.10.
- 470) \* Irie Y., Tsubota M., Sekiguchi F., Ishikura H., Nishibori M., Kawabata A. : Macrophage-derived high mobility group box 1 participates in the development and maintenance of pancreatic pain through the activation of RAGE and CXCR4 in mice with cerulein-induced acute pancreatitis. Neuroscience 2015 (Chicago, USA) 2015.10.
- 471) \* Ozaki T., Matsuoka J., Tsubota M., Tomita S., Sekiguchi F., Minami T., Kawabata A. : Zinc deficiency aggravates bladder pain accompanying cyclophosphamide-induced cystitis through the enhanced activity of Cav3.2 T-type Ca<sup>2+</sup> channels in mice. Neuroscience 2015 (Chicago, USA) 2015.10.
- 472) \* Miyamoto T., Funakami Y., Kawasita E., Nomura A., Sugimoto N., Ichida S., Kawabata A. : Chronic stress enhances the hyperthermia in response to acute restraint stress. Neuroscience 2015 (Chicago, USA) 2015.10.
- 473) \* Ono S., Ichii M., Yamaoka S., Sekiguchi F., Fujita T., Deguchi T., Tsubota M., Nishikawa H., Yoshida S., Murata K., Matsuda H., Toyooka N., Ohkubo T., Kawabata A. : The electrophysiological property and antihyperalgesic activity of sophoraflavanone G and 6prenylnaringenin, novel T-type calcium channel blockers. Neuroscience 2015 (Chicago, USA) 2015.10.
- 474) \* Tomita S., Sekiguchi F., Tsubota M., Kawabata A. : Molecular mechanisms for the upregulation of Cav3.2 T-type calcium channels in the dorsal root ganglion of rats with spinal nerve injury-induced neuropathy: involvement of Egr-1 and USP5. Neuroscience 2015 (Chicago, USA) 2015.10.
- 475) \* 上谷夏生、西田武司、山西広樹、坪田真帆、関口富美子、石倉宏恭、西堀正洋、川畑篤史: Vincristine 誘起神経障害性疼痛の発現および維持における核内タンパク HMGB1 の役割. 第 65 回日本薬学会近畿支部総会・大会(富田林)2015.10.
- 476) \* 山岡桜、大野董、市井真貴、関口富美子、藤田友代、出口貴浩、坪田真帆、吉田繁、村田和也、松田秀秋、大久保つや子、川畑篤史: 参由来新規 T 型 Ca<sup>2+</sup>チャネル阻害薬 sophoraflavanone G およびその類縁体の薬理作用解析. 第 65 回日本薬学会近畿支部総会・大会(富田林)2015.10.
- 477) \* 原田成信、伊藤由香里、高嶋一平、王子田彰夫、川畑篤史. 硫化水素によって惹起された外有毛細胞の TRPV4 受容体を介したストア作動性カルシウム流入. 第 25 回日本耳科学会総会(長崎)2015.10.
- 478) \* Kawabata A., Tsubota M., Uebo K., Miki K., Sekiguchi F., Fukuda R., Kondo Y., Takahashi K., Masutomi H., Ishigami A. : Vitamin C deficiency aggravates hydrogen sulfide-induced pain/hyperalgesia and chemotherapy-induced neuropathy in mice: possible involvement of T-type calcium channels. 9th Congress of the European Pain Federation EFIC (Vienna, Austria) 2015.9.
- 479) \* 坪田真帆、上坊健太、三木好輝、福田亮太郎、関口富美子、近藤嘉高、高橋経太、増富裕文、石神昭人、川畑篤史: Ascorbic acid 欠乏は、Cav3.2 T 型 Ca<sup>2+</sup>チャネルを介する痛みを増強する. 次世代を担う創

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 薬・医療薬理シンポジウム 2015(東京)2015.8.
- 480) \*富田詩織、関口富美子、坪田真帆、川畑篤史: 第 5 腰神経切断誘起神経障害性疼痛ラットの後根神経節における Cav3.2 の発現量増加機序の解析: 転写促進因子 Egr-1 による発現誘導と脱ユビキチン化酵素 USP5 によるプロテアソーム分解抑制. 次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム 2015(東京)2015.8.
- 481) \*大野 董、天羽一騎、関口富美子、川畑篤史: マウス脊髄後根神経節細胞における硫化水素ドナー Na2S の T 型カルシウムチャネルを介した神経突起伸長促進効果: 細胞の大きさによる効果の違いについて. 次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム 2015(東京)2015.8.
- 482) \*堂本莉紗、山岨大智、山西広樹、関口富美子、坪田真帆、西堀正洋、川畑篤史: マウスにおける lipopolysaccharide 誘起炎症性痛覚過敏および抗癌剤 paclitaxel 誘起神経障害性疼痛へのマクロファージ由来 high mobility group box 1 の関与. 次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム 2015(東京)2015.8.
- 483) \*式見仕勇、富田詩織、関口富美子、坪田真帆、岸岡史郎、川畑篤史: マウスの坐骨神経部分結紮誘起神経障害性疼痛における Cav3.2 T 型 Ca<sup>2+</sup>チャネルの役割. 次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム 2015(東京)2015.8.
- 484) \*川畑篤史: 内臓痛の新しい治療標的分子: T 型 Ca<sup>2+</sup>チャネルと HMGB1. 生体機能と創薬シンポジウム 2015(船橋)2015.8.(シンポジウム・スピーカー)
- 485) \*大野 董、市井真貴、山岡 桜、関口富美子、藤田友代、出口貴浩、坪田真帆、西川裕之、吉田 繁、村田和也、松田秀秋、豊岡尚樹、大久保つや子、川畑篤史: 新規 T 型カルシウムチャネル阻害薬 sophoraflavanone G および 6-prenylnaringenin の電気生理学的性質と痛覚過敏抑制効果. 生体機能と創薬シンポジウム 2015(船橋)2015.8.
- 486) \*富田詩織、関口富美子、坪田真帆、川畑篤史: ラット第 5 腰神経切断により誘起される神経障害性疼痛および脊髄後根神経節における Cav3.2 T 型 Ca<sup>2+</sup>チャネル発現増加への転写調節因子 Egr-1 と脱ユビキチン化酵素 USP5 の関与. 生体機能と創薬シンポジウム 2015(船橋)2015.8.
- 487) \*川畑篤史: PAR2 と痛み. 日本ペインクリニック学会第 49 回大会(大阪)2015.7.(招待: 招請講演)
- 488) \*坪田真帆、石井優子、中野真希、梶谷梨絵、西堀正洋、川畑篤史: Butyrate 誘起過敏性腸症候群モデルマウスにおける結腸痛覚過敏への T 型 Ca<sup>2+</sup>チャネルおよび HMGB1 の関与. 第 127 回日本薬理学会近畿部会(岐阜)2015.6.
- 489) \*入江悠平、坪田真帆、関口富美子、石倉宏恭、西堀正洋、川畑篤史: Cerulein 誘起マウス急性膵炎モデルにおける膵臓痛の発現・維持にはマクロファージ由来 high mobility group box 1 による RAGE および CXCR4 の活性化が関与する. 第 127 回日本薬理学会近畿部会(岐阜)2015.6.
- 490) \*Matsuo K., Fujita M., Nakayama T., Yoshie O.: The impact of CCL28-deficiency in mucosal immunity. 第 44回日本免疫学会学術集会(札幌)2015.10.
- 491) \*伊藤茉奈、松尾一彦、藤田 貢、義江 修、中山隆志: DSS 誘発性大腸炎におけるケモカイン MEC/CCL28 の役割. 第 65 回日本薬学会近畿支部総会・大会(富田林)2015.10.
- 492) \*今川ひかる、松尾一彦、藤里 駿、小森悠平、中山隆志: イミキモド誘発性乾癬におけるケモカイン受容体 CCR4 の役割. 第 65 回日本薬学会近畿支部総会・大会(富田林)2015.10.
- 493) \*小山 篤、松尾一彦、西脇敬二、義江 修、中山隆志: 抗原特異的免疫応答におけるケモカイン受容体 CCR4 の役割. 第 65 回日本薬学会近畿支部総会・大会(富田林)2015.10.
- 494) \*藤里 駿、松尾一彦、小森悠平、権 英淑、神山文男、中山隆志: 新規迅速アトピー性皮膚炎モデルマウスの作製およびケモカイン受容体 CCR4 の寄与. 第 65 回日本薬学会近畿支部総会・大会(富田林)2015.10.
- 495) \*小森悠平、樋口智紀、松尾一彦、義江 修、中山隆志: Fra-2-SOX4 経路を介した成人ヒト T 細胞白血病/リンパ腫 (ATLL) の発がん機構. 第 65 回日本薬学会近畿支部総会・大会(富田林)2015.10.

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 496) \*長谷川悠太、松尾一彦、中山隆志: 高活性型Lymphotactin/XCL1の作製ならびにCTL誘導能. 第65回日本薬学会近畿支部総会・大会(富田林)2015.10.
- 497) \*森山博由、森山麻里子、小澤俊之、大倉華雪、松山晃文: 低酸素状態を経た脂肪由来間葉系幹細胞機能亢進の不可逆性 ~Notch シグナルと解糖系調節機構~. 第14回日本再生医療学会(横浜)2015.3.
- 498) \*Moriyama H., Moriyama M., Hayakawa T.: Role of Notch signaling in glycolysis regulation under hypoxic conditions. 13<sup>th</sup> International Society for Stem Cell Research 2015, Stockholm, Sweden, Stockholm) 2015.6.
- 499) \*Ikeda K., Moriyama H., Moriyama M., Hayakawa T.: DIFFERENTIATION OF DOPAMINERGIC NEURAL CELLS FROM HUMAN ADIPOSE-DERIVED MULTILINEAGE PROGENITOR CELLS. 13<sup>th</sup> International Society for Stem Cell Research 2015, Stockholm, Sweden, Stockholm)2015.6.
- 500) \*百合祐樹、森山博由、森山麻里子、早川堯夫: Notchシグナルは解糖系の亢進を介して間葉系幹細胞を維持する. 第6回生命機能研究会(大阪)2015.9. **優秀発表賞受賞**
- 501) \*百合祐樹、森山博由、森山麻里子、早川堯夫: 低酸素状態下のヒト間葉系幹細胞維持機構におけるNotchシグナルの役割. 第65回日本薬学会近畿支部会(大阪)2015.10.
- 502) \*大石実央、森山博由、森山麻里子、早川堯夫: NotchシグナルによるNF- $\kappa$ Bシグナル活性化はヒト間葉系幹細胞の解糖系を亢進させる. 第65回日本薬学会近畿支部会(大阪)2015.10.
- 503) \*Moriyama H., Moriyama M., Hayakawa T.: ROLE OF NOTCH SIGNALING IN GLYCOLYSIS REGULATION OF ADIPOSE-DERIVED MESCENCHYMAL STEM CELLS UNDER HYPOXIC CONDITIONS. 13th Annual IFATS Meeting. (Neworleans, USA)2015.11.
- 504) \*百合祐季、森山博由、森山麻里子、早川堯夫: Role of Notch signaling in the maintenance of human mesenchymal stem cells under hypoxic conditions. 近畿大学戦略的基盤形成支援事業後援シンポジウム(大阪)2015.11.
- 505) \*百合祐樹、森山博由、森山麻里子、早川堯夫: Role of Notch signaling in the maintenance of human mesenchymal stem cells under hypoxic conditions. 第38回日本分子生物学会年会、第88回日本生化学会大会 合同大会. (神戸)2015.12.
- 506) \*Yamamoto T., Kudo M., Peng WX., Takata H., Mitamura K., Taga A., Naito Z.: Proteomics using formalin-fixed paraffin-embedded colorectal tissue for identification of biomarker. 第74回日本癌学会学術総会(名古屋)2015.10.
- 507) \*Kubota C., Yamamoto T., Mitamura K., Taga A.: The effect of maple syrup on cell proliferation and invasion in colorectal cancer cells. 第74回日本癌学会学術総会(名古屋)2015.10.
- 508) Mitamura K., Kurabuchi S., Ueda M., Yamamoto T., Taga A., Ikegawa S.: Comparison of the sensitivity and selectivity for the CID and PQD mode in the analysis of conjugated steroids. 63rd ASMS conference (St. Louis, USA) 2015.5.
- 509) \*寺田侑加、坪田真帆、関口富美子、和田恭一、栗原健、高田充隆、川畑篤史: 急性膵炎・膵臓痛動物モデルを用いた病態解析: T型  $Ca^{2+}$ チャネルおよび TRPチャネルの役割. 「大学院生シンポジウム」日本薬学会第135年会(神戸)2015.3.(シンポジウムスピーカー)
- 510) \*天羽一騎、大野 董、関口富美子、川畑篤史: マウス後根神経節細胞において硫化水素ドナー $Na_2S$ はT型  $Ca^{2+}$ チャネルを介して神経突起伸長を促進する: 細胞の大きさによる効果の違いについて. 日本薬学会第135年会(神戸)2015.3.
- 511) \*福田亮太郎、山西広樹、坪田真帆、関口富美子、西田武司、石倉宏恭、西堀正洋、川畑篤史: HMGB1はoxaliplatin誘起神経障害性疼痛の発現および維持に関与する. 日本薬学会第135年会(神戸)2015.3.
- 512) \*日本薬学会第135年会. 浅野絵莉茄、深海和樹、関口富美子、泰川未来、笠松隆二、吉田繁、川畑篤

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 史:高グルコース条件下で培養した神経内分泌様分化ヒト前立腺癌 LNCaP 細胞における Cav3.2 T 型 Ca<sup>2+</sup>チャネルの糖鎖修飾による機能増強と分泌機能亢進. 日本薬学会第 135 年会(神戸)2015.3.
- 513) \*村上(中山)雅裕、屋馬佐紀、坪田真帆、関口富美子、松山賢治、木村 健、森山雅弘、川畑篤史:シクロホスファミド誘起膀胱炎マウスにおけるポラプレジンの予防・治療効果. 日本薬学会第 135 年会(神戸)2015.3.
- 514) \*坪田真帆、川畑篤史:HMGB1 を標的とする内臓痛治療. 第 88 回日本薬理学会年会(名古屋)2015.3. (シンポジウムスピーカー)
- 515) \*深海和樹、浅野絵莉茄、関口富美子、泰川未来、笠松隆二、吉田繁、川畑篤史:神経内分泌様分化した前立腺癌 LNCaP 細胞において高グルコース条件下での Cav3.2 T 型カルシウムチャネルの N-結合型グリコシル化により分泌機能が亢進する. 第 88 回日本薬理学会年会(名古屋)2015.3.
- 516) \*山嶋大智、関由加里、山西広樹、坪田真帆、関口富美子、八木秀樹、益子 高、西堀正洋、川畑篤史:マクロファージ由来 HMGB1 は NF-kB 系を介して炎症性痛覚過敏に寄与する. 第 88 回日本薬理学会年会(名古屋)2015.3.
- 517) \*富田詩織、関口富美子、坪田真帆、川畑篤史:神経障害性疼痛ラットの知覚神経における Cav3.2 T 型 Ca<sup>2+</sup>チャネル発現誘導には転写因子 Egr-1 および脱ユビキチン化酵素 USP5 が関与する. 第 88 回日本薬理学会年会(名古屋)2015.3.
- 518) \*屋馬佐紀、村上(中山)雅裕、坪田真帆、関口富美子、松山賢治、木村健、森山雅弘、川畑篤史:亜鉛含有製剤ポラプレジンの cyclophosphamide 誘起膀胱炎・膀胱痛に対する予防および治療効果. 第 88 回日本薬理学会年会(名古屋)2015.3.
- 519) \*山本哲志、上村健太郎、三田村邦子、多賀 淳:メープルシロップを用いた大腸癌抗腫瘍効果の検討. 日本薬学会第 135 年会(神戸)2015.3.
- 520) 三田村邦子、上田麻美子、山本哲志、多賀 淳、池川繁男:LC/ESI-MS/MS による尿中抱合型テトラヒドロコルチコステロイドのプロファイル分析. 日本薬学会第 135 年会(神戸)2015.3.
- 521) \*小山 篤、松尾一彦、西脇敬二、義江 修、中山隆志:ケモカイン受容体 CCR4 アンタゴニストの特性解析ならびにアジュバント活性評価. 日本薬学会第 135 年会(神戸)2015.3.
- 522) \*小森悠平、樋口智紀、松尾一彦、義江 修、中山隆志:成人ヒト T 細胞白血病/リンパ腫 (ATLL) 発がんにおける SOX4 の役割の解明. 日本薬学会第 135 年会(神戸)2015.3.
- 523) \*松尾一彦、北田卓也、重田暁子、藤田 貢、義江 修、中山隆志:ケモカイン MEC/CCL28 の腸管組織における生物学的役割. 日本薬学会第 135 年会(神戸)2015.3.
- 524) \*西馬 怜、松尾一彦、小泉桂一、義江 修、中山隆志:和漢薬ライブラリーを利用したケモカイン受容体 CCR3 及び CCR4 のアンタゴニスト成分の探索. 日本薬学会第 135 年会(神戸)2015.3.
- 525) Kawase A.:Academy of Pharmaceutical Science and Technology, Japan, Alterations in expression and function of ABC transporters and ERM proteins in inflammation. Global Education Seminar West 2014-1st (京都)2014.12.
- 526) Matsuyama K., Ohtori T., Kawase A., Iwaki M., Kimachi T., Ishi Y.:Development for hemiacetal ester of new quinolone avoiding chelation with metal containing drugs, together with avoiding pseudomembranous colitis. 19th North American Regional ISSX Meeting and 29th JSSX Meeting (San Francisco)2014.10.
- 527) Iwaki M., Kawase A., Sakata M., Nakasaka M., Kato Y.:Alterations in expression and function of ezrin/radixin/moesin proteins for transporters in adjuvant-induced arthritis rats. 19th North American Regional ISSX Meeting and 29th JSSX Meeting (San Francisco)2014.10.
- 528) Kawase A., Iwaki M.:Cell Signaling and Therapeutic Targets for Geriatric and Inflammatory Diseases, Alterations in expression and function of ABC transporters and ERM proteins in adjuvant-induced arthritis

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- rats. Anti-Aging International Mini-Symposium 2014(大阪)2014.6.
- 529) Iwaki M., Bandoh S., Itoh M., Yamasaki K., Komura H.: Species difference in stereoselective oxidation of carvedilol enantiomers in rat and human. The 5th FIP Pharmaceutical Sciences World Congress (Melbourne) 2014.4.
- 530) \* Kawabata A., Kawaishi Y., Nishida T., Yamanishi H., Kamitani N., Tsubota M., Sekiguchi F., Ishikura H., Nishibori M.: High mobility group box 1 as a target for prevention and therapeutic treatment of chemotherapy-induced neuropathic pain. Pharmacology 2014 (London, UK) 2014.12.
- 531) \* Terada Y., Tsubota M., Sekiguchi F., Wada K., Kuwahara T., Takada M., Kawabata K.: Effect of tacrolimus on caerulein-induced pancreatitis-related pain in mice. Pharmacology 2014 (London, UK) 2014.12.
- 532) \* Ozaki T., Tsubota M., Kawabata A.: The NK1 receptor antagonist prevents the cyclophosphamide-induced cystitis-related bladder pain and upregulation of cystathionine-γ-lyase, an H<sub>2</sub>S-generating enzyme, in mice. Pharmacology 2014 (London, UK) 2014.12.
- 533) \* Ohno S., Kanaoka D., Ide H., Sekiguchi F., Yoshida S., Fukunaga K., Kawabata A.: The novel cognitive enhancer ST101 induces neurite outgrowth in NG108-15 cells and hyperalgesia in mice through T-type Ca<sup>2+</sup> channels. Pharmacology 2014 (London, UK) 2014.12.
- 534) \* Irie Y., Kubo L., Tsubota M., Sekiguchi F., Ishimura H., Nishibori M., Kawabata A. Involvement of high mobility group box 1 in substance P-induced cystitis-related bladder pain in mice. Pharmacology 2014 (London, UK) 2014.12.
- 535) \* 寺田侑加、松井和樹、坪田真帆、関口富美子、和田恭一、栗原 健、高田充隆、川畑篤史: Calcineurin 阻害薬 tacrolimus は capsaicin 誘起結腸痛および cerulein 誘起急性膵炎関連痛を増強する. 第 126 回日本薬理学会近畿部会(和歌山)2014.10.
- 536) \* 富田詩織、関口富美子、坪田真帆、川畑篤史: 第 5 腰神経切断神経障害性疼痛ラットにおける Cav3.2 T 型 Ca<sup>2+</sup>チャネル発現増加機序の解析: 転写調節因子 Egr-1 と脱ユビキチン化酵素 USP5 の挙動について. 第 126 回日本薬理学会近畿部会(和歌山)2014.10.
- 537) \* 山嵜大智、関由加里、山西広樹、坪田真帆、関口富美子、八木秀樹、益子 高、西堀正洋、川畑篤史: マクロファージ由来 HMGB1 の炎症性痛覚過敏への関与と分子作用メカニズムの解析. 第 126 回日本薬理学会近畿部会(和歌山)2014.10.
- 538) \* Kawabata A.: Hydrogen sulfide: Importance of T-type calcium channels as the molecular target. International Symposium “Gasotransmitters: Physiology and Pathophysiology” (Kazan, Russia) 2014.9. (Invited lecture)
- 539) \* Ozaki T., Tsubota M., Kawabata A.: Mechanisms for upregulation of cystathionine-gamma-lyase, a hydrogen sulfide-generating enzyme, in mice with cyclophosphamide-induced cystitis: Involvement of substance P/NK1 pathway and NF-kappaB signals. International Symposium “Gasotransmitters: Physiology and Pathophysiology” (Kazan, Russia) 2014.9.
- 540) \* 富田詩織、瓦侑馬、関口富美子、川石雄大、坪田真帆、吉田 繁、大久保つや子、川畑篤史: 新規 T 型 Ca<sup>2+</sup>チャネル阻害薬 RQ-00311651 の電気生理学的性質および神経障害性疼痛に対する抑制効果. 次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム 2014(東大阪)2014.8.
- 541) \* 杉本陵、上田菜生、関口富美子、川畑篤史: Histone deacetylase 阻害薬は内因性 high mobility group box 1 遊離を介して神経前駆細胞株 NG108-15 細胞の神経突起伸長を誘起する. 次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム 2014(東大阪)2014.8.
- 542) \* 松井和樹、寺田侑加、坪田真帆、関口富美子、川畑篤史: Capsaicin 誘起結腸痛に対する calcineurin 阻害薬 FK506 の増強効果. 次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム 2014(東大阪)2014.8.



法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 543) \* Sekiguchi F., Kawabata A. Exploration of novel T-type Ca<sup>2+</sup> channel inhibitors for treatment of intractable pain. シンポジウム 5「Novel therapeutic strategy for treatment of pain」生体機能と創薬シンポジウム 2014 (東大阪)2014.8. (シンポジウムスピーカー)
- 544) \* 坪田真帆、川畑篤史:ヒト可溶性トロンボモジュリンを用いた痛みの治療:HMGB1 吸着・分解促進作用の関与. シンポジウム 4「血液凝固・線溶系関連因子を標的とした創薬研究の新展開」生体機能と創薬シンポジウム 2014(東大阪)2014.8. (シンポジウムスピーカー)
- 545) \* 寺田侑加、坪田真帆、関口富美子、和田恭一、栗原 健、高田充隆、川畑篤史: Calcineurin 阻害薬 tacrolimus は TRPV1 を介して cerulein 誘起急性膀胱炎関連痛を増強する. 生体機能と創薬シンポジウム 2014(東大阪)2014.8.
- 546) \* 屋馬佐紀、中山雅裕、坪田真帆、関口富美子、松山賢治、木村健、森山雅弘、川畑篤史. ポラプレジンは cyclophosphamide 誘起膀胱炎マウスにおける炎症症状および膀胱痛を抑制する. 生体機能と創薬シンポジウム 2014(東大阪)2014.8.
- 547) \* 中山雅裕、中村豪志、東 剛史、松山賢治、森山雅弘、木村 健、川畑篤史. ポラプレジンを使用した含嗽液の安定性と放射線性口腔粘膜炎に対する臨床評価. 生体機能と創薬シンポジウム 2014(東大阪)2014.8.
- 548) \* Kawabata A., Kawaiishi Y., Nishida T., Yamanishi H., Kamitani N., Tsubota M., Ishikura H., Sekiguchi F., Nishibori M. : Prevention and reversal of chemotherapy-induced neuropathic pain by HMGB1 neutralization in rodents. 9th FENS Forum of European Neuroscience (Milan, Italy) 2014.7.
- 549) \* Sekiguchi F., Fujita T., Deguchi T., Ichii M., Yamaoka S., Nishikawa H., Yoshida S., Murata K., Matsuda M., Ohkubo T., Kawabata A. : Sophoraflavanone G as a novel T-type Ca<sup>2+</sup> channel inhibitor: electrophysiological evidence in Cav3.2-expressing HEK293 cells and anti-hyperalgesic activity in mice. 9th FENS Forum of European Neuroscience (Milan, Italy) 2014.7.
- 550) \* 関口富美子、川畑篤史:新規 T 型 Ca<sup>2+</sup>チャネル阻害薬 sophoraflavanone G の薬理学的特徴と痛覚過敏抑制効果. 第 36 回日本疼痛学会(大阪)2014.6.
- 551) \* 久保里紗、坪田真帆、関口富美子、石倉宏恭、西堀正洋、川畑篤史:可溶性トロンボモジュリンおよび抗 HMGB1 中和抗体は lipopolysaccharide あるいは substance P 膀胱内注入により誘起される膀胱痛を抑制する. 第 125 回日本薬理学会近畿部会(岡山)2014.6.
- 552) \* 山口薫、田中潤一、坪田真帆、関口富美子、関由加里、石倉宏恭、西堀正洋、川畑篤史: Cyclophosphamide 誘起マウス膀胱炎モデルにおける膀胱痛発症メカニズムの解析:核内蛋白 HMGB1 と内因性 H<sub>2</sub>S の役割. 第 125 回日本薬理学会近畿部会(岡山)2014.6.
- 553) \* 上坊健太、三木好輝、坪田真帆、関口富美子、近藤嘉高、高橋経太、増富裕文、石神昭人、川畑篤史: Cav3.2 T 型 Ca<sup>2+</sup>チャネルを阻害する ascorbic acid の欠乏は硫化水素による体性痛・内臓痛および paclitaxel 誘起神経障害性疼痛を増強する. 第 125 回日本薬理学会近畿部会(岡山)2014.6.
- 554) \* 小椋彩加、関本晃己、関口富美子、川畑篤史:ヒト胃癌由来 AGS 細胞における内因性硫化水素の細胞増殖への関与とその下流シグナルの解析. 第 125 回日本薬理学会近畿部会(岡山)2014.6.
- 555) \* Fukami K., Kawabata A. : Roles of hydrogen sulfide and T-type calcium channels in neuroendocrine-differentiated prostate cancer cells at androgen-independent stage. Anti-Aging International Mini-Symposium 2014. “Cell Signaling and Therapeutic Targets for Geriatric and Inflammatory Diseases.” (Higashi-Osaka) 2014.6.
- 556) \* Kawabata A. : Roles of the hydrogen sulfide-Cav3.2 T-type calcium channel pathway in neuronal and neuroendocrine differentiation. Third International Conference on Hydrogen Sulfide in Biology and Medicine (Kyoto, Japan) 2014.6. (Invited lecture).

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 557) \* Sekiguchi E., Takeda Y., Kanaoka D., Yoshida S., Kawabata A.: Involvement of endogenous hydrogen sulfide and T-type calcium channels in cyclic AMP-induced neuronal differentiation in NG108-15 cells. Third International Conference on Hydrogen Sulfide in Biology and Medicine (Kyoto, Japan) 2014.6.
- 558) \* Tsubota M., Uebo K., Miki K., Sekiguchi F., Kondo Y., Takahashi K., Masutomi H., Ishigami A., Kawabata A.: Ascorbic acid deficiency augments hyperalgesia induced by hydrogen sulfide in mice. Third International Conference on Hydrogen Sulfide in Biology and Medicine (Kyoto, Japan) 2014.6.
- 559) \* 北田卓也、松尾一彦、重田暁子、藤田 貢、義江 修、中山隆志: ケモカインMEC/CCL28はIgA抗体産生細胞の腸管組織への遊走を制御することでDSS誘発性大腸炎の劇症化抑制に寄与する. 生体機能と創薬シンポジウム2014(東大阪)2014.8.
- 560) \* Moriyama H., Moriyama M., Ueda A., Nishibata Y., Okura H., Matsuyama A., Hayakawa T.: ROLE OF NOTCH SIGNALING IN THE MAINTENANCE OF HUMAN MESENCHYMAL STEM CELLS UNDER HYPOXIC CONDITIONS. 12<sup>th</sup> ISSCR at Vancouver, (CANADA).2014.6.
- 561) \* Ohmori S., Taniguchi Y., Moriyama M., Moriyama H., Hayakawa T.: DIFFERENTIATION OF DOPAMINERGIC NEURONAL CELLS FROM HUMAN ADIPOSE-DERIVED MULTILINEAGE PROGENITOR CELLS. 12<sup>th</sup> ISSCR at Vancouver(CANADA)2014.6.
- 562) \* 石原慎、森山麻里子、阪口公一、石濱里穂、大倉華雪、松山晃文、早川堯夫、森山博由. 低酸素状態における Notch シグナルと解糖系の関係. 生体機能と創薬シンポジウム
- 563) \* Michiyama T., Moriyama H., Moriyama M., Hayakawa T., Ninomiya K., Muraoka O., Chaipech S., Morikawa T.: Inhibitory effects of oligostilbenoids from bark of *Shorea roxburghii* on malignant melanoma cell growth: implications for a candidate of novel topical anticancer agents. The 27th International Conference on Polyphenols (ICP2014) (Nagoya) 2014.9.
- 564) \* 石原慎、森山麻里子、阪口公一、上村充香、大石実央、大倉華雪、松山晃文、早川堯夫、森山博由: 低酸素状態におけるNotchシグナルと解糖系の相関性. 第64回 日本薬学会近畿支部総会・大会 (京都)2014.10.
- 565) \* 道山忠史、森山麻里子、二宮清文、Chaipech S., 村岡 修、森川敏生、早川堯夫、森山博由: 悪性黒色腫細胞に対する *Shorea roxburghii* 由来オリゴスチルベノイドの影響. 第64回 日本薬学会近畿支部総会・大会. (京都)2014.10.
- 566) \* Ishihara S., Moriyama M., Sakaguchi K., Okura H., Matsuyama A., Hayakawa T., Moriyama H.: Role of Notch signaling in glycolysis regulation under hypoxic conditions. The 36<sup>th</sup> annual meeting of the molecular biology society of Japan. (Yokohama)2014.11.
- 567) \* Ishihara S., Moriyama M., Sakaguchi K., Okura H., Matsuyama A., Hayakawa T., Moriyama H.: Role of Notch signaling in glycolysis regulation under hypoxic conditions. The 36<sup>th</sup> annual meeting of the molecular biology society of Japan. (Yokohama)2014.11.
- 568) 三田村邦子、藏淵 慧、上田麻美子、池川繁男、山本哲志、多賀 淳: LC/ESI-LIT-MS/MS における PQD 及び CID 測定による尿中硫酸抱合型ステロイドの分析. 第 39 回日本医用マスペクトル学会年会(千葉)2014.10.
- 569) 藏淵 慧、三田村邦子、池川繁男、山本哲志、多賀 淳: 同位体希釈 LC/ESI-MS/MS によるヒト尿中硫酸抱合型オキシステロールの高感度直接一斉定量法の開発. 第 64 回日本薬学会近畿支部総会(京都)2014.10.
- 570) 上田麻美子、三田村邦子、山本哲志、多賀 淳: LC/ESI-MS/MS による尿中抱合型テトラヒドロコルチコステロイドのプロファイル分析. 第 64 回日本薬学会近畿支部総会(京都)2014.10.
- 571) 新 幸子、三田村邦子、山本哲志、多賀 淳: HPLC 及び LC/MS によるヒト血清中テイコプラニンの定量の

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

試み. 第 64 回日本薬学会近畿支部総会(京都)2014.10.

- 572) \* Yamamoto T., Kudo M., Peng WX., Takata H., Mitamura K., Taga A., Naito Z.: Proteomic analysis of formalin-fixed paraffin-embedded colorectal tissue for identification of therapeutic target. 第 73 回日本癌学会学術総会(横浜)2014.9.
- 573) \* Uemura K., Yamamoto T., Mitamura K., Taga A.: Anti-cancer effect of maple syrup on colorectal cancer. 第 73 回日本癌学会学術総会(横浜)2014.9.
- 574) Takata H., Kudo M., Yamamoto T., Wada R., Peng WX., Ishino K., Teduka K., Fujii T., Kawamoto Y., Uchida E., Naito Z.: Identification of down-regulated proteins using formalin-fixed paraffin-embedded HCC tissue. 第 73 回日本癌学会学術総会(横浜)2014.9.

**テーマC: 「臨床腫瘍検体を用いた創薬シーズのPOC研究と個別化医療」(166件)**

- 575) \*西尾和人「消化器癌におけるバイオマーカーの開発と応用 消化器癌に対する分子標的薬の効果予測マーカーの探索とクリニカルシーケンシング」第 102 回日本消化器病学会総会(東京) 2016.4.
- 576) \*松岡弘道, 牧村ちひろ, 小山敦子, 酒井清裕, 和泉宏昌, 大塚正友, 藤田至彦, 鶴谷純司, 吉田健史, 西尾和人, 中川和彦「患者自身の疼痛改善への期待は、疼痛予後を改善する」第 21 回日本緩和医療学会学術大会(京都)2016.6.
- 577) \*酒井清裕, 松岡弘道, 大武陽一, 牧村ちひろ, 和泉宏昌, 大塚正友, 藤田至彦, 鶴谷純司, 西尾和人, 中川和彦, 小山敦子「がん疼痛とカルニチン欠乏症との関連性についての探索的研究」第 21 回日本緩和医療学会学術大会(京都)2016.6.
- 578) \*杉本公一, 吉村一宏, 野澤昌弘, 南高文, 倉由吏恵, 吉川和宏, 西尾和人, デベラスコ・マルコ, 植村天受「去勢抵抗性前立腺癌における Pim-1 キナーゼ阻害薬 AZD1208 の治療効果」第 104 回日本泌尿器科学会総会(仙台)2016.4.
- 579) \*植村天受, 吉村一宏, 野澤昌弘, 南高文, 杉本公一, 倉由吏恵, 吉川和宏, 西尾和人, デベラスコ・マルコ「前立腺癌マウスモデルを用いた AKT 阻害薬 AZD5363 の抗腫瘍効果の検討」第 104 回日本泌尿器科学会総会(仙台)2016.4.
- 580) \*山本豊, 吉村一宏, 野澤昌弘, 南高文, 杉本公一, 倉由吏恵, 吉川和宏, 西尾和人, デベラスコ・マルコ, 植村天受「前立腺癌における AKT/PI3K および MAPK 経路阻害による治療相互作用について」第 104 回日本泌尿器科学会総会(仙台)2016.4.
- 581) \*吉岡康多, 富樫庸介, 筑後孝章, 小北晃弘, 寺嶋雅人, 水上拓郎, 坂井和子, 所忠男, 肥田仁一, 西尾和人, 奥野清隆「大腸粘液癌の分化度による臨床病理学的・分子生物学的な相違」第 116 回日本外科学会定期学術集会(大阪)2016.4.
- 582) \*海堀昌樹, 坂井和子, 石崎守彦, 松井康輔, 北出浩章, 権雅憲, 土師誠二, 竹村茂一, 塚本忠司, 金沢景繁, 武田裕, 和田浩志, 永野浩昭, 久保正二, 西尾和人「がんのバイオマーカーと分子標的治療 肝癌外科術後再発進行症例に対するソラフェニブ投与奏効例のバイオマーカー-FGF19 検討」第 116 回日本外科学会定期学術集会(大阪)2016.4.
- 583) \*西尾和人, 武田真幸, 坂井和子, 中川和彦「わが国においても肺癌に対する包括的戦略を用いた Precision Medicine を展開することは可能か? 肺癌診療におけるクリニカルシーケンス」第 56 回日本呼吸器学会学術講演会(京都)2016.4
- 584) \*井上敬夫, 竹森久美子, 水口信行, 木村雅友, 筑後孝章, 萩山 満, 米重あづさ, 森 樹史, 前西 修, 米谷 俊, 伊藤龍生, 佐藤隆夫, 伊藤彰彦: 心筋結合型アディポネクチンは血圧ではなく、心肥大と関連する.日本農芸化学会 2017 年度大会 (京都)2017.3.
- 585) \*米重あづさ, 萩山満, 伊藤彰彦: 肺上皮接着分子 CADM1/TSLC1 の細胞外切断亢進が特発性間質性

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 肺炎における上皮アポトーシスの一因となる(Increased ectodomain shedding of CADM1/TSLC1 as a cause of epithelial apoptosis in idiopathic interstitial pneumonia).第 75 回日本癌学会学術総会 (横浜)2016.10.
- 586) \*坪井裕見、尾山大明、秦裕子、伊藤彰彦、村上善則: がん抑制遺伝子 CADM1 による Cbp を介した Src 経路抑制機構の解析(Roles of cell adhesion molecule 1 (CADM1) in Cbp-dependent inactivation of c-Src pathway).第 75 回日本癌学会学術総会 (横浜)2016.10.
- 587) \*萩山満、米重あづさ、伊藤彰彦: 癌による内腔狭窄に伴って拡張した大腸における腸管神経変性: CADM1/TSLC1 の関与(Enteric nerve degeneration in the colon dilated due to the luminal stenosis by cancer: involvement of CADM1/TSLC1).第 75 回日本癌学会学術総会 (横浜)2016.10.
- 588) \*岡田 斉、Kit T、太田一成、古室暁義、Koch A、伊藤彰彦: マウスモデルを用いた DNA 損傷修復機能抑制による治療関連白血病予防効果の検討(Modest attenuation of DNA damage repair delays therapyrelated cancer in mouse model).第 75 回日本癌学会学術総会 (横浜)2016.10.
- 589) \*武田真幸、坂井和子、林秀敏、田中薫、高濱隆幸、吉田健史、岩朝勤、光富徹哉、伊藤彰彦、西尾和人、中川和彦: 肺癌に於ける次世代シーケンサーを用いた変異解析に基づく分子標的薬適応決定 (Clinical application of amplicon-based next-generation sequencing to therapeutic decision making in lung cancer).第 75 回日本癌学会学術総会 (横浜)2016.10.
- 590) \* Inoue T, Takemori K, Mizuguchi N, Kimura M, Chikugo T, Hagiwara M, Yoneshige A, Mori T, Kometani T, Itoh T, Sato T, Ito A: Heart-bound adiponectin, not serum adiponectin, correlates with cardiac hypertrophy in stroke-prone spontaneously hypertensive rats. The 26th Scientific Meeting of the International Society of Hypertension (Seoul, Korea) 2016.9.
- 591) \*米重あづさ、村上哲平、井上敬夫、西村俊司、伊藤彰彦: 悪性上皮性腫瘍内の肉腫様成分における骨芽細胞分化マーカーの発現.第 105 回日本病理学会総会 (仙台)2016.5.
- 592) \*太田一成、Kit I. Tong, 後藤幸一郎、古室暁義、岡田 斉 ヒストン脱メチル化酵素 UTX による脂肪細胞分化メカニズムの解明、第 39 回日本分子生物学会年会 (2016.12.1 横浜)
- 593) \*太田一成、古室暁義、上田 健、岡田 斉 Elucidation of adipogenesis by the H3K27 histone demethylase Utx 第 12 回プロテインフォスファターゼ国際カンファレンス/革新がんゲノム国際学会 (2016.10.28 大阪)
- 594) \* Akiyoshi Komuro, Kazushige Ota, Takeshi Ueda, Hitoshi Okada The role of histone demethylase KDM4b in breast cancer stem cell 第 12 回プロテインフォスファターゼ国際カンファレンス/革新がんゲノム国際学 (2016.10.28 大阪)
- 595) \* Hitoshi Okada, Modest attenuation of DNA damage repair delays therapy-related cancer in mouse model(第 12 回プロテインフォスファターゼ国際カンファレンス/革新がんゲノム国際学会) (2016.10.29 大阪)
- 596) \*古室暁義、太田一成、岡田 斉 乳がん幹細胞における Histone demethylase KDM4b の役割、第 75 回日本癌学会学術総会 (2016.10.6 横浜)
- 597) \*古室暁義、太田一成、上田健、岡田 斉、膠芽腫における新規融合遺伝子 HMGA2-EGFR の同定、第 75 回近畿大学医学会学術講演会 (2016,7.18)
- 598) \*太田一成、古室暁義、上田 健、岡田 斉 ヒストン脱メチル化酵素 UTX による脂肪細胞制御メカニズムの解明、第 75 回近畿大学医学会学術講演会 (2016,7.18)
- 599) \*西中 崇、丹羽淳子、小堀宅郎、高橋英夫 SHRSP は赤血球産生の増加を示す 第 90 回日本薬理学会年会 (長崎)2017. 3.
- 600) \*小堀 宅郎、濱崎 真一、北浦 淳寛、西中 崇、丹羽 淳子、森 秀治、西堀 正洋、高橋英夫: IL-18 はオステオポンチンを介してマクロファージ M2 分化と血管新生作用を増強する 第 90 回日本薬理学会年

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

会 (長崎)2017.3.

601) \*丹羽 淳子、西中 崇、小堀 宅郎、高橋英夫:運動介入は骨髄微小環境を改善し血管系前駆細胞による脳卒中回復を促進する 第 90 回日本薬理学会年会 (長崎)2017. 3.

602) \*濱崎真一、小堀宅郎、北浦淳寛、丹羽淳子、高橋英夫:終末糖化産物(AGEs)はマクロファージによる血管内皮細胞の管腔形成を促進する 第 89 回日本薬理学会年会 (横浜)2016. 3.

603) \*小堀 宅郎、濱崎 真一、北浦 淳寛、加藤 貴史、丹羽 淳子、高橋英夫: M2 マクロファージによる血管新生促進作用に対する IL-18 の影響 第 89 回日本薬理学会年会 (横浜)2016. 3.)

604) \*高橋英夫 ホメオダイナミクス創薬～生体内恒常性維持機の活性化を目指して～ 国立病院機構 福山医療センター オープンカンファレンス:: (福山) 2016. 6

605) \* Cienfuegos J, Nishio K, et al. "Verification of an Ion AmpliSeq™ RNA Fusion Lung Cancer Research Panel, workflow, and analysis solution: an OncoNetwork collaborative research study"The American Society of Human Genetics 2015, Baltimore, 2015, 10.6-10

606) \* Hayashi Y, Togashi Y, Terashima M, Sakai K, Mizuuchi H, Kobayashi Y, Suda K, Nakagawa K, Nishio K, Mitsudomi T. Receptor tyrosine kinase mutations in non-small cell lung cancer. The European Cancer Congress 2015 Vienna, 2015.9.25-29

607) \* Togashi Y, Yoshioka Y, Chikugo T, Terashima M, Mizukami T, Hayashi H, Sakai K, De Velasco MA, Tomida S, Fujita Y, Okuno K, Nishio K. Clinicopathological and genetic differences between low-grade and high-grade colorectal mucinous adenocarcinoma. The European Cancer Congress 2015, Vienna, 2015.9.25-29

608) \* Tsuji Y, Yamazaki K, Saito Oba M, Sakai K, Ueda S, Tamagawa H, Tamura T, Moriwaki T, Murata K, Taira K, Denda T, Funai S, Tsuda T, Tsushima T, Boku N, Hyodo I, Yamanaka T, Tsurutani J, Nishio K. Predictive biomarker analysis of early tumor shrinkage induced by FOLFIRI+Bev for patients with metastatic colorectal cancer in WJOG4407G study. The European Cancer Congress 2015, Vienna, 2015.9.25-29

609) \* Fujita Y, Yamazaki K, Oba MS, Muro K, Negoro Y, Yoshida M, Suyama K, Kurimoto T, Sugimoto N, Seki N, Sato M, Ebi M, Tamagawa H, Ueda S, Tamura T, Boku N, Hyodo I, Yamanaka T, Tsurutani J, Nishio K. Exploratory analysis of predictive biomarkers of oxaliplatin versus irinotecan in combination with bevacizumab for patients with metastatic colorectal cancer in WJOG4407G study. The European Cancer Congress 2015, Vienna, 2015.9.25-29

610) \* Mizukami T, Togashi Y, Banno E, Terashima M, De Velasco MA, Sakai K, Hayashi H, Fujita Y, Tomida S, Nakajima Eguchi T, Boku N, Ito A, Nakagawa K, Nishio K. Fibroblast growth factor 9 gene amplification can induce resistance to anti-EGFR therapy in colorectal cancer.The European Cancer Congress 2015, Vienna, 2015.9.25-29

611) \* Tanaka Y, Aoyagi K, Minashi K, Komatsuzaki R, Komatsu M, Takahashi N, Oda I, Tachimori Y, Arai T, Nishio K, Kitano S, Muto M, Yamada Y, Sasaki H. CDH2 negative esophageal squamous cell carcinoma with cytotoxic T-lymphocyte signatures is a good responder subtype to definitive chemoradiotherapy. The European Cancer Congress 2015, Vienna, 2015.9.25-29

612) \* Atagi S, Nishio M, Goto K, Hosomi Y, Seto T, Hida T, Nakagawa K, Yoshioka H, Nogami N, Maemondo M, Nagase S, Okamoto I, Yamamoto N, Yamanaka T, Igawa Y, Tajima K, Fukuoka M, Yamamoto N, Nishio K. Biomarkers for efficacy in JO25567 study evaluating erlotinib plus bevacizumab versus erlotinib in advanced NSCLC with EGFR mutation. 16th World Conference on Lung Cancer, Denver 2015.9.6-9

613) \* Tsuji Y, Yamazaki K, Saito-Oba M, Sakai K, Nagase M, Ueda S, Tamagawa H, Tamura T, Moriwaki T,

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- Murata K, Taira K, Denda T, Funai S, Tsuda T, Tsushima T, Boku N, Hyodo I, Yamanaka T, Tsurutani J, Nishio K. Predictive biomarker analysis of early tumor shrinkage induced by FOLFIRI+Bev for patients with metastatic colorectal cancer in WJOG4407G study. American Society of Clinical Oncology Annual Meeting 2015, Chicago, 2015.5.29-6.2.
- 614) \* Laurent-Puig P, Costa JL, Shiels O, Tops B, Mafficini A, Corre D, Kurth H, Rachiglio AM, Blons H, Amato E, Noppen C, Franco R, Reiman A, Bastien R, Welker N, Macado JC, Cree I, Feilotter H, Ligtenberg M, Scarpa A, Normanno N, Nishio K, Vaughn C. Comprehensive genetic profiling of chromosomal translocations in lung cancer tumors: development and validation of a next -generation sequencing panel in an international multicenter study. American Association for Cancer Research 105th Annual Meeting 2015, Philadelphia, 2015.4.18-22
- 615) \* Fujita Y, Koinuma S, De Velasco MA, Jan B, Totashi Y, Terashima M, Hayashi H, Matsuo T, Nishio K. Melanoma transition is frequently accompanied by a loss of cytoglobin, a putative tumor suppressor, in melanocytes. American Association for Cancer Research 105th Annual Meeting 2015, Philadelphia 2015.4.18-22
- 616) \* Mizukami T, Togashi Y, Banno E, Terashima M, Velasco MA, Sakai K, Fujita Y, Tomida S, Eguchi-Nakajima T, Boku N, Nishio K. FGF9 gene amplification can induce resistance to anti-EGFR therapy in colorectal cancer. American Association for Cancer Research 105th Annual Meeting 2015, Philadelphia, 2015.4.18-22
- 617) \* De Velasco MA, Hatanaka Y, Fukushima E, Ando N, Davies BR, Yamamoto Y, Oki T, Shimizu N, Yoshimura K, Nozawa M, Yoshikawa K, Nishio K, Uemura H. Preclinical activity of the AKT inhibitor AZD5363 in PTEN-deficient mouse models of prostate cancer. American Association for Cancer Research 105th Annual Meeting 2015, Philadelphia, 2015.4.18-22
- 618) \* De Velasco MA, Kura Y, Ando N, Fukushima E, Davies BR, Campbell H, Hatanaka Y, Yamamoto Y, Shimizu N, Nozawa M, Yoshimura K, Yoshikawa K, Nishio K, Uemura H. Inhibition of mouse PTEN-deficient prostate cancer with next generation antisense oligonucleotide targeting the androgen receptor. American Association for Cancer Research 105th Annual Meeting 2015, Philadelphia, 2015.4.18-22
- 619) \* Togashi Y, Kogita A, Sakamoto H, Hayashi H, Terashima M, De Velasco MA, Sakai K, Fujita Y, Tomida S, Kitano M, Kudo M, Nishio K. Activin signal promotes cancer progression and is involved in cachexia in an subset of pancreatic cancer. American Association for Cancer Research 105th Annual Meeting 2015, Philadelphia, 2015.4.18-22
- 620) \* Yoshikawa K, De Velasco MA, Kura Y, Ando N, Fukushima E, Yamamoto Y, Hatanaka Y, Oki T, Shimizu N, Yoshimura K, Nishio K, Uemura H. Effects of long-term chloroquine chemotherapy in a preclinical model of PTEN-deficient prostate cancer. American Association for Cancer Research 105th Annual Meeting 2015, Philadelphia, 2015.4.18-22
- 621) \* De Velasco MA, Yamamoto Y, Kura Y, Fukushima E, Ando N, Davies B, Hatanaka Y, Oki T, Shimizu N, Nozawa M, Yoshikawa K, Yoshimura K, Nishio K, Uemura H. Preclinical effects of dual AKT/MAPK inhibition in PTEN-deficient prostate cancer. American Association for Cancer Research 105th Annual Meeting 2015, Philadelphia, 2015.4.18-22
- 622) \* Kura Y, De Velasco MA, Ando N, Fukushima E, Davies BR, Huzdar D, Yamamoto Y, Hatanaka Y, Oki T, Shimizu N, Yoshimura K, Nozawa M, Yoshikawa K, Nishio K, Uemura H. Chloroquine demonstrates limited effectiveness in an autochthonous preclinical model of prostate cancer. American Association for

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- Cancer Research 105th Annual Meeting 2015, Philadelphia, 2015.4.18-22
- 623) \* De Velasco MA, Oki T, Kura Y, Ando N, Fukushima E, Davies BR, Huszar D, Yamamoto Y, Hatanaka Y, Shimizu N, Yoshimura K, Nozawa M, Yoshikawa K, Nishio K, Uemura H. Evaluation of Pim-1 kinase inhibition in a preclinical model of mouse prostate cancer. American Association for Cancer Research 105th Annual Meeting 2015, Philadelphia 2015.4.18-22
- 624) \*坂井和子, 竹田治彦, 西島規浩, 折戸悦朗, 上甲康二, 内田靖, 泉並木, 西尾和人, 大崎往夫「HCC fine-needle biopsy サンプルを対象としたDNAシーケンシングの実施可能性とソラフェニブ効果予測マーカーの探索」第12回日本肝がん分子標的治療研究会(倉敷)2015.6
- 625) \*鈴木俊宏, 永澤生久子, 山岡利光, 大森亨, 西尾和人, 小山清隆, 小笠原裕樹 miR-205 発現制御におけるErbB3リン酸化の影響、第74回日本癌学会学術総会(名古屋)2015.10.
- 626) \*北園聡, 坂井和子, 高野夏希, 川嶋庸介, 小栗知世, 丹保裕一, 柳谷典子, 堀池篤, 大柳文義, 宝来威, 西尾和人, 西尾誠人「血中 cfDNA を用いた EGFR 遺伝子変異の検出と afatinib の臨床効果」第56回日本肺癌学会学術集会(横浜)、2015.11.
- 627) \*富樫庸介, 水内寛, 林秀敏, 小林祥久, 中川和彦, 光富徹哉, 西尾和人「Kinases and lung cancer 非小細胞肺癌における受容体チロシンキナーゼ遺伝子変異の探索と機能解析・問題点」第56回日本肺癌学会学術集会(横浜)、2015.11.
- 628) \*畑中祐二, De Velasco MA., 倉由吏恵, 山本豊, 沖貴士, 清水信貴, 吉村一宏, 野澤昌弘, 吉川和宏, 西尾和人, 植村天受 前立腺癌に対するオートファジー阻害薬 CQ と分子標的薬の併用療法について、第74回日本癌学会学術総会(名古屋)2015.10.
- 629) \*倉由吏恵, De Velasco MA., 沖貴士, 山本豊, 畑中祐二, 清水信貴, 吉村一宏, 野澤昌弘, 吉川和宏, 西尾和人, 植村天受 去勢抵抗性前立腺癌に対する Pim-1 キナーゼ阻害薬 AZD1208 の治療効果、第74回日本癌学会学術総会(名古屋)2015.10.
- 630) \*西尾和人 次世代シーケンサーのマルチ診断薬承認に向けての諸課題、第74回日本癌学会学術総会(名古屋)2015.10.
- 631) \*西尾和人 Clinical Transformation with NGS: The Landscape of Next Generation Sequencing in Oncology. 第74回日本癌学会学術総会(名古屋)2015.10.
- 632) \*坂井和子, 西尾和人 デジタル PCR による cfDNA 変異解析、第74回日本癌学会学術総会(名古屋)2015.10.
- 633) \*杉本公一, De Velasco MA., 倉由吏恵, 山本豊, 畑中祐二, 沖貴士, 清水信貴, 野澤昌弘, 吉村一宏, 吉川和宏, 西尾和人, 植村天受 PTEN 欠損前立腺癌マウスモデルにおけるオートファジー阻害薬 CQ による長期治療効果について、第74回日本癌学会学術総会(名古屋)2015.10.
- 634) \*植村天受, 倉由吏恵, 清水信貴, 吉村一宏, 野澤昌弘, 吉川和宏, 西尾和人, De Velasco MA. マウス前立腺癌モデルを用いた AKT 阻害薬 AZD5363 の抗腫瘍効果、第74回日本癌学会学術総会(名古屋)2015.10.
- 635) \*小林祥久, 富樫庸介, 谷田部恭, 水内寛, 朴将哲, 近藤千晶, 須田健一, 富沢健二, 樋田豊明, 西尾和人, 光富徹哉 EGFR exon18 変異肺癌の治療戦略: afatinib と neratinib に対する高感受性、第74回日本癌学会学術総会(名古屋)2015.10.
- 636) \*西尾和人「がん治療に求められる基盤的知識 腫瘍生物学とがん治療」第53回日本癌治療学会学術集会 第21回日本癌治療学会教育セミナー(京都)2015.10.
- 637) \*小林祥久, 富樫庸介, 谷田部恭, 水内寛, 朴将哲, 近藤千晶, 下治正樹, 佐藤克明, 須田健一, 富沢健二, 武本智樹, 樋田豊明, 西尾和人, 光富徹哉「EGFR exon18 変異肺癌の頻度と各世代 EGFR-TKI に対する奏効率の違い」第56回日本肺癌学会学術集会(横浜)、2015.11.

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 638) \*寺嶋雅人, 富樫庸介, 坂井和子, 佐藤克明, 須田健一, 水上拓郎, 坂野恵里, 中村雄, De Velasco MA, 藤田至彦, 富田秀太, 光富徹哉, 西尾和人 非小細胞肺癌における DDR2 変異の機能解析, 第 74 回日本癌学会学術総会(名古屋)2015.10.
- 639) \*山本豊, De Velasco MA, 倉由吏恵, 畑中祐二, 沖貴士, 清水信貴, 野澤昌弘, 吉川和宏, 吉村一宏, 西尾和人, 植村天受 前立腺癌における Akt/P13K および MAPK 経路阻害の治療相乗効果について, 第 74 回日本癌学会学術総会(名古屋)2015.10.
- 640) \*高濱隆幸, 坂井和子, 東公一, 樋田豊明, 平野勝也, 新実彰男, 田中洋史, 海老規之, 澤祥幸, 別所昭宏, 立原素子, 下川元嗣, 中川和彦, 中西洋一, 西尾和人 「EGFR 遺伝子変異陽性肺癌に対する血漿中 cell free DNA を用いた T790M 変異検出の臨床的有用性試験 WJOG8014LTR」第 56 回日本肺癌学会学術集会(横浜)、2015.11.
- 641) \*原田大二郎, 岩間映二, 坂井和子, 東公一, 野崎要, 堀田勝幸, 大柳文義, 倉田宝保, 赤松弘朗, 後藤功一, 福原達朗, 中西洋一, 西尾和人, 岡本勇 「EGFR 遺伝子変異陽性進行肺腺癌に対するアファチニブ治療におけるバイオマーカー研究」第 56 回日本肺癌学会学術集会(横浜)、2015.11.
- 642) \* De Velasco MA, 倉由吏恵, 畑中祐二, 山本豊, 吉川和宏, 清水信貴, 野澤昌弘, 吉村一宏, 西尾和人, 植村天受 アンドロゲン受容体に対する次世代アンチセンスオリゴヌクレオチドを用いた前立腺癌治療, 第 74 回日本癌学会学術総会(名古屋)2015.10.
- 643) \*西尾和人, 坂井和子, 武田真幸, 中川和彦 「病理業務におけるコンパニオン診断 CoDx の新しい潮流」 第 104 回日本病理学会総会(名古屋)2015.4.
- 644) \*林秀敏, 武田真幸, 金田裕靖, 鶴谷純司, 中川和彦, 寺嶋雅人, 坂井和子, 西尾和人 「KRAS 遺伝子変異陽性肺癌の臨床的特徴」第 56 回日本肺癌学会学術集会(横浜)、2015.11.
- 645) \*富樫庸介, 寺嶋雅人, 坂井和子, 林秀敏,西尾和人, 水内寛, 小林祥久, 光富徹哉 「活性型 ALK 遺伝子変異を有する ALK 免疫染色陽性/FISH 陰性のまれな肺腫瘍」 第 56 回日本肺癌学会学術集会(横浜)、2015.11.
- 646) \*谷崎潤子, 武田真幸, 清水俊雄, 金田裕靖, 田中薫, 岩朝勤, 吉田健史, 高濱隆幸, 中川和彦, 坂井和子, 西尾和人 「肺癌における次世代シーケンサーを用いた変異解析に基づく分子標的薬適応決定」 第 56 回日本肺癌学会学術集会(横浜)、2015.11.
- 647) \*畑中祐二, デベラスコ・マルコ, 沖貴士, 倉由吏恵, 安藤直美, 福島恵美子, 山本豊, 清水信貴, 野澤昌弘, 吉村一宏, 吉川和宏, 西尾和人, 植村天受 「PTEN 欠損前立腺癌発症マウスモデルによる cell line の確立と特性」 第 103 回日本泌尿器科学会総会(仙台)2015.4.
- 648) \*須田健一, 水内寛, 村上功, 坂井和子, 西尾和人, 光富徹哉 「EGFR キナーゼ阻害剤獲得耐性における分子異常の heterogeneity の検討とその克服」 日本外科学会定期学術集会抄録集 115 回: CR-2-4, 2015.
- 649) \*須田健一, 佐藤克明, 清水重喜, 坂井和子, 水内寛, 富沢健二, 武本智樹, 岩崎拓也, 阪口全宏, 西尾和人, 光富徹哉 「呼吸器 IASLC/ATS/ERS 新国際分類に基づく肺腺癌組織亜型における遺伝子変異の探索的検討」 第 115 回日本外科学会定期学術集会(名古屋)2015.4.
- 650) \*須田健一, 佐藤克明, 清水重喜, 坂井和子, 水内寛, 小林祥久, 下治正樹, 富沢健二, 武本智樹, 岩崎拓也, 阪口全宏, 西尾和人, 光富徹哉 「肺腺癌における遺伝子異常とその病理形態学的特徴」 第 55 回日本呼吸器学会学術講演会(東京)2015.4.
- 651) 佐藤克明, 須田健一, 清水重喜, 坂井和子, 水内寛, 小林祥久, 下治正樹, 富沢健二, 武本智樹, 岩崎拓也, 阪口全宏, 西尾和人, 光富徹哉 「呼吸器 AXL 陽性肺腺癌の臨床的・病理学的・分子生物学的特徴と予後」 第 115 回日本外科学会定期学術集会(名古屋)2015.4.
- 652) \*沖貴士, デベラスコ・マルコ, 倉由吏恵, 畑中祐二, 山本豊, 吉村一宏, 清水信貴, 野澤昌弘, 小池浩



法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 之, 吉川和弘, 西尾和人, 植村天受「去勢抵抗性前立腺癌におけるPI3K-AktとARシグナル伝達経路をターゲットにした治療戦略について」第103回日本泌尿器科学会総会(仙台)2015.4.
- 653) \*武田真幸, 坂井和子, 田中薫, 吉田健史, 岩朝勤, 高濱隆幸, 野長瀬祥兼, 岡部崇記, 林秀敏, 岡本邦男, 金田裕靖, 清水俊雄, 西尾和人, 中川和彦「非小細胞肺癌 基礎研究 肺癌に於ける次世代シーケンサーを用いた変異解析に基づく分子標的薬適応決定」第55回日本呼吸器学会学術講演会(東京)2015.4.
- 654) \*武田真幸, 清水俊雄, 金田裕靖, 田中薫, 岩朝勤, 吉田健史, 高濱隆幸, 坂井和子, 西尾和人, 中川和彦「肺癌に於ける次世代シーケンサーを用いた変異解析に基づく分子標的薬適応決定」第55回日本呼吸器学会学術講演会(東京)2015.4.
- 655) \*松岡弘道, 牧村ちひろ, 大塚正友, 酒井清裕, 阪本亮, 小山敦子, 西尾和人, 中川和彦, 藤田至彦, 鶴谷純司「がん疼痛治療におけるバイオマーカー探察」第112回日本内科学会(京都)2015.4.
- 656) \*山上亘, 片岡史夫, 坂井健良, 真壁健, 二宮委美, 和田美智子, 野村弘行, 進伸幸, 津田浩史, 西尾和人, 田中守, 青木大輔「卵巣がん 新規治療法の探索 Copy number assayによる sorafenib の卵巣癌への有効性の探索」第67回日本産婦人科学会学術講演会(横浜)2015.4.
- 657) \*榎井理恵子, 青松和輝, 杉村直毅, 勝野貴之, 早川剛, 格谷洋和, 山形知, 伊藤彰彦: 急激な体重減少を来した糞線虫症の1例. 日本内科学会近畿支部主催第210回近畿地方会(兵庫)2015.11.
- 658) \*萩山満, 米重あづさ, 伊藤彰彦: 接着分子 cell adhesion molecule 1 の細胞内断片による肺上皮アポトーシス誘導: 肺気腫発症への関与(Induction of lung epithelial cell apoptosis in emphysema by the intracellular domain of cell adhesion molecule 1). 第74回日本癌学会学術総会(名古屋)2015.10.
- 659) \*米重あづさ, 村上哲平, 西村俊司, 伊藤彰彦: 上皮性癌種の肉腫様変化では骨肉腫/骨芽細胞様表現型が出現する(Manifestation of osteoblastic phenotypes in the sarcomatous components of epithelial carcinoma). 第74回日本癌学会学術総会(名古屋)2015.10.
- 660) \*井上敬夫, 萩山満, 米重あづさ, 榎木英介, 前西修, 筑後孝章, 木村雅友, 佐藤隆夫, 伊藤彰彦: 2型糖尿病患者の膵島における接着分子 CADM1 は細部外ドメインの切断が亢進している(Increased ectodomain shedding of CADM1 from pancreatic islets in type2 diabetes mellitus). 第104回日本病理学会総会(名古屋)2015.5.
- 661) \*萩山満, 井上敬夫, 米重あづさ, 伊藤彰彦: アクチン結合性アダプター蛋白  $\alpha$ -parvin は偽足突起に局在し, 小葉乳癌のリンパ節転移に関与する(Involvement of alpha-parvin, a pseudopodial constituent, in lobular breast carcinoma metastasis). 第104回日本病理学会総会(名古屋)2015.5.
- 662) \*米重あづさ, 井上敬夫, 萩山満, 伊藤彰彦: 特発性間質性肺炎における肺上皮接着分子 CADM1 の発現異常(Aberrant expression of lung-epithelial cell adhesion molecule 1 in idiopathic interstitial pneumonia). 第104回日本病理学会総会(名古屋)2015.5.
- 663) \*榎木英介, 筑後孝章, 前西修, 木村雅友, 伊藤彰彦, 佐藤隆夫: 肺癌の表層壊死部にアスペルギルスの腐生が認められた1例(Colonization of Aspergillus on the necrotic surface of lung cancer). 第104回日本病理学会総会(名古屋)2015.5.
- 664) \*水口信行, 加藤貴史, 堀奈津美, 伊藤彰彦: 本態性高血圧症のモデルラット(SHRSP/Kpo)における腎障害. (Kidney injuries in an original rat model of essential hypertension (SHRSP/Kpo strain)). 第62回日本実験動物学会(京都)2015.5.
- 665) \*岡田 斉 ヒストン脱メチル化酵素による乳腺発達制御 BMB2015(第38回日本分子生物学会年会, 第88回日本生化学会大会)(神戸)2015.12.1
- 666) \*太田一成, Kit I. Tong, 後藤 幸一郎, 古室 暁義, 岡田 斉 ヒストン脱メチル化酵素 UTX による脂肪細胞分化メカニズムの解明, BMB2015(第38回日本分子生物学会年会, 第88回日本生化学会大会)

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

(神戸)2015.12.1

- 667) \*古室暁義、太田一成、岡田 斉 骨形成因子4(BMP4)は Glioma Initiating cell のがん幹細胞性を阻害して治療効果を促進する。 第 74 回近畿大学医学会学術講演会 (大阪) 2015.6.15
- 668) \*太田一成、古室暁義、岡田 斉 ヒストン脱メチル化酵素 UTX による脂肪細胞分化メカニズムの解明 第 74 回近畿大学医学会学術講演会 (大阪)2015.6.15
- 669) \*岡田 斉 遺伝子異常による発がん機構と治療標的としての活用 ヒストン脱メチル化酵素、KDM4 B/JMJD2B、のがん化過程での役割 第 74 回日本癌学会学術総会コアシンポジウム (名古屋) 2015.10.8
- 670) \*丹羽淳子、赤星保光、堀内喜高、濱崎真一、小堀宅郎、西堀正洋、高橋英夫: Voluntary exercise induces neurogenesis in hypothalamus and improves homeostatic functions after stroke. 第 88 回日本薬理学会年会 (名古屋)2015. 3.
- 671) \*小堀 宅郎、濱崎 真一、丹羽 淳子、高橋英夫: IL-18 promotes macrophage M2 polarization. 第 88 回日本薬理学会年会 (名古屋)2015. 3.
- 672) \*寺尾欣也、和氣秀徳、森岡祐太、勅使河原匡、劉 克約、高橋英夫、森 秀治、西堀正洋: Tissue factor(TF)誘発 DIC モデルにおける Histidine-rich glycoprotein(HRG)の動態及び治療効果について 第 127 回日本薬理学会近畿部会 (岐阜)2015. 6.
- 673) \*加藤貴史、岡 清正、高橋英夫、中村敏一: HMGB1 によるヒスタミン誘導性免疫応答調節効果 第 127 回日本薬理学会近畿部会 (岐阜)2015. 6.
- 674) \* Cienfuegos J, Nishio K, et al. Verification of an Ion AmpliSeq™RNA Fusion Lung Cancer Research Panel, workflow, and analysis solution: an OncoNetwork collaborative research study. The 64th Annual Meeting of the American Society of Human Genetics, San Diego 2014.10.18-22
- 675) \* Nishio K. New insights for sequencing data in lung cancer. The ESMO 2014 Congress, Madrid, 2014.9.26-30
- 676) \* Nishio K.Predictive Biomarker of Molecular Targeted Agents and Precision Medicine for HCC. 4th International Kyoto Liver Cancer Symposium Kyoto, 2014.6.7-8
- 677) \* Hirashima T, Azuma K, Yamamoto N, Takahashi T, Nishio M, Hirata T, Kubota K, Kasahara K, Hida T, Yoshioka H, Suzuki K, Akinaga S, Nishio K, Mitsudomi T, Nakagawa K. Phase II study of erlotinib plus tivantinib in patients with EGFR-mutation-positive NSCLC who failed in immediately previous EGFR-TKI therapy. American Society of Clinical Oncology Annual Meeting 2014, Chicago 2014.5.30-6.3
- 678) \* Tanioka M, Sakai K, Sudo T, Sakuma T, Hirokaga K, Takao S, Minami H, Negoro S, Nakagawa K, Nishio K. Transcriptional expression of Bcl-2 as predictive of response to neoadjuvant chemotherapy with trastuzumab in HER2-positive ER-positive breast cancer patients.American Society of Clinical Oncology Annual Meeting 2014, Chicago 2014.5.30-6.3
- 679) \* Yoshioka H, Okamoto I, Sakai K, Morita S, Kaneda H, Takeda K, Hirashima T, Kogure Y, Kimura T, Takahashi T, Atagi S, Seto S, Sawa T, Yamamoto M, Satouchi M, Okuno M, Nagase S, Nakagawa K, Nakanishi Y, Nishio K. Multiplex genomic profiling of non-small cell lung cancer patients enrolled in the LETS phase III trial of first-line S-1/carboplatin versus paclitaxel/carboplatin (WJOG6611LTR). American Society of Clinical Oncology Annual Meeting 2014, Chicago 2014.5.30-6.3
- 680) \* Yonesaka K, Kawakami H, Kaneda H, Okamoto I, Hirokaga K, Nishio K, Nakagawa K. The expression level of HER3 ligand heregulin mRNA as a predictive biomarker for anti-HER3 antibody patritumab combined with erlotinib in non-small cell lung cancer. American Society of Clinical Oncology Annual Meeting 2014, Chicago, 2014.5.30-6.3
- 681) \* Mitsudomi T, Iwamoto Y, Tomida S, Sakai K, Yamanaka T, Tada H, Yoshioka H, Uchino K, Yoshino I,

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- Sugawara S, Mitsuoka S, Takahashi T, Ohta M, Seto T, Atagi S, Okada M, Saka H, Nakagawa K, Nakanishi Y, Nishio K. Serum biomarker analysis of WJOG4107: A randomized phase II trial of adjuvant chemotherapy with S-1 versus CDDP+S-1 for resected stage II-III non-small cell lung cancer (NSCLC). American Society of Clinical Oncology Annual Meeting 2014, Chicago 2014.5.30-6.3
- 682) \* Nishio K. Early phase trials in the future-Basic researcher's perspective. 3rd Japan Taiwan Oncology Phase I Trial Conference (JTOPIC), Taipei, 2014.4.19
- 683) \* Magdaleno SS, Cheng A, Petraroli R, Sheils O, Tops B, Corre D, Kurth H, Blons H, Amato E, Mafficini A, Rachiglio AM, Reimann A, Noppen C, Ainali C, Katayama J, Franco R, Feilotter H, Schageman J, Cree I, Felton A, Costa JL, Rico A, Scarpa A, Machado JC, Nishio K, Normanno N, Ligtenberg M, Vaughn CP, Lacroix , Laurent-Puig P. The OncoNetwork Consortium: A global collaborative research study on the development and verification of an Ion AmpliSeq RNA gene lung fusion panel. American Association for Cancer Research 104th Annual Meeting 2014, San Diego, 2014.4.5-9
- 684) \* Togashi Y, Sakamoto H, Hayashi H, Terashima M, De Velasco MA, Fujita Y, Kodera Y, Sakai K, Tomida S, Kitano M, Kudo M, Nishio K. Homozygous deletion of the activin A receptor, type IB gene is associated with an aggressive cancer phenotype in pancreatic cancer. American Association for Cancer Research 104th Annual Meeting 2014, San Diego, 2014.4.5-9
- 685) \* Fujita Y, Kurahashi I, Kurata T, Koh Y, Sakai K, Nakagawa K, Nishio K. A microarray-based gene expression analysis identified diagnostic biomarkers for unknown primary cancer. American Association for Cancer Research 104th Annual Meeting 2014, San Diego, 2014.4.5-9
- 686) \* De Velasco MA, Kura Y, Ando N, Fukushima E, Hatanaka Y, Yamamoto Y, Shimizu N, Yoshimura K, Nozawa M, Yoshikawa K, Nishio K, Uemura H. The role of autophagy in prostate tumorigenesis and its therapeutic implications. American Association for Cancer Research 104th Annual Meeting 2014, San Diego, 2014.4.5-9
- 687) \* De Velasco MA, Hatanaka Y, Oki T, Kura Y, Yamamoto Y, Yoshimura K, Shimizu N, Nozawa M, Yoshikawa K, Nishio K, Uemura H. Expression of lumican is negatively associated with the risk of biochemical recurrence in human prostate cancer. American Association for Cancer Research 104th Annual Meeting 2014, San Diego, 2014.4.5-
- 688) \* Kawakami H, Okamoto I, Yonesaka K, Okamoto K, Kuwata K, Morita Y, Yamaguchi H, Nishio K, Nakagawa K. Novel HER3 neutralizing antibody, patritumab abrogates cetuximab resistance mediated by a heregulin-autocrine loop in colorectal cancer. American Association for Cancer Research 104th Annual Meeting 2014, San Diego, 2014.4.5-9)
- 689) \* Shimizu T, Nagasawa I, Yamaoka T, Ohmori T, Nishio K, Koyama K, Ogasawara Y. Contribution of miR-205 in gefitinib-resistant lung cancer cell lines. American Association for Cancer Research 104th Annual Meeting 2014, San Diego, 2014.4.5-9)
- 690) \* Yoshikawa K, De Velasco MA, Kura Y, Ando N, Fukushima E, Hatanaka Y, Yamamoto Y, Shimizu N, Yoshimura K, Nozawa M, Nishio K, Uemura H. Establishment and characterization of cell lines derived from a murine model of PTEN-deficient prostate cancer. American Association for Cancer Research 104th Annual Meeting 2014, San Diego, 2014.4.5-9)
- 691) \* Kimura H, Nishio M, Daito T, Nishio K. Noninvasive analysis of acquired resistance to EGFR-TKI. American Association for Cancer Research 104th Annual Meeting 2014, San Diego, 2014.4.5-9)
- 692) \* Uemura H, Kura Y, Ando N, Fukushima E, Hatanaka Y, Yamamoto Y, Shimizu N, Yoshimura K, Nozawa M, Yoshikawa K, Nishio K, De Velasco MA. Functional evaluation of synchronous inactivation of PTEN

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- and P53 in a murine model of prostate cancer. American Association for Cancer Research 104th Annual Meeting 2014, San Diego, 2014.4.5-9)
- 693) \* Kura Y, De Velasco MA, Ando N, Fukushima E, Yamamoto Y, Hatanaka Y, Shimizu N, Nozawa M, Yoshimura K, Yoshikawa K, Nishio K, Uemura H. Combining PI3K and 5alpha-reductase inhibitors improved the treatment response in mouse model of PTEN-deficient prostate cancer. American Association for Cancer Research 104th Annual Meeting 2014, San Diego 2014.4.5-9)
- 694) \* De Velasco MA, Kura Y, Ando N, Fukushima E, Hatanaka Y, Yamamoto Y, Shimizu N, Yoshimura K, Nozawa M, Yoshikawa K, Nishio K, Uemura H. Co-targeting the PI3K and androgen receptor signal pathways in castration resistant prostate cancer. American Association for Cancer Research 104th Annual Meeting 2014, San Diego, 2014.4.5-9
- 695) \*西尾和人「コンパニオン診断は有用か? Multiple の診断薬の承認に向けて」第 61 回日本臨床検査医学学会学術集会(福岡)2014.11.
- 696) \*林秀敏, 富樫庸介, 岡本邦男, 田中妙, 文田壮一, 新谷亮多, 清川寛文, 坂本洋一, 寺嶋雅人, De Velasco MA, 坂井和子, 藤田至彦, 富田秀太, 加藤元一, 中川和彦, 西尾和人「喫煙によるニコチン曝露は EGFR 遺伝子変異陽性肺がんにおいて EGFR-TKI の耐性因子である」第 55 回日本肺癌学会学術集会(京都)2014.11.
- 697) \*武田真幸, 清水俊雄, 田中薫, 吉田健史, 岩朝勤, 高濱隆幸, 野長瀬祥兼, 岡部崇記, 林秀敏, 岡本邦男, 坂井和子, 西尾和人, 中川和彦「肺癌に於ける次世代シーケンサーを用いた変異解析に基づく分子標的薬適応決定」第 55 回日本肺癌学会学術集会(京都)2014.11.
- 698) \*富樫庸介, 林秀敏, 寺嶋雅人, 坂井和子, 藤田至彦, 富田秀太, 中川和彦, 西尾和人「低酸素は ALK 融合遺伝子を有する H3122 肺癌細胞株の ALK 阻害剤に対する耐性化を誘導する」第 55 回日本肺癌学会学術集会(京都)2014.11.
- 699) \*富樫庸介, 林秀敏, 寺嶋雅人, 坂井和子, 藤田至彦, 富田秀太, 中川和彦, 西尾和人「新規 ALK 阻害剤であるアレクチニブは MET 阻害剤との併用で効果が高まる」第 55 回日本肺癌学会学術集会(京都)2014.11.
- 700) \*佐藤克明, 清水重喜, 須田健一, 水内寛, 小林祥久, 下治正樹, 富沢健二, 武本智樹, 岩崎拓也, 阪口全宏, 坂井和子, 富田秀太, 西尾和人, 光富徹哉「原発性肺癌における受容体型チロシンキナーゼ Axl の発現と病理組織学的因子の検討」第 55 回日本肺癌学会学術集会(京都)2014.11.
- 701) \*金田裕靖, 東公一, 平島智徳, 山本信之, 高橋利明, 西尾誠人, 平田泰三, 久保田馨, 笠原寿郎, 樋田豊明, 吉岡弘鎮, 鈴木康平, 秋永士朗, 西尾和人, 光富徹哉, 中川和彦「EGFR-TKI 耐性の EGFR 変異陽性 NSCLC を対象とした tivantinib(ARQ197)とエルロチニブ併用の第 2 相試験」第 55 回日本肺癌学会学術集会(京都)2014.11.
- 702) \*鈴木俊宏, 永澤生久子, 山岡利光, 大森亨, 西尾和人, 小山清隆, 小笠原裕樹「The effect of kinase signaling for miR-205 regulation in gefitinib-resistant lung cancer cell lines」第 73 回日本癌学会学術総会(横浜)2014.9.
- 703) \*武田真幸, 坂井和子, 西尾和人, 中川和彦「Development of companion diagnosis Clinical applications of next generation sequencing on therapeutic decision-making in lung cancer」第 73 回日本癌学会学術総会(横浜)2014.9.
- 704) \*富樫庸介, 加藤寛章, 林秀敏, 寺嶋雅人, デベラスコ・マルコ, 坂井和子, 藤田至彦, 富田秀太, 安田卓司, 西尾和人「MEK inhibitor for gastric cancer with MEK1 gene mutations」第 73 回日本癌学会学術総会(横浜)2014.9.
- 705) \*畑中祐二, デベラスコ・マルコ, 沖貴士, 倉由吏恵, 山本豊, 吉村一宏, 清水信貴, 野沢昌弘, 吉川和

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 宏, 西尾和人, 植村天受「Aberrantly Expressed HOXA10 Could Possibly Predict Recurrence after Radical Prostatectomy」第 73 回日本癌学会学術総会(横浜)2014.9.
- 706) \*藤田至彦, 鯉沼聡, デベラスコ・マルコ, ボルツ・ヤン, 富樫庸介, 寺嶋雅人, 林秀敏, 松尾拓哉, 西尾和人「Cytoglobin, a putative tumor suppressor, is frequently lost in melanocyte during melanoma transition」第 73 回日本癌学会学術総会(横浜)2014.9.
- 707) \*倉由吏恵, デベラスコ・マルコ, 畑中祐二, 山本豊, 清水信貴, 吉村一宏, 野澤昌弘, 吉川和宏, 西尾和人, 植村天受「Improved antitumor effects of androgen receptor and mTOR inhibition in castration resistant prostate cancer」第 73 回日本癌学会学術総会(横浜)2014.9.
- 708) \*水内寛, 須田健一, 富田秀太, 佐藤克明, 小林祥久, 下治正樹, 富沢健二, 武本智樹, 岩崎拓也, 阪口全宏, 西尾和人, 光富徹哉「ABC1 overexpression in EGFR-TKI resistant HCC4006 cells with EMT feature causes cross-resistant to anti-tubulin agents」第 73 回日本癌学会学術総会(横浜)2014.9.
- 709) \*須田健一, 村上功, 佐藤克明, 富田秀太, 水内寛, 坂井和子, 清水重喜, 富沢健二, 武本智樹, 阪口全宏, 西尾和人, 谷田部恭, 光富徹哉「Molecular and pathological evolution in acquisition of resistance to EGFR-TKI-T790M mutation and SCLC transformation」第 73 回日本癌学会学術総会(横浜)2014.9.
- 710) \*植村天受, 倉由吏恵, 畑中祐二, 山本豊, 清水信貴, 吉村一宏, 野澤昌弘, 吉川和宏, 西尾和人, デベラスコ・マルコ「Development of a Lethal Genetically Engineered Mouse Model of Prostate Cancer for Survival Studies and End-stage Cancer」第 73 回日本癌学会学術総会(横浜)2014.9.
- 711) \*寺嶋雅人, 藤田至彦, 富樫庸介, 坂井和子, 富田秀太, 西尾和人「KIAA1199 interacts with PHKB and promotes glycogen breakdown and cancer cell survival」第 73 回日本癌学会学術総会(横浜)2014.9.
- 712) \*山本豊, デベラスコ・マルコ, 倉由吏恵, 畑中祐二, 清水信貴, 南高文, 野澤昌弘, 吉村一宏, 吉川和宏, 西尾和人, 植村天受「Dual targeting of the PI3K/mTOR and AR pathways in a mouse model of PTEN-deficient prostate cancer」第 73 回日本癌学会学術総会(横浜)2014.9.
- 713) \*吉川和宏, デベラスコ・マルコ, 倉由吏恵, 畑中祐二, 山本豊, 清水信貴, 吉村一宏, 野澤昌弘, 西尾和人, 植村天受「Establishment and characterization of cell lines derived from mouse PTEN-deficient prostate cancer」第 73 回日本癌学会学術総会(横浜)2014.9.
- 714) \*沖貴士, デベラスコ・マルコ, 畑中祐二, 倉由吏恵, 山本豊, 吉村一宏, 清水信貴, 野澤昌弘, 吉川和弘, 西尾和人, 植村天受「Expression of Lumican in Human Prostate Cancer」第 73 回日本癌学会学術総会(横浜)2014.9.
- 715) \*デベラスコ・マルコ, 倉由吏恵, 畑中祐二, 山本豊, 清水信貴, 吉村一宏, 野澤昌弘, 吉川和宏, 西尾和人, 植村天受「Autophagy in Prostate Tumorigenesis and Its Clinical Implications」第 73 回日本癌学会学術総会(横浜)2014.9.
- 716) \*西尾和人「バイオマーカー研究の最前線 循環腫瘍ゲノムの同定と臨床応用」第 73 回日本癌学会学術総会(横浜)2014.9.
- 717) \*西尾和人「日本における TR 推進体制の整備について」日本乳癌学会総会プログラム抄録集 22 回: 233, 2014.
- 718) \*清水俊雄, 曾田秀巳, 橋井千晶, 西尾和人, 野村守弘, 森田哲也, 小林和子, 大西理都子, 良谷佳美, 中川和彦「日本における早期探索臨床試験の推進について 海外ベンチャー製薬企業主導型新薬第 I 相試験実施に関する新しいシステム構築」第 22 回日本乳癌学会学術総会(大阪)2014.7.
- 719) \*畑中祐二, デベラスコ・マルコ, 山本豊, 沖貴士, 倉由吏恵, 清水信貴, 野澤昌弘, 吉村一宏, 吉川和宏, 西尾和人, 植村天受「前立腺癌における HOXA10 の発現異常についての検討」第 102 回日本泌尿器科学会(神戸)2014.4.
- 720) \*倉由吏恵, デベラスコ・マルコ, 安藤直美, 福島恵美子, 畑中祐二, 山本豊, 清水信貴, 野澤昌弘, 吉

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 村一宏, 吉川和宏, 西尾和人, 植村天受「前立腺癌における STAT3 転写活性抑制効果の検討」第 102 回日本泌尿器科学会(神戸)2014.4.
- 721) \*植村天受, 倉由吏恵, 安藤直美, 福島恵美子, 畑中祐二, 山本豊, 清水信貴, 野沢昌弘, 吉村一宏, 吉川和宏, 西尾和人, デベラスコ・マルコ「前立腺癌マウスモデルにおけるがん抑制遺伝子 PTEN および p53 の相互作用の検討」第 102 回日本泌尿器科学会(神戸)2014.4.
- 722) \*山本豊, デベラスコ・マルコ, 倉由吏恵, 安藤直美, 福島恵美子, 畑中祐二, 清水信貴, 野沢昌弘, 吉村一宏, 吉川和弘, 西尾和人, 植村天受「前立腺特異的 PTEN ノックアウトマウスモデルにおける MEK 阻害剤の抗腫瘍効果の検討」第 102 回日本泌尿器科学会(神戸)2014.4.
- 723) \*沖貴士, デベラスコ・マルコ, 畑中祐二, 倉由吏恵, 山本豊, 吉村一宏, 清水信貴, 野澤昌弘, 吉川和弘, 西尾和人, 江左篤宣, 植村天受「前立腺癌における Lumican の発現についての検討」第 102 回日本泌尿器科学会(神戸)2014.4.
- 724) \*デベラスコ・マルコ, 倉由吏恵, 安藤直美, 福島恵美子, 畑中祐二, 山本豊, 清水信貴, 吉村一宏, 野澤昌弘, 吉川和弘, 西尾和人, 植村天受「前立腺癌におけるオートファジーの生物学的意義」第 102 回日本泌尿器科学会(神戸)2014.4.
- 725) \*見前隆洋, 伊藤彰彦, 萩山満, 坪川史典, 笹田伸介, 古屋智晴, 宮田義浩, 岡田守人: 肺気腫発症の新規機序: Cell adhesion molecule 1 の shedding 亢進による細胞内ドメインの産生. 第 114 回日本外科学会定期学術集会(京都)2015.3.
- 726) \*加藤貴史, 伊藤彰彦: HGF はラット腎尿細管細胞において ROMK の 44 番目セリン残基のリン酸化及び細胞膜への移行を亢進する(HGF accelerates the serine44-phosphorylation and cell surface translocation of ROMK channel in rat kidney cells). 第 88 回日本薬理学会 (名古屋)2015.3.
- 727) \* Iino T, Furuno T, Hagiwara M, Ito A, Hosokawa Y: Mechanical response of single nerve cells estimated by femtosecond laser-induced impulsive force. SPIE Photonics West(San Francisco, America)2015.2.
- 728) \*加藤貴史, 崎山亮一, 岡 清正, 伊藤彰彦, 中村敏一: HGF 誘導活性に関与するヘパリン2糖の硫酸基の同定. 第87回日本生化学会(京都)2014.10.
- 729) \*伊東 剛, 永田政義, 河合剛人, 丸山智子, 櫻井(八下田)美佳, 伊藤彰彦, 後藤明輝, 松原大祐, 村上義則: 遺伝子欠損マウスを用いた CADM1 の肺腫瘍抑制における役割の解明. (Analysis of the role of CADM1 in suppression of lung cancer using Cadm1-deficient mice.) 第 73 回日本癌学会学術総会 (横浜) 2014.9.
- 730) \*加藤貴史, 伊藤彰彦: 三次元培養下での肺腺腫瘍様構造の構築. (Lung adenomatous tumor-like construction in three-dimensional culture.) 第 73 回日本癌学会学術総会 (横浜)2014.9.
- 731) \*萩山 満, 伊藤彰彦: アクチン結合性アダプター蛋白  $\alpha$ -parvin は偽足突起構成要素であり、小葉乳癌のリンパ節転移に関与する. 第 73 回日本癌学会学術総会 (横浜)2014.9.
- 732) \*見前隆洋, 伊藤彰彦, 萩山 満, 中西 淳, 細川陽一郎, 岡田守人, 村上善則, 近藤格: 偽足突起における新技術レーザープロテオミクス-エキシマレーザーと2次元電気泳動を用いて. 第 10 回日本臨床プロテオーム研究会(東京)2014.5.
- 733) \*木村雅友, 榎木英介, 筑後孝章, 前西修, 伊藤彰彦: 病理組織実習中の学生によるスマートフォン内臓デジタルカメラを使った顕微鏡画像撮影. 第 103 回日本病理学会総会 (広島)2014.4.
- 734) \*米重あづさ, 萩山満, 伊藤彰彦: 肺気腫の新規発症機序: 接着分子 CADM1 の酵素的切断亢進による肺胞上皮アポトーシスの亢進. 第 103 回日本病理学会総会 (広島)2014.4.
- 735) \*橋本重夫, 門田永治, 土手健作, 伊藤彰彦: 複数の剖検従事者への結核菌感染源と推定された上行結腸・直腸多発癌術後の一部検例. 第 103 回日本病理学会総会 (広島)2014.4.
- 736) \*井上敬夫, 萩山満, 榎木英介, 伊藤彰彦: 骨芽細胞の新規接着分子 CADM1 は骨肉腫の診断マーカー

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

<p>として有用である。第 103 回日本病理学会総会 (広島)2014.4.</p> <p>737) *萩山 満、井上敬夫、米重あづさ、伊藤彰彦: <u>マスト細胞における接着分子 CADM1 の発現上昇: アトピー性皮膚炎のストレス感受性への関与</u> 第 103 回日本病理学会総会 (広島)2014.4.</p> <p>738) *岡田 斉 <u>KDM4B/JMJD2B 欠損は肥満を誘導する</u> 第 87 回日本生化学会(京都)2014.10.</p> <p>739) *濱崎真一、<u>丹羽淳子、小堀宅郎、西堀正洋、高橋英夫: HMGB1 によるヒスタミン誘導性免疫応答調節効果</u> 第 125 回日本薬理学会近畿部会 (岡山)2014. 6.</p> <p>740) *<u>丹羽淳子、赤星保光、堀内喜高、濱崎真一、小堀宅郎、西堀正洋、高橋英夫: 自発運動は脳卒中後の視床下部神経再生を促進する</u> 第 125 回日本薬理学会近畿部会 (岡山)2014. 6.</p>
---

#### <研究成果の公開状況>(上記以外)

シンポジウム・学会等の実施状況、インターネットでの公開状況等ホームページで公開している場合には、URL を記載してください。

##### <既に実施しているもの>

毎年度の研究業績はホームページに掲載している (<http://www.phar.kindai.ac.jp/senryakukiban/>)。その他、各グループの成果の一部は研究室ごとにホームページ上に公開されている。

**研究成果の公表・情報発信:** 本プロジェクトより得られた研究成果は、317 報の原著論文、740 件の学会発表、15 件の知財発表など、極めて高いアクティビティーを発揮することができた。その他、3 回の公開シンポジウム(うち 1 回は国際シンポジウム)と 5 回の外部講師によるセミナー(未来創薬医療イノベーションセミナー)・講演会を開催した。

##### 研究成果のアウトリーチ活動・若手研究者育成:

- ① 国際学会開催: 近畿大学薬学部生、大学院生、若手教員による Young Investigator session を 3 セッション開催し、成果発表を行い、国内、国外の研究者より、若手の高い研究能力、研究成果の質に対する極めて高い評価を得た。
- ② 上記国際学会において、関西一円の高校生を聴衆として講演、ポスターに招待するとともに、“高校生を対象とした特設ブース”を開設し、代表的な成果を紹介した。近畿大学オープンキャンパスにおいて、研究成果のポスターを展示し、来場者(高校生、保護者等)に対して成果の紹介、説明を行った。
- ③ 科学雑誌ニュートンにおいて「がんに挑む! 治療・創薬の最前線」という特集において、薬学部杉浦麗子、川畑篤史、医学部西尾和人教授らの成果を紹介した。
- ④ アウトリーチ活動: 生涯教育研修会を開催し、関西一円の臨床薬剤師、学部学生等に対して研究成果を公開、周知した。
- ⑤ 未来創薬医療セミナー開催(~3 回/年): 近畿大学薬学部、薬学研究科、他学部大学院生を対象として最先端の創薬と医療に関する講演会を行った。

##### <これから実施する予定のもの>

今年度後半に、これまでの研究成果をまとめたシンポジウムを予定している。

##### <既に実施しているシンポジウム等一覧>

<平成 26 年度>

##### ○キックオフシンポジウム

日時: 2015 年 3 月 24 日(火) 13:00~16:30

会場: 近畿大学 B 館多目的利用室

演者: Dr. Dieter Wolf (Sanford Burnham Prebys Medical Discovery Institute)

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

Dr. Toru Nakano (Osaka University)  
 Dr. Kazuto Nishio (Kindai University)  
 Dr. Reiko Sugiura (Kindai University)

○平成 26 年度「研究報告会」

日時：2015 年 3 月 31 日（火）13:00～18:00

会場：近畿大学 39 号館 5 階 501 演習室

〈平成 27 年度〉

○第一回 未来創薬医療イノベーションセミナー

日時：2015 年 7 月 11 日（土）15:00～16:30

会場：近畿大学 39 号館 3 階 302 講義室

演者：塚原 克平 博士（エーザイ株式会社）

○第二回 未来創薬医療イノベーションセミナー

日時：2015 年 9 月 26 日（土）16:30～18:00

会場：近畿大学 39 号館 4 階 403 演習室

演者：川田 学 博士（微生物化学研究所）

○第三回 未来創薬医療イノベーションセミナー

日時：2015 年 11 月 27 日（金）13:10～14:40

会場：近畿大学 39 号館 2 階 201 講義室

演者：中村 義一 博士（東京大学、株式会社リボミック）

○第一回 未来創薬医療イノベーションシンポジウム「RNA と癌研究が拓く生命科学の最前線」

日時：2015 年 11 月 30 日（月）13:00～17:30

会場：近畿大学 39 号館 2 階 202 講義室

演者：特別講演：沖縄科学技術大学院大学 山本 雅 教授

若手口頭発表：近畿大学薬学部医療薬学科 坪田 真帆 助教  
 近畿大学薬学部医療薬学科 松尾 一彦 助教  
 近畿大学薬学部創薬科学科 佐藤 亮介 助教  
 近畿大学薬学部医療薬学科 深尾 亜喜良 助教

ポスター発表：近畿大学薬学部医療薬学科 川瀬 篤史 講師  
 近畿大学薬学部創薬科学科 窪内 康二  
 近畿大学薬学部医療薬学科 藤里 駿  
 近畿大学薬学部医療薬学科 小山 篤  
 近畿大学薬学部創薬科学科 新谷 昂  
 近畿大学薬学部創薬科学科 田中 護  
 近畿大学薬学部医療薬学科 木野 稔己  
 近畿大学薬学部医療薬学科 上谷 夏生  
 近畿大学薬学部創薬科学科 難波 佑輔



法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

近畿大学薬学部創薬科学科 小池 史華  
 近畿大学薬学部創薬科学科 木村 悠介  
 近畿大学薬学総合研究所 百合 祐樹  
 京都大学大学院医学研究科 貞廣 暁利  
 名古屋市立大学大学院薬学研究科 大塚 衆志

○第四回 未来創薬医療イノベーションセミナー

日時：2016年3月24日(木) 14:00~15:30

会場：近畿大学 39号館 5階 501 講義室

演者：Gerald Zamponi 博士 (University of Calgary)

〈平成 28 年度〉

○生化学研究室主催オープンセミナー (本事業共催)

日時：平成 28 年 6 月 24 日 (金) 16:00~17:30

演者：Kent Duncan 博士 (Center for Molecular Neurobiology Hamburg)

○第五回 未来創薬医療イノベーションセミナー

日時：平成 28 年 7 月 12 日 (火) 16:30~17:30

会場：39号館 4階 403 演習室

演者：吉田 優 博士 (神戸大学 大学院医学研究科)

○生涯教育研修会 (一般公開)

日時：平成 28 年 10 月 1 日 (土) 15:00~18:00

演者：杉浦 麗子 博士 (近畿大学 薬学部 教授) 15:00~16:30

西尾 和人 博士 (近畿大学 薬学部 教授) 16:30~18:00

○第 12 回 プロテインホスファターゼ国際カンファレンス & 革新がんゲノム国際シンポジウム (成果発表会を兼ねる)

日時：平成 28 年 10 月 27 日 (木) ~30 日 (日)

会場：11 月ホール 大ホール

演者：Michel Tremblay 博士 (*McGill* 大学)

佐谷 秀行 博士 (慶應義塾大学)

Mathieu Bollen (*University of Leuven, Belgium*)

Martha Cyert (*Stanford University*)

David Brautigan (*University of Virginia*) 他

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

#### 14 その他の研究成果等(知的財産、企業との連携実績)

「12 研究発表の状況」で記述した論文、学会発表等以外の研究成果及び企業との連携実績があれば具体的に記入してください。また、上記11(4)に記載した研究成果に対応するものには\*を付してください。

##### ○特許出願

##### 「テーマA」:増殖シグナルを標的とした創薬研究・シーズの開発

- 1) 発明の名称:抗腫瘍剤  
出願人:学校法人近畿大学(33%)、リンク・ジェノミクス株式会社(33%)、学校法人慶應義塾大学(34%)  
発明者:益子 高、丹羽眞一郎、進藤孝之、押野太智、佐谷秀行、永野修、石本崇胤  
出願番号:特願 2011-005311(2011年1月13日)、特許第 6041333号(2016年11月18日)
- 2) 発明の名称:トランスポーターに対する抗体およびその用途  
出願人:学校法人近畿大学(10%)、リンク・ジェノミクス株式会社(90%)  
発明者:薬学部 益子 高、リンク・ジェノミクス 丹羽 眞一郎  
移行国:日本、米国、欧州、豪州、カナダ、韓国、中国、香港、インド、インドネシア、アラブ首長国連邦(UAE)、タイ PCT/JP2013/65996 の国内移行(2014)
- 3) 発明の名称:装置及び該培養装置を用いた細胞培養法  
出願人:学校法人近畿大学  
発明者:伊藤彰彦  
出願番号:特願2015-87897号
- 4) 発明の名称:ニホンスイセンの花部より得られるメラニン産生抑制剤  
出願人:学校法人近畿大学, 株式会社ダイアベティム  
発明者:村岡 修, 森川敏生, 二宮清文  
出願番号:特願2015-19578  
公開番号:特開2016-141657(2016年8月8日)
- 5) 発明の名称:人参果から得られる抗 TNF- $\alpha$  作用剤及び肝保護作用剤, ヒト又は動物用医薬, 新規サポニン化合物及び新規ポリフェノール化合物  
出願人:学校法人近畿大学, 株式会社ダイアベティム  
発明者:村岡 修, 吉川雅之, 森川敏生, 二宮清文  
出願番号:特願2010-86612  
公開番号:特開2011-219370  
特許番号:特許第5892719号(2016年3月4日)
- 6) 発明の名称:デイジーから得られる中性脂質吸収抑制剤及びサポニン化合物並びにその用途  
出願人:学校法人近畿大学, 株式会社ダイアベティム  
発明者:村岡 修, 吉川雅之, 森川敏生, 松田久司  
出願番号:特願2008-08146  
公開番号:特開2009-234962  
特許番号:特許第5675034号(2015年1月9日)
- 7) 発明の名称:アッサムチャ花部から得られる脂肪分解阻害剤及び胃がん細胞増殖抑制剤, 並びに新規サポニン化合物  
出願人:学校法人近畿大学, 株式会社ダイアベティム  
発明者:吉川雅之, 村岡 修, 松田久司, 中村誠宏, 森川敏生, 二宮清文  
出願番号:特願2014-028679

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

公開番号:特開2015-151387(2015年8月24日)

**「テーマB」:癌増殖シグナル制御機構の解析と抗がん剤標的分子のPOC**

- 8) 発明の名称: NIK 阻害剤  
出願人: 学校法人 近畿大学  
発明者: 西田升三、椿 正寛、武田朋也  
出願番号: 特願 2015-150702
- 9) 発明の名称: 慢性骨髄性白血病の治療用組成物  
出願人: 学校法人 近畿大学  
発明者: 西田升三、椿 正寛、武田朋也、西尾和人、中山隆志、坂井和子、駒居真紀子、小野優里、深松真衣  
出願番号: 特願 2014-202529
- 10) 発明の名称: 大腸癌マーカー  
出願人: 近畿大学、日本医科大学  
発明者: 多賀淳、山本哲志、工藤光洋、内藤善哉  
出願番号: 特願 2016-088419
- 11) 名称: 大腸癌の治療用組成物  
出願人: 近畿大学  
発明者: 多賀淳、山本哲志  
出願番号: 特願 2015-007704

**「テーマC」: 臨床腫瘍検体を用いた創薬シーズのPOC研究と個別化医療**

- 12) 発明の名称: METHOD USING A RET FUSION GENE AS A BIOMARKER TO SELECT NON-SMALL CELL LUNG CANCER (NSCLC) AND THYROID CANCER PATIENTS FOR A CANCER TREATMENT EP: 15198473.9  
出願人: ベーリンガーインゲルハイムインターナショナルGmbH及び近畿大学  
発明者: 西尾和人、中川和彦、武田真幸、坂井和子、岡本邦男、林 秀敏、田中 薫、清水俊雄  
公開番号: 特開2016-069348
- 13) 発明の名称: がん治療のための併用療法としてのエリブリンとS-1(もしくは5-FU)の使用  
出願人: エーザイ・アール・アンド・ディー・マネジメント株式会社、学校法人近畿大学  
発明者: 西尾和人、寺嶋雅人、坂井和子  
公開番号: 特開2016-8215(P2016-8215A)
- 14) 発明の名称: FGF4遺伝子増幅腫瘍の医薬組成物  
出願人: 住友ベークライト株式会社、学校法人近畿大学  
発明者: 西尾和人、荒尾徳三、松本和子、福島雅夫  
公開番号: 特開WO2015049985 A1
- 15) 発明の名称: 好中球活性化に起因する疾患の治療薬、治療方法および検査方法  
発明者: 西堀正洋、森秀治、和気秀徳、高橋英夫、劉克約、勅使川原匡、坂口政清  
特許番号: 特許第5467313号(国内:平成27年9月18日) 特許第904731号(米国:平成28年11月29日)

**○企業との連携**

- 1) 第一三共株式会社: anti-human LAT-1 抗体のカニクイザルの LAT-1 への種交差性の検討
- 2) JSR 株式会社: 抗体ビーズ(CD44v9 キャプチャービーズ)の評価

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 3) 田辺三菱製薬株式会社: CD98 と IL-32 の相互作用および機能解析
- 4) 第一三共株式会社: 新規の抗 LAT1 抗体の取得
- 5) 第一三共株式会社: Patritumab のアフィニティーに及ぼす抗 HER1 または抗 HER2 の影響

○報道等

TV 報道

- 1) 2017 年 5 月 9 日 NHK ニュース: がん細胞の増殖抑える薬剤 開発、杉浦麗子教授

新聞報道

- 2) 2017 年 5 月 11 日 「四国新聞」: 皮膚がん抑制物質発見 近畿大、杉浦麗子教授
- 3) 2017 年 5 月 10 日 「読売新聞・夕刊」: 皮膚がんメラノーマ抑制 近大チーム、化合物を発見、杉浦麗子教授
- 4) 2017 年 5 月 10 日 「産経新聞・夕刊」: 皮膚がん抑制物質発見 近大、新薬開発に可能性
- 5) 2017 年 5 月 10 日 「朝日新聞」: 皮膚がんの一種メラノーマ撃退、近畿大が化合物発見 薬開発に期待、杉浦麗子教授
- 6) 2017 年 5 月 10 日 「日本経済新聞」: 皮膚がん増殖抑制、新化合物 近大が発見、杉浦麗子教授
- 7) 2017 年 5 月 10 日 「愛媛新聞」: 皮膚がん抑制 化合物を発見、近畿大チーム、杉浦麗子教授
- 8) 2017 年 5 月 10 日 「東奥日報社」: 皮膚がん抑制物質発見 近畿大チーム、新薬開発に期待
- 9) 2017 年 5 月 10 日 「日刊工業新聞」: 皮膚がん増殖阻害、化合物 近畿大が発見杉浦麗子教授
- 10) 2017 年 5 月 10 日 「共同通信ニュース」: 皮膚がん抑制物質、近畿大—新薬開発に期待、杉浦麗子教授
- 11) 2016 年 10 月 18 日 「日経産業新聞」: がん研究最前線 免疫活性化するワクチン、益子高教授 2017
- 12) 2016 年 1 月 18 日 「静岡新聞」: 酵素働き弱め、がん転移抑制、杉浦麗子教授
- 13) 2016 年 1 月 14 日 「日経産業新聞」: がん転移 酵素狙い防ぐ 近大など、マウスで成功、杉浦麗子教授
- 14) 2016 年 1 月 12 日 「日刊工業新聞」: 酵素「PKN3」ががん転移に関与 近畿大発見、杉浦麗子教授
- 15) 2016 年 1 月 9 日 「読売新聞」: 特定酵素なくせばがん転移抑制 近大チーム、マウス実験で、杉浦麗子教授
- 16) 2016 年 1 月 8 日 「共同通信」、「時事通信」: 酵素狙い、がん転移抑制 マウスで成功、薬開発に道、杉浦麗子教授
- 17) 2015 年 11 月 5 日 「日経産業新聞」: がん研究最前線 免疫薬の効果高める、益子高教授

雑誌取材

- 18) 2015 年 8 月 15 日発行 「Newton (別冊ニュートンムック)」: がんに挑む! 治療・創薬の最前線  
杉浦麗子 他

○受賞等

<教員 (5 件)>

日本化学会情報化学部会論文賞 2016 年 10 月

中村真也助教(創薬分子設計学研究室)

A Mini-review on Chemoinformatics Approaches for Drug Discovery. Journal of Computer Aided Chemistry Vol.16 (2015) p.15-29

平成 28 年度 日本生薬学会論文賞 2016 年 9 月

森川 敏生教授(薬学総合研究所)

Dipeptidyl peptidase-IV inhibitory activity of dimeric dihydrochalcone glycosides from flowers of *Helichrysum arenarium*. Journal of Natural Medicines 69(4), 494-506 (2015).

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

**日本薬学会 環境・衛生部会賞・金原賞 2015年9月**

緒方 文彦講師(公衆衛生学研究室)

「水環境における無機・有機材料に対する金属イオンの吸着機構に関する研究」

**日本膵臓病研究財団 平成26年度膵臓病研究奨励賞 2014年12月**

山本 哲志助教(病態分子解析学研究室)

「細胞外基質 lumican の膵臓癌特異糖鎖修飾を標的とした新規治療法の開発」

**The 8th JSP-CCTCNM-KSP Joint Symposium on Pharmacognosy (Fukuoka, Japan) Best Poster Award 2014年9月**

二宮 清文講師(薬学総合研究所・食品薬学研究室)

Effects of Constituents from Hooks of *Uncaria rhynchophylla* on Neurite Outgrowth and TNF-alpha-induced Cell Damage ○Kiyofumi Ninomiya, Toru Minamino, Kaiten Ozeki, Natsuko Matsuo, Chihiro Kawabata, Takao Hayakawa, and Toshio Morikawa

&lt;学生 (36件)&gt;

**第12回プロテインホスファターゼ国際カンファレンス(ICPP12) 戦略研究「革新がんゲノム」2016年10月  
優秀ポスター賞**

○医療薬学科4年 池田智里(分子医療・ゲノム創薬学研究室)

P-08「Skb5, an SH3 domain adaptor protein, plays a regulatory role in the PKC/MAPK signaling pathway by controlling the intracellular localization of the MAPKKK Mkh1」

○創薬科学科4年 稲荷正大(分子医療・ゲノム創薬学研究室)

P-15「Functional Analysis of the Puf family RNA-binding protein Pumilio in stress responses and the inositol phospholipid signaling pathway」

○創薬科学科4年 山本真也(化学療法学研究室)

P-21「A CC3 variant of lymphotactin/XCL1 (XCL1-CC3) is an effective CTL-inducing adjuvant for cancer immunotherapy」

○薬学研究科 M1 堂本莉紗(病態薬理学研究室)

P-29「A role of macrophage-derived HMGB1 in paclitaxel-induced peripheral neuropathy in mice」

○薬学研究科 M1 友成佳加(薬物治療学研究室)

P-04「Inhibition of NF-kappaB by mangiferin increased the sensitivity of human multiple myeloma cells to anticancer drugs」

○薬学研究科 D2 上田詩歩(細胞生物学研究室)

P-17「Cross-species reaction of anti-human LAT1 with LAT1 of crab-eating monkey」

**優秀ショートトーク賞**

○薬学研究科 M2 木野 稔己(薬物治療学研究室)

PS-11 「Mangiferin induced the apoptosis via suppression of MIK/NF-kB pathway in human multiple myeloma cells」

**第10回日本薬局学会学術総会 ポスター優秀演題賞 2016年10月**

永田 真穂

MIP-1 $\alpha$  オートクライン阻害を介した抗がん剤感受性増強効果

倉橋 真弓

Mangiferin による NIK/IKK/NF-kB 経路阻害を介した細胞死誘導効果

木野 稔己

RANK/RANKL は多発性骨髄腫における CAM-DR に寄与する

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

今宮彰良

カルコンの転位反応を利用したベンゾフラン合成研究

山田 祐毅

CCR4 阻害剤による Treg 抑制は筋肉内投与ワクチンの効果を向上させる

後藤 ありさ

アロエ属植物の皮膚修復メカニズムに関する研究

**第 129 回日本薬理学会近畿部会 学生優秀発表賞 2016 年 6 月**

医療薬学科6年生 松井和樹

「結腸痛の発症における侵害受容ニューロン発現分子 TRPV1, PAR2 および Cav3.2 の役割」

**日本薬学会 136 年会 優秀ポスター賞 2016 年 4 月**

川端 史花

"ケモカイン Lymphotoxin/XCL1 を用いた CTL 誘導アジュバントの開発"

河端 千尋

"釣藤鈎の機能性成分(7)一含有成分の神経突起伸長 作用—"

**第 65 回 日本薬学会近畿支部総会・大会 優秀ポスター賞 2015 年 10 月**

山岡 桜

苦参由来新規 T 型 Ca<sup>2+</sup>チャネル阻害薬 sophoraflavanone G およびその類縁体の薬理作用解析

谷口祐紀

キンドラー症候群患者特異的 iPS 細胞を用いた疾患の発症機構解明に向けて

中島佑香

ヒト皮膚創傷治癒におけるアロエベラ抽出液の効果

長谷川裕太

高活性型 Lymphotoxin/XCL1 の作製ならびに CTL 誘導能

**第 6 回生命機能研究会 優秀ポスター発表賞 2015 年 9 月**

創薬科学科4年生 久保嘉一

bcl ファミリー分子 BNIP3 はオートファジーを介して表皮の分化および形態維持を行う

創薬科学科4年生 百合祐樹

Notch シグナルは解糖系の亢進を介して間葉系幹細胞を維持する

**次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム 2015 最優秀ポスター発表賞 2015 年 8 月**

創薬科学科4年生 堂本莉紗

マウスにおける lipopolysaccharide 誘起炎症性痛覚過敏および抗癌剤 paclitaxel 誘起神経障害性疼痛へのマクロファージ由来 high mobility group box 1 の関与

**生体機能と創薬シンポジウム 2015 優秀ポスター発表賞 2015 年 8 月**

薬科学専攻博士前期課程1年生 富田詩織

ラット第5腰神経切断により誘起される神経障害性疼痛および脊髄後根神経節における Cav3.2 T 型 Ca<sup>2+</sup>チャネル発現増加への転写調節因子 Egr-1 と脱ユビキチン化酵素 USP5 の関与

**近畿大学薬学部サイエンスネットワーク第 5 回院生サミット 2015 年 7 月**

口頭発表賞 富田詩織

**優秀ポスター賞(126 演題中)**

2 位 小森悠平

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

6位 小山篤

**日本薬学会 135 年会(神戸) 優秀ポスター賞 2015 年 4 月**

浅野 絵莉茄 (病態薬理研究室)

高グルコース条件下で培養した神経内分泌様分化ヒト前立腺癌 LNCaP 細胞における Cav3.2 T 型カルシウムチャネルの糖鎖修飾による機能増強と分泌機能亢進

Glycosylation-induced enhanced activity of Cav3.2 T-type calcium channels and concomitantly elevated secretory function in neuroendocrine-like differentiated human prostate cancer LNCaP cells cultured in a high glucose condition

久保 嘉一 (薬学総合研究所、先端バイオ医薬研究室)

bcl2 ファミリー分子 BNIP3 は、オートファジーを介して上皮の分化および形態維持を行う。

BNIP3 plays crucial roles in the differentiation and maintenance of epidermal keratinocytes

**第 64 回日本薬学会近畿支部総会 ポスター賞 2014 年 10 月**

医療薬学科 曾根 千晶

P1-59 新規ヒト脂肪組織由来多系統前駆細胞(hADMPC)を用いたインスリン産生細胞の作製

○曾根千晶、森山麻里子、早川堯夫、森山博由

創薬科学科4年生 山田 翼

P1-63 BCL-2ファミリー分子 BNIP3 が表皮分化及び表皮形態維持に及ぼす影響

○山田 翼、森山麻里子、宇田純輝、中島佑香、早川堯夫、森山博由

創薬科学科4年生 竹田 悠人

P2-78 化学修飾型シリカナノ粒子を用いるキャピラリー電気泳動法の開発

○竹田悠人、林 優花、高本智世、山本佐知雄、木下充弘、鈴木茂生

**第 126 回日本薬理学会近畿部会 優秀発表賞 2014 年 10 月**

創薬科学科 4 年生 山岨大智

「マクロファージ由来 HMGB1 の炎症性痛覚過敏への関与と分子作用メカニズムの解析」

**ガス状情報伝達物質の生理と病態生理に関する国際会議 優秀発表賞(準優勝) 2014 年 9 月**

薬学専攻博士課程 尾崎友香

「MECHANISMS FOR UPREGULATION OF CYSTATHIONINE- $\gamma$ -LYASE, A HYDROGEN SULFIDE-GENERATING ENZYME, IN MICE WITH CYCLOPHOSPHAMIDE-INDUCED CYSTITIS: INVOLVEMENT OF SUBSTANCE P/NK1 PATHWAY AND NF- $\kappa$ B SIGNALS」

**第 31 回和漢医薬学会学術大会(千葉) 優秀発表賞 2014 年 8 月**

尾関快天, 二宮清文, 松本 拓, 南野 享, 松尾菜都子, 森川敏生

釣藤鈎の機能性成分(3)一含有成分の抗炎症作用一

上村健太郎(病態分子解析学研究室)

「ショットガンプロテオミクス解析による大腸癌早期発見のための新規診断マーカーの探索」

15 「選定時」に付された留意事項とそれへの対応

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

<「選定時」に付された留意事項>

抗がん剤の研究は、細胞増殖だけでなく、幹細胞や免疫的な方向にも進んでいることを認識しつつ、研究基盤を形成していただきたい。

<「選定時」に付された留意事項への対応>

**対応策 1:** 「幹細胞と増殖、分化シグナル・がん化の関わり、さらに代謝制御」について解析を行えるように研究体制を編成した。そのため、新たに赴任した岡田斉教授(医学部)がプロジェクトに参画し、研究課題 B,C に関わる研究テーマの推進を行った。岡田教授は、エピジェネティクスとがん化制御機構の関わりについて、幹細胞、マウス個体を用いて解析を進めている。

**成果:** 岡田教授は着任後、がん抑制遺伝子あるいはがん促進遺伝子と報告されているエピジェネティクス制御因子の中でヒストン脱メチル化酵素KDM6Aに着目し、これらの遺伝子が癌化制御に加えるような機序で代謝経路を制御し、それらががん細胞メタボリズムのリプログラミングにどの様に寄与するかを個体レベルで解析している。既に現在までに、腎臓癌や多発性骨髄腫など複数の癌における遺伝子変異の報告があるKDM6A欠損幹細胞を作成・解析し、癌抑制遺伝子であるヒストン脱メチル化酵素KDM6Aがどの様に間葉系幹細胞の分化誘導時の代謝を制御するのかを明らかにし、その分子機序を含めて報告している。さらに、KDM6Aは代謝制御の中心的役割を果たすことが明らかとなり、KDM6Aによるがん細胞の代謝リプログラミング制御過程を理解する上で意義のある発見である(論文岡田106)。また、乳がん、前立腺癌等でがん促進遺伝子として機能するKDM4Bの個体レベルでの不活性化により代謝が抑制されることを見出すなど(第87回日本生化学学会、第74回日本癌学会学術総会コアシンポジウム)、めざましい成果をあげつつある。これら一連の報告はがん代謝制御、癌幹細胞機能とエピジェネティクスとの密接な関連を強く示唆するものである。

**対応策 2:** 薬学総合研究所の森山准教授の研究エフォートとして、幹細胞を用いた分化制御機構の解析と代謝の関わりに、よりフォーカスするように采配した。

**成果:** がん幹細胞が維持生存する典型的な体内環境である低酸素環境下において、ゲフィチニブ抵抗性肺がん幹細胞が IGF1R pathway を介して増加する機構を解明した。さらにそのメカニズムの解析を進め、がん幹細胞の生存に関わる OCT4 がゲフィチニブ抵抗性を示す肺がん幹細胞の維持に中心的な役割を果たしていることを突き止めた。(\*論文 147, 201)

さらに、がん(幹)細胞と同等な酸素環境領域と類似した環境にて存在する間葉系幹細胞が、低酸素状態で Notch シグナルを活性していることを見だし、通常酸素培養状態より低酸素培養では、Notch シグナル依存的にグルコース消費量および乳酸産生量が顕著に増加していることを明らかにした(*Stem Cells Dev.* 2014 論文#200)。これらの成果は癌幹細胞と代謝に関する OCT4 や Notch の役割を明らかにすると同時に、OCT4 の発現や機能制御を行うことが、抗がん剤耐性がん細胞への創薬ターゲットとなりうること、転移性の高いがん幹細胞の効果的な治療法の開発に有効であることを示唆している。

**対応策 3:** 薬学部中山教授の研究課題である「ケモカイン系を標的とした新規がん免疫療法の開発」は、免疫とがん増殖さらには、これらを標的としたがん治療法の創製に貢献するものである。ケモカインは免疫細胞の遊走制御因子であり、腫瘍に対する免疫応答においても重要な役割を担っている。本課題では、ケモカイン系を標的として免疫細胞を制御することによって新規がん免疫療法開発のための基礎情報を集積する。

**成果:** 薬学総合研究所森川教授との共同研究の成果として腫瘍免疫に関わるケモカインの阻害活性を有するネオリグナンの同定など、既に興味深い成果が出始めている(\*論文 29)。また、ケモカイ



法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

ン受容体 CCR4 は免疫抑制細胞である制御性 T 細胞 (Treg) の主要な遊走制御因子であり、PD-1 や CTLA-4 とともに免疫チェックポイント分子として注目されている。従って、CCR4 を標的としたがん免疫療法の確立にむけては、腫瘍免疫における CCR4 の役割について明らかにする必要がある。そこで、医学部皮膚科との共同研究で、CCR4 欠損マウスならびに CCR4 阻害剤を用いて、皮膚腫瘍である悪性黒色腫 (メラノーマ) に対する腫瘍免疫における CCR4 の役割について検討した。その結果、CCR4 欠損マウス (CCR4-KO) では WT よりメラノーマの腫瘍増殖が速いことが判明した。これらの結果は、CCR4 が腫瘍免疫活性化の有用な標的分子となる可能性を示している。一方、現在治験が行われている CCR4 阻害薬を用いた Treg 除去療法は、必ずしも腫瘍免疫の活性化にはつながらず、危険性を伴う可能性があることを示している。 (\*論文 143)

**対応策 4** 薬学部益子教授らは、モノクローナル抗体探索、作成において傑出した技術を有し、数多くの特許と医薬品シーズの創製に成功している。今回その方向性として免疫チェックポイント分子阻害により、抗がん作用を発揮できる抗体医薬品、あるいは従来の化合物の抗がん作用を増強できるような抗体医薬品の創製に取り組んでいる。また、全く新しい免疫チェックポイント分子標的として ADORA2A モノクローナル抗体の作成にも取り組んでいる。

**成果:** 抗 PD-1 mAb オプジーボの免疫チェックポイント阻害による制癌効果が注目されるが、益子らの研究室でも、PD-1 阻害が抗癌モノクローナル抗体の ADCC 活性を増強することを報告した。また、次世代の免疫チェックポイント分子 ADORA2A を認識する mAb 作製にも着手している。学会活動、新聞報道など、インパクトある成果が生み出されつつある。

**学会** 第 74 回日本癌学会学術集会(横浜)2015 年 10 月 8~10 日

1) Augmented anti-cancer therapeutic effect using antibodies to multiple target molecules with immune checkpoint blockade. Anti-tumor cytotoxic T cell response evoked by MHC class 1-restricted LAT1 peptides.

「複数標的分子に対する抗体と免疫チェックポイント分子阻害による治療効果の増強」 Subaru Shintani, Kazuma Terashima, Mamoru Tanaka, Hideki Yagi, **Takashi Masuko**

2) Analysis and immunization of cells and exosomes expressing GFP-fused ADORA2A.

Shiho Ueda, Kazuki Imai, Takuya Imaida, Akio Ohta, **Takashi Masuko**

**新聞報道:** 日経産業新聞 2015 年 11 月 5 日 がん研究最前線 免疫薬の効果高める

**対応策 5** 薬学部杉浦らは、免疫抑制薬として開発・臨床応用されている FTY720 および Rapamycin の抗がん作用に着目し、FTY720 と Rapamycin を介する増殖制御メカニズムと免疫応答のクロストーク制御の解析を開始した。

**成果:** ケミカルゲノミクス的手法を用いて FTY720 が ROS の産生を介してストレス応答 MAPK シグナルを活性化すること、さらに Rapamycin の抗癌作用を増強する遺伝子群を網羅的に同定し、Rapamycin と合成致死戦略の基盤を確立した。さらに、薬学部藤原教授らとの共同研究で、Rapamycin/TORC の作用経路の一つである翻訳制御に働く化合物の探索を開始した。 (\*論文 152, 182)

法人番号	271017A01
プロジェクト番号	S1411037

## 16 施設・装置・設備・研究費の支出状況(実績概要)

(千円)

年度・区分	支出額	内 訳						備考
		法人負担	私学助成	共同研究機関負担	受託研究等	寄付金	その他( )	
平成26年度	施設	0	0	0	0	0	0	0
	装置	0	0	0	0	0	0	0
	設備	83,420	31,952	51,468	0	0	0	0
	研究費	39,217	25,182	14,035	0	0	0	0
平成27年度	施設	0	0	0	0	0	0	0
	装置	0	0	0	0	0	0	0
	設備	0	0	0	0	0	0	0
	研究費	46,312	32,507	13,805	0	0	0	0
平成28年度	施設	0	0	0	0	0	0	0
	装置	0	0	0	0	0	0	0
	設備	0	0	0	0	0	0	0
	研究費	53,152	39,831	13,321	0	0	0	0
総額	施設	0	0	0	0	0	0	0
	装置	0	0	0	0	0	0	0
	設備	83,420	31,952	51,468	0	0	0	0
	研究費	138,681	97,520	41,161	0	0	0	0
総計	222,101	129,472	92,629	0	0	0	0	

## 17 施設・装置・設備の整備状況 (私学助成を受けたものはすべて記載してください。)

《施設》(私学助成を受けていないものも含め、使用している施設をすべて記載してください。)

(千円)

施設の名 称	整備年度	研究施設面積	研究室等数	使用者数	事業経費	補助金額	補助主体
薬学部 39号館	平成23年度	2443.4 m <sup>2</sup>	36	246	-	-	-
薬学部 38号館	平成19年度	1607.18 m <sup>2</sup>	11	227	-	-	-
薬学部 15号館	昭和34年度	182.5 m <sup>2</sup>	2	33	-	-	-
医学部研究棟	昭和49年度	864 m <sup>2</sup>	18	21	-	-	-
ゲノムセンター	平成26年度	78 m <sup>2</sup>	2	11	-	-	-

※ 私学助成による補助事業として行った新增築により、整備前と比較して増加した面積

0 m<sup>2</sup>

法人番号	271017A01
プロジェクト番号	S1411037

《装置・設備》(私学助成を受けていないものは、主なもののみを記載してください。)

(千円)

装置・設備の名称	整備年度	型番	台数	稼働時間数	事業経費	補助金額	補助主体
(研究装置)							
MALDI-TOFMS	平成21年度	SHIMADZU BIOTECH AXIMA Resonance	1	3000 h	73,500	36,750	私学助成
FACSAria Special Order System	平成27年度	650036M2	1	50 h	86,516	43,258	私学助成
(研究設備)							
高速液体クロマトグラフ質量分析計一式	平成20年度	SHIMADZU LCMS-2010EV	1	1000 h	19,992	13,328	私学助成
共焦点レーザー走査型顕微鏡	平成22年度	FV10C-O-SET	1	1438 h	10,500	6,338	私学助成
StepOnePlus™ Real-Time PCR Systems	平成23年度	4376600	1	214 h	5,500	0	医学部経費
LSRFortessa	平成24年度	649225C3	1	1000 h	39,716	26,477	私学助成
次世代シーケンサー-Ion PGM	平成24年度	IonPGM 4462921	1	792 h	10,773	10,773	厚労科研
次世代シーケンサー-Ion Proton	平成24年度	IonProton 4476610	1	420 h	21,630	0	医学部経費
ペンチトップ型フーリエ変換質量分析計システム	平成25年度	Exactive Plus	1	1292 h	39,900	26,600	私学助成
等温滴定型熱量計(ITC)	平成25年度	NANO ITC LV	1	260 h	14,962	9,975	私学助成
高感度トリプル四重極質量分析計	平成26年度	TSQ Endura	1式	5500 h	35,559	21,939	私学助成
生体分子精製・相互作用解析システム	平成26年度	Biacore・AKTA	1式	500 h	24,645	15,206	私学助成
タンパク質多項目同時解析システム	平成26年度	Luminex 200xPONENTシステム 40-012J 他	1式	375 h	10,476	6,463	私学助成
多項目自動血球分析装置(XT-1800i)	平成26年度	XT-1800i	1式	144.5 h	12,740	7,860	私学助成
(情報処理関係設備)		該当なし					

## 18 研究費の支出状況

(千円)

年度	平成	26	年度	積算内訳	
小科目	支出額	主な用途	金額	主な内容	
教 育 研 究 経 費 支 出					
消耗品費	25,336	メタボローム解析キット(12検体)	995		
		ヌードマウス	286		
		その他	24,055		
通信運搬費	158	機材運搬費	158		
旅費交通費	150	成果発表及び情報収集	150		
報酬・委託料	454	シンポジウム講演および研究打ち合わせ謝金	454		
ソフトウェア費	3,069	蛋白質解析ソフトウェアMASCOT	2,700		
		解析ソフト MILLPLEX Analyst 5.1(1ライセンス)	369		
会議会合費	223	シンポジウム開催費	150		
		会議費	73		
雑支出	139	アタマ取得スクリーニング代	59		
		ペプチド特注代金	77		
		その他	3		
用品費	827	真空制御ユニット4台	460		
		ノートパソコン5台	286		
		その他	81		
計	30,356		30,356		
ア ル バ イ ト 関 係 支 出					
人件費支出 (兼務職員)	895	実験補助	893	時給950円、年間時間数940時間、実人数19人	
		所定福利費	2		
教育研究経費支出	0		0		
計	895		895		
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)					
教育研究用機器備品	4,738	微量分光計	1,404		
		CO2インキュベータ	756		
		その他	2,578		
図 書	0		0		
計	4,738		4,738		
研 究 ス タ ッ プ 関 係 支 出					
リサーチ・アシスタント	2,015	研究補助	2,015	学内4人	
ポスト・ドクター	1,213		1,213	学内1人	
研究支援推進経費	0		0		
計	3,228		3,228	学内5人	

(様式1)

法人番号	271017A01
プロジェクト番号	S1411037

(千円)

年 度	平成 27 年度			
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳		
		主 な 使 途	金 額	
教 育 研 究 経 費 支 出				
消 耗 品 費	22,853	(試薬)FBS	420	
		mTeSR1 (容量500mL)	359	
		その他	22,074	
通 信 運 搬 費	189	機材運搬費	189	
旅 費 交 通 費	387	成果発表及び情報収集	385	
		研究打合せ	2	
賃 借 料	1,198	オールインワン蛍光顕微鏡レンタル料	1,198	
保 守 費	3,690	分子間相互作用解析装置保守費	2,092	
		Luminex 200 xPONENT保守費	864	
		その他	734	
報 酬 ・ 委 託 料	400	セミナーおよび研究打合せ謝金	400	
ソ フ ト ウ ェ ア 費	3,127	マルチスタック撮影モジュールソフト	2,160	
		解析アプリケーション(BZ-X用)ソフト	702	
		その他	265	
会 議 会 合 費	19	セミナー開催費	19	
雑 支 出	1,520	タンパク質解析料	1,520	
小 修 繕 費	180	修理費	180	
用 品 費	482	ニコン対物レンズ	138	
		Orion Star A121 pHメーターキット 一式	101	
		その他	243	
計	34,045		34,045	
ア ル バ イ ト 関 係 支 出				
人 件 費 支 出 (兼務職員)	289	実験補助	285	時給950円、年間時間数300時間、実人数15人
		所定福利費	4	
教 育 研 究 経 費 支 出	0		0	
計	289		289	
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)				
教 育 研 究 用 機 器 備 品	4,932	卓上NMRスペクトロメーター	2,992	
		CO2インキュベーター	758	
		その他	1,182	
図 書	0		0	
計	4,932		4,932	
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出				
リサーチ・アシスタント	1,846	研究補助	1,846	学内2人
ポスト・ドクター	3,639	研究補助	3,639	学内1人、外国1人
研究支援推進経費	1,561	研究補助	1,561	学内2人
計	7,046		7,046	学内5人、外国1人

法人番号	271017A01
プロジェクト番号	S1411037

(千円)

年 度	平成 28 年度		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	22,212	Optima MAX用真空ポンプ(部品) (試薬) Ont-Prime, Epithelial Culture Medium その他	499 470 21,243
通信運搬費	1	受託依頼試料送付料	1
旅費交通費	266	情報収集	266
賃借料	2,157	オールインワン蛍光顕微鏡レンタル料	2,157
保守費	3,066	質量分析システム保守費 Luminex 200 xPONENT保守費	2,202 864
報酬・委託料	622	国際シンポジウム講演料 英文校正料	605 17
ソフトウェア費	2,808	マルチスタックナビモジュール ソフト タイムラプスモジュール ソフト	1,728 1,080
会議会合費	312	国際シンポジウム開催費	312
雑支出	2,104	動物実験解析料 組織免疫染色解析料 その他	810 799 495
小修繕費	7	ピベットマンP-20修理費	7
用品費	390	マルチシェーカー(シート振盪台付) ツインアームLED その他	198 71 121
計	33,945		33,945
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人件費支出 (兼務職員)	0		0
教育研究経費支出	0		0
計	0		0
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品	4,998	クリオスタット 超低温フリーザー その他	2,500 1,139 1,359
図 書	0		0
計	4,998		4,998
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント	1,824	研究補助	1,824 学内2人
ポスト・ドクター	3,852	研究補助	3,852 学内1人
研究支援推進経費	8,533	研究補助	8,533 学内4人
計	14,209		14,209 学内7人